〔七四七〇〕
共に堅實なり

白二と、圖の黒の肩を衝きしは、棋歩堅實、今や前圖の白二に黒三と逆襲されしが如く、黒五は憂き鳥の如く、柔和に似たれども、白には無し。此時一路東北の星空に突を如何に九九現はは白手得。

〔七四七一〕
白好調なり

禁斷の果實はあまりに快くたべられしが、後悔は先にたゝず。黒五の一手も宜しからず。白十一手目の宜しきを得て、黒は全く形崩れ、乃ち十一手目に投ぜざるを得ず。

〔七四七二〕
常形

白四、六、八と三あり。白二の手拔は、後に白蓋重の含みありて容易に拔かれざるも、黒は失なはるゝ故、猶ほ下手（大活圖以下）あり。

〔七四七三〕
常形

勝者　林有三
先番　太郎六段

白一、三、利かし、邊が斯る地形となりては、中原の調子に乘じ、黒の棋氣魄に缺く。

〔七四七四〕
場合による

白一高！猛虎一聲山月白し。黒九於てか、八と導き、而して三一と段を進めて、白十一三と形に出でたるが如し。

〔七四七五〕
白稍低し

宮坂勝　保松喜代次　二六段

既に先番勝下白一に此時以東北の星空に突如として現はれたる黒九は、白十の外勢のみならず、白十の厚みをも利かし、白十の外勢のをとり、手得。

〔七四七六〕
場合の一策

黒五と高く夾む手も其意味あり。前形と略ぼ同じなれども、此手は稍勢に於てイよりは劣る。

〔七四七七〕
黒厚壯なり

黒一は、位取りの宜しきを得、且つ白の蓋拔手を封じたるものにて、白二に非ずんば、白六、八と活き、黒厚くなりて白多くなりて好まし。

〔七四七八〕
黒稍好まず

黒三は、常形の如く、白四と一路平凡に受けたるが、此場合は前圖のイを先にしたる方優る。白六と四に突出したるが、白は中原を破りて逐に黒五と進出の好調。黒實庫の棋氣魄に缺く。

〔七四七九〕
常形

勝者　林有三
先番　太郎六段

白一、三、利かし、邊が斯る地形となりては、中原の調子に乘じ、黒の棋氣魄に缺く。

〔七四八〇〕
實戰常用の圖

黒三と一路平凡に受けたるが、此場合は前圖のイを先にしたる方優る。白四と黒五に突出したるが、白は中原を破りて逐に黒五と進出の好調。黒實庫の棋氣魄に缺く。

〔七四八一〕
白逸出の一法

夜の闇が暗くなれば暗いほど曉のよろこびは大なり。道路は窮屈なほど、脫出の喜びは多し。白一以下脫狹に下り、通路は、蓋し時機を得一以下なり。

〔七四八二〕
狹し

黒五と更に近く薄くも、白六と肉を過ぎたるが如し。ばざるは及ばざるに好し。（七八二圖以下異れり）

〔七四八三〕
互角の形勢

岩本　薫　當時五段
鈴木秀子　三段

此形、前圖に比べば、白□と黒□とが多し。黒乃ち□の威を擁して一路東北に行し、左より迫る。白直ちに二・四と按じて一策なり。白十二

〔七四八四〕
場合の一策

黒五と高く夾む手も其意味あり。前形と略ぼ同じなれども、此手は稍勢に於てイよりは劣る。

〔七四八五〕
要點約言

（第七二型ニ）

白若し四を拔かば、四を拔かれても最も好し。點なり。外に場合あるも五は尤も好まず。

〔七四八六〕
基本圖

（第七二型ホ）

黒五、六と打ちたる時、白七と拔きたるは、黒八と打つ手あり。何れも場合の中、五は厚く。

〔七四八七〕
常形

白一の應ずる時、黒□は、敵が大上段に振りかぶりて我に迫るも、最も堅實の手なり。黒二は、狹くして絞し。

〔七四八八〕
場合の手段

黒二は、假面の穩手段、實は白を攻めんとする大きく白五と以下鬼手なれども、特殊の變則なり。白活路合さへ得れば、即ち善しと此手段あり。

〔七四八九〕
黒厚壯なり

先番　篠原正美　當時四段
勝者　村島義勝　當時四段

黒一は、位取りの宜しきを得、且つ白の蓋拔手を封じたるものにて、白二に非ずんば、白六、八と活き、黒厚くなりて白多くなりて好まし。

〔七四八八〕場合の手段

白一、黒二では九が常形。黒は圖の如く二も二も、あくまで白の模様を削減するにも、黒の模様、部分的には此形稍損なり。

〔七四八九〕黒一手段なり

黒二と飛翔して大所を俯瞰するの態度何処までも模様を張り出す手段は処なく攻めたてるとすれば、次に白三と大場なり。

〔七四九〇〕白割得の形

黒は挺進すべきも、一に打過ぎは好むもの如く、此形、白は遂に割得なり。

〔七四九一〕白得なり

黒九も大場なり。白十は一目程の価値あり。

〔七四九二〕黒優れり

新しき天地なる中原への憧憬と、二・四と切出る、但し無理なり。白八、黒九に屈し、白十まで默々たれば必ず死活は辛し。

〔七四九三〕黒優れり

白八危機下は刻々に迫るも避くるの策。ちかくて白八を怠り、白征へ即ち黒十の場合の黒七を免れ上隅をも白に活され、黒二・二三に代り、二三に堅む。これ厚し。四以下の白二は向ふずとも四を加之、四以下の白は且つ奏功にいふべきも忍びず捨て過ぎるにはいかず。

〔七四九四〕外勢如何

勝闘山利一　四段　当時
先番　渡邊英夫　三段

白八以下、白征宜しき時は、黒九で手段の窮地に陥りたり。（征とは十二の征にては次※黒十二）

〔七四九五〕黒の形劣らず

黒十一と行つても亦、手厚し。黒十は海戦に於ける東郷、提督左右の善き敵頭、大いになれば、次に白イに邀撃しては面白し。

〔七四九六〕場合による

「かばね」「海ゆかば水つく屍」愛する祖國のため！黒猛然と肉弾的挑戦。筋は全れど他の關係にて、普通は好手なるにしかず。

〔七四九七〕黒機宜の手段

先番　瀬越憲作　七段
勝　林有太郎　六段

黒一は、圖の黒の此場合は、征り當なり。黒一の筋最も厳し。

〔七四九八〕定石

黒五の拓きは、四手抜、稍緩き意味あれど、穏かなり、或は静かに人生の蠹むを流れをせきとめるの態度にも比せん。

〔七五〇五〕互角の分れ

先番　關山利一　當時四段
勝　増淵辰子　三段

黒一と廣拓し、二の打込みは、白機を見るべし。黒五、四形なる。黒、堅實にして善し。

〔七五〇一〕互角の分れ

先番勝

黒四。白即ち五の切り！これより中原の戦なり、端倪すべからず。但し如く白圖の如くんば、黒九は白の大場なり。

〔七五〇〇〕黒好まず

黒四。白即ち五の切り！これより中原の戦なり、端倪すべからず。但し如くんば、黒九は白の大場なり。

〔七四九九〕場合による

村島　誼紀　四段　當時
橋本宇太郎　四段
先番勝

白□にあれば白一と黒二に附ける手あり。種々なる變化※應けあり。

〔七五〇二〕白稍利勢

黒五！戦雲頓に急なり。白六！嗟乎、兩軍の悲喜哀歓は實に此一手に始まり此一手に終れり。以下、黒九まで必然。此形、黒厚壮なれば、白實利あり。黒稍損なり。

〔七五〇三〕黒厚壮なり

白八の時、黒九は手筋なり。黒十九好手順なり。假に白二二と後に黒十九と提るも、白二十と粘がるは、黒二三にて打込むにも善し。イに劫

〔七五〇四〕劫打抜の形

勝　長谷川章　五段
先番　前田陳爾　五段

夫れ何處へ晩秋の空に群雲の一天乱れ、忽ち無窮に變化するの雨は、そぐ雨の風雨にして、吾が人生行路の歩、上杯の如く、地上の萬事、皆此の如し。

〔七五〇六〕要點約言

（第七二型※）

白四手抜の時、黒はの夾みも最も好點ないれど、若し黒右邊に着手せんとするにはイ、ロ、ハ、ニは全形なれど、イハロは全く場合の手なり。

四　手抜

〔七五〇五〕互角の分れ

先番　顧水如三　段
勝　王子晏三　段

白三、五。突如、悲我に波に観の男女波に揺り上げ、下さる、白三、さればとして普通無理なり。黒十善し。白十五の時、黒十六の打抜も、大なれど、廳けて白ロ、黒イ段提り、黒抜は十七とれど、白ロを取る手段もあり。

劫　土
劫　吉

※其だ多し。（置碁篇六二二圖以下參照。

〔七五〇八〕黒厚壮なり

白八の時、黒九は手筋なり。黒十九好手順なり。假に白二二と後に黒十九と提るも、白二十と粘がるは、黒二三にて打込むにも善し。イに劫

〔七五〇四〕劫打抜の形

勝　長谷川章　五段
先番　前田陳爾　五段

夫れ何處へ晩秋の空に群雲の一天乱れ、忽ち無窮に變化するの雨は、そぐ雨の風雨にして、吾が人生行路の歩、上杯の如く、地上の萬事、皆此の如し。

〔七五〇六〕要點約言

（第七二型※）

白四手抜の時、黒はの夾みも最も好點ないれど、若し黒右邊に着手せんとするにはイ、ロ、ハ、ニは全形なれど、イハロは全く場合の手なり。

四　手抜

〔七五〇七〕 **基本圖**（第七二型へ）

白二、黒三となり形には、白よりイとロの筋あれど、之れには種々なる場合あり。

〔七五〇八〕 **基本圖**（第七二型への一）

白六と打つ手あり。六は蓋し、右上隅の後略と同時に二と四との打込みへにも備へしなり。（黒五、手抜或）

〔七五〇九〕 **定石**

白既に六。此時、黒七は絶対に打つ。白八と打ち、黒九は白イと二と四の間隙に備へしもの。

〔七五一〇〕 **黒稍利勢なり**

手抜 吹き寵 衝地

夜半に嵐のごとく吹き荒れ、衝地の白石も散り散りとなり、後手の形勢は見るも無惨なり。

〔七五一一〕 **黒大に善し**

（第一卷一四六圖參照）以下黒十一も有名の手段にて、黒十三而して肝要の急所を忘れ、白六と蓋し順序を誤りたるに因る。白ッ

〔七五一二〕 **黒優れり**

黒乃ち十一に打ち、白十二と佳し。以下白十四に至る迄、自然の成行なり。白十四にては黒乃ち十五と打ち、白十六と下るも、黒十七と打ち、白十八と取りて、黒十九と出で、白ホと生きたるも、黒トと打ち、白ヘと取りて、黒チと打ち、白リと取りて、黒ヌと打ち、白ルと取りて、黒オと打ち、白ワと取りて、黒カと打ち、白ヨと取りて、黒タと打ち、白レと取りて、黒ソと打ち、白ツと取りて、黒ネと打ち、白ナと取りて、黒ラと打ち、白ムと取りて、黒ウと打ち、白ヰと取りて、黒ノと打ち、白オと取りて、黒クと打ち、白ヤと取りて、黒マと打ち、白ケと取りて、黒フと打ち、白コと取りて、黒エと打ち、白テと取りて、黒アと打ち、白サと取りて、黒キと打ち、白ユと取りて、黒メと打ち、白ミと取りて、黒シと打ち、白ヱと取りて、黒ヒと打ち、白モと取りて、黒セと打ち、白スと取りて、黒ンと打ち、白ヲと取りて、黒ガと打ち、白ギと取りて、黒グと打ち、白ゲと取りて、黒ゴと打ち、白ゾと取りて、黒ジと打ち、白ヅと取りて、黒ベと打ち、白パと取りて、黒ピと打ち、白プと取りて、黒ペと打ち、白ポと取りて、黒ヴと打ち、白ッと取りて、黒ャと打ち、白ュと取りて、黒ョと打ち、白ァと取りて、黒ィと打ち、白ゥと取りて、黒ェと打ち、白ォと取りて、黒ヵと打ち、白ヶと取りて、黒ヮと打ち、白ヮと取りて、黒ヰと打ち、白ヱと取りて、黒ヲと打ち、白ンと取りて、黒ヴと打ち、白ヵと取りて、黒ヶ

〔七五二三〕
黒　勝

白七より以下黒十六まで追撃。白十五取るに時、黒は一子を取るに手あり。白十七と逃るをば、黒は遂に二四に取るに至る。

〔七五二四〕
黒面白し

白九と曲らば、黒十・十二に取るに時、白二一の劫争。黒は二二・二四の保留のまゝ、二四に黒面白し、此形故、隅に劫を孕めるに外を充分に打つことは能はず。

〔七五二五〕
黒悪しからず

白□に詰るに時、黒は一に夾むか、或は攻むるか、単に二と守るか。一は堅実。二は絶対肝要。黒は十三と強く、之を怠つては、白の眼形に関す。

〔七五二六〕
侵分の手段

圖の如き形に於て、黒は一に鼠に猫の如く逃げ、白二に利を見て、黒は先手を取るに時は、白は外に一と跳ぬるに如かず。

〔七五二七〕
白大敗

白いま、黒一の鋭を迎へ、以下二の嗟乎と鈍重を作す。白は薪を負つて火を惧れ、敢て為せり。白十四でイなれば、黒ロ白ハで黒ニにて、白遂に起たず。

〔七五二八〕
黒手段可なり

圖の如き形に於て、黒一は、手筋なれど、白四以下、窮屈にして好ざれば、白の眼形を脅かさるゝ時、黒一に活きんが為めには背に腹は換へられず。

〔七五二九〕
黒打過なり

黒一は急所を外すも、無理なり。宛かも外ビントを外れ寓の如く、成績芳しからず。白四以下、五と、交換の準備工作なり。白六を白八に打つに時は、黒七白九の次十は、黒イ手筋なれば、白※に、黒四、白三、黒五、白六と打抜き、黒七白九、面白し。十七をイは筋違ひなり。

〔七五三〇〕
要点約言
（第七二型への一）

白六・八は、普通黒を堅くしてからざれど、白は或る時機に此処を利かし置くに妙あり。

〔七五三一〕
基本圖
（第七二型への二）

白㋑、之れは此形に於ける白の狙ひの手段なり。㋑の無論何時にても可なるに非ず。白の機と場合の如何に依りて、此の筋あるに時と、此の筋なきに時とあり。

〔七五三二〕
基本圖
（第七二型への二）
変化

白六と附けると、一口には言へども四辺の両軍の配陣状態は自ら多種多様なり。

〔七五三三〕
定石

白六と打てば厚くを急にし黒を下すに機を見るに時は、黒十七と要あり。黒十・十一と打つに時は、白十二と此処を攻めて勝つ。

〔七五三四〕
場合

白十二、手筋にして黒十三、先手なり。此形に後、白は鋭き切りを含む。白かくて、鬼氣隠一剣を藏す。（次圖以下參照）

〔七五三五〕
場合による

先番　林　秀　榮　當時六段
勝　小林鐵次郎　當時六段

黒は更に一と敵に見るに一と閃めき、白は鋭き切りを含む。白かくて、鬼氣隠一剣を藏す。（次圖以下參照）

〔七五三六〕
互角の分れ

黒九もあり。白十では、単にイと取るも手も夫に十一と略ぼ同形なり。黒十あるに時は、白ロの詰めも黒ロあるに時は、白十一まで、妙着形。白六・五、黒三・五、白二の反撃。黒六

〔七五四五〕互角の分れ

黒十五。白は二子を屠って厚く、敵の中央に触手を伸ぶるも亦実利を収めたるに過ぎず。此形にて後に黒イと打つは白ロあり。黒ハと打つ。

〔七五四六〕黒可なり

白いま十二に、子を抜いて八目の利を占むるも、然かも黒イの時、白ロに粘るは至厳なり。黒十五に粘るは白の厚味を威圧して、黒の辛活を許すものにして、白いま十一に、黒九も、遂に輕く逃げ出すを得たり。

〔七五四七〕黒厚壮なり

白いま十二に、子を抜いて八目の利を占むるも、然かも黒イの時、白ロに粘るは至厳なり。黒十五に粘るは白の厚味を威圧して、黒の辛活を許すものにして、白いま十一に、黒九も、遂に輕く逃げ出すを得たり。

〔七五四八〕互角の分れ

白しても面白し。黒七も、白十も五分の軍勢や小康を得たるに過ぎず。黒十四も、白十一も、今や雲再び乱るるの日は、そもそも戦ふ方々如何。

優圖

〔七五四九〕黒稍優れり

白十二と、黒十三と、白十四は、尚早見よ、黒十五の急所を利きたるに過ぎず。白十六と、白イに打つ手筋を一朝にして結ばざるも、白イに打つ手筋を一朝にして結ばざるも、白イに打つ手筋を一朝にして結ばざるも

〔七五六六〕
黒優れり
白一、十一に、黒乃ち十一を、善しと。白十七にては、黒イ十八と打つ手で、白ロ。黒ハと出ては、場合により白の打てるは、黒可なり。

〔七五六八〕
白面白し
先番　福田正義五段
勝　長谷川章四段　当時

白十文字の一作は、譬へば豪商の縹緻自慢の娘を、神品の誉れ高き名人に托すると同じく、思ひ切つた深手の筋を、軽く蓋して馳せ参ずるの妙手。黒イに白ロ、黒ハに白ニ、黒ホに白ヘ、黒トハ白リ。外子。

〔七五六九〕
黒無理形
黒九、悪手。天聞、白一、十一を旋さず、白十一を怠れば、黒イ十七にては場合により白ロと打つ手で、白ハと出ては、黒可なり。

〔七五七〇〕
形勢互角
呉清源四段　当時
先番　藤田豐次郎四段

此場合は、黒九も成立す。蓋し白〇のイにあり、前圖よりも黒は凌ぎ易き姿なればなり。

〔七五七一〕
白一策なり
白いま十四、十六の攻陣。白の悠々たる風韻、蓋し棋歩共に絶倫なり。

〔七五七二〕
黒味悪し
黒七、隅を地にせんとするも、時は無にして、白多く、白遂には十四に打抜いて、白十一と易行す。黒は〇未だ盡きず。

〔七五七三〕
四の異形
白四と高く迫るも、白四と打抜いて、軽快に此形に属し、所謂新布石法の風景なり。
変化は、前掲白四と略ぼ同じ、イの場合と参照のこと。

〔七五七四〕
黒稍利勢
白八と切れば、黒九は堅実にイとして、殊に善しと。白十二に行くは、悪しき場合にて、白に九と打抜かれ、黒不可なり。（七五六〇圖以下比較）

〔七五七五〕
黒苦だ堅実
七段　瀬越憲作
二目勝　向井一男　六段

黒二は緩き手なれど、此石を活きるをがために、白は、止むを得ず。黒三、善しと。白四、黒十二より十六、尤も普通はで堅しる手は、緩しと。

〔七五七六〕
場合による
白いま十。黒十一、十三、佳しと。黒十三を十四と白十一に、白ロなれば、黒イ三に、蓬廬の如き、好し、堅実なり。

〔七五七七〕
場合による
黒三なれば、白四、形勢なり。急所の一撃。白八は、尖狙ひ。白ロで、黒十一に白イ、黒一ロの一撃は、稍損な部分的に、最も早く白より攻めらるゝ憂無し。

〔七五七八〕
黒緩し
黒が単に隅に堅く活きんとするも、時は、此形、黒一、三も、黒一、三も、白は外に、黒は先を得。白四、黒五、白手、黒三、白哲経戦。

〔七五七九〕
先哲経戦の跡
黒一、三も、黒一、三も、白は外に、黒は先を得。白四、黒五、白手、黒三、白哲経戦。

〔七五八〇〕
㊃に一路近し
黒三の時、白は四と、白は㋑に近く肉を、黒七、隅を地にせんとするも、時は無にして、白多く、白遂には十四に打抜いて、白十一と易行す。黒は〇未だ盡きず。

〔七五八一〕
黒可なり
先番　清原勝繁　三段
伊藤清子　二段
此一子、黒㊂に夾攻、黒の一子以下の応酬も自ら前と異る意味あり。白五は場合の手＊

〔七五八二〕
互角の勢
白五は厚く、白十二と、白十四と、白十六と、白十八と、白十二と、白十四と、白十六と、白十八と、白十二と、白十四と、白十六と、白十八と

〔七五八六〕
要點約言
（第七二型（三）變への二化）

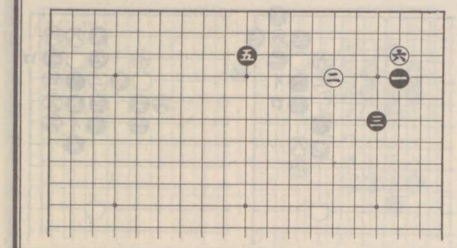
㊄手抜

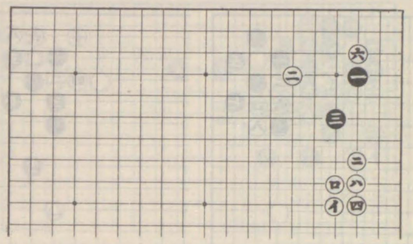
白四に夾返し、黒五手抜の時は、白六即ち第二圖（前變化、七五圖以下）に比して、白厳しくして可なり。猶、白四は外に㋑、㋺の諸點も有り。これらの諸點の三に近く隨つて、黒づくに隨つて、前變化に準じ、その厳しさを加ふ。

〔七五八七〕
基本圖
（第七二型（四）變化）

㊃手抜

白四手抜、黒五に夾撃せし時、黒五に白六と頂ける手あり。此場合の白六は、黒の二を輕く捌かしかとのすもの異にして、白守勢の意味を含む。





〔七五八八〕
定石

白六は、時機の㊃手抜撰択。未熟だと白機ざるに趨くには黒を厚くする圖より白の導くのみにして、黒十五、白十七善しとし。

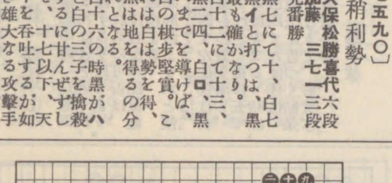
〔七五八九〕
互角の分れ

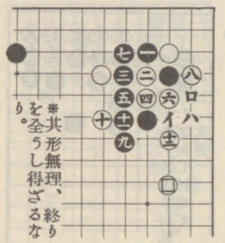
白㊀の附近に夾攻せる時、白六の形に於ては、黒七は㋑に打つは最も緩かなり。黒七にて十、白七と進みて、白十三、黒十四に伐つて、白ロと蓋し、黒ハ、白七と黒七を堅實とす。黒イ、白ロと切り次ぎ、黒七と下すが如きは※

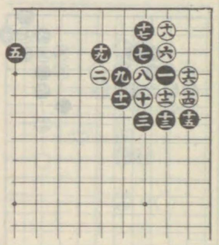
〔七五九〇〕
黒稍利勢

先番　久保松勝喜代六段
加藤正夫勝　三七一三段

黒七にて十、白七と打つは、黒イと下すを最も緩かなり。黒七にて十、白七と打つは、黒イと下すを最も緩かなり。白十三、黒十四に導けば、白ロと堅實とす。黒七と下すが如きは※





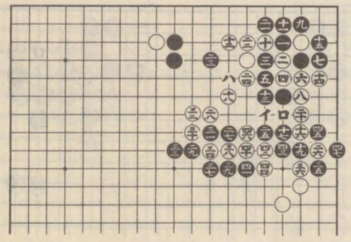


〔七五九一〕
互角の分れ

白㊀のある形。此場合白㋑の附けは、前譜圖よりも厳しく、黒十一にてはイも有り、白ロの利きあり。時は、白ロの十一でイは、白ハ。※

〔七五九二〕
場合

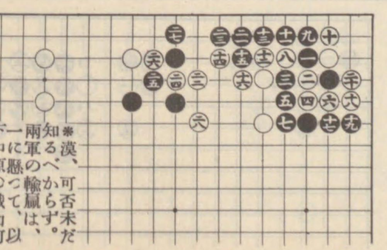
黒三以下九と、先手に治まる手段もあり。此棋局部的には黒七と損なれども、白㊀との換り、黒有利なれば、此分れ先づ互角。

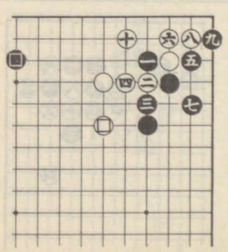


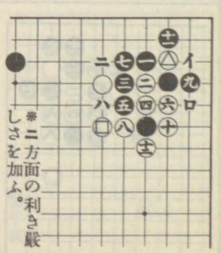
〔七五九三〕
可否定まらず

先番　前田陳爾五段勝
小島春一四段

黒七と上を白八の時、黒九と下を白十と打つは、黒イと下すを最も緩かなり。白十三、黒十四に導けば、白ロと堅實とす。黒七と下すが如きは※







〔七五九四〕
黒殆んど勝勢

白一なれば、黒十と打つ。白十一と遮る。黒妙なり。見よ、黒が此の乗石は、五以下一まで、黒十一まで、外で厚みを得たるもの、此の如き自活の機会あり。

〔七五九五〕
白厚く善し

黒十五手筋なり。さて此場白に替りて、黒は、折角喝を博すべきも、思はれにて、黒十一と出でたるも、五以下の振替は、黒十一まで、黒は終れり。泡沫形、白厚し。

〔七五九六〕
互角の分れ

先番　林有太郎五段
勝　橋本宇太郎四段

黒は攻むるも即ち守るなり。故に智慧を用ひ、白を外側へ導きて、白の二の一撃ちと、黒の侵入とを兼ねて、白の二の一撃ちと、黒の侵入とを兼ねて、白の二の一撃ちと、黒の侵入とを兼ね

〔七六〇二〕黒常に侵勢

白二と尖まば黒二三と下と攻む甚だ善しと雖も黒三一以下七常用の手筋。若れば白三二にて白甚だ悪し、黒ロと打てば白イと先手の如くなれど、白ハと手を挙ぐるの外なし。黒ニ白三六即ち黒ニの急所に立つの形にては白四なれば黒チ。ヒッタリ。

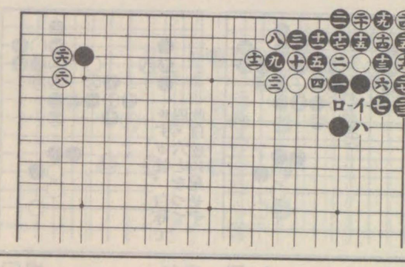
〔七六二一〕
黒好まず

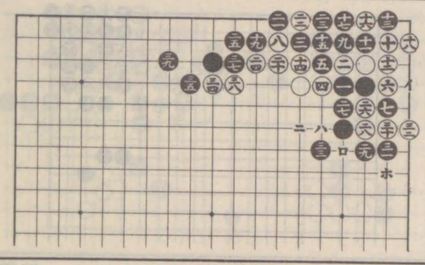
黒五と切る手の可否は、白の時に於ける黒九の征否に因つて決すの可否に因つて決す。白二十にて黒イでは、黒ロと白ハに尋ぐる三と挑ぐ二五と挑ぐ劫すると黒にとゝなつて劫。抛ある故、白二二の悪しは、白二二の打抜きとなりては、白可なり。

（大）ツグ

〔七六二二〕
白面白し

白十妙着なり。白十を一十一なれば、黒二十の線出しに遂によつて、黒二十の隅の白に活きず。白十八、黒十九を、白十妙、一即ち亦妙、黒十九を、白二六、黒イと綿れば、白二八、黒一白二九、黒二白三三、白ニ黒ハ、白ロ黒ホにて、黒は這々の態にて、味悪き渡逃、但し、此図は黒二十の切の変化なり。此切の変化なり。黒が此切りざる例は次図。成立する





〔七六二三〕
黒稍可なり

本図は前図と異りて、黒は九にて、白イと征に取らず、此場合は、以下戦の方面白し。黒十九で白イと押すの変化を、日本人がサンスクリットを読むが如く、白二二と解なるも、黒は遣味津々、加之、白更に二四と攻めるも、黒は容易に至つて江戸の水の如く、絶えざる命脈、即ち、白二四の※

〔七六二四〕
黒優れり

白二二、二四、悪し。黒二五、柔能く左右の白の剛を制す。黒二九善し。白三十に三一し、白三一なれば、黒三十と分れて、白かくて黒の形厚し。（大）ツグ

〔七六二五〕
黒善し

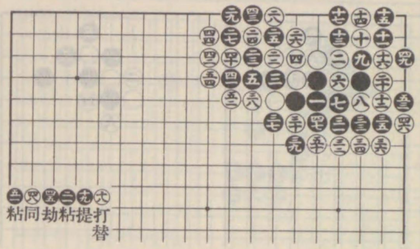
白三二。黒乃ち三に切断して、白三三に去就を諷して、白の三を見るや、黒は直ちに三四と出でゝ三を探りに来る。白の三四に追ふ。三を九五・七三・五七と敵ぐ、一等にて逃げ転つ

〔七六四一〕 共に正形

白前圖征悪しき場合は、六の外無し。黒□は虎口の死を脱しては、必然に中原の戰。以下は、黒九は、八とロイとを狙はるゝ白が斯くなりては、次にロイとを狙はるゝ白が斯くなりては、次にロイとを狙はるゝ白が斯くなりては、次に

〔七六六三〕
白必勝の勢

風塵三尺の剣、社稷一戒衣！黒いものを断つべき鍛えを揮って五に二七・に切って二九。白は彼岸に光明を望みつゝ今や氷を渉るの危きを冒すを躊ちて若し一挙大破すべく白三の手順妙、白軍の途始めて安しと雖も此筋に四と打ち後に白と四とせしめて此方面に抛ち生じて勝となる故なり。



〔七六六四〕
白大勝

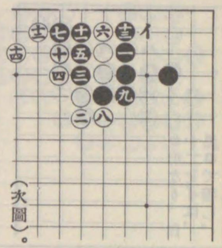
黒三一を三八に切るも、白イ黒ロに打つも、白十黒ハ白一四提白二四一白四二に劫黒抛あり、白三八、若し四二に征宜しけれ白つて勝ちなり。此時黒は劫を抛つて劫取り夫れば白四に抛るゝ如くなるに点にも、白

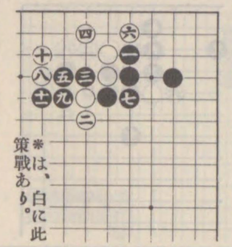
〔七六八二〕
黒利勢

黒一宜し、雄剣をごそか。点を狙ふ。白二の断手筋なり。黒三の切りもびし、黒を忘れば白イ、十三と白六。黒イ白十一の強手段もあり。

〔七六八三〕
黒厚、但場合

白四、時が面白し。意気を見よ、白が血戦を嘯呼なり。白八の手筋を今やと利かす時、黒厚く共に白に至つて隔て強く戦はんとするに逐に石を粘るのみ。但し※


（次図）。


※は、白に此策戦あり。

〔七六八四〕
黒好まず

黒五、七、悪し。見よ、連波を喚ぶが如くで、一例移り、萬一白二十九と至るは然も白の数子を取つて黒死せり。白ロの前型の下りに、好手を卻て味悪く、白ロの下りに、黒時十九と逐に止めを刺すを得ず。黒ハの約束で白ホと拔けば白ロの切断を見て黒甚だ悪し。

〔七六八五〕
黒の勢善し

掬はゞ手に漏り、抱ばず腕を虚々ぼの尖端！白二・四・六・八に粘ぎ走り下懸し、白イと大斜に逃げ出すは最早白化はニ〇四図以下と同じ。

〔七六八六〕
黒大いに善し

白二・四と打つては味跡無し、但し白は単に好床しからず。黒二に白ホと拔けば黒ハに傳家の宝刀、遂に敵の一角を切り崩す急所なり。白ハは無理にも黒ハと受けざるを得ず。黒ハと受けざるを得ず。黒ハと受けざるを得ず。

〔七七〇〇〕十面白し

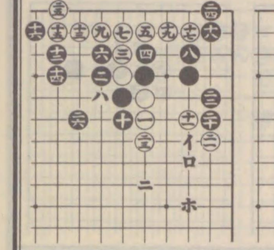
白九の時、(六)手抜(八)黒十も
あり。次に白イなれば、黒手抜。イなれば、その時白
更にロなればハ黒ホまでの
護り。

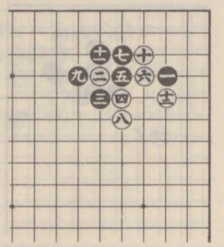
〔七七〇一〕黒攻合勝

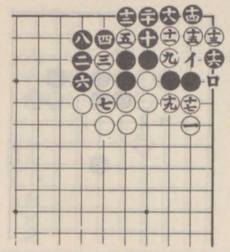
白一の時、黒二善
し。白二の時、黒手を抜く。凡
そ白直ちに四の三へ黒二に
辛く受けたり。白若し五色は自
目を見ん。黒六・八で神命。白三
十三。黒十イは、白十
六肝要。

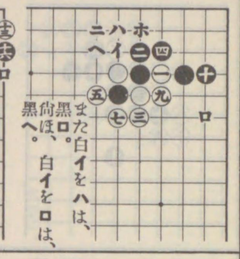
〔七七〇二〕常形

黒外勢を主とする時は、九の手段もあれど、
宜しく三の手段も此
形部分的には利少なく不利。黒
少し制毒をすべく以ては毒を
捨つべからず。また必ずしも
型、



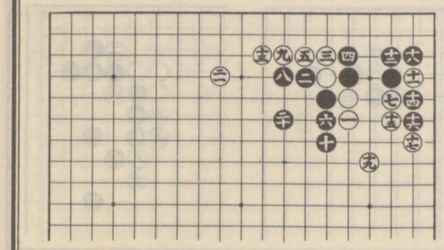


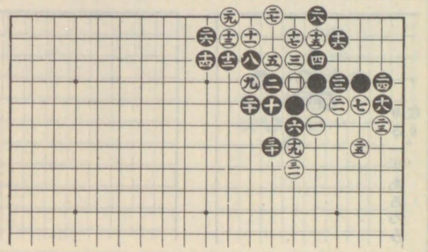




白一は征
(七六九図参照)悪しき
を得むとするなれば、白
惜れて二は、白の逃出
し、白は重よ、退たどるき
黒は、打は重よ、退たどるき
九。

〔七七〇三〕黒優れり

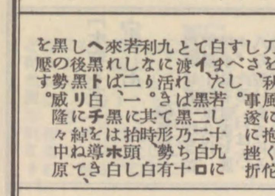


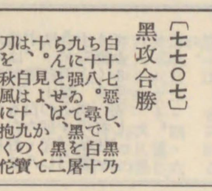


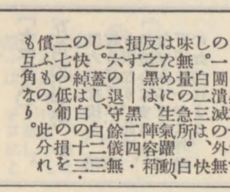
白十もあり。一。以然
し白活はに止むを
二十七に、白十。
黒以然
し白十。
黒以然
し白十。

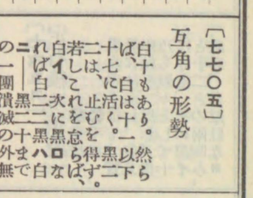
〔七七〇四〕互角の分れ

黒八稍緩力、例へば滴の一手の足を徐々に弛みなく暢達の果、棋勢四を十九は、白十八にて黒まづ黒二十は急所。本来、此形黒稍優べきに、黒八の緩着のため互角の分れとなれり。





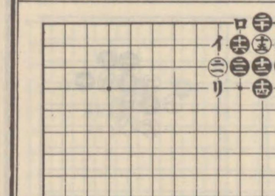


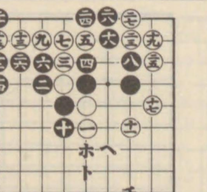


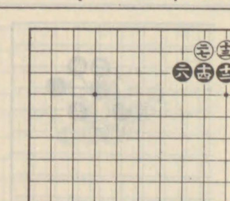
白十もあり。一。以然
し白活はに止むを
二十七に、白十。
黒以然
し白十。
黒以然
し白十。

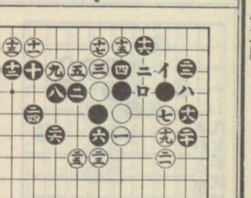
〔七七〇五〕互角の形勢

白一は、黒二の
ニ|一図
黒め量潰
はにの二減
黒二の十
外ハロ
白なれば、白イと次れをむ
若しくは二十七に、白活はに止むを
白イに次れをむ
黒以然
し白十。
黒以然
し白十。









〔七七〇六〕黒稍可なり

白五は、此場合好
手。黒六以下凡
そ白二まで黒ロに
至る迄、白イと黒ロとの交換
は、白ホに黒イと白ニに
黒ロ。

〔七七〇七〕黒政合勝

黒十二・十四の次に白三なれば、黒は
三と切るに五と征
取らば、黒七と征
場合は、白イと黒ロ
変化するも
如何。黒
黒れど、流水四
さを閉塞
抵抗
弱。

〔七七〇八〕黒稍可なり

白七もあり、
これは、黒八以
下一行目の大道を
行くイ・ロ・ハ至
って、黒旗を
刺。
白三に
黒九に
征(次図)。

〔七七〇九〕可否征に決す

白九・十一も
あり。此場合は、
さまで
征関係
此形が、
黒
白
一
二
白
黒
白
黒
白
黒

〔七七一七〕黒優れり

匹夫怒れば則ち剣を抜いて切るとかや。白一・三に切って出でしは、所詮勇のみ、遂に打ち過ぎなれども。黒十四以下、厚し。白二一にて二二と切るは、黒イと受けて黒可なりと雖も、此時は黒ロに白二一と切れば、黒ヘハ白ホ黒ヌ白ヲ黒ワ白カ黒ヨ白タ黒レ白ソ黒ツ白ネ黒ナ白ラ黒ム白ウ黒ヰ白ノ黒オ白ク黒ヤ白マ黒ケ白フ黒コ白エ黒テ白ア黒キ白ユ黒メ白ミ黒シ白ヒ黒モ白セ黒ン白ハ黒ロ白ニ黒イ白ヘ黒ホ白ト黒チ白リ黒ヌ白ル黒ヲ白ワ黒カ白ヨ黒タ白レ黒ソ白ツ黒ネ白ナ黒ラ白ム黒ウ白ヰ黒ノ白オ黒ク白ヤ黒マ白ケ黒フ白コ黒エ白テ黒ア白キ黒ユ白メ黒ミ白シ黒ヒ白モ黒セ白ン黒ハ白ロ黒ニ白イ黒ヘ白ホ黒ト白チ黒リ白ヌ黒ル

〔七七三六〕要點約言（乙）（第七三型ニ）

黒一と切るは征惡しき時は、稍打過ぎなり。白ニとなりて粉れ多し。尤も黒征關係宜しき場合は、黒一、白ニとなりて、黒善し。

〔七七三七〕黒厚し

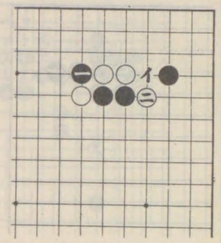
黒ニの時、白三・五は手順を誤れり。白十一は、此場合最上の手なり。白ニまでに歸したるも、隅は白外勢強盛を望んで黒に歸す。

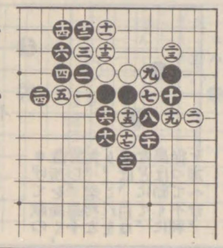
〔七七三八〕黒慘敗

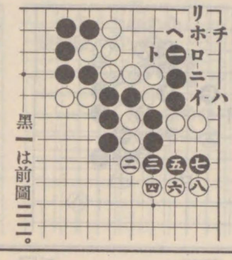
黒一に赴いて隅を保つ。白ニに出づ、やがて白ハ。黒攻合敗なり。白猶ホ一にて白ヘは黒ロにて白ト黒チにて、白リにて、白勝。

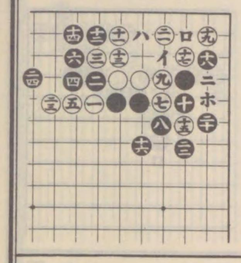
〔七七四〇〕黒甚だ優勢

白十九は巣筧、鳥きの嘯すべし。案山子の如く、黒二十佳し、黒イ一を二白ロ黒ハ二は、黒ニ白ホ一黒ヘと後手。





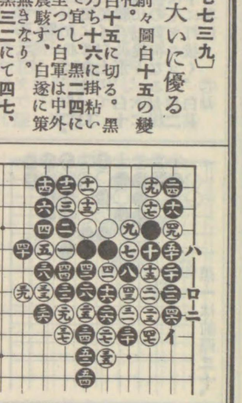


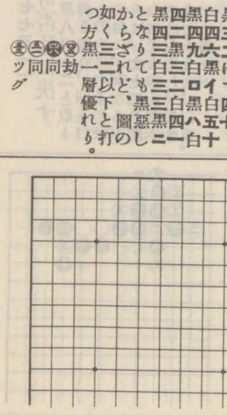


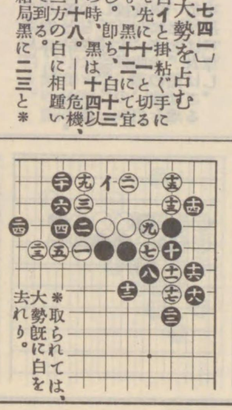
黒一は前圖ニ二。

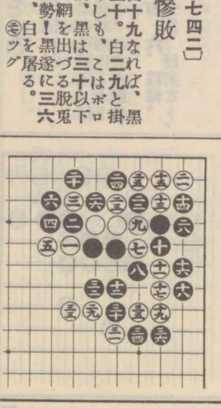
〔七七三九〕黒大いに優る

前々圖白十五の變化。白十五に切る。乃ち十六に掛る。黒十七に粘りて、黒征關係宜しき場合は、白遂に中外策無きに至つて、白軍震駭す。









〔七七四一〕黒大勢を占む

白イと掛粘るも、黒十二に宜しく、白十四以下八の一段は、黒ロ白ハ三下の到着にて、白相當の結局黒に二三と*。

〔七七四二〕白慘敗

白十九なれば、白二九と掛けし、黒も、とは以下網を黒出にる。三六に黒遂ぐ。

〔七七四三〕黒大勝

白二九・三一。黒乃ち三五・三二。白更に三二に黒の眼を奪つて進むや、黒は四十まで轉じて三角に堅實なる一間四二に飛。白は中外策無し。

*取られては、大勢既に白を去れり。

〔七七四四〕黒必勝の勢

白二二に守れば、黒十二に守れば、白十九を先取す。黒二白ロ黒ハ、白二三と打つ。黒イ以下の變化は、共に白ホ、黒ヘ、白ト、黒チ、白リ、黒ヌ、白ル、黒ヲ、白ワ、黒カ、白ヨ、黒タ、白レ、黒ソ、白ツ、黒ネ、白ナ、黒ラ、白ム、黒ウ、白ヰ、黒ノ、白オ、黒ク、白ヤ、黒マ、白ケ、黒フ、白コ、黒エ、白テ、黒ア、白サ、黒キ、白ユ、黒メ、白ミ、黒シ、白ヒ、黒モ、白セ、黒ン、白ス、黒ヱ、白ン、黒ヒ、白ヒ

〔七七五八〕
場合による

白九は時に此手あれど、普通は緩し。黒十、善し。白十三の時、イ・ロの断点方に念、即ち黒十四に守れり。

〔七七五九〕
黒優れり

白十三は、敵陣攪乱の尖し。時機の早し。黒十六も二五もあれど、黒十六は二四の善方なり、白此処を叩かれて黒遂に悪形。黒優れり。

〔七七六〇〕
形勢黒にあり

黒十、白十一は、譬へば名月の珠、夜光の璧へんが如く輝ある光燦然たり。白十一も黒十五にて十七と黒善し。白二十一にて黒二十一にて、白十七にて、黒十五にて、白十七にて、黒二十一にて、白十七にて、黒二十一にて、白十七にて、黒二十一

〔七七八二〕
参考圖

白一而形して白イの征の利なる時は、白イ此形にて黒四ロなれば白七六九圖以下と同じ。

〔七七八三〕
要點約言
（第七三型ホの二）

黒五に割込む時、白は只六に行く筋宜し。此時黒イと打つを白ロ黒ハと定形とすれど、ハはニに粘ぐ手もあり。

〔七七八四〕
基本圖
（第七三型ホの二）

白四の時、黒五と應ける手は、以下大の項に掲出の（ハ）又は（ロ）と同じく連絡なく、何れも着手に結果黒悪し。

〔七七八五〕
白稍優れり

黒さきに白（ロ）に扼し來るや大勢を看取して一（イ）と行ぶ、輕妙、崩然として黒二白三に善く抜く。黒ニは（ハ）の形を勢化の虞あり。

〔七七八六〕
白稍可なり

白一もあり。黒ニは、（ロ）を乗て此場合を伐つ手も有利な時は、白イの如く打つ、白三の時、黒四・白六善し。黒五は白イにて七五圖と同形。

〔七七八七〕
劫殘りの形

白三好まず、黒四肝要。黒ためにて白五に生氣頓に（ロ）に蘇る。白八は、黒イ白ロ黒ホにて、黒良しと雖も、此形一に劫の如く何優劣による。

〔七七八八〕
互角の分れ

白三なれば、黒四の（ロ）ポン抜さ當然。白五本手、之を怠れば、黒五に下る。白味あり。黒何とも無氣味なり。白六では他に打つも宜し。

〔七七八九〕
場合の手段

白一、形重けれど、次に二の約と、三の切りを狙ふ、善き筋なり。黒ニを三は、黒悪し。白ニで、黒六イでも、白八に黒ロは奪ふ白良し。

〔七七九〇〕
黒敗る

白三に鋭き切り、此時黒四放漫の着。白五、黒六に鋭くべき、道を企つれば、白七、以下走つて白十に至つて白勝なり。

〔七七九一〕
要點約言
（第七三型ホの二）

白六では、イが穩健にして可なり。ロも宜しく、ハは悪しか、時に白六をニは、形重きも、之も一策なり。いづれも白に利あるは、※

〔七七九二〕
基本圖
（第七三型ホの四）

黒五も、三の手との間に連絡無く、結局佳着に非ず。

〔七七九三〕
白厚し

白三の手順宜し。此形、白は果然、至つて銀鱗發刺たる感あり。加之、黒は活けるを尻、然も（ロ）は、白は黒を尋で、白イ五は三を形重きも、此形黒稍可なりとなるべく、

〔七七九四〕
白稍可なり

黒四・六善し。爲に黒の危機、危からず克服、今や（■）の攻撃を取つて反撃を誤るとか。。。白黒の攻撃に參加して十分。敵軍至つて黒厚きも、白が打つた（△）の黒を打抜けるは七五四抜より優れり。

〔七七九五〕
黒の形拙し

黒ニなれば、白三を一見良し。白三は五を重く、また黒三を六に約へて黒五に切られるは、悪しと雖も、黒四抜き、白六は、前々圖說明中にある形よりも、白善し。※

〔七七九六〕
黒厚し

過誤に千年の悔あり。一乃ち一手順を誤るとか。。。白黒二・四大抜も、五・七の打抜も、黒八まで、白九も宜し。

〔七七九七〕
黒地を先にす

胸三寸の打算、黒乃ち四隅の實利を守るも、白必要の着手、（■）の黒を尋で、白も厚ける事、黒は前圖及ればず。

〔七七九八〕
場合

白一は、重き筋なり。此場合宜し。黒二・四は、（■）の阻に右邊の巧圖、白七は、今必要無きも、白備へ置くを本手とす。

〔七七九九〕
白有利の分れ

黒の變化は、人情の翻覆波瀾にも似たり。黒いま六と切つて、白七以下、黒の形俄然惡化す。白九・十は無理なり。三以下必然の棋移。

〔七八〇〇〕
黒稍優る

白九焦慮せり。悲しむべし、白朝に過ぎ、罰優勢一權今や空し。見よ、白十三、黒にて取得も、黒十四以下る利を、ニまでに二十目に過ぎず。

〔七八〇一〕
参考圖

白一に引く、態度悠然たるも、緩手なり。黒ニ白三、尋で逐に免れず。白ニまでと同形に歸せり。

〔七八〇二〕
白少しく優る

黒いま二、白は三に粘いで厚し。次で黒四に守り、次に黒イと六を見る。此形黒（■）は今や陽炎より淡く、遂に活きながらにして死せり。

〔七八〇三〕
要點約言
（第七三型ホの四）

黒五は、さきに三と附けし手を存せず。かゝる脈絡を手段は、多く黒悪し。白六は、ニは、イ又はロハ、其中、イは最も善く、ロは稍低く。※

〔七八〇四〕
基本圖
（第七三型ホの五）

黒五も三の手と意思、黒の連絡無し。假に前着と意思の連絡あるも、着手が人形なき如し。着手は、それほど人形の窮屈に人※

〔七八〇五〕
白厚し

白一、穩健可なり。白二に五（■）の黒は、遂に露命草葉の末にかゝつて危し。黒六イとは白ロと受べし。白ニで大に善し。黒六をホは白ニ。

〔七八〇六〕
白可なり

黒二もあれど、低し。遂に白五に至つて、白五と黒Ⓐとの交換悪しき故、結果黒悪しくイもあれど、次に白ロで、黒Ⓐ同じく駄着。

〔七八〇七〕
白の形善し

白一は前圖よりも劣る。黒二は、イもまたはロもあり。イは此形、黒二四方面の地の位可なれど、白の七となり形は、潑剌、大いに善し。

〔七八〇八〕
要點約言
（第七三型ホの五）

黒五好まず、かく隅を守れば、地合得るも、黒の三となるも連絡なく、結局黒三は無効の外無し。一着白六にては、イまたはロの手あり。イは此形、黒ハにて地の位を得。

〔七八〇九〕
基本圖
（第七三型ホの六）

黒五も、前項の型と同じく、三と連絡なくして、佳着とは云ひ難し。

〔七八一〇〕
白優れり

此形、白一と、敵を左右に隔てて伐つては、次に白三・五の打抜の筋と、白六の黒五の脱みを單に七と逃出す手あり。

〔七八一一〕
白少しく良し

黒六、後手なれど堅實にして善し。徒らに先手を爭ふのみに憂身をやつさざる超凡の着。黒イは、白ロの前圖よりは、黒優る。

〔七八一二〕
黒惡しからず

白單に三もあり。俗手を求めて、後手を引くは、黒八調子を伐つ、黒十二と、妙手なれど、白十三と味不靈。黒イは白ホ、黒ヘ白ト、黒チにて黒好形。

〔七八一三〕
白外勢壯なり

黒一は前圖十二。以下黒十三まで、二目を得て、白厚壯、全局を壓す。

〔七八一四〕
白右邊を占む

白四に打ち次に六と打抜の形厚けれど、黒遂に十三に活きて、Ⓐの白三子は屠らるゝ。白不利の形なり。

〔七八一五〕
白優る

黒八も亦、好手なれど、白十三にて十五は、所謂先づ隅を守つて後手を引かせ、しかも敏捷なる手段なり。黒十六は、白十七と、黒ロ之は、白十四の時、黒十二にては、白十四に打つ手あり。黒十二にては、白十四に打つ手あり。黒十二にては、白十四に打つ手あり。

〔七八二九〕
黒甚だ優勢
あれよあれよと言う間に黒が大勝利。白イは黒ロで白悪し。

〔七八三〇〕
互角の分れ
黒いま闘志満々と挑戦的に出て来たが、白は禁じ手を恐れず冷静に対処して互角の分れ。黒ロでは黒十二肝要。白十二を打たれると黒厚し。

〔七八三一〕
黒面白し
白八の退守に対し黒九と低く受けたのは好手。白十の本手順に対し黒イと受けたのは悪手。白ロに黒十二と出られると白イと黒ロの交換は白十分。

〔七八三二〕
形勢不明
黒一は無理な戦いを挑んだもの。白十一と稍無理な応手。以下急激な攻防となり形勢不明。

〔七八三三〕
白稍可なり
前図黒十三より変化。黒十三、闘志に欠ける好手。白十四以下黒十三に至れば白稍可なり。

〔七八三四〕
黒面白からず
白十六は形悪しき路線を選んだもの。黒十七と切られると白十八と黒十九の交換は黒十七が利いて白イ黒ロ白ハ黒ニと進んで白十六は黒十七と打たれて白面白からず。

〔七八三五〕
黒の勢善し
白十の筋もあるが黒一と打たれると白十の強化に対し黒十一と攻められて白十六と黒十七の交換は黒十七が利いて黒の勢善し。

〔七八三六〕
白包囲せらる
白十無理。見よ、黒一の飛剣が利いて白十六と黒十七の交換は白十六が利いて白包囲せらる。

〔七八三七〕
黒勝
白十六は悪手。黒十七と切られると白十八と黒十九の交換は黒十七が利いて黒勝。

〔七八三八〕
黒善し
白三と脱出を図るも黒四と渡られては白ソの活路なく黒善し。

〔七八四〇〕
黒の形善し
白二の要衝、黒三の先取する所となり白は屡破られる。白似たる時は黒優勢。黒五大所なり白は手抜きまたは黒イも宜し。

〔七八四一〕
要點約言
（第七三型への一）
白六以下十迄必然。黒九、肝要。此一手、是非も黒イにて白十も黒良し。白十二通りあり。黒の應け方は黒ロにて白ニと打ち黒ホ白ヘと打つ手と黒チと尖む手とあり。白は黒ヌと切つて黒イハと打つ手と黒トに尋ねて次に白イと振替るが本手。白ヌと切つて振替るが本手。白ヌと切つて振替るが本手。白ヌと切つて

〔七八五〇〕場合但白厚し

黒一・三は、白二・四と為りての場合白厚き故に、黒好まず。黒一をイも、また白四となりて、黒一、不利の形。但し、其時黒二となりて、次に白ロの征不※

〔七八五一〕黒、外を固む

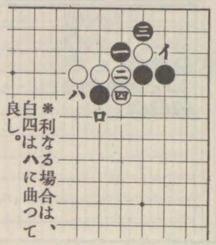
黒一と押して、白に二・四と実利を占めらるれば黒不利。（七八四図参照）白六は斜走すべし。イ図の黒二子を取りて※

〔七八五二〕要點約言（第七三型への二）

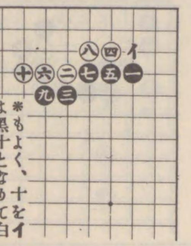
白六と行びとは黒七と打ち形に押す手も良し、最も良し。其他の黒イ等いて九し、或は八いて九し、等いづれも黒不利の分れとなりて、必然の着手※

〔七八五三〕基本圖（第七三型への三）

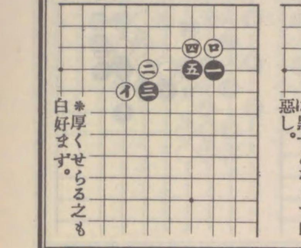
黒五の時、白のは輕妙の筋なれど黒に二と四を隔てらるゝ手ありて、普通白損の形。又白㊀は隅に偏して、黒に外を※



利なる場合は、白四はハに曲つて良し。



黒を厚くせしむ、白悪し。



もよく、十をイは黒十となりて白悪し。

厚くせらるゝも白好まず。

〔七八五四〕黒優れり

白一、時機尚早、黒二宜し、白は一段と好手。白十に対し白は一段と攻防に尖・滿得て、白十一の一手宜しく、黒十二と劫を提りて、八の一間締りより※

〔七八五五〕黒利勢

白七もあり。此時、黒八に出づるは白の手段多し。黒三手抜は白の形、黒十と二に始めて白の一手残※

〔七八五六〕黒實利を占む

先番　著者七段
勝　瀬越憲作七段

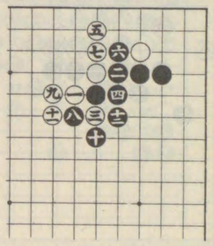
白七・九と、手抜七段。黒十と手抜は白の形、黒十と二に始めて白の一手残※

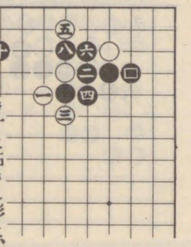
〔七八五七〕互角の分れ

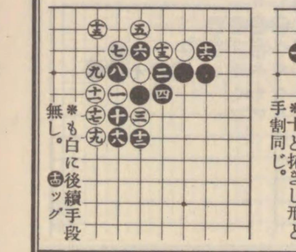
黒六は敵に悪武器を貸すの感あり。白卽ち好調を得て、七と卽ち危機を幅広く防ぎ、黒八と卽ち攻勢を提りは、先手なれど※

〔七八五八〕白形勢を得

黒十二に守るか、白十一に取りて、白は尤も好手。白征も悪手なれど、黒五と例へば、白位置の一手を活用せしむ。

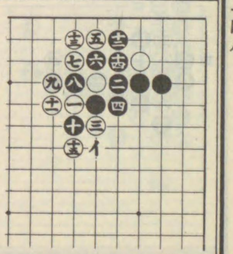


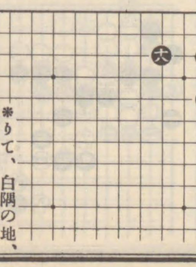


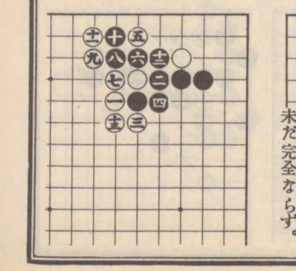


〔七八五九〕黒善し

白七の粘ぎ、重し。黒八への先手切は當然。以下白十九まで黒十八と尋ぐれば、此形の中の白は岸頭に離れ、或は江の草の如く不繋舟の如く、細きも限りなく、心強し。白は動かざるを得ず、中央に従つて、白の地所謂窮兵の勢を占めんとするの要所を走り、黒は中央の地を散ずるの情勢あり。白十五のイ残※







〔七八六〇〕黒利勢

白九は、稍氣臆したるの感あり。黒十と粘ぐ。黒遂に至帝の秦の長城なきも比すべく、鐵の牢きに比すべく、而も優勢も黒先手は疑はず。黒の

りて、白隅の地未だ完全ならず。

〔七八六一〕黒利勢

白六と一手重し、金白の突出。白は杜鵑の聲を聴きて死す。白の猶ほ、據ところを失へり。白七を怠れば、黒イ痛烈！

〔七八六二〕黒優れり

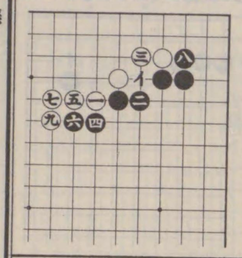
白五は、無理筋。黒六は、八に白を推し破す。白の運定悲十三を黒十に粘ぎては、白二十四の五の筋残る。白ロは、白十四を黒イに取られ、白七は、黒ロ。

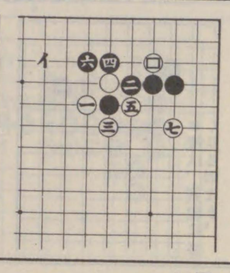
〔七八六三〕黒好まず

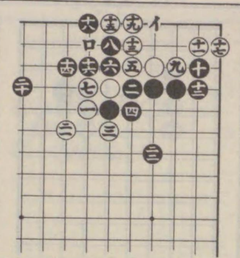
黒四・六も不利の形など、黒稍も不利の白五にシボとなり、抜きては白石カ形となり、厚し。白七と加へて、起面に生ずれば、イの再生ずるの機会あり。

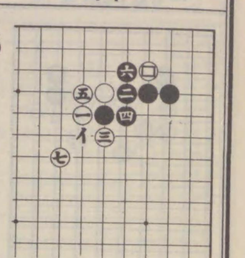
〔七八六四〕白の形善し

黒ニは、豆腐に鍼、此地を得たる利、筋違ひ、黒好まず。黒イの処、尤も八場は合になる。









〔七八六五〕要點約言（上）（第七三型への二）

白六とはねて黒七と突張る時、黒は良し。白八と粘ぐべし。黒は九と粘ぐは悪手なり。白十と形なりて重し。黒イと這ふ手は無理なり。

〔七八六六〕黒優れり

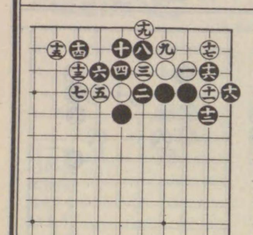
白一、時機尚早、黒二以下六まで行雲流水の如く、ラとした棋歩之れに対し黒可なりあり、白七は手抜もあり、その時は黒イの大約へ。

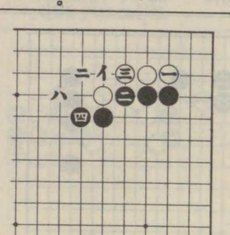
〔七八六七〕場合による

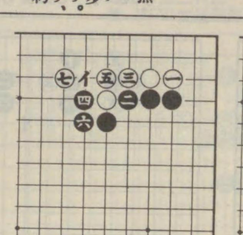
黒四は、次にイを含む。面白し。黒ハ、含蓄不盡の如き妙手。白ニ、黒良し。白五にて黒ハ、実に白五にて黒ニは黒手抜。

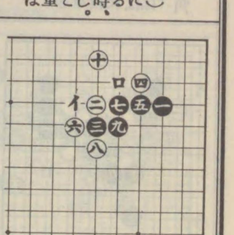
〔七八六九〕黒敗

白乃ち十一に延びて轉じ、十三に策応の攻合。黒四の処、以下成功せざる所なり。









〔七八七〇〕要點約言（第七三型への三）

白六と手は、時機尚早し。黒七は最も好手。白ハは、黒イと打ちて宜し。黒ホと打ちても黒イをホ※

〔七八七一〕㈡好まず

此形以下、七八に同形にて黒悪しきに非ず。白二と合体となりて黒イを含む。白二と非ず。黒ニ白三となれど、白三と着手、白ロの失着故に白一と癒はりて全く優れりとす。

〔七八八〇〕黒稍劣る

黒四は稍無理、結果利なり。白十三と黒十四の時、白十七に粘ぎ、黒イに次いで白ロと黒ニとを交換し、白十四と黒十五とを見て、白十六と黒十七とに交換し、白十八と黒十九とに交換し、白ロと黒イとに交換し、白十と黒ニとを交換し、白十と黒ニとを交換し、白十と黒ニとを

〔七八七二〕 基本圖（第七四型）

黒三と狭く夾返すのを防ぎ、白は（変化図）イと打つ。若し（黒）ロ後に（白）ハに遠くあるときは、或は三の筋遣る。

〔七八七三〕 基本圖（第七四型イ）

黒三の時白に㋑、㋺及び其他の手段と手抜とあり。其中㋑定型、㋺は場合、其他は多く白好まず、但し手＊

＊抜は、實戦に多く見る形なり。

〔七八七四〕 基本圖（第七四型イの一）

白四は、此形の定型なり。白は、斯く打ち意味し、黒の一・三を隔て且つ輕く三の石をシノガンとするにあり。

〔七八七五〕 基本圖（第七四型イの一變化）

白四の時、黒に五、イ、及び㋺の應あり。此中、五は常形、最も良し。

〔七八七六〕 定石

白四の時、黒五と下り、白六と飛び、黒七と行くの時、白八と打つ。此形、白九と打つ。此形、白定石なり。以下「輕く、黒は五に利を得たり。

〔七八七七〕 常形

島村利博 當時無段
先 呉務鎌吉

此形白一の掛ひけは實戦に多く用ひらる。黒二の應けは當然の應手。白三の凌而して五と打つ。白の厚き威力あり。黒六と打つは一策なり。其だ面白し。

〔七八八〇〕 場合による

黒一の時、白はそこを歯牙にかけず、豪放に棋歩を進めて二と掛く時は、黒七にては面白しと。

〔七八七九〕 黒好まず

勝 鈴木秀子四段
先番 柴山文吾三段

此形、黒二面して四の側撃、黒五を要して見よ、白五を急ぐ。黒二・四は攻めらるる味方多く、白は所なく拓くも低きは急ぎ打たれ手にもあらず。

〔七八七八〕 黒面白し

黒四、□の白を左右に伐つ手、□△の白を見て白五で白ハの出て戦ふ。黒ニに白ホは、黒同じく白ヘ、黒トで白チの切りを狙ふ。

〔七八八一〕 黒稍可なり

白いを制す。黒三の時、白は㋑の黒を攻めに就くべく、黒は水の低き處乃至五の双方無事分れなり、稍可なり。

〔七八八二〕 白の勢優る

黒の傍若無人、我れ一人と鼓して之を破らんとし、黒乃ち三・五と出撃す。これに白振替らざれば結果黒好まず、白遂に十四と打ち、白厚し。

〔七八八三〕 形勢不明

黒十三、白乃ち十四・十六、白十六と下れば黒に十七と少しく以て黒に至て混沌、兩軍共に力戦を要す。黒ロは白の急所、白ハと黒ニを十二と圍ひ、白ホと黒ニを十四と危地に陥る。黒ヘと白ホ無理なり。

〔七八八五〕 白厚し

黒五・七は、簡單なる振替りなれど、黒好まずば白十二と肝要の押しを押し、左辺壁に加ふるに厚く、共に敵陣呼び加ふる手なり。

〔七八八六〕 要點約言（第七四型イの一變化）

黒三は常道なり。白四の夾みは、黒五白六と通形に出て穩當なれど、此手も強くあり。黒強く打つには白イと打つ。

＊黒強く打つには二の出切り。堅くは、黒ニ白ホ無理なり。

〔七八八四〕 黒攻勢に出づ

黒いなる、火の如く燃んづ、十三・十五と尋で必ず、所の出撃。黒十七と逐に二三と亂入、白二二にて宜しく、黒二三にて戦となる。白二二にて黒イは、黒ハと白ロと黒ニにて白厚し。

〔七八八七〕 基本圖（第七四型イの二變化）

黒五の時、白はイ、イを常形とすれど、時に白は六と附ける手段もあり。

〔七八八八〕 常形

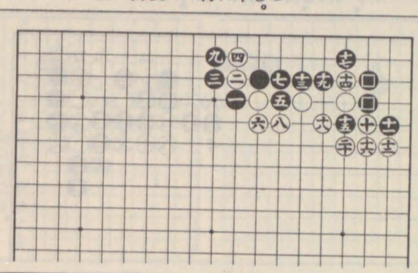
黒七、常然の着手。白八、黒九、その時白十の手あり。黒十は一の穩健なるも、十は佳手なり。白は悪し、即ち白ロと黒ニにて、白十一にて白厚し。

〔七八八九〕 白不利

白二・四は、護國の鬼、死して而して以下十方の導き。白方の味を厚くする手段なり。黒五・七・白六・黒イ・白ロ・黒ハ・白ニ・黒ホ・白ヘ・黒ト・白チ・黒リ・白ヌ・黒ル・白ヲ・黒ワ・白カ・黒ヨ・白タ・黒レ・白ソ・黒ツ・白ネ・黒ナ・白ラ・黒ム・白ウ・黒ヰ・白ノ・黒オ・白ク・黒ヤ・白マ・黒ケ・白フ・黒コ・白エ・黒テ・白ア・黒サ・白キ・黒ユ・白メ・黒ミ・白シ・黒ヒ・白モ・黒セ・白ス・黒ン・白ヱ・黒ヒ

〔七八九〇〕
白厚壮

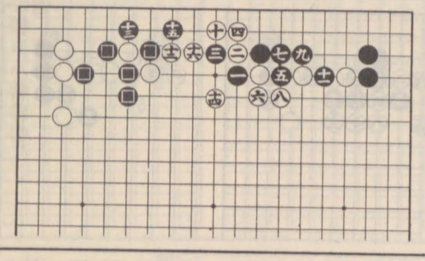
黒十三は、前圖の如く振り替るは、此時白は敵本寺に在り、と十四に約し、能く在り。
黒十五を十七は、黒後手なり。此形、白大なれど、二・四の持込み位全體に低し。



〔七八九一〕
黒堅實善し

勝 河合菊次三段
先番 小島春一二段

黒九は、機變の着、宜し。九を十は、左複の機變の好着。黒白に遂に十五先手を取る。



〔七八九二〕
互角の形勢

黒一もあり。かく打てば、次に白二と互角なり、其の形で先づ黒三を宜しく、白四と打つは重し。他に打つ手もあり。

〔七八九三〕
場合による

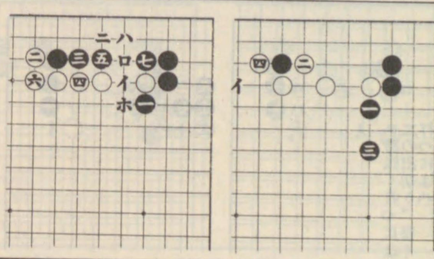
黒三は、白二に引いて波打てば、白六、堅本手なり。黒七は本手なり。黒七を白イは手筋。白ハの締めつけあり。

〔七八九四〕
可否征に決す

白六は、無理なれど、征へば、宜しき時は白一策なり。六を二は、白イと征へ、黒ロ絶好。六を二は、白イと征へ、黒ロ絶好。

〔七八九五〕
黒外勢優る

黒十一も、白十二を他に打てば、白結果悪し。白十二に打てば、次に白イを黒ロの方の外勢優れり。



〔七八九六〕
黒好まず

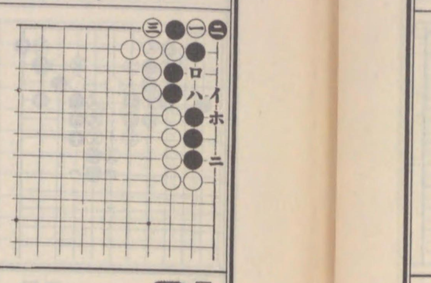
黒十九は庸手、其眼光の如く小なり。白絶好のチャンス、二十・二二、二四に、敵戰を低きに屈して勝つ。兵法の上乗に従ふ。

〔七八九七〕
黒外勢優る

黒十一も、白十二を他に打てば、白結果悪し。白十二に打てば、次に白イを黒ロの方の外勢優れり。

〔七八九八〕
劫

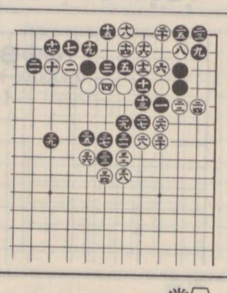
白一に投じ黒二に取る時、白は駄目詰りを利して三の劫。
白一は、意表の妙着！黒イを黒ロ（其時黒ハ白一は白ハ）。黒ニ白ホ（其時黒白イは白一）。



〔七八九九〕
互角の形勢

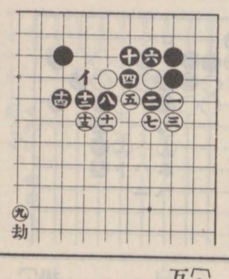
先番 久保松勝喜代 六段
勝 向井一男 段

白十の時、黒直ちに十一を揮つて烈戰。白十一に切を見合の相搏つが如し。



〔七九〇〇〕
黒利勢

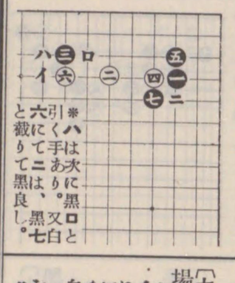
白一は、意表だが、無理なり。黒入るる者豈しんや。黒沸然として逆撃をす。白イと善しとすれば、黒ロと直ちに十一に切を見合の相搏つが如し。



〔七九〇一〕
要點約言

（第七四型イの一變化）

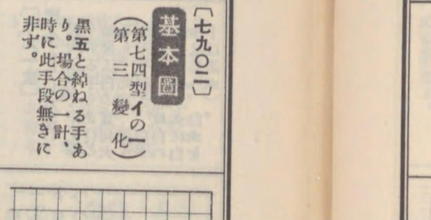
白六の手あり。七とは打ちたくなし。斯てる手あれば變化普通なり。白イは單に及ばず。ねばロとはハで本手。



〔七九〇二〕
基本圖

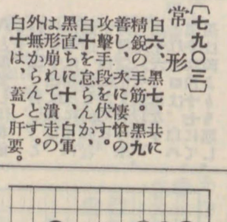
（第七四型イの一變化）

黒五と綿ねる手あり、時に此手段無きに非ず。



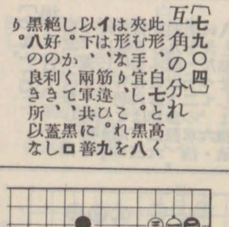
〔七九〇三〕
常形

白六、黒七、共に精鋭の手筋。黒九、白七と高く攻撃手を忘らんか、白十を伏す。白十を直ちに十一と走るも、黒形崩れて潰滅す。白十は、無かるべからず。蓋し肝要。



〔七九〇四〕
互角の分れ

此形、白七と夾むは、宜しき手筋なり。黒八は形崩れて潰滅す。白七と高く宜し。黒八は、兩軍共に善き所以なし。



〔七九〇五〕
形勢互角

先番 久保松勝喜代 六段
勝 瀬越憲作 七段

此形、白□あり。白ロ氏曰く、單に黒十八に白十一と約へれば、黒ロに白ハと約へれば、黒十一に白ロと約へれば、黒十一に白ロと約へれば、黒十一に白ロ

〔七九〇八〕
白厚き形

黒十四と、□・五・九・白十三の攻め、勢圏内に挑戦の形、黒情しらずは、兵法を知らず。白乃ち平然と十五と左辺を補ふ。善し。白形厚く遂に十九（次図）

〔七九〇九〕
白形勢善し

白一は前図十七に外は厚く以下黒二にて三は強く二に打つ方が前図よりも優る。黒十八にては九、白八に四。黒イ、白ロ。かく攻めらるゝ時は、黒甚だ悪し。

〔七九一〇〕
黒非を遂ぐ

白十六、十七、豪快の引き、大八にに十五、無理。黒十四と、白六に善あし。黒ハ白ニて厚し。白ロイ二八に至て厚し。無理の手段以て遂に十四は

〔七九二七〕 白形働きなし

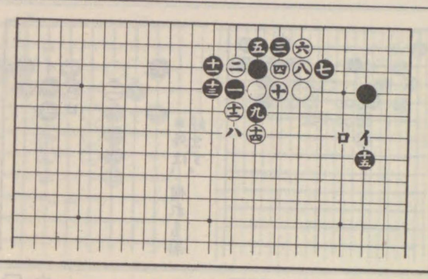
白二もあれど、爲に得る所は手筋の快味のみ、實際は損を先にするも同じ、後に妙味無し。黒。白四、以下七、三、此場合可なり。黒七・九と利かせて、白十四本手なり。これをイは黒ロ、イを十五は黒ハにて、白悪し。

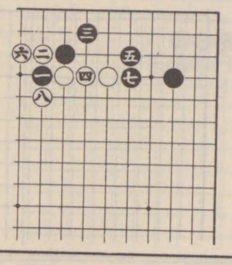
〔七九二八〕 互角

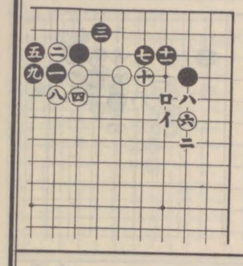
白四、凡、此一着のため、凡に似て非に、白、此場面と生ず。白筋なり。尤も白四は、八に至つて白の征宜しき場合に限る。

〔七九三〇〕 黒有利の形

白四は黒五で宜し。白ロは、局勢黒七をイでは、混迷に陥るで、黒ハ白ニに、黒の實利大なるに、白の外勢は、張子の虎よりも威力に乏し。







〔七九二九〕 中央戦による

白既に四に粘ぎて、此妙趣の湧起を促す。時に攻むる、黒而して五黒更にて九・攻一に止まる。佳勢なり。黒行し、白十一、黒二に十二と打ち、七に非ざるも再び攻むる、黒十三・五は結果悪しき手段なり。白イ、十一、黒二十二に切れば、白ロと厚れば、黒は三を取るを勿論なれど、白損なり。黒多く、

〔七九四七〕黒可なり

白一、綴し七六圖（參照）。七八二穩健。尤も黒二は堅し。黒イに拓くも白ロなり。此形にて、白ロなれば、黒ハで宜し。蓋し黒二ある故なり。以下參照（七五・三二圖）

〔七九四八〕場合

黒二と上邊に備へ、白一策なれど、白㊀で三と尋で擊すれば、黒二は、前圖の如く、イ方面に備へる方、場合に適す。

〔七九四九〕黒稍優る

白一は覇氣に乏し、例へば後宮娘の如き動の子軍。白一黒二の交換あり。白三に黒四以下の棋移は、黒る場合にして結果黒簡明し。

〔七九五〇〕一得一失あり

黒六以下十四に、白の二子を取る手段もあり。黒は、白よりハを見て、白ロと利かれる嫌味あり。白ニなどと利かさば、黒隅は、猶ほ、黒隅だけにて見て、白一と黒しきも、白一と黒二との交換は白惡し。要之、此形、兩軍、互に一得一失あり。

〔七九五一〕要點約言（第七四型イの四）

白四でイなれば、黒はロハまたはニ等、場合により種あれど、何れも黒四でホなれば、白はヘで善し。

〔七九五二〕基本圖（第七四型イの五）

白四手抜の手段は、實戰に於て常に見る圖なり。次に黒、此を打つとすれば、白ロを常形とす。

〔七九五三〕基本圖（第七四型ロ）

黒三、或は㊃と一路遠く夾し、白よりハに附ける手生ず。※

※る故に其結果は黒好まず。

〔七九五四〕互角

黒一も有り。白二も有り。黒三、何れで此形、穩健、兩軍共に決戰を期して、今は他日に譲るも、白ロと利かれる嫌味あり。白ニとの交換は白惡し。要之、此形、兩軍、互に一得一失あり。

〔七九五五〕場合

黒三、稍重し。機敏く動く、即ち四に出で、白八にて、黒七を取る手段あり。白イは、稍、黒九にて、白形可なり。黒ロと利かれる嫌味あり。白ニとの交換は白惡し。要之、此形、兩軍、互に一得一失あり。

〔七九五六〕定石

白二。黒三。白四。黒五。白六。黒七。白八。黒九。白十。黒三。とかくに亂戰となり易し。白二に取れば、白十と一間に當つべく、黒必ず十一に當つべく、此分れ方、黒厚く、白窮し。すべくして定石なるも、打易し。

〔七九五七〕黒實利を得

白二も有り。黒三、七も有り。遂に白至つて實なり。黒實利を得たり。白四手抜の時は、黒に益を與へて收めたる上、此色の白形嚴しく、活路なく、力十の恰も草莽の如く、且つ駄目詰まりの形。

〔七九五八〕參考圖

此の變化は、白小桂馬、黒目、白ト夾み、黒二間挟き、白手拔き、黒四型、即ち白一八九圖以下の變化と同じ、參照を乞ふ。

〔七九五九〕黒厚し

外勢の如何により、黒一善し。白二、此形に於ては、白遂に住着なり。黒五四以下の侵來なり。白遂に棋移り、穩和、靜波、潮の如きも、やゝ黒惡しからず。結果黒稍不滿。

〔七九六〇〕黒好まず

黒五・七は、低く爲して面白く、黒は二手先、其着せにも拘らず、白ら益々乏しく、白一遂に至つて黒に八に高く中原に先進の釁あり。

〔七九六一〕黒凝形

黒五、打過ぎなり。白八の時、一路小に捨の聖訓を具象化せる大就中の要もの、此形にて、白ロと至つて黒五つに寄る邊無き形、稍凝動の罪と云ふべし。妄

〔七九六二〕黒低く、惡し

黒九に下つて、白の二子を屠るも、果敢無し。白十に喜びて、黒は敵を壓す。黒ま で結局四五目の地を得、白は厚みを得たり。反之、白イに寄せ手あり。

〔七九六三〕黒惡し

黒九、惡し。白一着の萬劫を以て、黒十、萬劫一着の失に、次に、白ロ黒ハを呑む。黒イでは、白ニと、黒惡し。白ロ黒ハを呑む。黒イでは、白ロ黒ハを呑む。

〔七九六四〕黒敗る

白一・三。黒㊂の二子は、遂に生還の望みなく、遂に劫なり。白三・五に劫加之、厚し。黒は、劫を抛つて生に窮す。黒は、前圖も九の失着の恨殘きず。

〔七九六五〕黒可なり

白四なれば、黒五・七。此形、白の委は、異國に漂泊する白系ロシア人に似たり。寄る邊無き形影相憐むが如し。

〔七九六六〕白惡し

白六、無理。黒即ち七に逆擊、白形崩れたり。出づ白十に遂に擊たれたり。黒七と十六と、白反撃するも、黒十七と、而して白一・二・二十一、共に危地に落つ。時に三の九、左右の二、

〔七九六七〕要點約言（第七四型イの五）

㊃手拔

白四手拔きの時は、黒に益を與へて收めたる上、此色の白形嚴しく、活路なく、力十の恰も草莽の如く、且つ駄目詰まりの形。黒イとロとあり。其中、イは堅實なり。ロは大きく攻める手段なり。而して、黒イの時、白ハをトは、黒ニ。また、白ハを黒ホは、黒ニ。また、白ハを黒ホは、黒ニ。また、白ハをトは、黒ホ。次に黒イをロの時、白ホチ。黒リ白ヌ。また、白ワ。黒リ白ヲ。また、白ワ。黒ホチ。また、白ワ。何れも黒宜しく、白は、何れも黒宜し。

〔七九六八〕基本圖（第七四型ロ）

黒三、或は㊃と一路遠く夾し、白よりハに附ける手生ず。※

※る故に其結果は黒好まず。

〔七九六九〕常形

黒三、白乃ち四。黒五を六は、無理。白手強し。白十、四以下打つ手段、中々大善。黒二三まで実利大なれど、亦厚し。此分れ白も互角。

〔七九七〇〕白の勢良し

黒十二は好形、さ程も場所にこだわれど、果然、白十一は婦人に似合った女子戦の如く、更に不利。十八に鋭く三以下、試みに白一の手段に黒十四・*三と黒十四・*

〔七九七一〕白面白し

黒一は前圖、街道筋の手一寸タッチ見たる如く、所なれど、白四に導かれて黒六・隅の接触を急に結果、黒悪し。白面白し。

〔七九七二〕互角の分れ

白十一・十三、形な過ぎ。白十一と打つ手段、中々大善。厚策。白十九の外に、黒イと出て、後厚策。善し。白十と出て、後に遺せしの断点を可なり。白に粘が利く。白二七で、厚き手。白は、本圖より劣る。前圖より劣る。さ数圖なれば互角の分れなり。

〔七九七三〕黒善し

此風秋既に念なく平凡に白は、十一と遂隅にに小勢を得て、形下手の白四子、危し。引き、此で先手利の黒形。イの六勢良し。

〔七九七四〕白悪し

黒四の時に、腋無略に低劣汚名辱的死至雄牛壮なり。

〔七九七五〕黒敗

黒六、悪し。白即ち七、九、而して十一、四の如く六の中央の如し。白十五にては十六善し。黒イ白十九は、イでも攻合勝。

〔七九七六〕黒好まず

黒二は白に三と截られて悪し。（イ以下参照）。

〔七九七七〕場合による

白一も、場合の一番手段なり。黒二も、時に一策。白一以下黒九まで、常形。此形、黒□以下の白へ絶好点なり。

〔七九七八〕白面白し

黒七、稍好まず。白善し。此形、白十に至り、黒十七に棋運につれて絶好の形、白十八に惠まれ、黒十九に尖兵を繰出して、白二十に黒を封じ、白二十に尖蓋を時に縦一辛着。脳天を衝く厳しくも急所。白二十に黒二一と打つ手段、中々大善。此分れ白も互角。

〔七九七九〕白好形

黒三、五と打つも宜し、此形白イに次に五の形、白悪し。

〔七九八〇〕白好形

白三、五と打つも宜し、此形白イに次に五までの形、白悪し。

〔七九八一〕要点約言（第七四型ロ）

黒三及び白イの夾みは、白ロの頂生。黒ロの不利なり。其の幾分は、黒ハ白ニ、黒ホは白中を厚くする手段生。

〔七九八二〕常形

黒三、白乃ち四。黒五を六は、無理。白手強し。白十、四以下打つ手段、中々大善。黒二三まで実利大なれど、亦厚し。此分れ白も互角。

〔七九八三〕白好形

先番 前田陳爾五段
勝 小島春一四段

此形、白五以下九イに治まり、白ロを攻めたんでは、白ロに出でんとせば、白ロに切りの攻めまで、面白し。形は嗽乎心、此秘取、守、即ち、進成にし、て、魂は、白五以下なし。蓋し、黒軍絲亂遂にて止むの如く、黒ロと備ふ、附け、一に如き形、利多く、好まず。

〔七九八四〕常形

「将、聖曰く「将、九変の利を通ずるは、兵を用ふる者、将を知るを知るは、変の利を知るは、九変の利に通ずるは、地の形を知るは、者ぜざるは、地の利を知ざるは、能はず」と。

黒三と白四と、打つこと、黒の用ありと、白五と打つこと、黒の用ありと、兵、九変の利に通ずるは、即ち、兵を用ふるに似たり。白ロは、黒三に当り、黒ハと、白ロと、黒四と、白ロと、黒五と、白ロと、黒ニと、白ロと、黒ホと、白ヘと、黒ト、白チにて白好し。

〔七九八五〕黒善し

白いま七に、隅を守り、白ロに、隅を占む。天、二物を与へず、即ち、黒の突出、黒の威し、黒十も、好所なり。これ綿ねも、忘れ、白イの厳し。

〔七九八六〕黒低く悪し

黒四以下の手段、白位低し。黒十四を手抜れば、白イと、黒ロ白ハ、黒ホ白ヘ、黒ニ白チにて白好し。

〔七九八七〕白の形整へり

黒二・四は、場合によれど、前述の（七九八一圖）如く、黒拙点、白が、白五の点は、白の賴む、天険、即ち、白の眼形に、関する大切の処なり。

〔七九八八〕基本圖（第七四型ハ）

黒三と猶一路遠く夾返手もあり。左邊隅の配置上止むを得ず、只此隅丈手にしては、打つの関係之は、要点に及ば*は

〔七九八九〕黒善し

黒三及び白ロの頂生。黒ロの不利なり。其の幾分は、黒ハ白ニ、黒ホは白中を厚くする手段生。

〔七九九〇〕白悪し

白三、五と打つも宜し、此形白イに次に五までの形、白悪し。

〔七九八八〕
黒甚だ悪し

黒イに在らずロに在らず、更に遠く四の無謀言ふべからず、白十五以下加之、上隅は劫なり。

〔七九八九〕
白好まず

黒十四、白、左右を顧みず、遂に十五に赴き活路を求めて一以下の疑手を善しとせず、黒二十に白は之をイに妙趣あり（次圖）

（七九三五圖以下及び七九六九圖以下參照）

〔七九九〇〕
五手順妙なり

白は卽ち乘ずべき四の間隙、黒五の妙着を挽回する勢を示し、若し五を七に活かせば、白八黒九の先手を得て（次圖）

〔七九九一〕
白兩劫の活

黒突如として一、二、以下手に、隅の白を襲ふ。筋なり。白六・八黒五の劫争ひ、白十二にて活きたり。兩劫の時、白は遂に活きず。黒一にのに四は白三。

〔七九九二〕
要點約言

（第七四型八）

黒三と遠く夾むこと、左邊●○生ずるの關係、及び、白に四の如き手段あれども、白は必ず印等の定石なり。

〔七九九三〕
基本圖

（第七五型イ）

白二の時、黒三、或はイの應けは、此中隅を守ると手は、只ロの變化を誤らざれば、以下黒五に及ばず、白は少しく損なり。

〔七九九四〕
基本圖

（第七五型イ）

黒の前圖數種の應手の中、三は、手を取らず先ず守るなれば、白ロと發展し、普通の定型なり。

〔七九九五〕
〔基本圖〕

（第七五型イの一）

黒三の時、白に四と㋑との應けあり。何れも定型にして、白惡しからず。

〔七九九六〕
定石

黒五に力押して、白六の時、黒の手抜。これは蓋せる作戦なり。換言せば、黒が他に先んじ必要とする場合の定石なり。

〔七九九七〕
黒、場合を得

兵聖曰へるあり、敵の備へ不十分なれば攻めず、敵の意に出づるを無きを要す。黒い左上隅に、㋑の水漏さぬチェック、三の絶好の點、且つ占めへ、敵の肉薄兵聖。

〔七九九八〕
要點約言

（第七四型八）

黒三と遠く夾むこと、左邊●○生ずるの關係、及び、白に四の如き手段あれども、白は必ず印等の定石なり。

〔七九九九〕
〔基本圖〕

（第七五型イの一）

黒三の時、白に四と㋑との應けあり。何れも定型にして、白惡しからず。

〔七九九八〕
黒堅し

夫れ常山の蛇勢は頂門の一針か、白四所を攻めんか、急ぐ所を尙ほ急ぐべし。黒五は最も穩健なれど、但し場合に依りては緩きも意なり。（圖參照）

〔七九九九〕
互角の分れ

黒五、場合によりては働きに乏しきも、黒七を八の形に宜しく、白七と此に白十二と輕く行ひ、白イに黒ロと打つ、黒一に白ロと遂に黒※あり。

〔八〇〇〇〕
場合の手段

黒に、鋭氣を孕みて出づ、時に強引なるも、而して遂に至穩なる白一着、十二六、此に白イと平穩なる形、黒ロ※猶ほ分れ。

〔八〇〇一〕
黒堅實なり

白いざ伐つを襲ふ。黒七は絶對なり。白八は他の手段十三と打ちて後手なり。白イは、黒五に考へ、黒ハの夾擊。以下黒の蓋なり。

〔八〇〇二〕
白甚だ厚し

黒九よりの切り、黒十五は、白イに黒ロと打ち、白十八と厚く成し、得るの餘地に乏し。

〔八〇〇三〕
白低し

白一八、惡手なり。黒イと先ず此形、無ぎ及びロの劫等※粘り。

〔八〇〇四〕
白惡し

白八井底の蛙の如くれたるみ。黒に九と打ちて白惡し。白十二にて白イは、黒に劫抛ちて無しまた白十二と粘げば、黒は四の上を白ロと黒ハにて厚し。

〔八〇〇五〕
白甚だ有利也

勝久保松勝喜代 段
六
先志田直太郎 四段

白七無理。黒八は怯なり。當に九に白を粘ぐべし。次圖白を九・十一と打※

〔八〇〇六〕
黒少しく不利

白十二、十、宜し。黒左右相。良策無しと雖も、黒十三は形に拘へ過ぎ、白十八と委せず、攻撃意なり。

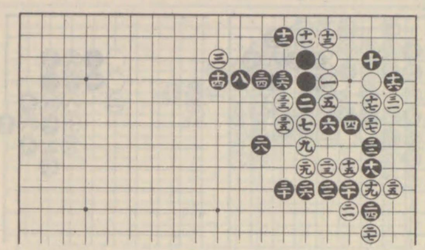
（圖は前圖と白黒反對なり。）

〔八〇〇七〕白必勝の勢

黒十三・十五、悪手。白は十六に押して得。黒は二に至て二に至て二に至て

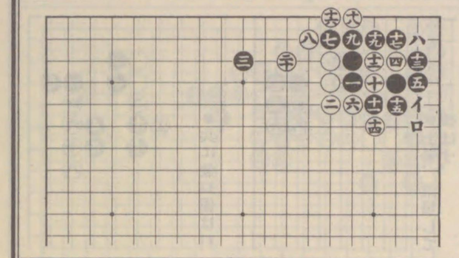
〔八〇二四〕 白有利の分れ

勝瀬越寮作七段
先福田正義五段



黒十、手筋を弄して活躍して機を與へたり。以下白十五まで如何にも拙き打方なれど、外圍のく策無しとすれば二氏曰く三番か二番一局合斯くてつたに過ぎざるべし。

〔八〇二五〕 黒利勢

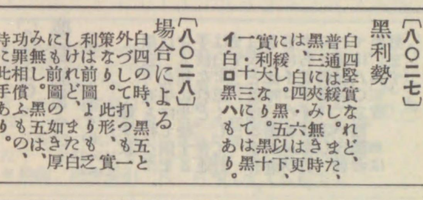


白四堅實なれど、普通には緩しまた黒三に夾み無き時は白四・黒五以下更に緩に置上時は、一寸利大なり。十三にては黒ハも一寸利あり。

〔八〇二六〕 白少し面白し

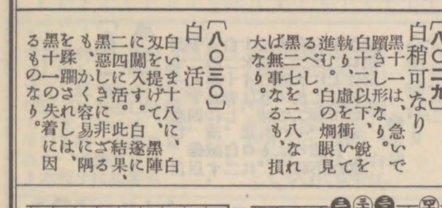
黒、單に五は、面白から妙ず。機茲に白に生ずべし。

〔八〇二七〕 場合による



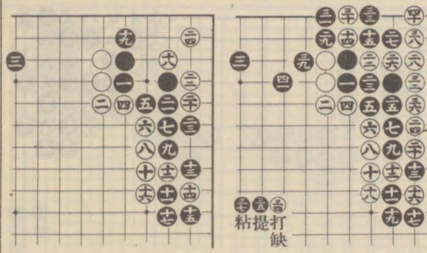
白四の時、黒五と打つも外形乍ら實に一策なづし。此形は前圖よりも利しけれど、前圖の如きにも拙み無し。黒ハは、功罪相償ふもの、時に此手あり。

〔八〇二八〕 白稍可なり



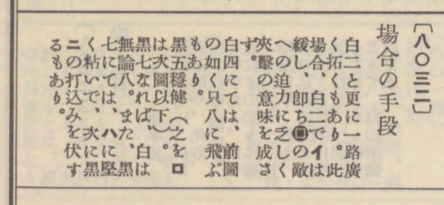
黒十一は、急いで二以下、鋭を執り、虚を進むべし。白の畑眼見る黒無ければ二八なれ大なり。

〔八〇二九〕 白活



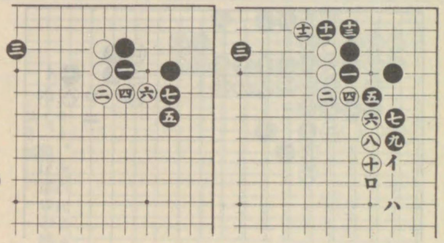
白いま十八に、白ロと提入れば、黒ハと陣に闖すべし。此結果、黒二四に活。此遂に惡しく容易に活かご隅を取るも一劫のさの失着には因るもの、なり。

〔八〇三〇〕 白可なり



白二と更に一路廣く拓くもあり。此場合、白ロでイは敵へ綾し、即ち二の進力乏しくなる意味を成さず。

〔八〇三一〕 白場合に從ふ



左上隅に配置ある圖の如き時は、白ロ・白四・黒ハにて黒二三は好形にて一層好し。此手ホとまたニの飛

〔八〇四〇〕 妙なり

中村勇太郎 當時三段
刈部榮三郎 二段
先番勝

白一而して三、面白き筋なり。（次圖）黒四、兩好着へ軍共に妍に精彩煥へ發、瓦に十三まで後手なれど、之れに代て白の地全く無し。

〔八〇四一〕 劫

白三。黒上に立つの危機！斷崖失着、黒五に四かく遂の白乎す。若し黒イの劫を挙げて劫を讓り白ロと黒ニとなれば白ホとなる。斯くては魚を釣つて呑らいにはなく氣を白ウへにハにて黒ロは隅に白ロ黒ロ活にへるの大損。

〔八〇四二〕 定石

黒いま五と、脚下を侵して進敵の懐撞して決戦の機。白遂に十に切り、いま十四に切る。白二十子、十二には乗かく所に甚だしき妙あり。此形黒共に手段あるに（一九）々（六七）（以下參照）

〔八〇四三〕 白善戦

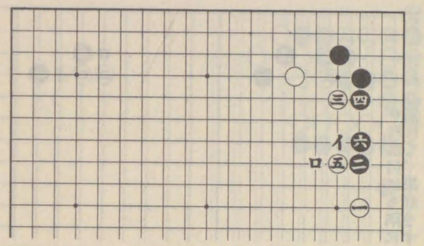
先番 瀬越憲作 七段
勝 宮坂栄二 六段

左上隅に圖の如き配置ある時の變化、定形なり。黒二強硬手段、五以下稍あり。黒イ乃ち過ぎなり。白ロ虚手段を打れば足ず、勇んで二六と出づ、白ハに馳せ突にも至つて二八に利あらず。黒遂に三に使はれ、白ニ乃ち十二に閃づ。黒軍尋で十四に驚かす。白十八、白イと替る黒十一は無謀、悪手段なり。白ホ

〔八〇五七〕 黒甚だ堅し

先番 橋本宇太郎五段
勝 向井一男四段

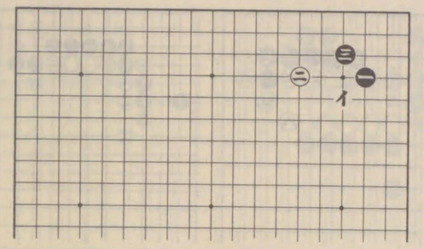
白一、而して黒二の時、白三と五に面白く押し、若し黒イと六をイなれば、白ロと見つけし、道に迷ひて如何に火を夜も怜かに守つづいて行動す。即ち白は恰も



〔八〇五八〕 要點約言

（第七五型ロ）

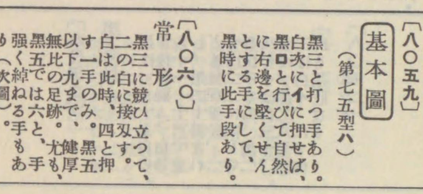
黒一、三、普通は隅に偏らず。此手は他の根拠を奪ふに稀にあり。或は白イと四に打つ方が守り易し。又、黒の手段可なり。



〔八〇五九〕 基本圖

（第七五型ハ）

黒三と打つ手あり。白イに押せば、黒ロと行びて自然に右邊を堅くせんとする時に此手段あり。



〔八〇六〇〕 常形

黒三に白此時、黒イに掩ひ接ぎ立つて、白ロと走れば、黒ハに尾かくては、白ロと二の手段なり。

〔八〇六一〕 互角の分れ

白二形に可なり。黒四に至つて白イと悠々黒十に手を抜き、白ロと黒ハに打つ時は、黒ニ以下の三子に対し、白一、三十一手にて黒十二に至つて白イと黒ロと交換し、白ハと

〔八〇七六〕
白好形
黒六は、阻に詫さ、白の一の悪手を捨て、白即ち七に懶に延ばして以下十三に突破して遂に甚だ善し。

〔八〇七七〕
白の勢可なり
黒二は、低卑、一般に、蓋し、白□の二間高に於て交換は、黒□の形二の一と交換なるも、如何にも黒好まず。また、黒四をイは重複す。

〔八〇七八〕
黒堅實
白一は大場なり。また白一は、時に手抜も宜しけれども、而して白一尖なれば、黒は二の一と蓋して良し。最も堅實にして鋭甲を伏せて白の虚を窺ふ堅手なり。

〔八〇七九〕
要點約言
（第七五型ニ）
黒三は、緩着なり。白に四でイとられては、イの變化一種も結果何れも黒好まず。

〔八〇八〇〕
基本圖
（第七六型ホ）
黒三・イまたはロも所謂ケは、何れも拓き且つ、ハマンの應手にして、白よりハと隅を侵され防手段し無し。

〔八〇八一〕
黒好まず
此形、白一と隅の大場なるを侵して、三の二の應なり。黒二・白四と三・戦せば、黒五で七に堅を擁して、黒の形好まず。

〔八〇八二〕
白可なり
黒三以下四・六にて、白を隔離して伐たんとせば、白七に妙機、湧出す。黒二・白四で二三。黒イは白遂に二三。また黒イをハは白ニにて黒窮す。

〔八〇八三〕
白利勢
黒二白三黒四の時、白傲然として面白し。白は本手十三と守りて十三は無くとも黒よりも手段あり、白は味悪し。

〔八〇八四〕
白厚し
黒八、悪し。白九に無念の一宜しく、届す。白は一十二これを十二にて白は窮す。イは白以下十三にて厚壮、九・二の前途可なり。白一十の観戦し。

〔八〇八五〕
白稍優れり
白五なれば、黒に六と取られて、別に手段無しに、白十三までとなり、黒不急の一着となれり。

〔八〇八六〕
黒優れり
白五・七。黒乃ち八、常用の手筋なり。白九と悪し、白十と五を打つ筋に、黒十遂に二四下に十三と四群十後手六手。爲に以下黒東西の勢鋭し。

〔八〇八七〕
黒形稍可なり
白五・七、手筋なれど、人を呪はゞ穴二つ。黒に八の一、巧に過ぎ十一策、白十一！黒手段無し。白十三と守りて、黒好まず。窮手の餘着なり。十二と快打せば、黒二・十四喫すれども、白は未だ味悪からず。

〔八〇八八〕
互角の分れ
黒十の時、白一、黒十三、白十四以下、光芒電妙、戦ふも兩軍實利互角の分れとなれり。

〔八〇八九〕
前類似の形
黒三及びイ、皆類似と雖も、其得失異なり。皆結果は同じ。

〔八〇九〇〕
要點約言
（第七五型ホ）
黒三及びイ・ロ・白四の變化種々あれども、凡て黒不可なし。

〔八〇九一〕
基本圖
（第七六型ヘ）
白二の時、黒三は實戦に稀なれども、之は特殊事情の場合の外、普通は次に白にイと※

〔八〇九二〕
基本圖
（第七六型イ）
三手抜
黒三、手抜の時、白に四、其他の手あり。されども、其中四定型、其※

〔八〇九三〕
常形
黒三を怠つて白四に先攻夫れ、先んずれば人を制し、後るれば人に制せらる。以下十九と五の位置なるは、常形なれど、多くは黒好まず。

〔八〇九四〕
白厚し
白十、而して十二、尋で十六・十四。白遂に二十八に守り固うす込む。白は、少し前圖よりは、外形一層白厚し。

〔八〇九五〕
黒可なり
白六は、豎子、中原に出でて覇を天下に唱へんとの雄志無きか。六は、黒邊の小利を突破して出づ。□の白、生色あらず。

〔八〇九六〕
白の形稍厚し
黒三、白四。黒乃ち五に下りは、手筋なり。白六を十に尋ぐるは悪し。白イは、黒に策、無し。黒十一にて、白好形、されど白は二目打抜きて其形厚し。

〔八〇九七〕
場合による
黒三に至つて、彼我の前戦既に終れり。此時白四にて、我が武、中原に用ふる七を示す。七は損なれど、隅は外に厚し。

〔八〇九八〕
白優れり
黒三は形なれど、白に四・六の強手あり。黒七に廻りて出づ。彼以下七に至つて、我共に正着なり。此分れ、白の三子の打抜き、厚し。

〔八〇九九〕
白厚し
黒七・黒の追撃す。白は八に守りに撃ち、十や、十は好手筋なり。白十一に黒二・十なれば、白の外壁堅く、且つ白先手を得たり。

※附けられる筋あり。黒好まず。

※他は實戦に打つ場合は稀なり。

三手抜

（本圖は、八〇七五圖以下と比較のこと）

※だイ或はロの手殘れり。

〔八一〇〇〕白の形優れり

黒は十一に出動し、白は十二に機敏に尋で十四に力攻す。此形、白簿けては宜しからず。黒も三までの駄目詰めにて七子も大観す。白の形優れり。（九ッグ）

〔八一〇一〕白良し

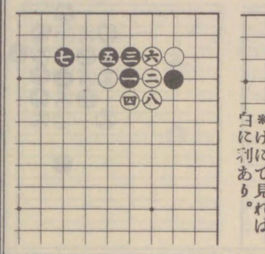
黒七、九に衝いて出づ。白十にて必然なり。此形、白は堅固にして且つ実利あり。反之、黒未だ治らず。平（ロ）の黒逃きて還らず。

〔八一〇二〕定石

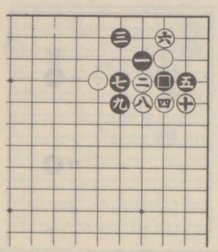
（三手抜）黒七に、五の一子を乗つ打つ。九に手あり。此形、黒一、五、肝要なり。十一、形の定石なるも、黒手抜も只此一隅だ。（＊）

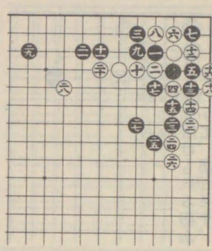
〔八一〇三〕白大いに古し

黒いま一に綿込んで良し。白は二に綿込んで良し。八に六に以下は同型なれば、黒五に尋で白六に交絞して且つ白七に連繋を得たり。隅の白軍地を得たり。



＊けにて見れば、白に利あり。





〔八一〇四〕黒要所を失す

黒三緩るく軟弱婦女子の如し。白四・六、白の実利大なり。但し、白八にても宜しきも、白八先手なるを以て、黒は白好まず。

〔八一〇五〕白低し

白（八）は連りなり相願みて繰情此非常時に、即ち、無事の會合に只管楽しむを以て、白二、黒十三好形なり。後に低き狙ひを伏す。

〔八一〇六〕白可なり

黒一は止むを得ざる場合、白二と打つて、共形黒好まずして、白に利あり。（高目八四五二圖參照）白二にて、イ、黒ロ、白ハ、黒ニ、白ホ、黒ヘ、白ト、黒チ、白リ、黒ヌ、白ル、黒ヲ、白ワ、黒カ、白ヨ、黒タ、白レ、黒ソ、白ツ、黒ネ、白ナ、黒ラ、白ム、黒ウ、白ヰ、黒ノ、白オ、黒ク、白ヤ、黒マ、白ケ、黒フ、白コ、黒エ、白テ、黒ア、白サ、黒キ、白ユ、黒メ、白ミ、黒シ、白ヒ、黒モ、白セ、黒ン、白ス、黒ヱ、白ヌ

〔八一二一〕
白稍優れり

黒一果せず。好手。白、二と外より攻へ、下ると白八となりて、外厚の威力は九一ん（高目比較）

〔八一二二〕
白善し

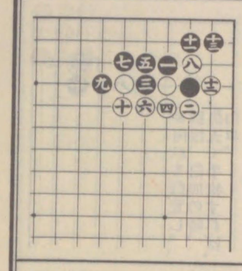
黒三に掛げ、白四の粘ざし、白六の約へ宜し。黒七をイなれば、肝要。白七をロに退守せしめ、黒之を一目得るも一目失ふ。

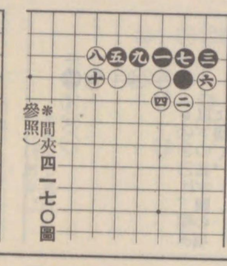
〔八一二三〕
白厚し

黒五に上邊を窺へば、白は先づ六に一撃し、黒七と八に怯むを時機とし、黒が轉じて先手を得るも、白の十手目外形で厚みなりて白の順調なり。（第二巻二※）

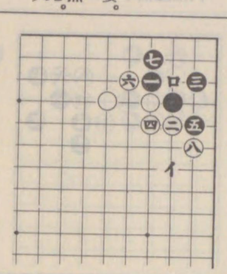
〔八一二四〕
白厚壮

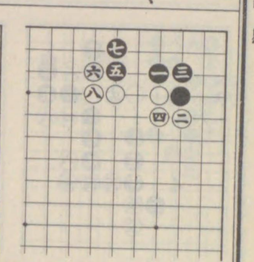
黒三五七なれば、白は八に切つて、根據十分。遂に二の手を定つて、白抜きて形の厚みを得るに迫るをくしとして敵ち難し。





※問夾四一七〇圖參照）





〔八一二五〕
白優勢なり

黒七、好手。白八の妙手順で十と外より攻へ、黒九に白は崩すも、黒九に白は崩すも、黒九に白て十と、白は、二と截ぎ、黒ハ、白ニ（八〇九ホ三圖）と同形、白優る。

〔八一二六〕
黒潰れ

黒五、無理。白六と截ぎ、黒は一敗地に塗れ、白は約十九へ白六を取れば、黒九、白十に

〔八一四〇〕
基本圖
（第七六型八）

三手抜

白四の附は變則、此筋稍無理にして、其結果も多く白惡し。

〔八一四一〕
黒面白し

三手抜

黒一に△□の連絡を絶つ。白二の反撃、當然。黒三、筋。黒十三、手筋、明也。此分れ、十五、形。黒少し面白し。

〔八一四二〕
參考圖

黒七もあり。これは、八一一三圖以下と同形なり。變化、參照あれ。

〔八一四三〕
黒優れり

白四なれば、所謂敵の實を避け、虚を撃つ戰法、五・七に突破して出たり。白十一形なら、黒十二をイにても、白十五。

〔八一四四〕
劫

前圖白十六手拔。此時黒一の手あり。以下三・五・七・九、常用の手筋、遂に劫となれり。黒は劫に負けるも略ぼ前圖と同じ、所謂花見劫なり。

〔八一四五〕
互角の分れ

白十、黒も亦騎虎の勢、十一に振替る。但、黒は十一に先だつて白イに交換を遂げ、おくに利あり。十七に至つて、兩軍の最奮稍をさまれり。

〔八一四六〕
黒惡しからず

白八、黒九必然。白十三にて、黒の形八一一四三圖より優る。此結果、場合によれば、元來黒手抜の變化とは、黒可也。

〔八一四七〕
互角の形勢

黒直ちに五もあり。遂に兩軍力戰して二四に至る。その形勢を見るに、隅の白と右邊の白とは、等しく辛じて活、外勢また、相匹敵せり。黒十九にてイ、※

〔八一四八〕
形勢互角

黒三、五も此形、十征黒を宜しく、一惡をして勝負を決せんとす。黒は、次に白一、二場合、黒十一征二惡を、即ち、イと渡るの黒羽打に枯らしては所謂食尾渡りを打抜かせ、白に二子を取らんとするの手段なり。黒大勢十三利を占めたれど、實は隅白ハにはまだ遠く及ばず。

〔八一四九〕
黒善し

白八、イに妙手起のチャンスを逸せり。ここは逸機會の後頭を禿げたれば、再一びたび逸ら□廢ず。

〔八一五〇〕
場合による

黒五・七・九も手筋なり。白十一に至つて、黒は三子を取られ、白十二、黒十三、白稍損なり。

〔八一五一〕
白形無理なり

白二は、間の拔けし形、黒三善し、白四の急所を突き、白の潜行根據地、黒に四と七を結ばれて、白の地となり、白八、盤の一目取り。黒十一も善し、白十二、黒十三、白十四、黒十五、白十六、黒十七、白十八、黒十九、白二十、黒二十一、白二十二、黒二十三、白二十四、黒二十五、白二十六、黒二十七、白二十八、黒二十九、白三十、黒三十一、白三十二、黒三十三、白三十四、黒三十五、白三十六、黒三十七、白三十八、黒三十九、白四十、黒四十一、白四十二、黒四十三、白四十四、黒四十五、白四十六、黒四十七、白四十八、黒四十九、白五十、黒五十一、白五十二、黒五十三、白五十四、黒五十五、白五十六、黒五十七、白五十八、黒五十九、白六十、黒六十一、白六十二、黒六十三、白六十四、黒六十五、白六十六、黒六十七、白六十八、黒六十九、白七十、黒七十一、白七十二、黒七十三、白七十四、黒七十五、白七十六、黒七十七、白七十八、黒七十九、白八十、黒八十一、白八十二、黒八十三、白八十四、黒八十五、白八十六、黒八十七、白八十八、黒八十九、白九十、黒九十一、白九十二、黒九十三、白九十四、黒九十五、白九十六、黒九十七、白九十八、黒九十九、白百、黒百一、白百二、黒百三、白百四、黒百五、白百六、黒百七、白百八、黒百九、白百十、黒百十一、白百十二、黒百十三、白百十四、黒百十五、白百十六、黒百十七、白百十八、黒百十九、白百二十、黒百二十一、白百二十二、黒百二十三、白百二十四、黒百二十五、白百二十六、黒百二十七、白百二十八、黒百二十九、白百三十、黒百三十一、白百三十二、黒百三十三、白百三十四、黒百三十五、白百三十六、黒百三十七、白百三十八、黒百三十九、白百四十、黒百四十一、白百四十二、黒百四十三、白百四十四、黒百四十五、白百四十六、黒百四十七、白百四十八、黒百四十九、白百五十、黒百五十一、白百五十二、黒百五十三、白百五十四、黒百五十五、白百五十六、黒百五十七、白百五十八、黒百五十九、白百六十、黒百六十一、白百六十二、黒百六十三、白百六十四、黒百六十五、白百六十六、黒百六十七、白百六十八、黒百六十九、白百七十、黒百七十一、白百七十二、黒百七十三、白百七十四、黒百七十五、白百七十六、黒百七十七、白百七十八、黒百七十九、白百八十、黒百八十一、白百八十二、黒百八十三、白百八十四、黒百八十五、白百八十六、黒百八十七、白百八十八、黒百八十九、白百九十、黒百九十一、白百九十二、黒百九十三、白百九十四、黒百九十五、白百九十六、黒百九十七、白百九十八、黒百九十九、白二百、黒二百一、白二百二、黒二百三、白二百四、黒二百五、白二百六、黒二百七、白二百八、黒二百九、白二百十、黒二百十一、白二百十二、黒二百十三、白二百十四、黒二百十五、白二百十六、黒二百十七、白二百十八、黒二百十九、白二百二十、黒二百二十一、白二百二十二、黒二百二十三、白二百二十四、黒二百二十五、白二百二十六、黒二百二十七、白二百二十八、黒二百二十九、白二百三十、黒二百三十一、白二百三十二、黒二百三十三、白二百三十四、黒二百三十五、白二百三十六、黒二百三十七、白二百三十八、黒二百三十九、白二百四十、黒二百四十一、白二百四十二、黒二百四十三、白二百四十四、黒二百四十五、白二百四十六、黒二百四十七、白二百四十八、黒二百四十九、白二百五十、黒二百五十一、白二百五十二、黒二百五十三、白二百五十四、黒二百五十五、白二百五十六、黒二百五十七、白二百五十八、黒二百五十九、白二百六十、黒二百六十一、白二百六十二、黒二百六十三、白二百六十四、黒二百六十五、白二百六十六、黒二百六十七、白二百六十八、黒二百六十九、白二百七十、黒二百七十一、白二百七十二、黒二百七十三、白二百七十四、黒二百七十五、白二百七十六、黒二百七十七、白二百七十八、黒二百七十九、白二百八十、黒二百八十一、白二百八十二、黒二百八十三、白二百八十四、黒二百八十五、白二百八十六、黒二百八十七、白二百八十八、黒二百八十九、白二百九十、黒二百九十一、白二百九十二、黒二百九十三、白二百九十四、黒二百九十五、白二百九十六、黒二百九十七、白二百九十八、黒二百九十九、白三百、黒三百一、白三百二、黒三百三、白三百四、黒三百五、白三百六、黒三百七、白三百八、黒三百九、白三百十、黒三百十一、白三百十二、黒三百十三、白三百十四、黒三百十五、白三百十六、黒三百十七、白三百十八、黒三百十九、白三百二十、黒三百二十一、白三百二十二、黒三百二十三、白三百二十四、黒三百二十五、白三百二十六、黒三百二十七、白三百二十八、黒三百二十九、白三百三十、黒三百三十一、白三百三十二、黒三百三十三、白三百三十四、黒三百三十五、白三百三十六、黒三百三十七、白三百三十八、黒三百三十九、白三百四十、黒三百四十一、白三百四十二、黒三百四十三、白三百四十四、黒三百四十五、白三百四十六、黒三百四十七、白三百四十八、黒三百四十九、白三百五十、黒三百五十一、白三百五十二、黒三百五十三、白三百五十四、黒三百五十五、白三百五十六、黒三百五十七、白三百五十八、黒三百五十九、白三百六十、黒三百六十一、白三百六十二、黒三百六十三、白三百六十四、黒三百六十五、白三百六十六、黒三百六十七、白三百六十八、黒三百六十九、白三百七十、黒三百七十一、白三百七十二、黒三百七十三、白三百七十四、黒三百七十五、白三百七十六、黒三百七十七、白三百七十八、黒三百七十九、白三百八十、黒三百八十一、白三百八十二、黒三百八十三、白三百八十四、黒三百八十五、白三百八十六、黒三百八十七、白三百八十八、黒三百八十九、白三百九十、黒三百九十一、白三百九十二、黒三百九十三、白三百九十四、黒三百九十五、白三百九十六、黒三百九十七、白三百九十八、黒三百九十九、白四百、黒四百一、白四百二、黒四百三、白四百四、黒四百五、白四百六、黒四百七、白四百八、黒四百九、白四百十、黒四百十一、白四百十二、黒四百十三、白四百十四、黒四百十五、白四百十六、黒四百十七、白四百十八、黒四百十九、白四百二十、黒四百二十一、白四百二十二、黒四百二十三、白四百二十四、黒四百二十五、白四百二十六、黒四百二十七、白四百二十八、黒四百二十九、白四百三十、黒四百三十一、白四百三十二、黒四百三十三、白四百三十四、黒四百三十五、白四百三十六、黒四百三十七、白四百三十八、黒四百三十九、白四百四十、黒四百四十一、白四百四十二、黒四百四十三、白四百四十四、黒四百四十五、白四百四十六、黒四百四十七、白四百四十八、黒四百四十九、白四百五十、黒四百五十一、白四百五十二、黒四百五十三、白四百五十四、黒四百五十五、白四百五十六、黒四百五十七、白四百五十八、黒四百五十九、白四百六十、黒四百六十一、白四百六十二、黒四百六十三、白四百六十四、黒四百六十五、白四百六十六、黒四百六十七、白四百六十八、黒四百六十九、白四百七十、黒四百七十一、白四百七十二、黒四百七十三、白四百七十四、黒四百七十五、白四百七十六、黒四百七十七、白四百七十八、黒四百七十九、白四百八十、黒四百八十一、白四百八十二、黒四百八十三、白四百八十四、黒四百八十五、白四百八十六、黒四百八十七、白四百八十八、黒四百八十九、白四百九十、黒四百九十一、白四百九十二、黒四百九十三、白四百九十四、黒四百九十五、白四百九十六、黒四百九十七、白四百九十八、黒四百九十九、白五百、黒五百一、白五百二、黒五百三、白五百四、黒五百五、白五百六、黒五百七、白五百八、黒五百九、白五百十、黒五百十一、白五百十二、黒五百十三、白五百十四、黒五百十五、白五百十六、黒五百十七、白五百十八、黒五百十九、白五百二十、黒五百二十一、白五百二十二、黒五百二十三、白五百二十四、黒五百二十五、白五百二十六、黒五百二十七、白五百二十八、黒五百二十九、白五百三十、黒五百三十一、白五百三十二、黒五百三十三、白五百三十四、黒五百三十五、白五百三十六、黒五百三十七、白五百三十八、黒五百三十九、白五百四十、黒五百四十一、白五百四十二、黒五百四十三、白五百四十四、黒五百四十五、白五百四十六、黒五百四十七、白五百四十八、黒五百四十九、白五百五十、黒五百五十一、白五百五十二、黒五百五十三、白五百五十四、黒五百五十五、白五百五十六、黒五百五十七、白五百五十八、黒五百五十九、白五百六十、黒五百六十一、白五百六十二、黒五百六十三、白五百六十四、黒五百六十五、白五百六十六、黒五百六十七、白五百六十八、黒五百六十九、白五百七十、黒五百七十一、白五百七十二、黒五百七十三、白五百七十四、黒五百七十五、白五百七十六、黒五百七十七、白五百七十八、黒五百七十九、白五百八十、黒五百八十一、白五百八十二、黒五百八十三、白五百八十四、黒五百八十五、白五百八十六、黒五百八十七、白五百八十八、黒五百八十九、白五百九十、黒五百九十一、白五百九十二、黒五百九十三、白五百九十四、黒五百九十五、白五百九十六、黒五百九十七、白五百九十八、黒五百九十九、白六百、黒六百一、白六百二、黒六百三、白六百四、黒六百五、白六百六、黒六百七、白六百八、黒六百九、白六百十、黒六百十一、白六百十二、黒六百十三、白六百十四、黒六百十五、白六百十六、黒六百十七、白六百十八、黒六百十九、白六百二十、黒六百二十一、白六百二十二、黒六百二十三、白六百二十四、黒六百二十五、白六百二十六、黒六百二十七、白六百二十八、黒六百二十九、白六百三十、黒六百三十一、白六百三十二、黒六百三十三、白六百三十四、黒六百三十五、白六百三十六、黒六百三十七、白六百三十八、黒六百三十九、白六百四十、黒六百四十一、白六百四十二、黒六百四十三、白六百四十四、黒六百四十五、白六百四十六、黒六百四十七、白六百四十八、黒六百四十九、白六百五十、黒六百五十一、白六百五十二、黒六百五十三、白六百五十四、黒六百五十五、白六百五十六、黒六百五十七、白六百五十八、黒六百五十九、白六百六十、黒六百六十一、白六百六十二、黒六百六十三、白六百六十四、黒六百六十五、白六百六十六、黒六百六十七、白六百六十八、黒六百六十九、白六百七十、黒六百七十一、白六百七十二、黒六百七十三、白六百七十四、黒六百七十五、白六百七十六、黒六百七十七、白六百七十八、黒六百七十九、白六百八十、黒六百八十一、白六百八十二、黒六百八十三、白六百八十四、黒六百八十五、白六百八十六、黒六百八十七、白六百八十八、黒六百八十九、白六百九十、黒六百九十一、白六百九十二、黒六百九十三、白六百九十四、黒六百九十五、白六百九十六、黒六百九十七、白六百九十八、黒六百九十九、白七百、黒七百一、白七百二、黒七百三、白七百四、黒七百五、白七百六、黒七百七、白七百八、黒七百九、白七百十、黒七百十一、白七百十二、黒七百十三、白七百十四、黒七百十五、白七百十六、黒七百十七、白七百十八、黒七百十九、白七百二十、黒七百二十一、白七百二十二、黒七百二十三、白七百二十四、黒七百二十五、白七百二十六、黒七百二十七、白七百二十八、黒七百二十九、白七百三十、黒七百三十一、白七百三十二、黒七百三十三、白七百三十四、黒七百三十五、白七百三十六、黒七百三十七、白七百三十八、黒七百三十九、白七百四十、黒七百四十一、白七百四十二、黒七百四十三、白七百四十四、黒七百四十五、白七百四十六、黒七百四十七、白七百四十八、黒七百四十九、白七百五十、黒七百五十一、白七百五十二、黒七百五十三、白七百五十四、黒七百五十五、白七百五十六、黒七百五十七、白七百五十八、黒七百五十九、白七百六十、黒七百六十一、白七百六十二、黒七百六十三、白七百六十四、黒七百六十五、白七百六十六、黒七百六十七、白七百六十八、黒七百六十九、白七百七十、黒七百七十一、白七百七十二、黒七百七十三、白七百七十四、黒七百七十五、白七百七十六、黒七百七十七、白七百七十八、黒七百七十九、白七百八十、黒七百八十一、白七百八十二、黒七百八十三、白七百八十四、黒七百八十五、白七百八十六、黒七百八十七、白七百八十八、黒七百八十九、白七百九十、黒七百九十一、白七百九十二、黒七百九十三、白七百九十四、黒七百九十五、白七百九十六、黒七百九十七、白七百九十八、黒七百九十九、白八百、黒八百一、白八百二、黒八百三、白八百四、黒八百五、白八百六、黒八百七、白八百八、黒八百九、白八百十、黒八百十一、白八百十二、黒八百十三、白八百十四、黒八百十五、白八百十六、黒八百十七、白八百十八、黒八百十九、白八百二十、黒八百二十一、白八百二十二、黒八百二十三、白八百二十四、黒八百二十五、白八百二十六、黒八百二十七、白八百二十八、黒八百二十九、白八百三十、黒八百三十一、白八百三十二、黒八百三十三、白八百三十四、黒八百三十五、白八百三十六、黒八百三十七、白八百三十八、黒八百三十九、白八百四十、黒八百四十一、白八百四十二、黒八百四十三、白八百四十四、黒八百四十五、白八百四十六、黒八百四十七、白八百四十八、黒八百四十九、白八百五十、黒八百五十一、白八百五十二、黒八百五十三、白八百五十四、黒八百五十五、白八百五十六、黒八百五十七、白八百五十八、黒八百五十九、白八百六十、黒八百六十一、白八百六十二、黒八百六十三、白八百六十四、黒八百六十五、白八百六十六、黒八百六十七、白八百六十八、黒八百六十九、白八百七十、黒八百七十一、白八百七十二、黒八百七十三、白八百七十四、黒八百七十五、白八百七十六、黒八百七十七、白八百七十八、黒八百七十九、白八百八十、黒八百八十一、白八百八十二、黒八百八十三、白八百八十四、黒八百八十五、白八百八十六、黒八百八十七、白八百八十八、黒八百八十九、白八百九十、黒八百九十一、白八百九十二、黒八百九十三、白八百九十四、黒八百九十五、白八百九十六、黒八百九十七、白八百九十八、黒八百九十九、白九百、黒九百一、白九百二、黒九百三、白九百四、黒九百五、白九百六、黒九百七、白九百八、黒九百九、白九百十、黒九百十一、白九百十二、黒九百十三、白九百十四、黒九百十五、白九百十六、黒九百十七、白九百十八、黒九百十九、白九百二十、黒九百二十一、白九百二十二、黒九百二十三、白九百二十四、黒九百二十五、白九百二十六、黒九百二十七、白九百二十八、黒九百二十九、白九百三十、黒九百三十一、白九百三十二、黒九百三十三、白九百三十四、黒九百三十五、白九百三十六、黒九百三十七、白九百三十八、黒九百三十九、白九百四十、黒九百四十一、白九百四十二、黒九百四十三、白九百四十四、黒九百四十五、白九百四十六、黒九百四十七、白九百四十八、黒九百四十九、白九百五十、黒九百五十一、白九百五十二、黒九百五十三、白九百五十四、黒九百五十五、白九百五十六、黒九百五十七、白九百五十八、黒九百五十九、白九百六十、黒九百六十一、白九百六十二、黒九百六十三、白九百六十四、黒九百六十五、白九百六十六、黒九百六十七、白九百六十八、黒九百六十九、白九百七十、黒九百七十一、白九百七十二、黒九百七十三、白九百七十四、黒九百七十五、白九百七十六、黒九百七十七、白九百七十八、黒九百七十九、白九百八十、黒九百八十一、白九百八十二、黒九百八十三、白九百八十四、黒九百八十五、白九百八十六、黒九百八十七、白九百八十八、黒九百八十九、白九百九十、黒九百九十一、白九百九十二、黒九百九十三、白九百九十四、黒九百九十五、白九百九十六、黒九百九十七、白九百九十八、黒九百九十九、白千、黒千一、白千二、黒千三、白千四、黒千五、白千六、黒千七、白千八、黒千九、白千十、黒千十一、白千十二、黒千十三、白千十四、黒千十五、白千十六、黒千十七、白千十八、黒千十九、白千二十、黒千二十一、白千二十二、黒千二十三、白千二十四、黒千二十五、白千二十六、黒千二十七、白千二十八、黒千二十九、白千三十、黒千三十一、白千三十二、黒千三十三、白千三十四、黒千三十五、白千三十六、黒千三十七、白千三十八、黒千三十九、白千四十、黒千四十一、白千四十二、黒千四十三、白千四十四、黒千四十五、白千四十六、黒千四十七、白千四十八、黒千四十九、白千五十、黒千五十一、白千五十二、黒千五十三、白千五十四、黒千五十五、白千五十六、黒千五十七、白千五十八、黒千五十九、白千六十、黒千六十一、白千六十二、黒千六十三、白千六十四、黒千六十五、白千六十六、黒千六十七、白千六十八、黒千六十九、白千七十、黒千七十一、白千七十二、黒千七十三、白千七十四、黒千七十五、白千七十六、黒千七十七、白千七十八、黒千七十九、白千八十、黒千八十一、白千八十二、黒千八十三、白千八十四、黒千八十五、白千八十六、黒千八十七、白千八十八、黒千八十九、白千九十、黒千九十一、白千九十二、黒千九十三、白千九十四、黒千九十五、白千九十六、黒千九十七、白千九十八、黒千九十九、白二千、黒二千一、白二千二、黒二千三、白二千四、黒二千五、白二千六、黒二千七、白二千八、黒二千九、白二千十、黒二千十一、白二千十二、黒二千十三、白二千十四、黒二千十五、白二千十六、黒二千十七、白二千十八、黒二千十九、白二千二十、黒二千二十一、白二千二十二、黒二千二十三、白二千二十四、黒二千二十五、白二千二十六、黒二千二十七、白二千二十八、黒二千二十九、白二千三十、黒二千三十一、白二千三十二、黒二千三十三、白二千三十四、黒二千三十五、白二千三十六、黒二千三十七、白二千三十八、黒二千三十九、白二千四十、黒二千四十一、白二千四十二、黒二千四十三、白二千四十四、黒二千四十五、白二千四十六、黒二千四十七、白二千四十八、黒二千四十九、白二千五十、黒二千五十一、白二千五十二、黒二千五十三、白二千五十四、黒二千五十五、白二千五十六、黒二千五十七、白二千五十八、黒二千五十九、白二千六十、黒二千六十一、白二千六十二、黒二千六十三、白二千六十四、黒二千六十五、白二千六十六、黒二千六十七、白二千六十八、黒二千六十九、白二千七十、黒二千七十一、白二千七十二、黒二千七十三、白二千七十四、黒二千七十五、白二千七十六、黒二千七十七、白二千七十八、黒二千七十九、白二千八十、黒二千八十一、白二千八十二、黒二千八十三、白二千八十四、黒二千八十五、白二千八十六、黒二千八十七、白二千八十八、黒二千八十九、白二千九十、黒二千九十一、白二千九十二、黒二千九十三、白二千九十四、黒二千九十五、白二千九十六、黒二千九十七、白二千九十八、黒二千九十九、白三千、黒三千一、白三千二、黒三千三、白三千四、黒三千五、白三千六、黒三千七、白三千八、黒三千九、白三千十、黒三千十一、白三千十二、黒三千十三、白三千十四、黒三千十五、白三千十六、黒三千十七、白三千十八、黒三千十九、白三千二十、黒三千二十一、白三千二十二、黒三千二十三、白三千二十四、黒三千二十五、白三千二十六、黒三千二十七、白三千二十八、黒三千二十九、白三千三十、黒三千三十一、白三千三十二、黒三千三十三、白三千三十四、黒三千三十五、白三千三十六、黒三千三十七、白三千三十八、黒三千三十九、白三千四十、黒三千四十一、白三千四十二、黒三千四十三、白三千四十四、黒三千四十五、白三千四十六、黒三千四十七、白三千四十八、黒三千四十九、白三千五十、黒三千五十一、白三千五十二、黒三千五十三、白三千五十四、黒三千五十五、白三千五十六、黒三千五十七、白三千五十八、黒三千五十九、白三千六十、黒三千六十一、白三千六十二、黒三千六十三、白三千六十四、黒三千六十五、白三千六十六、黒三千六十七、白三千六十八、黒三千六十九、白三千七十、黒三千七十一、白三千七十二、黒三千七十三、白三千七十四、黒三千七十五、白三千七十六、黒三千七十七、白三千七十八、黒三千七十九、白三千八十、黒三千八十一、白三千八十二、黒三千八十三、白三千八十四、黒三千八十五、白三千八十六、黒三千八十七、白三千八十八、黒三千八十九、白三千九十、黒三千九十一、白三千九十二、黒三千九十三、白三千九十四、黒三千九十五、白三千九十六、黒三千九十七、白三千九十八、黒三千九十九、白四千、黒四千一、白四千二、黒四千三、白四千四、黒四千五、白四千六、黒四千七、白四千八、黒四千九、白四千十、黒四千十一、白四千十二、黒四千十三、白四千十四、黒四千十五、白四千十六、黒四千十七、白四千十八、黒四千十九、白四千二十、黒四千二十一、白四千二十二、黒四千二十三、白四千二十四、黒四千二十五、白四千二十六、黒四千二十七、白四千二十八、黒四千二十九、白四千三十、黒四千三十一、白四千三十二、黒四千三十三、白四千三十四、黒四千三十五、白四千三十六、黒四千三十七、白四千三十八、黒四千三十九、白四千四十、黒四千四十一、白四千四十二、黒四千四十三、白四千四十四、黒四千四十五、白四千四十六、黒四千四十七、白四千四十八、黒四千四十九、白四千五十、黒四千五十一、白四千五十二、黒四千五十三、白四千五十四、黒四千五十五、白四千五十六、黒四千五十七、白四千五十八、黒四千五十九、白四千六十、黒四千六十一、白四千六十二、黒四千六十三、白四千六十四、黒四千六十五、白四千六十六、黒四千六十七、白四千六十八、黒四千六十九、白四千七十、黒四千七十一、白四千七十二、黒四千七十三、白四千七十四、黒四千七十五、白四千七十六、黒四千七十七、白四千七十八、黒四千七十九、白四千八十、黒四千八十一、白四千八十二、黒四千八十三、白四千八十四、黒四千八十五、白四千八十六、黒四千八十七、白四千八十八、黒四千八十九、白四千九十、黒四千九十一、白四千九十二、黒四千九十三、白四千九十四、黒四千九十五、白四千九十六、黒四千九十七、白四千九十八、黒四千九十九、白五千、黒五千一、白五千二、黒五千三、白五千四、黒五千五、白五千六、黒五千七、白五千八、黒五千九、白五千十、黒五千十一、白五千十二、黒五千十三、白五千十四、黒五千十五、白五千十六、黒五千十七、白五千十八、黒五千十九、白五千二十、黒五千二十一、白五千二十二、黒五千二十三、白五千二十四、黒五千二十五、白五千二十六、黒五千二十七、白五千二十八、黒五千二十九、白五千三十、黒五千三十一、白五千三十二、黒五千三十三、白五千三十四、黒五千三十五、白五千三十六、黒五千三十七、白五千三十八、黒五千三十九、白五千四十、黒五千四十一、白五千四十二、黒五千四十三、白五千四十四、黒五千四十五、白五千四十六、黒五千四十七、白五千四十八、黒五千四十九、白五千五十、黒五千五十一、白五千五十二、黒五千五十三、白五千五十四、黒五千五十五、白五千五十六、黒五千五十七、白五千五十八、黒五千五十九、白五千六十、黒五千六十一、白五千六十二、黒五千六十三、白五千六十四、黒五千六十五、白五千六十六、黒五千六十七、白五千六十八、黒五千六十九、白五千七十、黒五千七十一、白五千七十二、黒五千七十三、白五千七十四、黒五千七十五、白五千七十六、黒五千七十七、白五千七十八、黒五千七十九、白五千八十、黒五千八十一、白五千八十二、黒五千八十三、白五千八十四、黒五千八十五、白五千八十六、黒五千八十七、白五千八十八、黒五千八十九、白五千九十、黒五千九十一、白五千九十二、黒五千九十三、白五千九十四、黒五千九十五、白五千九十六、黒五千九十七、白五千九十八、黒五千九十九、白六千、黒六千一、白六千二、黒六千三、白六千四、黒六千五、白六千六、黒六千七、白六千八、黒六千九、白六千十、黒六千十一、白六千十二、黒六千十三、白六千十四、黒六千十五、白六千十六、黒六千十七、白六千十八、黒六千十九、白六千二十、黒六千二十一、白六千二十二、黒六千二十三、白六千二十四、黒六千二十五、白六千二十六、黒六千二十七、白六千二十八、黒六千二十九、白六千三十、黒六千三十一、白六千三十二、黒六千三十三、白六千三十四、黒六千三十五、白六千三十六、黒六千三十七、白六千三十八、黒六千三十九、白六千四十、黒六千四十一、白六千四十二、黒六千四十三、白六千四十四、黒六千四十五、白六千四十六、黒六千四十七、白六千四十八、黒六千四十九、白六千五十、黒六千五十一、白六千五十二、黒六千五十三、白六千五十四、黒六千五十五、白六千五十六、黒六千五十七、白六千五十八、黒六千五十九、白六千六十、黒六千六十一、白六千六十二、黒六千六十三、白六千六十四、黒六千六十五、白六千六十六、黒六千六十七、白六千六十八、黒六千六十九、白六千七十、黒六千七十一、白六千七十二、黒六千七十三、白六千七十四、黒六千七十五、白六千七十六、黒六千七十七、白六千七十八、黒六千七十九、白六千八十、黒六千八十一、白六千八十二、黒六千八十三、白六千八十四、黒六千八十五、白六千八十六、黒六千八十七、白六千八十八、黒六千八十九、白六千九十、黒六千九十一、白六千九十二、黒六千九十三、白六千九十四、黒六千九十五、白六千九十六、黒六千九十七、白六千九十八、黒六千九十九、白七千、黒七千一、白七千二、黒七千三、白七千四、黒七千五、白七千六、黒七千七、白七千八、黒七千九、白七千十、黒七千十一、白七千十二、黒七千十三、白七千十四、黒七千十五、白七千十六、黒七千十七、白七千十八、黒七千十九、白七千二十、黒七千二十一、白七千二十二、黒七千二十三、白七千二十四、黒七千二十五、白七千二十六、黒七千二十七、白七千二十八、黒七千二十九、白七千三十、黒七千三十一、白七千三十二、黒七千三十三、白七千三十四、黒七千三十五、白七千三十六、黒七千三十七、白七千三十八、黒七千三十九、白七千四十、黒七千四十一、白七千四十二、黒七千四十三、白七千四十四、黒七千四十五、白七千四十六、黒七千四十七、白七千四十八、黒七千四十九、白七千五十、黒七千五十一、白七千五十二、黒七千五十三、白七千五十四、黒七千五十五、白七千五十六、黒七千五十七、白七千五十八、黒七千五十九、白七千六十、黒七千六十一、白七千六十二、黒七千六十三、白七千六十四、黒七千六十五、白七千六十六、黒七千六十七、白七千六十八、黒七千六十九、白七千七十、黒七千七十一、白七千七十二、黒七千七十三、白七千七十四、黒七千七十五、白七千七十六、黒七千七十七、白七千七十八、黒七千七十九、白七千八十、黒七千八十一、白七千八十二、黒七千八十三、白七千八十四、黒七千八十五、白七千八十六、黒七千八十七、白七千八十八、黒七千八十九、白七千九十、黒七千九十一、白七千九十二、黒七千九十三、白七千九十四、黒七千九十五、白七千九十六、黒七千九十七、白七千九十八、黒七千九十九、白八千、黒八千一、白八千二、黒八千三、白八千四、黒八千五、白八千六、黒八千七、白八千八、黒八千九、白八千十、黒八千十一、白八千十二、黒八千十三、白八千十四、黒八千十五、白八千十六、黒八千十七、白八千十八、黒八千十九、白八千二十、黒八千二十一、白八千二十二、黒八千二十三、白八千二十四、黒八千二十五、白八千二十六、黒八千二十七、白八千二十八、黒八千二十九、白八千三十、黒八千三十一、白八千三十二、黒八千三十三、白八千三十四、黒八千三十五、白八千三十六、黒八千三十七、白八千三十八、黒八千三十九、白八千四十、黒八千四十一、白八千四十二、黒八千四十三、白八千四十四、黒八千四十五、白八千四十六、黒八千四十七、白八千四十八、黒八千四十九、白八千五十、黒八千五十一、白八千五十二、黒八千五十三、白八千五十四、黒八千五十五、白八千五十六、黒八千五十七、白八千五十八、黒八千五十九、白八千六十、黒八千六十一、白八千六十二、黒八千六十三、白八千六十四、黒八千六十五、白八千六十六、黒八千六十七、白八千六十八、黒八千六十九、白八千七十、黒八千七十一、白八千七十二、黒八千七十三、白八千七十四、黒八千七十五、白八千七十六、黒八千七十七、白八千七十八、黒八千七十九、白八千八十、黒八千八十一、白八千八十二、黒八千八十三、白八千八十四、黒八千八十五、白八千八十六、黒八千八十七、白八千八十八、黒八千八十九、白八千九十、黒八千九十一、白八千九十二、黒八千九十三、白八千九十四、黒八千九十五、白八千九十六、黒八千九十七、白八千九十八、黒八千九十九、白九千、黒九千一、白九千二、黒九千三、白九千四、黒九千五、白九千六、黒九千七、白九千八、黒九千九、白九千十、黒九千十一、白九千十二、黒九千十三、白九千十四、黒九千十五、白九千十六、黒九千十七、白九千十八、黒九千十九、白九千二十、黒九千二十一、白九千二十二、黒九千二十三、白九千二十四、黒九千二十五、白九千二十六、黒九千二十七、白九千二十八、黒九千二十九、白九千三十、黒九千三十一、白九千三十二、黒九千三十三、白九千三十四、黒九千三十五、白九千三十六、黒九千三十七、白九千三十八、黒九千三十九、白九千四十、黒九千四十一、白九千四十二、黒九千四十三、白九千四十四、黒九千四十五、白九千四十六、黒九千四十七、白九千四十八、黒九千四十九、白九千五十、黒九千五十一、白九千五十二、黒九千五十三、白九千五十四、黒九千五十五、白九千五十六、黒九千五十七、白九千五十八、黒九千五十九、白九千六十、黒九千六十一、白九千六十二、黒九千六十三、白九千六十四、黒九千六十五、白九千六十六、黒九千六十七、白九千六十八、黒九千六十九、白九千七十、黒九千七十一、白九千七十二、黒九千七十三、白九千七十四、黒九千七十五、白九千七十六、黒九千七十七、白九千七十八、黒九千七十九、白九千八十、黒九千八十一、白九千八十二、黒九千八十三、白九千八十四、黒九千八十五、白九千八十六、黒九千八十七、白九千八十八、黒九千八十九、白九千九十、黒九千九十一、白九千九十二、黒九千九十三、白九千九十四、黒九千九十五、白九千九十六、黒九千九十七、白九千九十八、黒九千九十九、白一万、黒一万一、白一万二、黒一万三、白一万四、黒一万五、白一万六、黒一万七、白一万八、黒一万九、白一万十、黒一万十一、白一万十二、黒一万十三、白一万十四、黒一万十五、白一万十六、黒一万十七、白一万十八、黒一万十九、白一万二十、黒一万二十一、白一万二十二、黒一万二十三、白一万二十四、黒一万二十五、白一万二十六、黒一万二十七、白一万二十八、黒一万二十九、白一万三十、黒一万三十一、白一万三十二、黒一万三十三、白一万三十四、黒一万三十五、白一万三十六、黒一万三十七、白一万三十八、黒一万三十九、白一万四十、黒一万四十一、白一万四十二、黒一万四十三、白一万四十四、黒一万四十五、白一万四十六、黒一万四十七、白一万四十八、黒一万四十九、白一万五十、黒一万五十一、白一万五十二、黒一万五十三、白一万五十四、黒一万五十五、白一万五十六、黒一万五十七、白一万五十八、黒一万五十九、白一万六十、黒一万六十一、白一万六十二、黒一万六十三、白一万六十四、黒一万六十五、白一万六十六、黒一万六十七、白一万六十八、黒一万六十九、白一万七十、黒一万七十一、白一万七十二、黒一万七十三、白一万七十四、黒一万七十五、白一万七十六、黒一万七十七、白一万七十八、黒一万七十九、白一万八十、黒一万八十一、白一万八十二、黒一万八十三、白一万八十四、黒一万八十五、白一万八十六、黒一万八十七、白一万八十八、黒一万八十九、白一万九十、黒一万九十一、白一万九十二、黒一万九十三、白一万九十四、黒一万九十五、白一万九十六、黒一万九十七、白一万九十八、黒一万九十九、白二万、黒二万一、白二万二、黒二万三、白二万四、黒二万五、白二万六、黒二万七、白二万八、黒二万九、白二万十、黒二万十一、白二万十二、黒二万十三、白二万十四、黒二万十五、白二万十六、黒二万十七、白二万十八、黒二万十九、白二万二十、黒二万二十一、白二万二十二、黒二万二十三、白二万二十四、黒二万二十五、白二万二十六、黒二万二十七、白二万二十八、黒二万二十九、白二万三十、黒二万三十一、白二万三十二、黒二万三十三、白二万三十四、黒二万三十五、白二万三十六、黒二万三十七、白二万三十八、黒二万三十九、白二万四十、黒二万四十一、白二万四十二、黒二万四十三、白二万四十四、黒二万四十五、白二万四十六、黒二万四十七、白二万四十八、黒二万四十九、白二万五十、黒二万五十一、白二万五十二、黒二万五十三、白二万五十四、黒二万五十五、白二万五十六、黒二万五十七、白二万五十八、黒二万五十九、白二万六十、黒二万六十一、白二万六十二、黒二万六十三、白二万六十四、黒二万六十五、白二万六十六、黒二万六十七、白二万六十八、黒二万六十九、白二万七十、黒二万七十一、白二万七十二、黒二万七十三、白二万七十四、黒二万七十五、白二万七十六、黒二万七十七、白二万七十八、黒二万七十九、白二万八十、黒二万八十一、白二万八十二、黒二万八十三、白二万八十四、黒二万八十五、白二万八十六、黒二万八十七、白二万八十八、黒二万八十九、白二万九十、黒二万九十一、白二万九十二、黒二万九十三、白二万九十四、黒二万九十五、白二万九十六、黒二万九十七、白二万九十八、黒二万九十九、白三万、黒三万一、白三万二、黒三万三、白三万四、黒三万五、白三万六、黒三万七、白三万八、黒三万九、白三万十、黒三万十一、白三万十二、黒三万十三、白三万十四、黒三万十五、白三万十六、黒三万十七、白三万十八、黒三万十九、白三万二十、黒三万二十一、白三万二十二、黒三万二十三、白三万二十四、黒三万二十五、白三万二十六、黒三万二十七、白三万二十八、黒三万二十九、白三万三十、黒三万三十一、白三万三十二、黒三万三十三、白三万三十四、黒三万三十五、白三万三十六、黒三万三十七、白三万三十八、黒三万三十九、白三万四十、黒三万四十一、白三万四十二、黒三万四十三、白三万四十四、黒三万四十五、白三万四十六、黒三万四十七、白三万四十八、黒三万四十九、白三万五十、黒三万五十一、白三万五十二、黒三万五十三、白三万五十四、黒三万五十五、白三万五十六、黒三万五十七、白三万五十八、黒三万五十九、白三万六十、黒三万六十一、白三万六十二、黒三万六十三、白三万六十四、黒三万六十五、白三万六十六、黒三万

〔八一六二〕征關係の形

征關宜しくば黒七・九の強攻、善し。——即ち黒十七をイとなつて、白が回天の雄圖も消えて跡無き陽炎の如き黒征悪しき時は（黒を□に悪しき時は）次圖。

〔八一六三〕黒悪しからず

黒七・九に征悪しき時は、然も白十六・十八、決したり。遂に意を蓋さんとれど黒十九と打抜くに至れば、白手筋なり。一子を捨てて黒の形悪しからず。

〔八一六四〕黒稍可なり

白十二、次に十四・十六なれば黒十五・十七・此形に宜しく、此時黒九は守つて宜しきも□以下回つて□を以て下辺の軍及び望み共に活き黒稍優れり。

〔八一六五〕白厚し

兵聖曰く、名將は敵の謀を伐つと。然るに黒五の切り敵の謀に陥るも白の外形厚し、白遂に十、白のなり。

〔八一六六〕黒堅過ぎる形

黒一は、白に外を守れば可なるも場合の、一策なり。白二、大本手。黒三は手抜なし、所で、黒三を手抜して、白イ黒ロとさせるは、黒の利かざるなり。

〔八一六七〕黒堅し

白二なれば、黒は三以下七まで、白ロ黒イなれば、黒ロ白好形。黒八を若し九に邀撃すれば、黒好策なし、白ホなり。

〔八一六八〕黒悪し

黒三に五の手段は、白イを凝形ならしめんとする場合なれど、多くは白を厚くするに打抜肝し。

〔八一六九〕白少し面白し

黒直ちに一・三と撃つて出づ。白四・六と切り、黒七と蓋し、黒三以下は變化難解なり。

白三十に至つては、白の形勢稍優るも、尤も黒二三にて白イにて悪し。二四は、劫（八一四七圖と比し、白二、黒三の交換ある丈け白善し）

〔八一七〇〕黒稍優れり

白八・十なれば、黒は三の好一に乗ずる十三・七に至つて、黒の十九の形厚し。白十四・十六なれば、黒は十一と粘つて先だつて九に一撃を加へ、白は用意周到にして十二・十四・十六と打つて二子を棄つるも一策なり。

〔八一七一〕要點約言（第七六型ニ）

白四の時、三手抜イ、黒ロの三通りの中、其ロ及びハの手段あるイは堅実にして、最も堅く、隅の守り、堅ロは、はさびし。※

〔八一七二〕基本圖（第七六型ホ）

白四の夾返しは三手抜イより層緩慢にして、此手は一一を廣く包囲せんとする場合に多くは白好手なれど、事あれば打つ。

〔八一七三〕常形

黒五、裏だ氣鋭、最善の形なり。白六・八の時、黒九は宜しく、此戰實は黒十五もて劫争ひなるも、黒十六あり、黒は二に一に治まる。白左辺薄し。兩分して、形勢に於て黒稍優れり。

〔八一七四〕黒堅實なり

白六なれば、黒七、八、十、白九で善し。八、暫く味消しの手は此味を含んで打つ。黒九・十は白一を可とす。見よ、黒隅の乏しきに乗ずべき隙無きが如く、白は厳の如し。

〔八一七五〕黒の形好し

白二、次に四に飛べば、黒五・七と打つて宜し。九まで黒は好形を呈して出づ！

〔八一七六〕場合の手段

白二は、敵の意表に出づ。白一面に蓋はんとせば、白二に一敵の蓋はるるに出づるの機あり。黒九は、イが善なり。（黒九を□に次圖）。

〔八一七七〕黒厚く打易し

黒十一と粘つて先だつて九に一撃を加へ、白は用意周到にして十二・十四・十六と打つて二子を棄つるも一策なり。

〔八一七八〕要點約言（第七六型ホ）

白四なれば三手抜イ、黒五と出る手宜し。白六にてイは黒ロ。又イをハとせば、黒ニ。或はハをホとせば、黒ヘ。いづれも黒充分の分れとなり。

〔八一七九〕二間高懸り總評（一）

白二の二間高懸りに対しては、敵の意表に出づ。白一面に蓋はんとせば、白二に一敵の蓋はるるに出づるの機あり。黒九は、イが善なり。（黒九を□に次圖）。

〔八一八〇〕二間高懸り總評（二）

白二の二間高懸りに対しては、黒イ以下、ルまでの應ありて、此中イの形白ロの附を防ぎ穏健にして正着なり。

〔八一八一〕二間高懸り總評（三）

黒イは強硬、黒先利して、此處着を好形を得んとするに次に手段あり。黒ロも夾撃し、此手段正形、黒は白を夾撃し、且つ白よりのハを防ぐ。此イロと前※

〔八一八二〕二間高懸り總評（四）

黒イは先手で隅を堅めて他の要點を先着する手段なれど、稍低く、ロは過ぎ、ハは何れも好形ならず。此三つの手段なり。

〔八一八三〕二間高懸り總評（五）

其他の變則の廻なり。此中ハホは打つ急事あれど、イロは白よりも所を外れ、白ヘに附殘りて好ならず。

〔八一八四〕二間高懸り總評（一）

二間高懸りに対しては、白イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、トの七手あり。

〔八一八五〕二間高懸り總評（二）

白イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、トの七手あり。

〔八一八六〕二間高懸り總評（三）

白イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、トの七手あり。

〔八一八七〕二間高懸り總評（四）

白イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、トの七手あり。

〔八一八八〕二間高懸り總評（五）

白イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、トの七手あり。

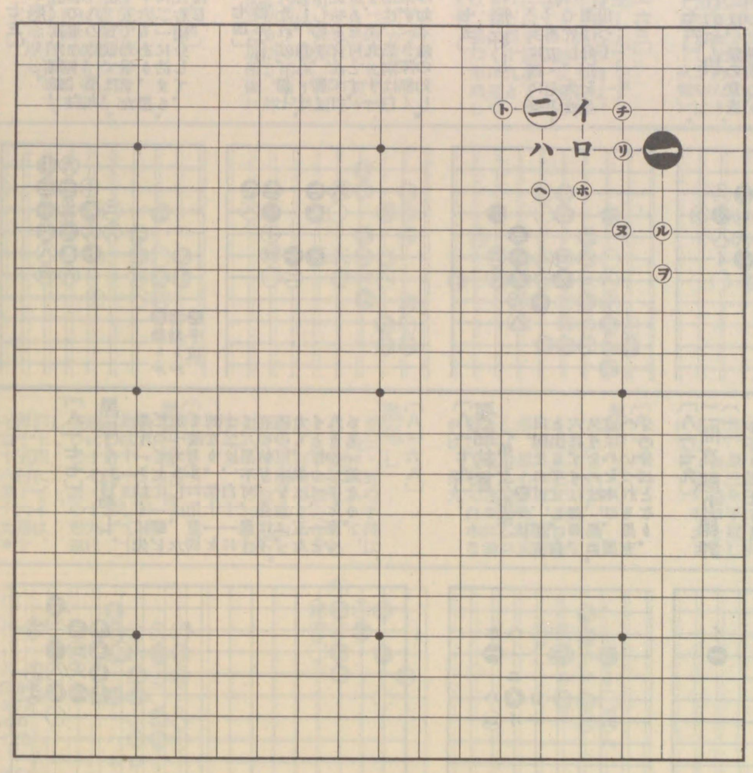
〔八一八九〕二間高懸り總評（一）

白イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、トの七手あり。

〔八一八四〕

基本原圖 大斜走懸り

其他變則の打ち方



黒一の小目に對し、白イ、ロ、ハの三種は懸りの定型にして、各其意味は異れど、何れも、正着なり。倘白は其他の手段として㈡及び、㈱㈹㈦㈬㈫㈭㈲等あり。此中、㈡は實戰に屢見る手にして、一種の懸りと云ひ得るも、其他は皆變則にして特殊の形勢の外は何れも白惡し。

〔八一八五〕

基本圖

（第七七型）

白二の大斜走懸りに對する黒の手段には、㈠、㈡、㈢等あり。何れも㈠に對する正當なる應けにして、※

白二の大斜走懸りの場合の懸なり。但し斯く懸る手、形勢によりては、イ、ロ又はハよりも優る場合もあり。

〔八一八六〕

基本圖

（第七七型イ）

〔八一八七〕

定石

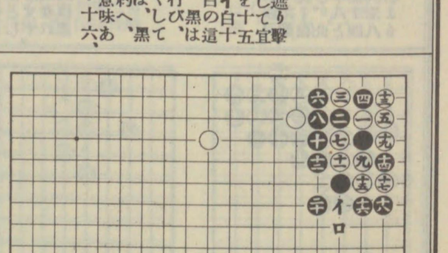
黒三、白四、共に穩やかに今正布陣を終へたり。

〔八一八八〕

打込の常形

（前圖の變化）

此形、黒より打込むには前圖一の點なると同樣なれど、其變化多少異れり。さて、兩軍互に彼我の構陣を見よ、兩軍互に彼れを討たんとするの機を窺ひ、曉平然として髪をも容れざる先攻後攻の果黒よりの一へ討入れば、白は五より切るも手あり四七黒六白七を確保し、又黒八或は黒五を六に※

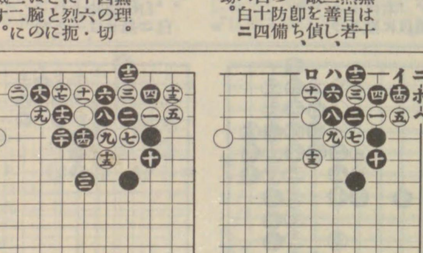


※打つ手は白五黒ロ白ニる黒ホ、此形黒隅を取るも、黒其だ惡し。

〔八一八九〕

一堅實

三年飛ばざるは、天衝かんとすれば將に飛ばんとするなり。黒いま一と隱忍、隅を確保して打込みに狙を定むる手、機に乗じ黒一と尖みて、白よりイなどに隅を使はれ、黒其だ可なり。手段は、次圖以下參照。



〔八一九〇〕

場合による

白一に侵し來る。黒㊀に依つて兵を收めるも、相應の擊ちかたあり。

〔八一九一〕

黒勝

白十一の切り、無理なり。黒十二と出づれば、白二に顧みず、六をなしたれば、黒十一と出でたる手段にて、白二に綿密に至つては、此時攻合ひ黒勝を收めたり。

〔八一九二〕

黒外勢良し

蒔いた種子は自ら刈らざるを得ず。白十一の黒、白に及ぶ。白十五をなして、黒十六に出づれば、白イなれど、黒十七と出でて、黒勝。

〔八一九三〕

常形

白八、黒九に粘り、黒は堅實を固うして敵の動靜を偵ふ段なり。白十、黒九に尋ね、白十二と段を變へて、黒九にて參照。

〔八一九四〕

黒厚し

黒四、手強く白十を誘ひ出し、白五に擊つて宜しく、黒六に遮りて、白手十五をなしたれば、黒六と從ふ外なく、白七に行きて、黒八と這入りたるは、白九の利き、黒十の手筋なり。

〔八一九五〕

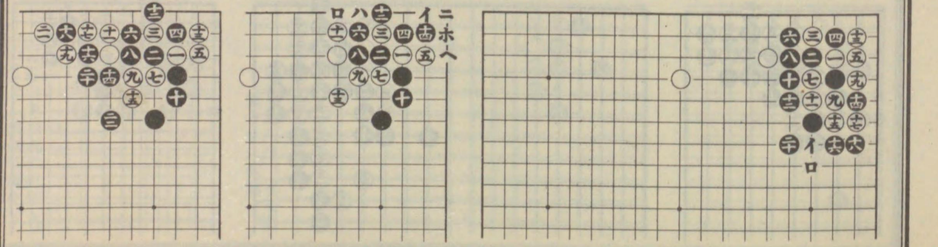
黒有利の形

白いま九に引いて、黒は十に秦然自若たり。白十一と甲を伏せて、黒十二と善く敵を偵し、白十三と備へたるは、黒十四と防ぎ、白十五と出でたる手段にて、黒十六と手を抜き、白イと段を變へたるは、黒ロを取るも、白ニる黒ホ、此形黒イ白ヘの黒劫。

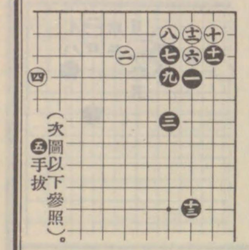
〔八一九六〕

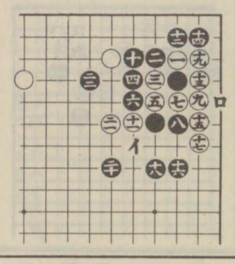
白ツブレ

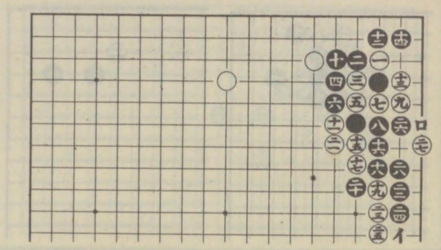
白十三甚だ無理。黒十四と出でて、白十五の切り、黒十六と拒ぎ、白十七と烈しく迫るも、黒は二に腕を縮めて、遂に二に滅す。白潰えて至つて二に

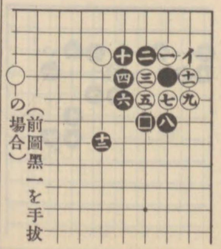


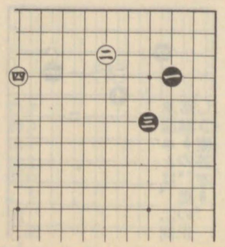
（次圖以下參照）。

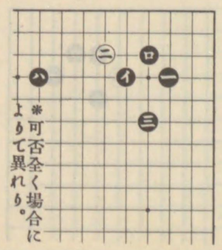


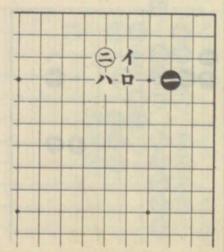












〔八一九七〕
黒利勢
かくてぞ、白十九まで繰げらるゝ、闘争の輪物語。而して黒二十二勝二四の時、黒二七に善し。白二八、白二九を三八以下、黒ホまで。白イ、黒イ、白ロ、十は黒ホまで。

〔八一九八〕
白の活拙し
白三、悪し。以下、白遂に九に活く。されば、かゝる局面の活形は、余程進行せざれば、必ず後に非ざる白悪し。

〔八一九九〕
場合による
白一の落ち行く先は、九州相良かと思はれる松前の地。多くは此時点。白低の陋手抜が善し。若し黒打つとせば、白イ、或は黒ロ。黒ハ、黒ニを白ホ、黒ヘ。

〔八二〇〇〕
白好まず
敵を知り己を知れば、百戦殆からずと。白勢止むを得ざるに至れば、四囲の情勢・三つとつても無し。一守りすることも多くなりて白好まず。

〔八二〇一〕
場合の手
白一の走も前々圖と略々同意なり。此形より黒宜しく打手なれば、或は黒イ、白ロを黒ニ、白ホ、黒ヘ。白ト、黒チ、白リ、黒又。

〔八二〇二〕
要點約言（第七七型イ）
白四までは定型。次に白よりハはイの走をたゞ見。ロ、ヘをたゞ黒走よりニの打込みは堅実なり。ホは堅みあり。

〔八二〇三〕
基本圖（第七七型ロ）
黒三と飛ぶ手は、手筋にして、此形の要點なり。

〔八二〇四〕
定石
腰の刀は伊達にはさゝぬもの、白はいさゝか黒の挑みに應じて三起乃至五飛散る。黒ちゃんと白十八を見て、黒走。

〔八二〇五〕
常形
黒十一なれば、白十二、四と、白一ど、前圖の如く黒十三、白イの粘り成立時、白ロ、黒ハ、白ニ黒せば、白ホ、黒ヘ、白ト、黒チ、イ打手なり。

〔八二〇六〕
變化至難なり
右に剣左にコーラ、黒はいまホメツト！と十二、右に敵を遮断して、左に現敵を難化して、下は結果悪敵に至難にあらざるも、黒しきに白十二を好手なり。

〔八二〇七〕
形勢互角
黒心は矢竹の如く氣張弓、白は氣烈しく負けじ魂。！！白九、黒八、白二段の追撃、順手乃至十八と黒十八、四と白十二、三と粘同

〔八二〇八〕
形勢互角
妙機、東隅に浮動す！此時、白十一、黒十二、十三、妙なり。白は二一に行びて戦つて宜し。

〔八二〇九〕
黒可なり
白五、利きわるし。瞬ために白を去るを反之、黒は好機を得て、忽ち盛り上る高手段！黒六、八に曲れば、白九、白十、白ロに黒九、白の要點は白の形崩る。

〔八二一〇〕
定石
白六なれば、黒七。白七なれば、黒九に至つて、黒は充分に戦へる形なり。

〔八二一一〕
黒の勢善し
黒に前圖の如く約へらるゝも嫌イにつけ白へらるゝを非ず。白三は無き筋にて、黒は四の要點を奪ひ、黒六は白の陣容稍損せり。

〔八二一二〕
黒稍優る
白一、普通は低し。黒六は氣あり、その六の着も前圖と同じ。此圖に、黒遂に八の地に東拡くも、白の地を痩せたり。

〔八二一三〕
定石
黒五の手もあり。此時は白にはイ、ロもあり。白は正着にて、黒は高間六の形、二間高七と同じ。

〔八二一四〕
場合の形
勝嶋村利博
常時二段
先番
苅谷敏雄
常時初段
夫れ水は地を制し、流れは勢を無くし、能く兵を制し、因つて勝つ。故に兵は水に因り、形は勢に因つて変化す。

〔八二一五〕
隅に手あり
黒が此の北の生命線」に縋陥残る。白は果然！黒九と十と行び、白九、黒イ、白ロ、黒ハ。白ニにて活あり。黒五を六なれば又初めに戻る。

〔八二一七〕
白優勢

先 林有太郎六段
後 向井一男四段

二目勝

黒五の時白直ちにイに約へ、六！白六はロに比せば、譬へば花薫り月霞むる背の景に似て、情趣不盡なり。黒十五を十八に、白ロ黒十七、白八黒十五、白ハ黒十六、白ホの征。黒ニ圖の如く白十八までとなるも、白優勢なり。

〔八二一八〕
場合による

先 勝 瀬越憲作七段
後 林有太郎六段

黒七、善し。白黒を十一なれば、白イに打つて宜し。

〔八二一九〕
互角の形勢

先 勝 林有太郎六段
後 村島誼紀五段

白一の時、黒直ちに二と拓く。蓋し、白三、黒も好所なれど、黒もまた四・六＊に行びて右邊に根據を固めたり。

〔八二二〇〕
白手段面白し

先 勝 長谷川章四段
後 林有太郎六段

非常時には非常時の好手を待望す。白二はまさしく非常的の機略の好着。白十までとなりて白にはイの手殘り＊。

〔八二二一〕
白まづし

先 勝 著者七段
後 瀬越憲作七段

黒ロあり。白好まず。白至つて弦に□し、黒三、一の姿を見の如何にも白畅達を缺けり。棋歩に白三はまさに五に應ずべし。後、白四より出づるの絶望を春悲曉命！逢に二七。棋此移、黒果、黒の外勢。其ま結厚くなれり。

〔八二二二〕
要點約言

（第七七型ロ）

白二に對しては、黒は三が最善の形なれば、次に白イに黒ニに曲へ白ハ、黒ホと約へて黒の戰ひ得る形。

〔八二二三〕
基本圖

（第七七型ハ）

黒は隅を確かにし守らんとするにはくく三に尖むべくにしてもく惡しく非ざれど、其着意黒は三縦し、蓋し場合の應けなり。

〔八二二四〕
定石

黒三なれば、白四で定型。イ或はロは防備充分、即ち黒よりなら、ずのハの打込み嚴し。

〔八二二五〕
常形

白は四此形に四もの要點あり。ほかくの黎明の空はのぼくの前に白！黒七と應け場合、此位展け行くく、五・七の位なり。白の形のもの輕し。

〔八二二六〕
白稍可なり

黒二は白を隔て伐意あれど、つづし。善し。白十三・五形なり。後、猶此形、白より、イにては眼形未だ確かならず。

〔八二二七〕
白好し

黒四は其形何となく好まず。果然、白五の好手！白は、いま、奉朗を明手！白は、のせて來る一着の好調。黒すもあまりに狭く、といつて之を怠＊。

〔八二二八〕
□逸出す

黒防備を忘れば、白一に□を引出す。以下、白は鎖を斷ち切りブルメシュウスの如き奔放と自由の表現！黒二を自に打てば、白三黒四白ロ。

〔八二二九〕
白打過ぎの形

白一は、餘りに黒の堅陣に近寄り過ぎの感あり。黒は急激に近づいたる水を突如と果然急速調の追撃以下段！

〔八二三〇〕
黒、面白し

白三、戈を執つて起てば、黒四善して〜三はイにても黒ロ、同じ圖十全く善し。白次に黒ニと受けば、黒ホへ十なれば、又白ホをトなれば、黒ホ。

〔八二三一〕
黒優れり

先 向井一男四段時當
後 勝 清源四段

白一・三打過ぎ。ベ一は二の筋を狙ふも、黒二・四善し。次に白九と切りし、時、黒十・十二と引きし、白は、凝形にし陷るの一手をとしし、ベ一段善し形黒優れり。

〔八二三二〕
要點約言

（第七七型ハ）

黒三は只堅實一方の手にして、斯く打てば別に紛れも無し。次に白イなれば、黒ロの手段は多く無し。其他は白が宜しく變化も無し。

〔八二三三〕
基本圖

（第七七型ニ）

白二の時黒にイロ及ハの夾みあり。其意味は前卷、夾みと同じ。變化は多少異る處あり。

〔八二三四〕
基本圖

（第七七型ニの一）

黒三の三間夾白二に對して穩なる、此手も一應健なり。只、此一間高夾は、前ページ及び同じ二間高夾と同形なり。白ハでは白イより黒ロに引附けて白ハとでは黒ニに打たれ、白イと故に、黒は白イの準備なり。猶此形、白イとは綽々として黒ハをとるも同じ。

〔八二三五〕
基本圖

（第七七型ニの一變化）

黒三の夾み、或は手抜の時は、白イ。四附けるべし。元來は白二或はイの附＊は四の附なり。

〔八二三六〕
定石

白四、黒五、共に兩軍の接近所なり。此形に於ける幾合の狙ひなり。白二は他に打つも好なれど、白ホは要點なり。何れも白ホ、黒ニ、白ハ、黒ヘ、白ト、黒十三以下參照（八二九二圖）。手段あり。

＊ある故に、此懸り成立するなり。

〔八二三七〕共に正形

黒十三とヒ、白十四とタ、黒十五と押すを得ず。白十六は止むをえず。黒十七以下十九之四まで放れば延び行きし所なり。

〔八二三八〕白に手段無し

白十四、官人蛇にも怖ぢざる暴着なり。黒十五に切つとすれば、白閉絶せんとす。白イなれば黒十九の次に白イを黒ニなれば白ハロへ。

〔八二四〇〕形勢互角

黒㊀にありて二三時は、白に在ざる十四の夾攻善し。黒十五の佳着なり。白イは黒十九の筋を先手にて防ぎ白二四のしのぎなり。白ホに黒ニは白ヘと黒チ雑象棋大ルリ。

〔八二四一〕常形

白十四、黒十五で白十六、黒十七も白イ。

〔八二四二〕黒可なり

白十止むを得ず、黒八は駄目詰まりにて白二六へ至つて形を見るに白十一に黒十七は白ハ生ずの筋なり。後白イの黒層下善し。

〔八二四三〕黒威力無し

白十四にて白イは黒十五も白ロと打ちにくし。石の死活の恐れあり、且つ黒㊀の応手も容易ならず。

〔八二四四〕要点約言（第七七型ニの一変化）

白四と附けられ白四と附けられ白に時は、黒は必ずイに綿出して戦ふ。黒イに綿べし。白イとロに引くを得ざる場合の外。

〔八二四五〕基本図（第七七型ニの一変化）

白四と附けられ白四理なるが如くなれど、実は手筋にして面白し。次に黒イに白ロあれど、又其は何れにも白に。

〔八二四六〕常形

白四。此時、黒は堅持して動きを取らんとするも最も緩なり。

〔八二四七〕白好まず

先番増淵辰子三段 蒲原繁治三段

白九綴勝。黒に十と、見よ、飛ばせて好形を得たり。白九は前図の如く十に、而して黒のイに。

〔八二四八〕白可なり

白征宜しくば、四と激刺たる二連打の手段あり。白征五と黒イ。白六、白虚を突む。黒ロ佳手なれば、白はハの切。

〔八二四九〕互角の分れ

白前図征悪しき場合は、先づ四と黒五の時白は而も六に約へるの手前あれど、こは白十に掛けるの外なし。

〔八二五〇〕白可なり

黒五は、毛を吹いて傷を求むるの愚、然も果して白は六に粘いで八の切と約への結果、白は隅に治る故に、白に利あり。

〔八二五一〕白稍有利なり

黒三なれば、白四に粘ぐべれば、白は隅を守り、此形、黒場合にもよれど、普通白に利あり。

〔八二五二〕変化至難の形

黒一なれば、白二に大いに善し。黒二に若しは七に足場を掃て、白は其れ形薄し。黒七以下変化多し。

〔八二五三〕白軍勢威あり

黒七の次に、白八以下十まで、然も必ず白二を止むを得ず、十は悪し。十一結果で六二をは必ず白六四図の佳着なり。

〔八二五四〕白の勢良し

前図白斜粘せし形、黒に種々手段あれど黒よりは包囲を無しの時、白は一路長一間に到る。此形、白の勢良し。

〔八二五六〕黒潰滅の姿

黒十九は、俗筋にして悪し。白十は、黒十一を同じく九に包囲の策無しく、此図白二に切れて黒潰滅の姿なり。

〔八二五七〕白宜し

黒いまイに粘ずし三に遮断し、来る白四以下変幻自在、その応手、実の大勢決河の如く、白十一に黒十二に尖下六に至る。

〔八二五八〕黒敗戦

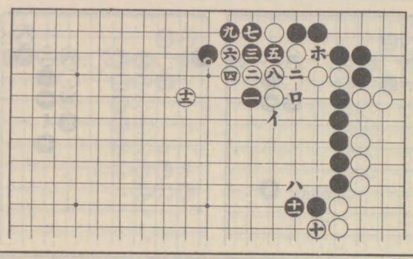
黒一に競ひ起つて、次に三の筋を狙ふ。此時白九に尖んで宜しく、黒十以下無理なり。果然白十一に接戦以下逐に活きず。

〔八二五五〕白圏を破る

黒九に網陣を張つて、白四と黒五を誘ひ出し、白十と黒十一を以て、白十二の尖兵、巧みに黒十三を躍らし、白十四に宜しく飛べば、黒ハ白ニ黒イ白ロ黒ニ白ハ黒ヘ白ニ黒ホ白ニ黒ヘ斯くて黒の桃歩困難なり。

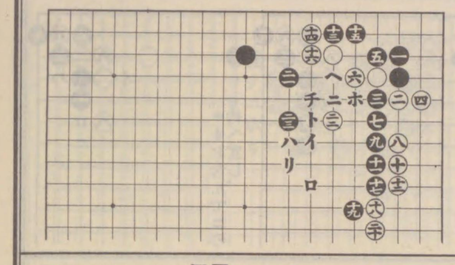
〔八二五九〕白善し

黒一・三、手筋な手段。白四と替りし、此手段を善しとして軽く黒五へ打つ。黒六のイに白ロと仕くられては白ハと打ち、黒七の優勢をニに打てば、黒八、白ホと打ち上がり、白形は一段と堅くなる。既にたような黒の形勢を疑うべからず。



〔八二六〇〕白包圍さる

白十六は常形なれど、以下黒十七まで中央の窮境打開には無力の手なり。黒十七作を急務とせず、黒九へ打ちて黒の大石を包囲せんとの構えなり。白十八と黒十九とを交換して白二十へ打ちたるは急所を得たり。黒二十一と白二十二とに至る迄、黒の大石は白の包囲に苦しむ。



〔八二六一〕白甚だまづし

白十六の掛粘もまづしく、黒十七より十九・二十一と封じて後に黒二・三と屈すれば、此時黒ロに白ハと打ちて活きず。白ホにれば、黒ヘに白トとチにれば、白形なれど黒イなり。

〔八二六二〕白窮せり

白十六、手筋にて似たれど、此形の変化は斜に前に及ばず。黒二一と白二二の追撃は辛し。白十七と黒二三の辛骨を刺す。黒二一と白二二の追撃は辛し。白十七と黒二三の辛骨を刺す。白十七と黒二三の辛骨を刺す。白十七と黒二三の辛骨を刺す

〔八二七九〕
黒悪しからず
白六、黒即ち七、次に九の手善し。二に打つも可なるも、黒は如よりも弛めるに如くにして効果多し。而かも却て白若しなれば、黒は八を九に打つ。イ黒ロ白ハ黒ニ、白

〔八二八〇〕
黒厚し
白十・十二なれば、黒若し十三にて五の征悪しき時は、黒は十六と打つ。イ白十五に黒ロ遂に十七、黒は攻ぎなきも厚壮の外勢を得たり。

〔八二八一〕
黒優れり
先番 伊藤清子二段
勝 黒田幸雄二段

白五好まず、抑も此手につぎたるは八の外無きも、白は好結果それも、（前圖参照）得ず。要之始めより黒に照して四と打ち下れるは白の大不利・難き所・八・十。善し。（ナッグ）

〔八二八二〕
要點約言（第七七型ニの一）
白二の大斜走懸り、黒三と三間に夾みし時に、白イに他に其の手段あり。此中ロ定石にして型て佳着。されども其他の（ハ）（ニ）及び＊

〔八二八三〕
基本圖（第七七型ニの一）

〔八二八四〕
白不利の形
白一、緩し。抑も白ロは、次に狙ひ二せんとするを伏す五へたる手の外無きも、斯くては、以下白ロ遂に愚化せり。

〔八二八五〕
白、分離さる
白一も悪し。若し白ロが六の小斜走懸りにある場合は、白一の筋宜しきも（目外し一〇五ニ圖）、此に於ては次に黒ハ圖以下参照、白無理形なり。

〔八二八六〕
黒の勢良し
白五、要點なり。黒は雲濤汪勃の妙を六に、八に在、遂に十四、六。見よ、黒の石に隠として籠る焔たる氣魄を！

〔八二八七〕
参考圖
黒は高く三と夾むも、其意味略同じ。略手も、蓋しイと黒は、左上隅の釣合上、或は全局の斯く高く夾むも事あり。

〔八二八八〕
場合の手段
先 宮坂宗二六段 當時
勝 長谷川章四段 時

白一は後に白九以下打つの振替りを準備なり。白一時に面白し。

〔八二八九〕
要點約言（第七七型ニの一）變化
白四手筋にして面白し。此時に黒イは、又黒イなれば、白ロなれば、白ロに戰ず。白イ黒ハ白ニに悪しからず。

〔八二九〇〕
基本圖（第七七型ニの二）

〔八二九一〕
定石
黒三の時は、白は四。黒の附けが最も良し。下は必然の一見の時、黒應答五以下十三にて宜しく、此合は邀撃あるを以て、白は二に打つ。べし、之を十三に打つ。＊

〔八二九二〕
黒善し
黒八の時は、白は前圖の如く十の點。若し白九なれば、黒ま、抑も白ロは、緩し。次に狙ひ二せんとするを伏す五へたる手の外無きも、斯くては、以下白ロ遂に愚化せり。

〔八二九三〕
黒稍可なり
白九なれば、黒ま、抑も白ロは、緩し。次に狙ひ二せんとするを伏す五へたる手の外無きも、斯くては、以下白ロ遂に愚化せり。

〔八二九四〕
黒好まず
黒十は、ロの場合は、イに當形にて、白九を取らるゝ故、

〔八二九八〕
參考圖
時に黒面白し

必ずしも糸と竹に非ずと雖も清音有り。棋手また之と同じ。白四の時黒五以下の振替りに出て左方に大模様を張らんとする場合に佳着となるる。黒十三、場合に適して、黒二、三に至つて、三の一子絶好の點に在り矣。

〔八二九九〕
黒堅實なり

先番 長谷川章五段
勝 小島春一四段

黒は斯く左上隅に構へるの時は、そこへ釣合上、一方へ傾れとの手あり。天地の間は夾へば糾へ短長の繩あるが如し。月に盈虚あるが如く、此理を體得・七は、此の五は、例へば平十九の手段を佳着とせざるも善し。白は最も善しと雖も二に調子を與へて黒に蓋したまとの間隙ひびを衝かんとする狙ひあり。

〔八三〇八〕
黒厚き形

黒一の時は、前圖イ或はロが最も善しと雖も二に調子を與へて黒に蓋したまとの間隙ひびを衝かんとする狙ひあり。

〔八三〇九〕
黒厚し

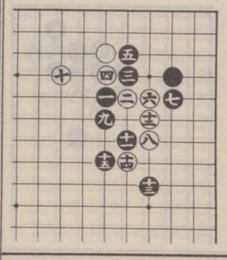
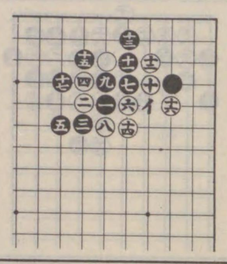
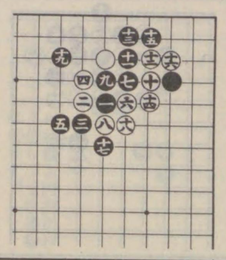
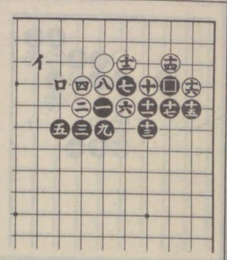
白八・十の手段は、見よ、例へば平十九の手段を佳着とせざるも善し。白は六まで、如く己が欲する所を遂げんとするも、黒の十九に子に相國の行ひ遂に至つては非圓なり。

〔八三一〇〕
黒外勢を得

白十四・黒十五に確守して、待機の姿勢可なり。白十の一瞬を怠れば、黒は六を失ふ。イに切るる破邪の行剣。

〔八三一一〕
白窮せり

白二は寡を以て衆に挑めり。悪しく不に先づ、は五に立つて、甚だ善しと雖も、黒十一の一手は、白十三に佳し。白憊駭して、出づる所を知らず。

〔八三一二〕
黒可なり

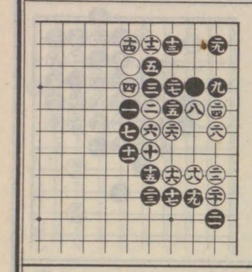
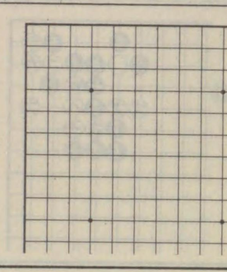
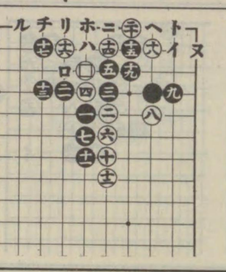
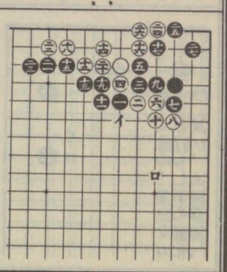
黒乃ち十八・十一良し。二七・地と至つて共に勢と、尤も黒優るも、黒十一で白十三に而して白十の次に攻めるも手もあり。

〔八三一三〕
白敗北

白六悪しの右に凭れて伐ちの左に四を眺むるの白を佳手なり。黒七と白十二に一拖して白十三に敗一撃す。白は遂に攻合し難き千里の道遠し。

〔八三一四〕
外勢黒優る

白若し十二面に打てば黒直ちに叩く。白十五の急所を十二に八、黒二九に打てば、甚だ痛悲断一撃百年の身。

〔八三一五〕
白再起し難し

白十六なれば、黒は狼牙を鳴らし七を射るの時は、十七・十九の追躡！黒辛・白二四の佳手なり。黒ロで白イと活れば、白ニは前圖より更に悪し。

〔八三一六〕
白潰滅

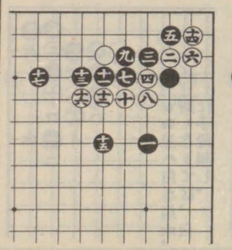
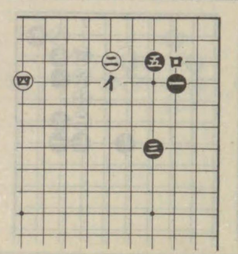
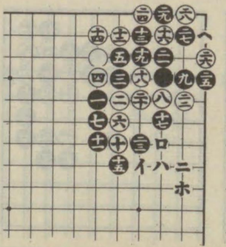
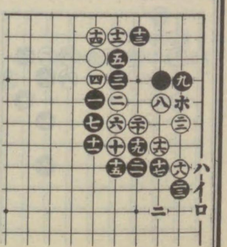
黒十七急所なり。白十六悪し。白二を黒ハと打てば、白三なれば黒ホイ白ロ黒ニ之も白二も無し。白八に手段無くて其形勢劫なれば、白二似た攻合黒勝。

〔八三一七〕
常形

黒三は定法にあらず、此場合は、白ざるも白二の一に高懸りの形あるに、イと附けよりロの異れて無し。白四は時に故に黒面常形なり。

〔八三一八〕
黒好調なり

白二は、黒一の線に陥るも悪手。黒三に遮るも悪し。見よ、黒一り化撃、白二と一つ。白十一と以下黒二七に甚だ有効の着手。白十三佳し。出づる所を知らず。

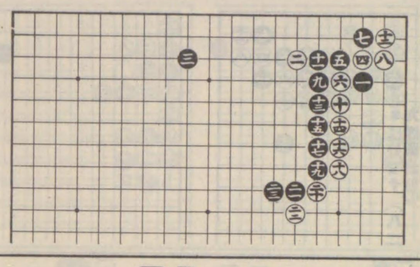
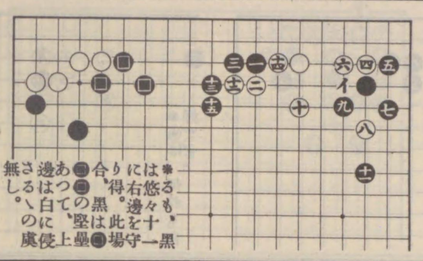





〔八三〇〇〕
要點約言
（第七七型ニノ二）

白二の時、黒イ、ロ、ハ、ニなどに夾撃する手ありて、此中イは時に用ゆる手、ロ、ハ、ニは場合によるべし。

〔八三〇一〕
基本圖
（第七七型、ホ）

白二の時黒はイ、ロ、ハ、ニ等の應けあり。何れも變化の手段、非らざるも、前正着に※

〔八三〇二〕
常形

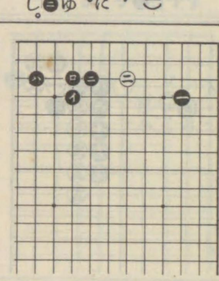
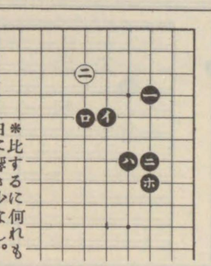
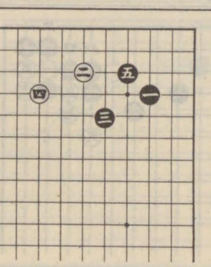
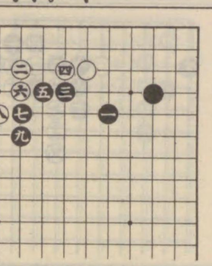
黒三と起つ。此時白また同じく姿勢にて四の應けは、此場合佳なり。他にも應けは、白四では好まずされど多く確かなり。

〔八三〇三〕
黒の勢善し

黒一。此形白二は稍低し。黒即ち間に乗じて三、五、次に九と、黒の意氣昂がるも、白既に氣合に於て黒に輪せり。

〔八三〇四〕
場合による

白二とは、位良きに非ず、白は更に三の時を要すれば、白イの之を攻急に其身を寄するの地を失ふ。

〔八三〇五〕
黒良し

白二・四は、時に佳着となれど、此場合黒に好調なり。白二と運ばず。白イと三・五と故に所詮白手の遂に類するが如し。

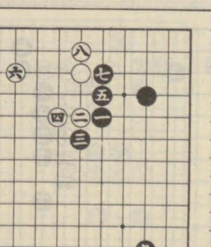
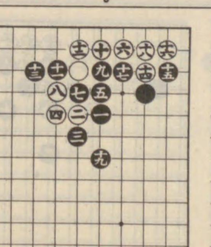
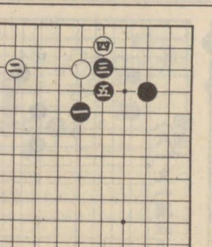
※比するに何れも白に辱き少なし。

〔八三〇六〕
白形勢を失ふ

白六は、青白きインテリにも似たり。加之、七の断點、黒七の残す。黒九突出づる鋭き精強の硬派と共に失へり。

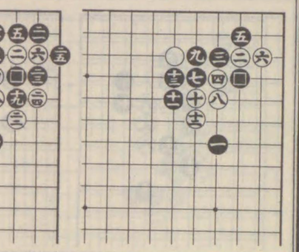
〔八三〇七〕
場合の手段

黒一、大鵬空を摶つの概、天日を覆ひ隔離の普通なり。白二は時に可なりにあらず。中に偏せり。好し、黒五の時白二は宜し。先づ手を抜いて

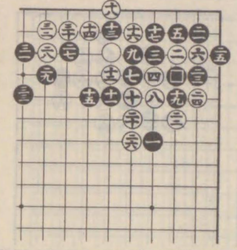
〔八三一九〕
黒善し

黒十一、烟敏なり。白は㊀の痛みあり、脚に傷有つ悲しみ、止むなく十二に届す。黒は十一を十三の前より更に痛烈"圖"佳し。



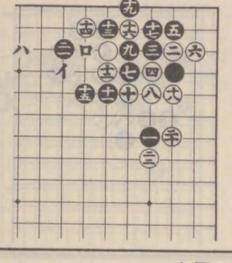
〔八三二〇〕
黒甚だ優勢

白十二は常形なれど、此場合は過せる認識の不足を看破せる無理手なり。黒乃ち三十三・三十五の頽勢、遂に白軍丈へば、黒二八で善しれず。黒二九で善なし。



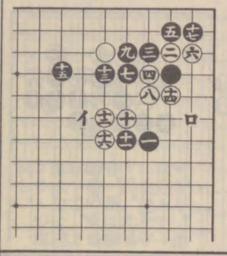
〔八三二一〕
黒確なり

白十八、本手なり。白二十は止むを得ず。此手を思ふ一一な壺と北叟笑むでもまた、白イ黒ハ、黒ロなれば、白二二一を狙ふ。



〔八三二二〕
黒善し

白十の守りに先ず三立つ、此時、黒十一に点睛せしめ畢龍、白十二は黒肝要の七の一手を善しとなり。黒十三は順なり。白十四は黒ロなり。

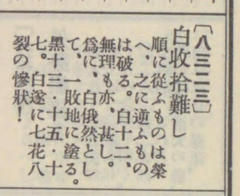


〔八三二三〕
白收拾難し

順に従ふものは榮へ破る。白十二は無理に従ふもの、黒十三・白十四は亦自然の手筋。一形に於て絶好點に回むれば、白十二をイなれば、黒十三は白ロ。

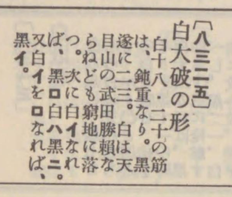
〔八三二四〕
黒善し

白十は、俗筋なり。黒十一。白の出路塞がれり。白十二の無謀のみ、黒十三に遮断す。白甚だ苦戦なり。



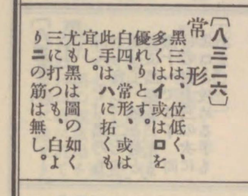
〔八三二五〕
白大破の形

白十八・二十の筋は、鈍重なり。黒十九は天目の武田勝頼の如く地に落ちつ、次に白イ黒ニ、又白イをロなれば、黒ハなれば、



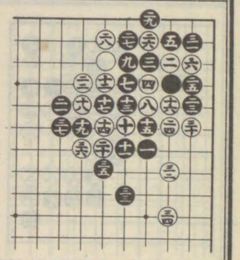
〔八三二六〕
常形

黒三は、位低く、多くは優れりとす。或はロを此に手抜きて常形に拡くも宜し。或はハに打つも尤も黒は圖の如く三に打つの筋は無し。



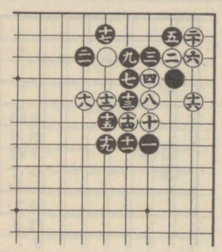
〔八三二七〕
白甚だ悪し

白二、同じく無理に従ふものは榮へ破る。白十二、黒三・五の手筋。一形の絶好點にて特に黒の三は於て為に白俄然として亦甚だ苦戦なり。



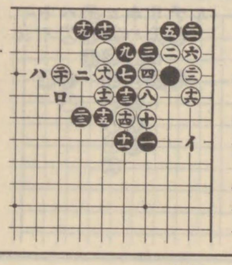
〔八三二八〕
白時機を見よ

黒一の時、黒二白三の後に、白四、白巧妙な手筋の妙機を生ずるも白二・四は時機を見るに早きときは悪し。黒は堅くして悪し。



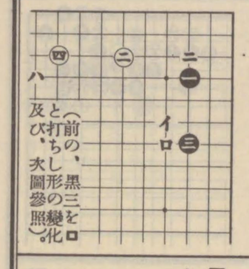
〔八三二九〕
常形

黒三と、前圖より更に一路廣拓す、為に此好手筋を白の四生ずる時、遮莫十、白十一に出づるの二枚を軍して黒十二を卿るんで至二角に白兩形勢互角。



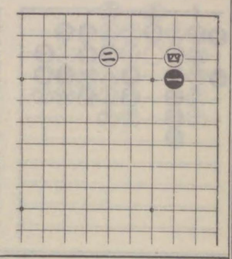
〔八三三〇〕
白稍可なり

黒三なれば、白は四に引いては、黒は嘲笑す。然れば黒果して止むなく五に低き粘り、白は六に威圧す。黒は更に七に白の形八良し。



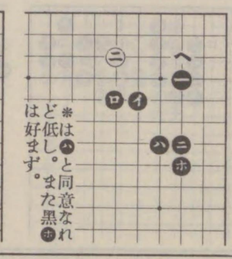
〔八三一〕
參考圖

㊂手抜き
黒三、手を抜きし時は、白は無論四の筋を狙ふべし。而して其變化は前圖に同じ。



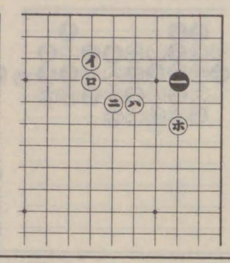
〔八三二〕
要點約言（第七七型ホ）

白二の時、黒にイロハニホなどの應けあり、何れも變則なれど、其中イとロは中の手、位を主とするの手。ハでは白へを防いで面白し。＊附圖參照。



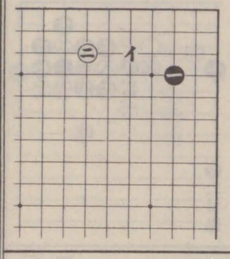
〔八三三〕
基本圖（第七八型）

黒一の小目に對する白の㋑㋺㋩㋥及び其他の手は、何れも變則にして時に好まず。時には妙着となる事もあり。



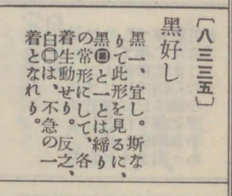
〔八三四〕
基本圖（第七八型イ）

黒一の小目に對して白二と打つ事、此手順ど稀なり。名づけて蓋しに、黒イに締り得る故なり。



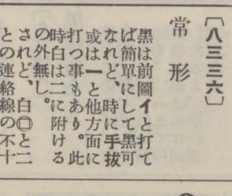
〔八三五〕
黒好し

黒一、宜し。斯なれば白は此形を見るに、黒の常形となして締り、各、着生動せず、反之、白の急の一着となれり。



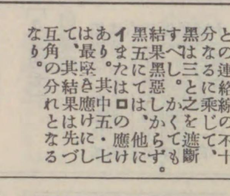
〔八三六〕
常形

黒は前圖イと打てば筋は單純にして黒可なれど、時に或は一と他面に打つ事あり。此時白は二に附けるの外無し。白□と十二との連絡を遮断するに乗じて、黒は三と之を遮断す。黒結果悪しからず。



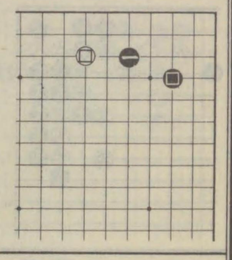
〔八三七〕
黒稍可なり

黒五、以下の變化多く、且つ征の可否は關係以下乞比較研究。白六以下戰雲渦巻く、白十名づけ難し。



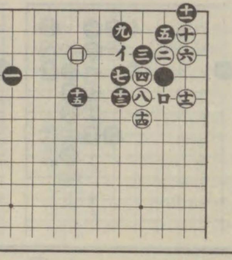
〔八三八〕
黒稍利勢

白十なれば、黒十一に附けて黒十二攻合ひ、白十八本手なり。白十九を黒ロに切りて、白は曼如たり得ず。



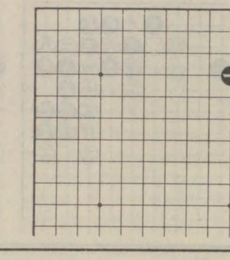
〔八三九〕
征可否に決す

白いま征の宜しきを自慢に十、而して十二。黒は吃驚さるれど、時既に仰天、遅しと、かゝる場も初めに合には、抑も黒五好まず。



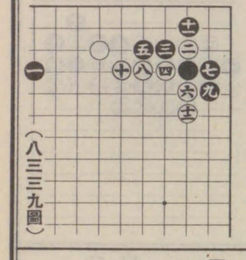
〔八三四〇〕
白優れり

前圖の如く白に征れる時は、白の自慢は九と下ら外無しとされど、かゝれて白に十二と整形利あらず。黒は遂に戰



〔八三四一〕
可否征による

白十好まず。黒十一、此形、十三で善しも可否も可なり。白十六の征は何れに決す。白征悪しきをイの時は、白十六をイの黒即ちロに外無く、白形崩る。



〔八三四二〕白の勢善し

尤も、白征（一征と～は白十四の白は、しき時は、圖のよりも前と如く十と切るし宜は、白十八・二十六取の高、寨子の武威、等戰外略、白の勢に圍し矣！

〔八三四三〕白優れり

黒十三・十五は、九の一子を征に取らるゝの餘し。尋で白二十八善は窮絶妙す、黒の脾を破るせり。大勢の既に決

〔八三四四〕互角の分れ

黒二七の時白は手も二八と行びるあり、黒三一にてイなれば一以下白ロの三之三子は弱きの故に黒悪し。場合によるも結果、先づ互角の分れなり。

〔八三四五〕白外勢優る

黒二五と、中原を指せば、白は必ずせば、白は渡べし。黒二六に二切ればを、白二九よし。白三と黒イ二七と白二八善。

〔八三四六〕黒陥穽に落つ

黒二一惡し。黒二以下五止惡し。黒二の騎虎の勢、を得ずされ、白三に至つて、白十ど生は、黒軍殆んど無し。

〔八三四七〕白優勢

黒五は宜しは、此形にて、白は、かゝらず巧に白・八・十——白振つて、八・十兩叉の戈を黒を壓迫す。黒十三、白イ黒二一白二二。白れす。

〔八三四八〕黒薄弱なり

黒十三なれば、白十四、黒七を無イ、白は論ずして、二一は黒利の結果、中央に隅の黒利なるも、薄弱なり。

〔八三四九〕白厚壮

黒十一にても、白宜しも、二二にては、厚し。白手に取つて黒の善し、厚き導くを、尋ねて銀鱗を、二の四二に澱き、刺更に二の六の趣を加へ、厚手あへ、

〔八三五〇〕白の作戦善し

黒いまゝ二一に起つて、次に鞭を揚げてイを指さんとす。前圖の如く白に二に比せば、黒へられし、稼々白の二得ず。二四、止むを、白遂に、殘し六以下隅に劫を出づ。白軍の四に、凡庸を抜け謬略。

〔八三五一〕白好まず

白二なれば、黒三にに應けて宜しせで回顧せば、三と□と白は重に複地の域あり、白既利を失へり。

〔八三五二〕要點約言（第七八型イ）

白二は黒りに非ず。黒も白にイと打たせれり。又黒イには悪化抜或は白は三に適當の手段つ無し。

〔八三五三〕基本圖（第七八型ロ）

白二、調子外れにして、斯かる手は、如何なる場合にも、打つ事殆んど稀なり。

〔八三五四〕常形

但し白好まず

白二なれば、黒三に簡單に、黒善し。蓋し、白二も、前意の白イと殆ど、同意味なる故なり。換言せば、黒一八と三の一間締りに對※

〔八三五五〕白の形重複す

黒は前圖の如く二と打つて宜しきも、亦形勢により、は他方面へ、斯く一或は斯く打つ事もあり。其時も、白は同じ□から、イに隅ある時は、向つて適當の手段無し。

〔八三五六〕白拙し

白二なれば、黒三。白二なれば、黒十四、白十五、黒十七。白イ、黒十七。白□、黒一動て全群れ一陣、驚いて亂れ、雁行れたり、點れる形の着を、見れば、其を九まで、全軍潰滅皆ゆゑ、勝敗知るべきのみ。

〔八三五七〕黒善し

白、單騎長驅して二へ進撃す。これは、白□の間が餘りに遠くこれとの連絡に似た、これと二との階段が果無く、白の弱點目なり。黒右辺五の乗ぜられたるは論無し。※して、白二は不急の着なり。

〔八三五八〕基本圖（第七八型ハ）

白二は、次に手と共に變則中央の位置に於て、時に佳着となるなり。

〔八三五九〕黒正形

白二に對する黒の應びには、三種あり、イ、及び七には、三、各形勢如何によりて、そのうち否あり、三は最も簡明なり、白は六を或は七なれば、ハの大場、

〔八三六〇〕黒有利の形

白六・八は、常用の手筋。黒はイまたは十二の常形をに避けて、敵の裏を掻く、最も宜し。白の望、かなへば、空しく黒一の白十の夢の如くなれば、

〔八三六一〕互角の形勢

黒十一の取らず。好一目ボン抜きの普通は斯く可なれど、此場合は爲に黒分さるは、故に黒兩程の効果無し。

〔八三六二〕黒可なり

白十・二なれば、黒十・一・十五に至つて、黒の一・十・二の化利と、三せば、生ける上屍と隅又大なり。白十四で實は、黒二十五で白十四形を得ず。

〔八三六三〕黒厚し

白一なれば、黒十四、白十五、黒十七。白イ、黒十七。白□、黒一動て全群れ一陣、驚いて亂れ、雁行れたり、點れる形の着を、見れば、其を九まで、全軍潰滅皆ゆゑ、勝敗知るべきのみ。

〔八三六四〕
黒緩し
黒九、十一は、常型なれど、此場合好まず。此形は白より一手遅れて出、不粘味なり。

〔八三六五〕
黒有利の形
白五・七と押しに、ヒタ押しは、八・十の二段ばねは、普通なり。加之、黒先手にて十二の要衝を扼せり。

〔八三六六〕
常形
黒三もあり。白四も手なれば、黒は五に抜くを可とす。此形の征伐は、黒には恵しからず。

〔八三六七〕
黒厚く善し
黒三は、堅実の應手なり。白四無理、黒五に出でて、黒次に果して、溪流の岩間の隙を衝いて、逃出す勢ひなり。

〔八三六八〕
黒厚壮の形
黒は十一と、右邊へ出るの好機なれど、白五・六と逆に打抜くも常套にて、黒十三と外ヘ出れば、白イと粘られ、黒ホ、白ロ、黒ハで、白ニ、黒善し。

〔八三六九〕
黒稍利勢
白四、止むを得ず。白四なれば、黒イ、白四なれば、黒ロ。白四を五と取れば、黒イの時、白ロに切つて同形。

〔八三七〇〕
黒地確定せり
黒十手は、此方面すに先手を取らんと時に善手なり。若しイをなさば、黒十二と白十三と、黒六をかくなる形にて、白十一を十三と優しが、後に黒ロより、れて注意すべし。

〔八三七一〕
黒可なり
前掲の如く、白二もで七には、結果白二面に面白かつ、故に白ど打ち、白ど無理と打つ、変化・筋八分れ黒單可なれども、此分れ黒單可なれども、此分れ黒單可なれども、此

〔八三八八〕
黒堅し
黒三も有るが、白四をイになれば、黒ロ。白次に八或は八の跳れに切つるも、黒の取るは白の切つた方を常形とする。常形とするを常形とするは、これまさに先人經驗の蓄積なり。

〔八三八九〕
黒の勢良し
白四の兩附は所謂「ヘタ」にして此筋は、黒五・七を衝かれて、中腹を厳に四分五烈の襲あり。白十一は黒イで有利なり。

〔八三九〇〕
黒善し
黒二なれば、白三、黒十四の時、白五、黒十二の次イの逃出せば、黒ロと引き、而して黒ハの疾風迅雷、白窮地に落つ。

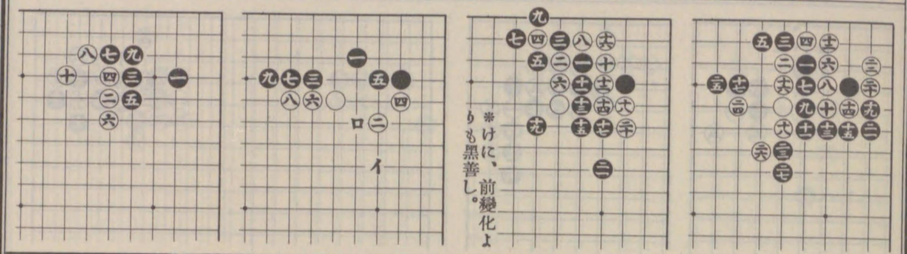
〔八三九一〕
黒稍厚し
白二の時、左方に黒子・叱・五・筋を取るも、白十と上辺を可なり厚くとるも、黒二と隅を打抜き形なり。

〔八四〇〇〕
黒優れり
白十六は、馬を壁に乗つけ似たり。黒七乃ち形を乱さず、白十八、黒十九・二手一揃に、白二の下を粘り、以て白三の出を防ぐ。黒十二・二と逃出し、而して黒ロと引き、白二と黒ニと交換するも黒の得なり。

〔八四〇一〕
黒甚だ優勢
白四に、形の拙き漢が、豫めなく五・七を揮つて、霜の一双を取る。秋霜四子を此形に同じく前変化に一子を打抜き居るも、黒九に、前変化よりも黒善し。

〔八四〇二〕
白の形不充分
白二なれば、黒三で善し。白次に四と打つて右辺へ防ぐも、黒の出路を塞ぎ、白の形味悪し。例へば黒イに、白ロに断点生ず。

〔八四〇三〕
場合による
黒三は、白に直ちに四と氣味好き約束を打つも、故に、普通好手なるも、但し、先手にて隅を守らんとするも、此時は、黒イで有利なり。

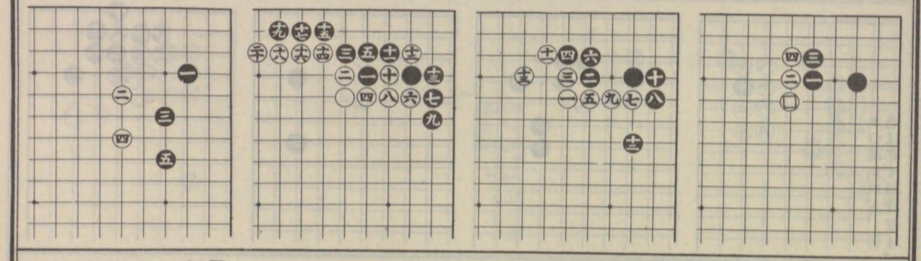


〔八四〇四〕
常形
白四は六圖と同形なり。但し此場合、黒七・九と此に並べ、白は黒之を攻むるも、白四をとなれば、黒は結果形良し。

〔八四〇五〕
白悪しからず
黒四の時、白一と掛け、黒は白十三と粘り、手もあるも、白五・七と如く打つも、白は黒十三と彩として放てば、黒は厳生。白は威霜の如し。

〔八四〇六〕
白稍厚し
黒九、小利を貪つて根を胚せるも、白直ちに十一と味悪し。白十二・十四と而して黒は十四と亂れ、此時は白ホと結ぶ。黒ヘと芙蓉の形前よりも厚し。

〔八四〇七〕
黒右迢を占む
黒は三も有り、黒は筒に化根據を得んとするも有り、白は宜しく右辺を攻めて和平に至つて、白は五手を連ねて兆瑞を送るを可とす。



〔八四〇八〕
黒の隅廣し
白二、普通は飛過ぎ、黒直ちに三と切つて宜しく、七と之に応じ、白イは黒ロと換るも、白ロと居るも、常に多くは白打ち難し。

〔八四〇九〕
黒形勢善し
白八、打過ぎ。黒十一と筋明に、白十二と十三に宜しく、白十四と十五の筋を、黒十六と白十七に狙ひ、黒は十八と抜くも、白は十九と追ひ、黒二十と中の白三を逃す。

〔八四一〇〕
黒優れり
黒イも有り。前形と同意にして白も有り。此形は別に打つも、白は段無しに打つも、黒は無理。白二・四と手抜きて、黒は全く生色を失へり。

〔八四一一〕
黒の隅堅し
白一になれば、黒は先づ二と押へて、白は三の動向を偵ぶ。黒は四と出で、白は五と隅の時、黒は六と曝ふ。白は七と宿を求め、黒は八と青雲の志を達せんとす。白は九と跛行の年を送る。

〔八三八二〕
黒善し
白一になれば、黒二と引き、白三と宜しく、黒は四と八に逃るも、白五と手筋を避け、黒は六と白七に一点の絶好点を奪ふ。黒は八と守るも、白は九と好点を撃ち、黒は十と兵を動かす時に、白は九と威あり。

〔八三九三〕
黒上隅を守る
白二・若しなれば、黒は三の要点を占め、白は四と黒五を拔き、白は六と肝要の筋を攻め、黒は七と寄せ下せれば、黒は白ロに攻めの如くなる。

〔八三九四〕
黒堅し
白二・四なれば、黒は三・此形が確か、白は五と粘る時、黒は六と白を急ぎ見れば、白ホと黒ヘの攻め時イ。

〔八三九五〕
黒善し
白二・黒は乃ち、白二と線連の如く、白ロの連絡を図るが、黒は三と之を攻撃し、白は四と黒五を若し、白ホで黒し。

〔八三九六〕
黒利形なり
白四は敵鋭し。此時、黒は四と手筋を避けつゝ、白五と蓋し常用の堅守好手なり。白は六と黒九にあて、若し黒利形なれば、白は生ず。

〔八三九七〕
常形
黒三は、その意味も、イと略ぼ同じきも、堅実なれよりも更に攻々たるも、黒は動じ、白は凝つて四と応じ、黒は五と肚を括つて白ロに迫る。脚下黒若しくは二の要を失へり。

〔八三九八〕
白薄し
白二・四なれば、黒五・此形、六と一間高懸の白は、黒七と三とそ好ましからず。

〔八三九九〕
黒外勢を得
白四・此時、黒五は必ず宜しく、白六以下、黒十七と肝要を失ひ、黒は中に隅を望み、白は暁平百戦の一片の絶つ山河の場！

【八四一一】參考圖

黑可なり

白二に打つ(三)時は、黒は手を抜くも宜し。之は前圖の如く白二では十五の或は異イの懸りより時と別に厳しき手段無けれ、白段無ければ、黒六、好まず。（本圖以降、八黒四は、三の手抜の形に就て說明す。）

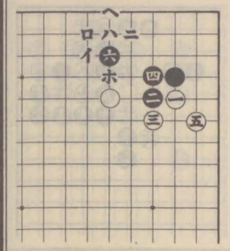
【八四一二】黒大勢を占む

白一無理。筋。若し黒二強し。二は三を形です。結果の白十六の如く白一に繋がざるとして荒海の小舟の勢。大形此せり。

【八四一三】黒堅し

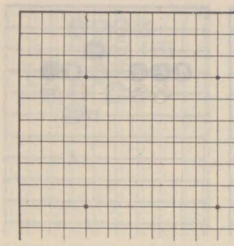
白三に厳しく絡んで虐げる。黒四勢を堅むるも窮屈の氣合。白七にて充分なり。白イなれば、黒ロで黒ヘニ。白ホなれば、黒ニへ。

【八四一四】



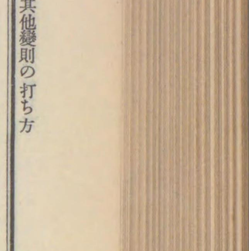
【八四一五】共に其形堅し

白一なれば、黒二。次に白三・五なれば、黒六。八・九は異圖と雖も無に注意あるを知らざる時は、左右を救ふこと能はず」と。



【八四一六】白凡形好まず

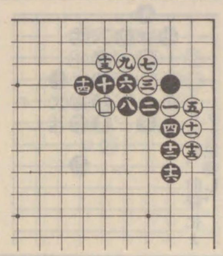
白一は自日悠々桃源の夢と凡着也。初黒二宜し。此形斜懸り白一の大斜に應じ黒二との交換に不念と雖も局面の優劣の差をに不はと及ぼす。



【八四一七】要點約言

（第七八型ニ）

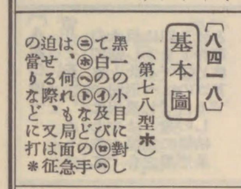
白二と打ち、し時に黒イと打ち、ロ及ハと手抜と白ホ悠々に合はず。



【八四一八】基本圖

（第七八型ホ）

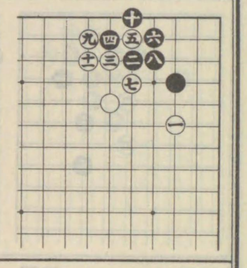
黒一の小目に對して白の(イ)及び(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)などは、何れも局面の急所なり。又は際、征の迫せるなどに打つ。※



【八四一九】常形

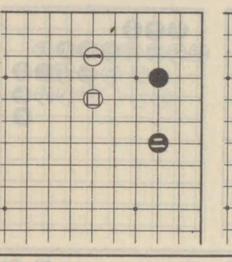
但し黒善し

白二なれば、黒三の締り、十目の所。白四所謂見合蓋し當然なり。白斯有利なり。



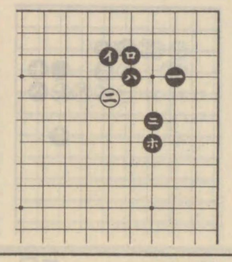
【八四二〇】白無理筋なり

黒の(一)と二の堅壘に、白一と三の寡弱を以て迫る。手只虚喝のみ、甚だ無理なり。白五なれば、黒六。又白五を六となれば、黒イ。



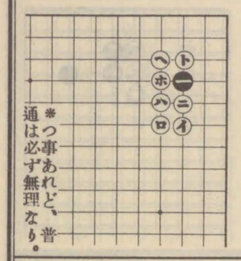
【八四二一】征可否による

兵聖日く、攻むるや、智將の上に動く、九天の下に征宜しく、黒は場合に於て此意を宜しく、白一と黒は以下同じ。符號で順イ。

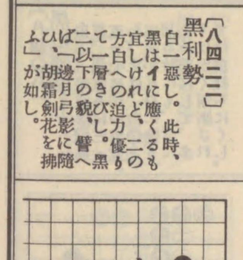


【八四二二】黒利勢

白一悪し。此時、黒はイに應ずるも宜しけれど、白ロへ方一層の優勢を擴げ、黒ヲまで。

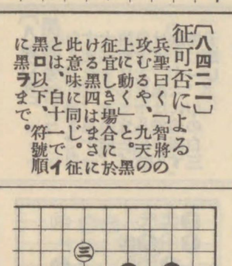


【八四二三】



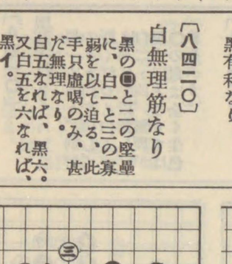
【八四二四】白無理なり

白一に次で、白三まで一騎當千の勢を以て、黒八に至るまで白地に陥ち、白九で黒四角危し。白イは黒佳手、白ロは黒ニと強攻す。



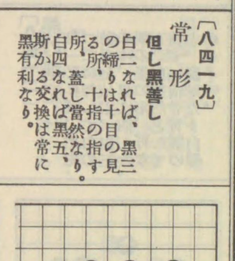
【八四二五】黒大に優れり

白五なれば、黒六に水も漏らさぬ堅守。黒八以下善手此形。又白劫を粘げば黒イ。白ロなれば、黒劫を取白ロ黒ハ。



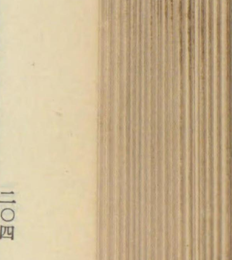
【八四二六】黒大に可なり

白一も亦、論外の無理。筋。黒異向ふよりは、白三なれば黒四と叩く、白五なれば黒六と上邊の地歩を占めに得たり。



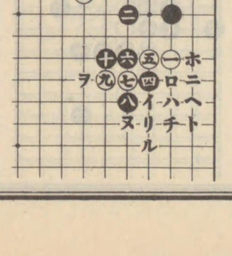
【八四二七】黒好形

白五なれば、黒六尋で十。東の六・八去ず。水流の返勢を、黒は白の優復倒如何ともすべからず。



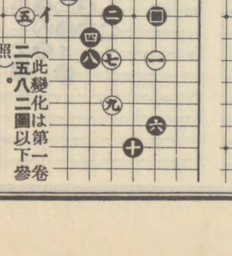
【八四二八】黒勝

白は三に對し無理を重ぬ。黒二子を急に三子(白は二には)にするも白勝を得べき如く、白五で白ロまた白イ以下黒チ※なし。



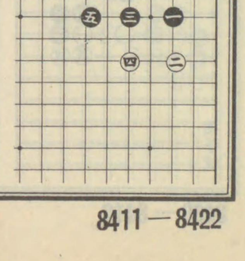
【八四二九】黒勝

白一も征の當を攻むるは、他の大石を外すは、準備工作の必ず惡手なり。白三に切れば、黒四に應じ、白五にて九下に附け、白イ以下黒ハ(八)と變化參照。



【八四三〇】白好まず

白三と約へれば、黒四・六で其形簡單に宜し。白九を十なれば、黒イと十なるも、其形かくなるも、以下白一も詰めの四子が、丈に目好まず。



【八四三一】征可否による

黒四・六は強ひて起つも、平地に波瀾を惹起すもの、打つべきや、又は征宜しからざるやを、云ふ。但し、白九が征イなれば、白十は黒ロにて黒八にて勝。

【八四三二】互角の形勢

若し前圖の如く征の白一に不利なる場合は、變圖の如く白九と振替へ、形勢不利に陥り、局面轉換を圖ふべし。

【八四三三】白可なり

黒八・白九・白十は連絡忍び難き似た一手なれど、白二に應ずれば、黒イと連絡し、白ロと切れば、黒ハ(八)と四三に附け、白ニ以下黒ホ(九)と變化參照。

【八四三四】中の黒弱し

黒八なれば、白九と下か、一隅に黒十と剣をし、白十四を十三に忍び、白九を十なれば、黒イと連絡し、白ロと切れば、黒ハ(八)と四三に附け、白ニ以下黒ホ(九)と變化參照。

※一事あれど、普通は必ず無理なり。

〔八四三五〕場合による

黒若し右邊に形勢を得んとする時は、斯く二・四・六・十・十一の連絡は、以下十二と換るとなれど止むを得ず。

〔八四三六〕黒堅實なり

黒二、殺きが如き、堅實にして之も、結果黒悪しからず。二の如きは即ち、平調にして深情なるもの。白三・五、止を得ず。黒六は要點なり、機微言外に在り。

〔八四三七〕白面白し

黒二、殺しに、白は三と、ために先んじて一、鞭高く指すが中原を、黒は白一かくては無理をなしめざるのみの結果となり、却て白に好形を與へたり。

〔八四三八〕黒の形善し

白一に於ても、特殊形勢の通り手段にては黒特殊普換にして交換。白五は不利なれば、黒六遂に白の宜しきを得たり。東邊の黒潤歩し。

〔八四三九〕黒有利の形

白一なれば黒二。以下如何も變化し、黒も必ず千均しの黒十・十一は佳着と云ふべし。若し黒八を九にて綺麗に上げれば、白は却ちイ。

〔八四四〇〕白重し

白五・七も、鈍重の悪手。八もで、黒の形を解消せば、白七は初めに四と六とを交換し、白五は黒二と定石、黒八と白三とを交換し、凡て白不利なり。

〔八四四一〕白極悪の形

白三と下に這ひては、我れから求めて世話しの積みに、甘んじて振舞ふが如し。黒三・四、白七以下を宜しく止むるも、十三まで、白辛うじて活を得ず。黒は大勝の勢。

〔八四四二〕白の活形拙し

白三なれば、黒四に粘いでも宜しく、十一の形は稍可なれど前よりは向ほ且つ白敗勢を免れず。

〔八四四三〕要點約言

（第七八型ホ）

黒一の小目に對して白㋑以下㋟まで、他の石の手段は、又、他の攻防上、稀には征つの當りにも打つべきなれど、事あれば、只此一隅のみの問題と※。

〔八四四四〕大斜走懸り其他變則の打方 總評（一）

黒一の小目に對しては、白は二の大斜走懸り、其他イ以下ホなどの變則の手段あり。其※

〔八四四五〕大斜走懸り其他變則の打方 總評（二）

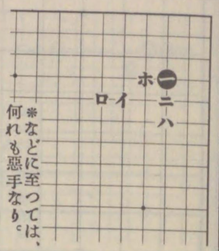
白二の懸りに對しては黒にイ以下リまでの應けあり。其中、イ、ロは定型、ハは堅實、ホは攻なれど、※

〔八四四六〕大斜走懸り其他變則の打方 總評（三）

白イなれば黒ロ、又白ハなれば黒ニ。何れも此二つは黒懸りに非ず且つ黒懸にロまたはニと打たる時は、白の※

〔八四四七〕大斜走懸り其他變則の打方 總評（四）

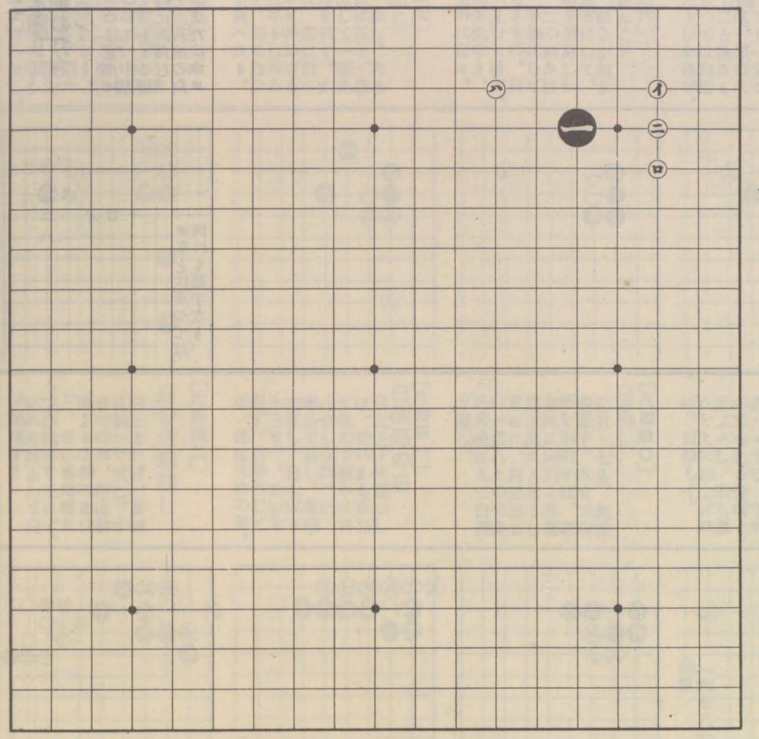
白イとロは常形にして非らざるも、中厚經營を主とする場合、時に面白し。而して其他の白ハ、ニまたはホ※



※などに至つては、何れも惡手なり。

〔八四四八〕

基本原圖　高目の先據



黒一の高目は、前型二の小目とは其意味全然異なつて白が隅に入りし時は、黒は第二として中原の位を主とするなり。隨つて外勢を壯にする意味は、黒は地よりも先づ隅に白を活かして上より包圍し、新布石法の配置に合致す。故に此點より見れば、高目先據の手段もあれど、㈢を正形と黒一に對しては、白は㋑㋺㋩或は其他の手段もあれど、㈢を正形と

〔八四五二〕

基本圖

（第七九型、イノ一）

白四なれば、黒は五と應じて變化の手段でも無し。他にも無し。白此場合に於ける最も善の形なり。

〔八四五一〕

基本圖

（七九型、イ）

黒三なれば、白は四が常形。されど白四では時に、イ、ロ、ホなど、ハ、ニの外、手を抜く事もあり。

〔八四五〇〕

基本圖

（第七九型共に）

白二、黒三、に於ける正形なり。而して三の目的は、高目本來の目的包圍策を捨てゝ隅に根據を築き、次に邊に發展せ※

〔八四四九〕

基本前圖

黒一、白二の時、黒は㋑㋺㋩㋥及び㋭㋬㋣㋠㋷㋸㋹㋻㋼㋽㋾㋿㌀㌁㌂㌃㌄㌅㌆㌇㌈㌉㌊㌋㌌㌍㌎㌏㌐㌑㌒㌓㌔㌕㌖㌗㌘㌙㌚㌛㌜㌝㌞㌟㌠㌡㌢㌣㌤㌥㌦㌧㌨㌩㌪㌫㌬㌭㌮㌯㌰㌱㌲㌳㌴㌵㌶㌷㌸㌹㌺㌻㌼㌽㌾㌿㍀㍁㍂㍃㍄㍅㍆㍇㍈㍉㍊㍋㍌㍍㍎㍏㍐㍑㍒㍓㍔㍕㍖㍗㍘㍙㍚㍛㍜㍝㍞㍟㍠㍡㍢㍣㍤㍥㍦㍧㍨㍩㍪㍫㍬㍭㍮㍯㍰㍱㍲㍳㍴㍵㍶㍷㍸㍹㍺㍻㍼㍽㍾㍿㎀㎁㎂㎃㎄㎅㎆㎇㎈㎉㎊㎋㎌㎍㎎㎏㎐㎑㎒㎓㎔㎕㎖㎗㎘㎙㎚㎛㎜㎝㎞㎟㎠㎡㎢㎣㎤㎥㎦㎧㎨㎩㎪㎫㎬㎭㎮㎯㎰㎱㎲㎳㎴㎵㎶㎷㎸㎹㎺㎻㎼㎽㎾㎿㏀㏁㏂㏃㏄㏅㏆㏇㏈㏉㏊㏋㏌㏍㏎㏏㏐㏑㏒㏓㏔㏕㏖㏗㏘㏙㏚㏛㏜㏝㏞㏟㏠㏡㏢㏣㏤㏥㏦㏧㏨㏩㏪㏫㏬㏭㏮㏯㏰㏱㏲㏳㏴㏵㏶㏷㏸㏹㏺㏻㏼㏽㏾㏿㐀㐁㐂㐃㐄㐅㐆㐇㐈㐉㐊㐋㐌㐍㐎㐏㐐㐑㐒㐓㐔㐕㐖㐗㐘㐙㐚㐛㐜㐝㐞㐟㐠㐡㐢㐣㐤㐥㐦㐧㐨㐩㐪㐫㐬㐭㐮㐯㐰㐱㐲㐳㐴㐵㐶㐷㐸㐹㐺㐻㐼㐽㐾㐿㑀㑁㑂㑃㑄㑅㑆㑇㑈㑉㑊㑋㑌㑍㑎㑏㑐㑑㑒㑓㑔㑕㑖㑗㑘㑙㑚㑛㑜㑝㑞㑟㑠㑡㑢㑣㑤㑥㑦㑧㑨㑩㑪㑫㑬㑭㑮㑯㑰㑱㑲㑳㑴㑵㑶㑷㑸㑹㑺㑻㑼㑽㑾㑿㒀㒁㒂㒃㒄㒅㒆㒇㒈㒉㒊㒋㒌㒍㒎㒏㒐㒑㒒㒓㒔㒕㒖㒗㒘㒙㒚㒛㒜㒝㒞㒟㒠㒡㒢㒣㒤㒥㒦㒧㒨㒩㒪㒫㒬㒭㒮㒯㒰㒱㒲㒳㒴㒵㒶㒷㒸㒹㒺㒻㒼㒽㒾㒿㓀㓁㓂㓃㓄㓅㓆㓇㓈㓉㓊㓋㓌㓍㓎㓏㓐㓑㓒㓓㓔㓕㓖㓗㓘㓙㓚㓛㓜㓝㓞㓟㓠㓡㓢㓣㓤㓥㓦㓧㓨㓩㓪㓫㓬㓭㓮㓯㓰㓱㓲㓳㓴㓵㓶㓷㓸㓹㓺㓻㓼㓽㓾㓿㔀㔁㔂㔃㔄㔅㔆㔇㔈㔉㔊㔋㔌㔍㔎㔏㔐㔑㔒㔓㔔㔕㔖㔗㔘㔙㔚㔛㔜㔝㔞㔟㔠㔡㔢㔣㔤㔥㔦㔧㔨㔩㔪㔫㔬㔭㔮㔯㔰㔱㔲㔳㔴㔵㔶㔷㔸㔹㔺㔻㔼㔽㔾㔿㕀㕁㕂㕃㕄㕅㕆㕇㕈㕉㕊㕋㕌㕍㕎㕏㕐㕑㕒㕓㕔㕕㕖㕗㕘㕙㕚㕛㕜㕝㕞㕟㕠㕡㕢㕣㕤㕥㕦㕧㕨㕩㕪㕫㕬㕭㕮㕯㕰㕱㕲㕳㕴㕵㕶㕷㕸㕹㕺㕻㕼㕽㕾㕿㖀㖁㖂㖃㖄㖅㖆㖇㖈㖉㖊㖋㖌㖍㖎㖏㖐㖑㖒㖓㖔㖕㖖㖗㖘㖙㖚㖛㖜㖝㖞㖟㖠㖡㖢㖣㖤㖥㖦㖧㖨㖩㖪㖫㖬㖭㖮㖯㖰㖱㖲㖳㖴㖵㖶㖷㖸㖹㖺㖻㖼㖽㖾㖿㗀㗁㗂㗃㗄㗅㗆㗇㗈㗉㗊㗋㗌㗍㗎㗏㗐㗑㗒㗓㗔㗕㗖㗗㗘㗙㗚㗛㗜㗝㗞㗟㗠㗡㗢㗣㗤㗥㗦㗧㗨㗩㗪㗫㗬㗭㗮㗯㗰㗱㗲㗳㗴㗵㗶㗷㗸㗹㗺㗻㗼㗽㗾㗿㘀㘁㘂㘃㘄㘅㘆㘇㘈㘉㘊㘋㘌㘍㘎㘏㘐㘑㘒㘓㘔㘕㘖㘗㘘㘙㘚㘛㘜㘝㘞㘟㘠㘡㘢㘣㘤㘥㘦㘧㘨㘩㘪㘫㘬㘭㘮㘯㘰㘱㘲㘳㘴㘵㘶㘷㘸㘹㘺㘻㘼㘽㘾㘿㙀㙁㙂㙃㙄㙅㙆㙇㙈㙉㙊㙋㙌㙍㙎㙏㙐㙑㙒㙓㙔㙕㙖㙗㙘㙙㙚㙛㙜㙝㙞㙟㙠㙡㙢㙣㙤㙥㙦㙧㙨㙩㙪㙫㙬㙭㙮㙯㙰㙱㙲㙳㙴㙵㙶㙷㙸㙹㙺㙻㙼㙽㙾㙿㚀㚁㚂㚃㚄㚅㚆㚇㚈㚉㚊㚋㚌㚍㚎㚏㚐㚑㚒㚓㚔㚕㚖㚗㚘㚙㚚㚛㚜㚝㚞㚟㚠㚡㚢㚣㚤㚥㚦㚧㚨㚩㚪㚫㚬㚭㚮㚯㚰㚱㚲㚳㚴㚵㚶㚷㚸㚹㚺㚻㚼㚽㚾㚿㛀㛁㛂㛃㛄㛅㛆㛇㛈㛉㛊㛋㛌㛍㛎㛏㛐㛑㛒㛓㛔㛕㛖㛗㛘㛙㛚㛛㛜㛝㛞㛟㛠㛡㛢㛣㛤㛥㛦㛧㛨㛩㛪㛫㛬㛭㛮㛯㛰㛱㛲㛳㛴㛵㛶㛷㛸㛹㛺㛻㛼㛽㛾㛿㜀㜁㜂㜃㜄㜅㜆㜇㜈㜉㜊㜋㜌㜍㜎㜏㜐㜑㜒㜓㜔㜕㜖㜗㜘㜙㜚㜛㜜㜝㜞㜟㜠㜡㜢㜣㜤㜥㜦㜧㜨㜩㜪㜫㜬㜭㜮㜯㜰㜱㜲㜳㜴㜵㜶㜷㜸㜹㜺㜻㜼㜽㜾㜿㝀㝁㝂㝃㝄㝅㝆㝇㝈㝉㝊㝋㝌㝍㝎㝏㝐㝑㝒㝓㝔㝕㝖㝗㝘㝙㝚㝛㝜㝝㝞㝟㝠㝡㝢㝣㝤㝥㝦㝧㝨㝩㝪㝫㝬㝭㝮㝯㝰㝱㝲㝳㝴㝵㝶㝷㝸㝹㝺㝻㝼㝽㝾㝿㞀㞁㞂㞃㞄㞅㞆㞇㞈㞉㞊㞋㞌㞍㞎㞏㞐㞑㞒㞓㞔㞕㞖㞗㞘㞙㞚㞛㞜㞝㞞㞟㞠㞡㞢㞣㞤㞥㞦㞧㞨㞩㞪㞫㞬㞭㞮㞯㞰㞱㞲㞳㞴㞵㞶㞷㞸㞹㞺㞻㞼㞽㞾㞿㟀㟁㟂㟃㟄㟅㟆㟇㟈㟉㟊㟋㟌㟍㟎㟏㟐㟑㟒㟓㟔㟕㟖㟗㟘㟙㟚㟛㟜㟝㟞㟟㟠㟡㟢㟣㟤㟥㟦㟧㟨㟩㟪㟫㟬㟭㟮㟯㟰㟱㟲㟳㟴㟵㟶㟷㟸㟹㟺㟻㟼㟽㟾㟿㠀㠁㠂㠃㠄㠅㠆㠇㠈㠉㠊㠋㠌㠍㠎㠏㠐㠑㠒㠓㠔㠕㠖㠗㠘㠙㠚㠛㠜㠝㠞㠟㠠㠡㠢㠣㠤㠥㠦㠧㠨㠩㠪㠫㠬㠭㠮㠯㠰㠱㠲㠳㠴㠵㠶㠷㠸㠹㠺㠻㠼㠽㠾㠿㡀㡁㡂㡃㡄㡅㡆㡇㡈㡉㡊㡋㡌㡍㡎㡏㡐㡑㡒㡓㡔㡕㡖㡗㡘㡙㡚㡛㡜㡝㡞㡟㡠㡡㡢㡣㡤㡥㡦㡧㡨㡩㡪㡫㡬㡭㡮㡯㡰㡱㡲㡳㡴㡵㡶㡷㡸㡹㡺㡻㡼㡽㡾㡿㢀㢁㢂㢃㢄㢅㢆㢇㢈㢉㢊㢋㢌㢍㢎㢏㢐㢑㢒㢓㢔㢕㢖㢗㢘㢙㢚㢛㢜㢝㢞㢟㢠㢡㢢㢣㢤㢥㢦㢧㢨㢩㢪㢫㢬㢭㢮㢯㢰㢱㢲㢳㢴㢵㢶㢷㢸㢹㢺㢻㢼㢽㢾㢿㣀㣁㣂㣃㣄㣅㣆㣇㣈㣉㣊㣋㣌㣍㣎㣏㣐㣑㣒㣓㣔㣕㣖㣗㣘㣙㣚㣛㣜㣝㣞㣟㣠㣡㣢㣣㣤㣥㣦㣧㣨㣩㣪㣫㣬㣭㣮㣯㣰㣱㣲㣳㣴㣵㣶㣷㣸㣹㣺㣻㣼㣽㣾㣿㤀㤁㤂㤃㤄㤅㤆㤇㤈㤉㤊㤋㤌㤍㤎㤏㤐㤑㤒㤓㤔㤕㤖㤗㤘㤙㤚㤛㤜㤝㤞㤟㤠㤡㤢㤣㤤㤥㤦㤧㤨㤩㤪㤫㤬㤭㤮㤯㤰㤱㤲㤳㤴㤵㤶㤷㤸㤹㤺㤻㤼㤽㤾㤿㥀㥁㥂㥃㥄㥅㥆㥇㥈㥉㥊㥋㥌㥍㥎㥏㥐㥑㥒㥓㥔㥕㥖㥗㥘㥙㥚㥛㥜㥝㥞㥟㥠㥡㥢㥣㥤㥥㥦㥧㥨㥩㥪㥫㥬㥭㥮㥯㥰㥱㥲㥳㥴㥵㥶㥷㥸㥹㥺㥻㥼㥽㥾㥿㦀㦁㦂㦃㦄㦅㦆㦇㦈㦉㦊㦋㦌㦍㦎㦏㦐㦑㦒㦓㦔㦕㦖㦗㦘㦙㦚㦛㦜㦝㦞㦟㦠㦡㦢㦣㦤㦥㦦㦧㦨㦩㦪㦫㦬㦭㦮㦯㦰㦱㦲㦳㦴㦵㦶㦷㦸㦹㦺㦻㦼㦽㦾㦿㧀㧁㧂㧃㧄㧅㧆㧇㧈㧉㧊㧋㧌㧍㧎㧏㧐㧑㧒㧓㧔㧕㧖㧗㧘㧙㧚㧛㧜㧝㧞㧟㧠㧡㧢㧣㧤㧥㧦㧧㧨㧩㧪㧫㧬㧭㧮㧯㧰㧱㧲㧳㧴㧵㧶㧷㧸㧹㧺㧻㧼㧽㧾㧿㨀㨁㨂㨃㨄㨅㨆㨇㨈㨉㨊㨋㨌㨍㨎㨏㨐㨑㨒㨓㨔㨕㨖㨗㨘㨙㨚㨛㨜㨝㨞㨟㨠㨡㨢㨣㨤㨥㨦㨧㨨㨩㨪㨫㨬㨭㨮㨯㨰㨱㨲㨳㨴㨵㨶㨷㨸㨹㨺㨻㨼㨽㨾㨿㩀㩁㩂㩃㩄㩅㩆㩇㩈㩉㩊㩋㩌㩍㩎㩏㩐㩑㩒㩓㩔㩕㩖㩗㩘㩙㩚㩛㩜㩝㩞㩟㩠㩡㩢㩣㩤㩥㩦㩧㩨㩩㩪㩫㩬㩭㩮㩯㩰㩱㩲㩳㩴㩵㩶㩷㩸㩹㩺㩻㩼㩽㩾㩿㪀㪁㪂㪃㪄㪅㪆㪇㪈㪉㪊㪋㪌㪍㪎㪏㪐㪑㪒㪓㪔㪕㪖㪗㪘㪙㪚㪛㪜㪝㪞㪟㪠㪡㪢㪣㪤㪥㪦㪧㪨㪩㪪㪫㪬㪭㪮㪯㪰㪱㪲㪳㪴㪵㪶㪷㪸㪹㪺㪻㪼㪽㪾㪿㫀㫁㫂㫃㫄㫅㫆㫇㫈㫉㫊㫋㫌㫍㫎㫏㫐㫑㫒㫓㫔㫕㫖㫗㫘㫙㫚㫛㫜㫝㫞㫟㫠㫡㫢㫣㫤㫥㫦㫧㫨㫩㫪㫫㫬㫭㫮㫯㫰㫱㫲㫳㫴㫵㫶㫷㫸㫹㫺㫻㫼㫽㫾㫿㬀㬁㬂㬃㬄㬅㬆㬇㬈㬉㬊㬋㬌㬍㬎㬏㬐㬑㬒㬓㬔㬕㬖㬗㬘㬙㬚㬛㬜㬝㬞㬟㬠㬡㬢㬣㬤㬥㬦㬧㬨㬩㬪㬫㬬㬭㬮㬯㬰㬱㬲㬳㬴㬵㬶㬷㬸㬹㬺㬻㬼㬽㬾㬿㭀㭁㭂㭃㭄㭅㭆㭇㭈㭉㭊㭋㭌㭍㭎㭏㭐㭑㭒㭓㭔㭕㭖㭗㭘㭙㭚㭛㭜㭝㭞㭟㭠㭡㭢㭣㭤㭥㭦㭧㭨㭩㭪㭫㭬㭭㭮㭯㭰㭱㭲㭳㭴㭵㭶㭷㭸㭹㭺㭻㭼㭽㭾㭿㮀㮁㮂㮃㮄㮅㮆㮇㮈㮉㮊㮋㮌㮍㮎㮏㮐㮑㮒㮓㮔㮕㮖㮗㮘㮙㮚㮛㮜㮝㮞㮟㮠㮡㮢㮣㮤㮥㮦㮧㮨㮩㮪㮫㮬㮭㮮㮯㮰㮱㮲㮳㮴㮵㮶㮷㮸㮹㮺㮻㮼㮽㮾㮿㯀㯁㯂㯃㯄㯅㯆㯇㯈㯉㯊㯋㯌㯍㯎㯏㯐㯑㯒㯓㯔㯕㯖㯗㯘㯙㯚㯛㯜㯝㯞㯟㯠㯡㯢㯣㯤㯥㯦㯧㯨㯩㯪㯫㯬㯭㯮㯯㯰㯱㯲㯳㯴㯵㯶㯷㯸㯹㯺㯻㯼㯽㯾㯿㰀㰁㰂㰃㰄㰅㰆㰇㰈㰉㰊㰋㰌㰍㰎㰏㰐㰑㰒㰓㰔㰕㰖㰗㰘㰙㰚㰛㰜㰝㰞㰟㰠㰡㰢㰣㰤㰥㰦㰧㰨㰩㰪㰫㰬㰭㰮㰯㰰㰱㰲㰳㰴㰵㰶㰷㰸㰹㰺㰻㰼㰽㰾㰿㱀㱁㱂㱃㱄㱅㱆㱇㱈㱉㱊㱋㱌㱍㱎㱏㱐㱑㱒㱓㱔㱕㱖㱗㱘㱙㱚㱛㱜㱝㱞㱟㱠㱡㱢㱣㱤㱥㱦㱧㱨㱩㱪㱫㱬㱭㱮㱯㱰㱱㱲㱳㱴㱵㱶㱷㱸㱹㱺㱻㱼㱽㱾㱿㲀㲁㲂㲃㲄㲅㲆㲇㲈㲉㲊㲋㲌㲍㲎㲏㲐㲑㲒㲓㲔㲕㲖㲗㲘㲙㲚㲛㲜㲝㲞㲟㲠㲡㲢㲣㲤㲥㲦㲧㲨㲩㲪㲫㲬㲭㲮㲯㲰㲱㲲㲳㲴㲵㲶㲷㲸㲹㲺㲻㲼㲽㲾㲿㳀㳁㳂㳃㳄㳅㳆㳇㳈㳉㳊㳋㳌㳍㳎㳏㳐㳑㳒㳓㳔㳕㳖㳗㳘㳙㳚㳛㳜㳝㳞㳟㳠㳡㳢㳣㳤㳥㳦㳧㳨㳩㳪㳫㳬㳭㳮㳯㳰㳱㳲㳳㳴㳵㳶㳷㳸㳹㳺㳻㳼㳽㳾㳿㴀㴁㴂㴃㴄㴅㴆㴇㴈㴉㴊㴋㴌㴍㴎㴏㴐㴑㴒㴓㴔㴕㴖㴗㴘㴙㴚㴛㴜㴝㴞㴟㴠㴡㴢㴣㴤㴥㴦㴧㴨㴩㴪㴫㴬㴭㴮㴯㴰㴱㴲㴳㴴㴵㴶㴷㴸㴹㴺㴻㴼㴽㴾㴿㵀㵁㵂㵃㵄㵅㵆㵇㵈㵉㵊㵋㵌㵍㵎㵏㵐㵑㵒㵓㵔㵕㵖㵗㵘㵙㵚㵛㵜㵝㵞㵟㵠㵡㵢㵣㵤㵥㵦㵧㵨㵩㵪㵫㵬㵭㵮㵯㵰㵱㵲㵳㵴㵵㵶㵷㵸㵹㵺㵻㵼㵽㵾㵿㶀㶁㶂㶃㶄㶅㶆㶇㶈㶉㶊㶋㶌㶍㶎㶏㶐㶑㶒㶓㶔㶕㶖㶗㶘㶙㶚㶛㶜㶝㶞㶟㶠㶡㶢㶣㶤㶥㶦㶧㶨㶩㶪㶫㶬㶭㶮㶯㶰㶱㶲㶳㶴㶵㶶㶷㶸㶹㶺㶻㶼㶽㶾㶿㷀㷁㷂㷃㷄㷅㷆㷇㷈㷉㷊㷋㷌㷍㷎㷏㷐㷑㷒㷓㷔㷕㷖㷗㷘㷙㷚㷛㷜㷝㷞㷟㷠㷡㷢㷣㷤㷥㷦㷧㷨㷩㷪㷫㷬㷭㷮㷯㷰㷱㷲㷳㷴㷵㷶㷷㷸㷹㷺㷻㷼㷽㷾㷿㸀㸁㸂㸃㸄㸅㸆㸇㸈㸉㸊㸋㸌㸍㸎㸏㸐㸑㸒㸓㸔㸕㸖㸗㸘㸙㸚㸛㸜㸝㸞㸟㸠㸡㸢㸣㸤㸥㸦㸧㸨㸩㸪㸫㸬㸭㸮㸯㸰㸱㸲㸳㸴㸵㸶㸷㸸㸹㸺㸻㸼㸽㸾㸿㹀㹁㹂㹃㹄㹅㹆㹇㹈㹉㹊㹋㹌㹍㹎㹏㹐㹑㹒㹓㹔㹕㹖㹗㹘㹙㹚㹛㹜㹝㹞㹟㹠㹡㹢㹣㹤㹥㹦㹧㹨㹩㹪㹫㹬㹭㹮㹯㹰㹱㹲㹳㹴㹵㹶㹷㹸㹹㹺㹻㹼㹽㹾㹿㺀㺁㺂㺃㺄㺅㺆㺇㺈㺉㺊㺋㺌㺍㺎㺏㺐㺑㺒㺓㺔㺕㺖㺗㺘㺙㺚㺛㺜㺝㺞㺟㺠㺡㺢㺣㺤㺥㺦㺧㺨㺩㺪㺫㺬㺭㺮㺯㺰㺱㺲㺳㺴㺵㺶㺷㺸㺹㺺㺻㺼㺽㺾㺿㻀㻁㻂㻃㻄㻅㻆㻇㻈㻉㻊㻋㻌㻍㻎㻏㻐㻑㻒㻓㻔㻕㻖㻗㻘㻙㻚㻛㻜㻝㻞㻟㻠㻡㻢㻣㻤㻥㻦㻧㻨㻩㻪㻫㻬㻭㻮㻯㻰㻱㻲㻳㻴㻵㻶㻷㻸㻹㻺㻻㻼㻽㻾㻿㼀㼁㼂㼃㼄㼅㼆㼇㼈㼉㼊㼋㼌㼍㼎㼏㼐㼑㼒㼓㼔㼕㼖㼗㼘㼙㼚㼛㼜㼝㼞㼟㼠㼡㼢㼣㼤㼥㼦㼧㼨㼩㼪㼫㼬㼭㼮㼯㼰㼱㼲㼳㼴㼵㼶㼷㼸㼹㼺㼻㼼㼽㼾㼿㽀㽁㽂㽃㽄㽅㽆㽇㽈㽉㽊㽋㽌㽍㽎㽏㽐㽑㽒㽓㽔㽕㽖㽗㽘㽙㽚㽛㽜㽝㽞㽟㽠㽡㽢㽣㽤㽥㽦㽧㽨㽩㽪㽫㽬㽭㽮㽯㽰㽱㽲㽳㽴㽵㽶㽷㽸㽹㽺㽻㽼㽽㽾㽿㾀㾁㾂㾃㾄㾅㾆㾇㾈㾉㾊㾋㾌㾍㾎㾏㾐㾑㾒㾓㾔㾕㾖㾗㾘㾙㾚㾛㾜㾝㾞㾟㾠㾡㾢㾣㾤㾥㾦㾧㾨㾩㾪㾫㾬㾭㾮㾯㾰㾱㾲㾳㾴㾵㾶㾷㾸㾹㾺㾻㾼㾽㾾㾿㿀㿁㿂㿃㿄㿅㿆㿇㿈㿉㿊㿋㿌㿍㿎㿏㿐㿑㿒㿓㿔㿕㿖㿗㿘㿙㿚㿛㿜㿝㿞㿟㿠㿡㿢㿣㿤㿥㿦㿧㿨㿩㿪㿫㿬㿭㿮㿯㿰㿱㿲㿳㿴㿵㿶㿷㿸㿹㿺㿻㿼㿽㿾㿿䀀䀁䀂䀃䀄䀅䀆䀇䀈䀉䀊䀋䀌䀍䀎䀏䀐䀑䀒䀓䀔䀕䀖䀗䀘䀙䀚䀛䀜䀝䀞䀟䀠䀡䀢䀣䀤䀥䀦䀧䀨䀩䀪䀫䀬䀭䀮䀯䀰䀱䀲䀳䀴䀵䀶䀷䀸䀹䀺䀻䀼䀽䀾䀿䁀䁁䁂䁃䁄䁅䁆䁇䁈䁉䁊䁋䁌䁍䁎䁏䁐䁑䁒䁓䁔䁕䁖䁗䁘䁙䁚䁛䁜䁝䁞䁟䁠䁡䁢䁣䁤䁥䁦䁧䁨䁩䁪䁫䁬䁭䁮䁯䁰䁱䁲䁳䁴䁵䁶䁷䁸䁹䁺䁻䁼䁽䁾䁿䂀䂁䂂䂃䂄䂅䂆䂇䂈䂉䂊䂋䂌䂍䂎䂏䂐䂑䂒䂓䂔䂕䂖䂗䂘䂙䂚䂛䂜䂝䂞䂟䂠䂡䂢䂣䂤䂥䂦䂧䂨䂩䂪䂫䂬䂭䂮䂯䂰䂱䂲䂳䂴䂵䂶䂷䂸䂹䂺䂻䂼䂽䂾䂿䃀䃁䃂䃃䃄䃅䃆䃇䃈䃉䃊䃋䃌䃍䃎䃏䃐䃑䃒䃓䃔䃕䃖䃗䃘䃙䃚䃛䃜䃝䃞䃟䃠䃡䃢䃣䃤䃥䃦䃧䃨䃩䃪䃫䃬䃭䃮䃯䃰䃱䃲䃳䃴䃵䃶䃷䃸䃹䃺䃻䃼䃽䃾䃿䄀䄁䄂䄃䄄䄅䄆䄇䄈䄉䄊䄋䄌䄍䄎䄏䄐䄑䄒䄓䄔䄕䄖䄗䄘䄙䄚䄛䄜䄝䄞䄟䄠䄡䄢䄣䄤䄥䄦䄧䄨䄩䄪䄫䄬䄭䄮䄯䄰䄱䄲䄳䄴䄵䄶䄷䄸䄹䄺䄻䄼䄽䄾䄿䅀䅁䅂䅃䅄䅅䅆䅇䅈䅉䅊䅋䅌䅍䅎䅏䅐䅑䅒䅓䅔䅕䅖䅗䅘䅙䅚䅛䅜䅝䅞䅟䅠䅡䅢䅣䅤䅥䅦䅧䅨䅩䅪䅫䅬䅭䅮䅯䅰䅱䅲䅳䅴䅵䅶䅷䅸䅹䅺䅻䅼䅽䅾䅿䆀䆁䆂䆃䆄䆅䆆䆇䆈䆉䆊䆋䆌䆍䆎䆏䆐䆑䆒䆓䆔䆕䆖䆗䆘䆙䆚䆛䆜䆝䆞䆟䆠䆡䆢䆣䆤䆥䆦䆧䆨䆩䆪䆫䆬䆭䆮䆯䆰䆱䆲䆳䆴䆵䆶䆷䆸䆹䆺䆻䆼䆽䆾䆿䇀䇁䇂䇃䇄䇅䇆䇇䇈䇉䇊䇋䇌䇍䇎䇏䇐䇑䇒䇓䇔䇕䇖䇗䇘䇙䇚䇛䇜䇝䇞䇟䇠䇡䇢䇣䇤䇥䇦䇧䇨䇩䇪䇫䇬䇭䇮䇯䇰䇱䇲䇳䇴䇵䇶䇷䇸䇹䇺䇻䇼䇽䇾䇿䈀䈁䈂䈃䈄䈅䈆䈇䈈䈉䈊䈋䈌䈍䈎䈏䈐䈑䈒䈓䈔䈕䈖䈗䈘䈙䈚䈛䈜䈝䈞䈟䈠䈡䈢䈣䈤䈥䈦䈧䈨䈩䈪䈫䈬䈭䈮䈯䈰䈱䈲䈳䈴䈵䈶䈷䈸䈹䈺䈻䈼䈽䈾䈿䉀䉁䉂䉃䉄䉅䉆䉇䉈䉉䉊䉋䉌䉍䉎䉏䉐䉑䉒䉓䉔䉕䉖䉗䉘䉙䉚䉛䉜䉝䉞䉟䉠䉡䉢䉣䉤䉥䉦䉧䉨䉩䉪䉫䉬䉭䉮䉯䉰䉱䉲䉳䉴䉵䉶䉷䉸䉹䉺䉻䉼䉽䉾䉿䊀䊁䊂䊃䊄䊅䊆䊇䊈䊉䊊䊋䊌䊍䊎䊏䊐䊑䊒䊓䊔䊕䊖䊗䊘䊙䊚䊛䊜䊝䊞䊟䊠䊡䊢䊣䊤䊥䊦䊧䊨䊩䊪䊫䊬䊭䊮䊯䊰䊱䊲䊳䊴䊵䊶䊷䊸䊹䊺䊻䊼䊽䊾䊿䋀䋁䋂䋃䋄䋅䋆䋇䋈䋉䋊䋋䋌䋍䋎䋏䋐䋑䋒䋓䋔䋕䋖䋗䋘䋙䋚䋛䋜䋝䋞䋟䋠䋡䋢䋣䋤䋥䋦䋧䋨䋩䋪䋫䋬䋭䋮䋯䋰䋱䋲䋳䋴䋵䋶䋷䋸䋹䋺䋻䋼䋽䋾䋿䌀䌁䌂䌃䌄䌅䌆䌇䌈䌉䌊䌋䌌䌍䌎䌏䌐䌑䌒䌓䌔䌕䌖䌗䌘䌙䌚䌛䌜䌝䌞䌟䌠䌡䌢䌣䌤䌥䌦䌧䌨䌩䌪䌫䌬䌭䌮䌯䌰䌱䌲䌳䌴䌵䌶䌷䌸䌹䌺䌻䌼䌽䌾䌿䍀䍁䍂䍃䍄䍅䍆䍇䍈䍉䍊䍋䍌䍍䍎䍏䍐䍑䍒䍓䍔䍕䍖䍗䍘䍙䍚䍛䍜䍝䍞䍟䍠䍡䍢䍣䍤䍥䍦䍧䍨䍩䍪䍫䍬䍭䍮䍯䍰䍱䍲䍳䍴䍵䍶䍷䍸䍹䍺䍻䍼䍽䍾䍿䎀䎁䎂䎃䎄䎅䎆䎇䎈䎉䎊䎋䎌䎍䎎䎏䎐䎑䎒䎓䎔䎕䎖䎗䎘䎙䎚䎛䎜䎝䎞䎟䎠䎡䎢䎣䎤䎥䎦䎧䎨䎩䎪䎫䎬䎭䎮䎯䎰䎱䎲䎳䎴䎵䎶䎷䎸䎹䎺䎻䎼䎽䎾䎿䏀䏁䏂䏃䏄䏅䏆䏇䏈䏉䏊䏋䏌䏍䏎䏏䏐䏑䏒䏓䏔䏕䏖䏗䏘䏙䏚䏛䏜䏝䏞䏟䏠䏡䏢䏣䏤䏥䏦䏧䏨䏩䏪䏫䏬䏭䏮䏯䏰䏱䏲䏳䏴䏵䏶䏷䏸䏹䏺䏻䏼䏽䏾䏿䐀䐁䐂䐃䐄䐅䐆䐇䐈䐉䐊䐋䐌䐍䐎䐏䐐䐑䐒䐓䐔䐕䐖䐗䐘䐙䐚䐛䐜䐝䐞䐟䐠䐡䐢䐣䐤䐥䐦䐧䐨䐩䐪䐫䐬䐭䐮䐯䐰䐱䐲䐳䐴䐵䐶䐷䐸䐹䐺䐻䐼䐽䐾䐿䑀䑁䑂䑃䑄䑅䑆䑇䑈䑉䑊䑋䑌䑍䑎䑏䑐䑑䑒䑓䑔䑕䑖䑗䑘䑙䑚䑛䑜䑝䑞䑟䑠䑡䑢䑣䑤䑥䑦䑧䑨䑩䑪䑫䑬䑭䑮䑯䑰䑱䑲䑳䑴䑵䑶䑷䑸䑹䑺䑻䑼䑽䑾䑿䒀䒁䒂䒃䒄䒅䒆䒇䒈䒉䒊䒋䒌䒍䒎䒏䒐䒑䒒䒓䒔䒕䒖䒗䒘䒙䒚䒛䒜䒝䒞䒟䒠䒡䒢䒣䒤䒥䒦䒧䒨䒩䒪䒫䒬䒭䒮䒯䒰䒱䒲䒳䒴䒵䒶䒷䒸䒹䒺䒻䒼䒽䒾䒿䓀䓁䓂䓃䓄䓅䓆䓇䓈䓉䓊䓋䓌䓍䓎䓏䓐䓑䓒䓓䓔䓕䓖䓗䓘䓙䓚䓛䓜䓝䓞䓟䓠䓡䓢䓣䓤䓥䓦䓧䓨䓩䓪䓫䓬䓭䓮䓯䓰䓱䓲䓳䓴䓵䓶䓷䓸䓹䓺䓻䓼䓽䓾䓿䔀䔁䔂䔃䔄䔅䔆䔇䔈䔉䔊䔋䔌䔍䔎䔏䔐䔑䔒䔓䔔䔕䔖䔗䔘䔙䔚䔛䔜䔝䔞䔟䔠䔡䔢䔣䔤䔥䔦䔧䔨䔩䔪䔫䔬䔭䔮䔯䔰䔱䔲䔳䔴䔵䔶䔷䔸䔹䔺䔻䔼䔽䔾䔿䕀䕁䕂䕃䕄䕅䕆䕇䕈䕉䕊䕋䕌䕍䕎䕏䕐䕑䕒䕓䕔䕕䕖䕗䕘䕙䕚䕛䕜䕝䕞䕟䕠䕡䕢䕣䕤䕥䕦䕧䕨䕩䕪䕫䕬䕭䕮䕯䕰䕱䕲䕳䕴䕵䕶䕷䕸䕹䕺䕻䕼䕽䕾䕿䖀䖁䖂䖃䖄䖅䖆䖇䖈䖉䖊䖋䖌䖍䖎䖏䖐䖑䖒䖓䖔䖕䖖䖗䖘䖙䖚䖛䖜䖝䖞䖟䖠䖡䖢䖣䖤䖥䖦䖧䖨䖩䖪䖫䖬䖭䖮䖯䖰䖱䖲䖳䖴䖵䖶䖷䖸䖹䖺䖻䖼䖽䖾䖿䗀䗁䗂䗃䗄䗅䗆䗇䗈䗉䗊䗋䗌䗍䗎䗏䗐䗑䗒䗓䗔䗕䗖䗗䗘䗙䗚䗛䗜䗝䗞䗟䗠䗡䗢䗣䗤䗥䗦䗧䗨䗩䗪䗫䗬䗭䗮䗯䗰䗱䗲䗳䗴䗵䗶䗷䗸䗹䗺䗻䗼䗽䗾䗿䘀䘁䘂䘃䘄䘅䘆䘇䘈䘉䘊䘋䘌䘍䘎䘏䘐䘑䘒䘓䘔䘕䘖䘗䘘䘙䘚䘛䘜䘝䘞䘟䘠䘡䘢䘣䘤䘥䘦䘧䘨䘩䘪䘫䘬䘭䘮䘯䘰䘱䘲䘳䘴䘵䘶䘷䘸䘹䘺䘻䘼䘽䘾䘿䙀䙁䙂䙃䙄䙅䙆䙇䙈䙉䙊䙋䙌䙍䙎䙏䙐䙑䙒䙓䙔䙕䙖䙗䙘䙙䙚䙛䙜䙝䙞䙟䙠䙡䙢䙣䙤䙥䙦䙧䙨䙩䙪䙫䙬䙭䙮䙯䙰䙱䙲䙳䙴䙵䙶䙷䙸䙹䙺䙻䙼䙽䙾䙿䚀䚁䚂䚃䚄䚅䚆䚇䚈䚉䚊䚋䚌䚍䚎䚏䚐䚑䚒䚓䚔䚕䚖䚗䚘䚙䚚䚛䚜䚝䚞䚟䚠䚡䚢䚣䚤䚥䚦䚧䚨䚩䚪䚫䚬䚭䚮䚯䚰䚱䚲䚳䚴䚵䚶䚷䚸䚹䚺䚻䚼䚽䚾䚿䛀䛁䛂䛃䛄䛅䛆䛇䛈䛉䛊䛋䛌䛍䛎䛏䛐䛑䛒䛓䛔䛕䛖䛗䛘䛙䛚䛛䛜䛝䛞䛟䛠䛡䛢䛣䛤䛥䛦䛧䛨䛩䛪䛫䛬䛭䛮䛯䛰䛱䛲䛳䛴䛵䛶䛷䛸䛹䛺䛻䛼䛽䛾䛿䜀䜁䜂䜃䜄䜅䜆䜇䜈䜉䜊䜋䜌䜍䜎

〔八四六二〕
白嫌味なり

白十一面白から、九白遂に二七、其取りも味ずし、に隅を攻めて白五面に猶黒に手段の餘地（殘れり。前々圖參照）

〔八四六三〕
形勢互角

白二三の時、黒は白二四九・三一と手寄り、此の分れ先づ互角なり。即ち黒三四にて白ロには結ざ順白攻合ふ時は符號果カと攻なる。次に黒も手ッメルも白は猶を手を蓋し黒然には右の經緯を未だ察して圖の如く三四以下八の三劫と飛んで劫を暫く狙ひ、時機を見て劫ひしと攻合すると、今や、黒三四・※

〔八四六四〕
互角

白二九と圍之とは約す。黒は手を十れ、ど二に打抜かれて一三、眼も非ず合ひは攻を有利に白ると白一三に、黒三四六に一て五五と、打可

〔八四六五〕
白攻合敗

白前圖三七より變化す。（一）手抜白三七、惡い！白が黒四空の攻合ゆく敗なり。遂圖雄潰なり。黒四八も良着なり。

〔八四六六〕
可否征に決す

黒十二の時、白（二）手抜に黒十三の手あり、白十二に至る、此手征宜しき時は、イ黒手綿ねる善しる。（征とは、黒イの次に白二十、黒ロ白ハ黒ニ白ホ）

〔八四六七〕
白敗

圖の如き形は、實に黒戰ば一白氣を直ぐ。肺腑手なり衝くに、白一四しは、イ黒七次に十打一つ白イ五に白一五と十かくる白べにくく。黒位八半の白のは、黒一手は筋で左右死ま手ーはず。一打死せの眼のば、黒十五ま手。味も白はり上にて

〔八四六八〕
白慘敗

白若し、二の尖めば、黒四に取白を切左れ。俏ば黒ハ本圖の如く黒善白し。

〔八四六九〕
場合

白一、黒二手抜の時、白に三と打つ機手を見るとの要あは時り。四縦堅を疊をる八下隙間も黒はり。

〔八四七〇〕
要點約言

（第七九型イの其一一）

白十への時、黒は（九十手抜）イと備ふが正着。若し十に白抜が打込ば、十二以下は、種々變化あれど※

〔八四七一〕
基本圖

（第七九型イの其一二）

黒七までの定型となりし時に、白の手段は、形勢如何によ等ばべく、時に白面

〔八四七二〕
場合の定石

白八、此時、黒は、九と十三とあり。此手で一十三は好形。白十の南は綴大鵬圖。黒十の五委・七しは、時機を見る

〔八四七三〕
常形

奇想天外、白七の一着、狙ふ黒八、此時白は七を暫く放ち、他を利して白七を重をく。直ちに見るも若し白は直ちに逃出す。悪し。

〔八四七四〕
黒に稍利あり

白五は、飽くまで（九十手抜）の斷點を狙ふ。白イの點ふもの、六・八・十形、猶此れ、黒ロ之を防ぐ。黒ハ以下大勢威嚴の白チを遺味を含んで面白し。

〔八四七五〕
黒面白し

白七もあり。白十四なれば、三を十四に遂白イ黒十三に黒ハ即ち潰れを見るとニと。黒ニに次ホに白と征宜出し、黒ヘ白ト黒チ白劫取せば黒リ。

〔八四七六〕
黒優れり

黒八・而して十と打つ手、宜。白十二は一廻にけては二子を無し。黒二四をで外の九にて七と十二の外の勢優れり。

〔八四七七〕
黒凝形

白いま七に一石を上に、水に如何なる紋の生ず偵へり。黒八好をかる。白勇ま七ずに十躍し巧妙なる取の其形重複せり。

〔八四七八〕
參考圖

白一、變則。場合は稀なり。黒二つ佳は手なり。左方は呼ひ應ての堂の構へ狙ふ黒ひ廣げしもの。黒四とは白不氣のり。又白一はで之。黒二は宜しい。

〔八四七一〕
形勢互角

先勝 小野寺新二段 時 向井一男四段

此形、（ロの白を攻むるに）黒一と斜に走せしは、次に白イに飛ぶを二はで含んロ白二の時、黒形三七・五固・七先ぶ、外圍・三ろ・一と黒ロに敵の攻據の嗾ふ。

尋ぐづ黒九の據を奪ると二迫るの白は乎甚だ危ふし好點なり。

白は、重圍脫出の不利なるを懷ひて十に綽上く。見合白十二以下、爲に白遂※

※に三二まで、白散々の形、黒勢強厚、勝敗既に決せり。

活きしも

〔八四八〇〕
形勢不明

黒一は前圖の十二。黒三の粘ぎは、無理なり。白十に黒五にて、白七の戰には、黒十三の一作次に白ホ黒ヘの白ハ黒トニ白ホイ圖の白の四に至つては、黒白の四に形勢不明、天下混沌と定まらず。——さして定形より見るに黒無理に近し矣。

〔八四八一〕
白、一策なり

黒八・十と取る。此時白十一・十三と取るは、黒密かに他日の雲蒸龍變を期す。黒十四に取りしも猶ほ白イ、ロなどの味殘れり。

〔八四八二〕
白外勢を占む

征宜しく、白九も亦あり。黒十の時、白打抜みずして善し。黒十一は此場合は三もあり。但しは二黒イ白ロの味殘る。

〔八四八三〕
黒優れり

白十二は、打過ぎ。白は三では十六に活き、黒十六と折角の十八・白二夢と消え果つ。黒は、打つて十一以下九も、豪華の一局なりき。

〔八四八四〕
常形

白八の時、黒穩かに黒九と打つ手もあり。黒十一で白イなる型も、黒十一で白ハなる型も、但し黒ニの出しを狙ふ、黒ニの宜し。

〔八四八五〕
白厚し

先番 林有太郎 四段
勝 福田正義 四段

黒一は、敵の急所へ喰ひ込む例の如し。手段なれど、白二は巧みに躱せり、面白し。黒三は六に白十と打つ外なし。白十六の守りは、黒の外ありまじ。（白ロ黒ハと黒ムのある形）

〔八四八六〕
黒堅し

黒を堅くするは、普通なり。蓋し黒は稀に用ひらるる形なり。白二は低けれども、黒四は形を整へ、白ロに黒ハと白ニに整へ、白イは黒ホと形を整へたり。

〔八四八七〕
白形整はず

白五と附ける筋、稍無理なり！黒六、以下白十二にて白十三と黒十一に曲りて善し。白十一にては白十三と黒十一に曲りて善し。黒四の厚くなりて白味惡しく好まず。

〔八四八八〕
場合

黒十二は當然あり。白十三で求めたる事小なり。白イは四を活かす手段なれども、黒五の地厚くなる故に優劣未だ定まらず。

〔八四八九〕
黒優勢

白九の切りに十と打ちかゝるを、黒十一と子を捨てゝ白十の一手に打抜きしは、黒多くの場合に遂に白を攻め出して厚く、且つ白ロの惡形となりて、壯快なり。其ツ妥當なるもの。

〔八四九〇〕
白の外勢宜し

黒二・四・六の應手、緩けれども、實に堅し。七に至つては、白の外勢厚し。此勢を移し、白二の一手を省きて、黒は遂に虚喝をして名を成すの慨あり。

〔八四九一〕
要點約言

（第七九型イの一）
（第一變化の其二）
（第一變化の其三）

黒七の時、白はイの定石の外にロとハとあり。ロは手筋にして、時によりても面白し。ハイは鋭き手なれど、四圖の狀勢が圖※

〔八四九二〕
基本圖

（第七九型イの一）
（第一變化の其三）

黒七の時、白の手抜も亦實戰に見る形なり。その時黒イの手段及びロあり。※

〔八四九三〕
定石

黒九は上邊を厚く打つの意なり。十を手抜く形なり。十一は黒の形なれば、白は窮屈なり。又白十にては、イ（八五一四圖）もあり。

〔八四九四〕
黒時機を見よ

此處、黒から（三）手抜は四、六と打つ手もあり、されどこれは時機を見るの要あり。黒四は五また黒六はイもあり。

〔八四九五〕
黒の配置善し

先勝 宮坂栄二六段
勝 長谷川章 四段 當時

黒左上隅に（ロの一）の守り、上邊に（ハの一）の守り、此處に備等のある形にては、黒一の大斜は、これら互に相呼應し、大いに一界に面白く入るの一手なり。白は此場合の一局に緩しとなすべく、十は若誠に好手なり。

〔八四九六〕
互角の分れ

飯田春治 四段
福原義虎 初段
三・五・六手抜

白三以下七まで、黒は宜しく、手抜きなれば、白は窮屈なり。白十下りて可なり。黒九以下十一まで、黒の二子を屠りて、互角の分れ。

〔八四九七〕
互角の分れ

白一と衝いて出るの（ロ△）手段、黒二と時に白を買ひ、黒四手筋なれど、白は止むを得ず。黒六、八の※あり。

〔八四九八〕
白、一策なり

白十三前圖のイよりは風に富めり。黒十四、氣合の籠りし一着なり。十七、黒八、共に本手也。白十七形の前圖も、白の一形にて得失較し比べて大差無し。

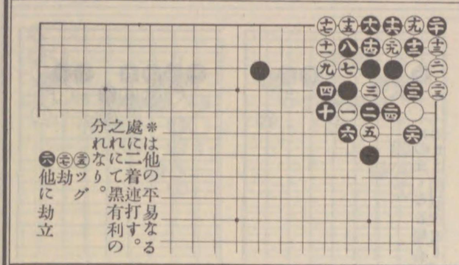
〔八四九九〕
双方無難の形

白十二、黒十二、白穩健。若し黒十二を白ハ、黒ニ、白イ、黒ロニ、白ホと黒右邊に地を與へて、白先にて地を損し、黒多く場合好まず。此分れは白先手、黒は形厚し。

〔八五〇二〕
黒稍厚し

黒四而單に黒六と差異あり。白三の時、六には微妙にて、白七下りて八四、九圖まで同形。白十一にて宜し。イも働きあり。

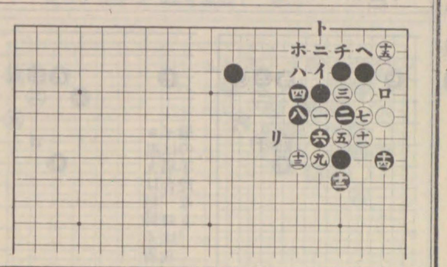
〔八五〇一〕
黒面白し



黒六が出の妙味を含んだ巧妙な抛手。白は十段の切り、黒無理なり。黒八と打抜くなど優れる方更に十六と打抜く可と運ぶも、白十二と抛ち、十三と無念抑へ、白十五と抛ち、十七と優れる。白十九と抛ち、黒八と厚く攻合一手。

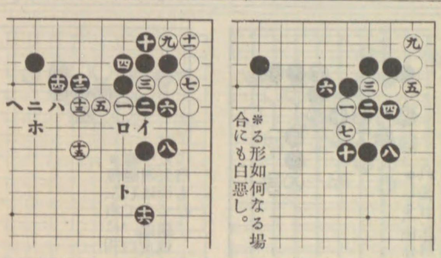
※處に二着連打すれば黒有利の分れなり。

〔八五〇二〕
白悪し



黒透かさず六と打ち込み、白七と活き、黒八と抜き、白九と以下自然の成行。

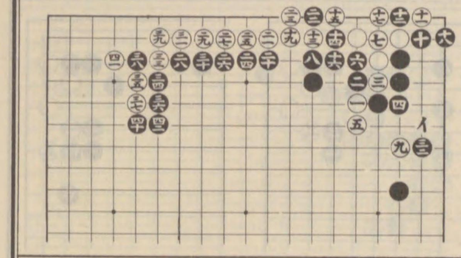
〔八五〇三〕
白低く悪し



黒最善を重ねて形を整へ、白七と好手。黒八と打ち込み、白九と以下自然の成行。

※白の四目中の形勢は、左右相隣れる敵の弱点を攻めて、形勢相當の利あり。

〔八五〇四〕
黒可なり



黒四、面白し。白五をイと打つは、黒ロに白悪し。（八五〇二圖參照）。白ホと打つは、黒ハに白十六と抜き、黒ヘの時白十七と打つべし。白を其時隔てて黒トにあり。

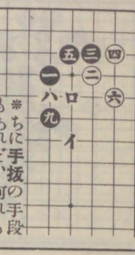
〔八五〇五〕
黒大いに優れり

黒六・八の勇無理手を白九・十と巧みに渡して、黒の缺点を補ひ、白の十段二眼を作りたる上、黒七と三線に迫り、白八と厚く壁を築きたる黒二つの變化一は、白十一と打ち込み、黒十二と抜き、白十三と取りたる黒三つの變化二は、白十四と抜き、黒十五と打ち込み、白十六と取りたる黒四つの變化三は、白十七と抜き、黒十八と打ち込み、白十九と取りたる黒五つの變化四は、白二十と抜き、黒二十一と打ち込み、白二十二と取りたる黒六つの變化五は、白二十三と抜き、黒二十四と打ち込み、白二十五と取りたる黒七つの變化六は、白二十六と抜き、黒二十七と打ち込み、白二十八と取りたる黒八つの變化七は、白二十九と抜き、黒三十と打ち込み、白三十一と取りたる黒九つの變化八は、白三十二と抜き、黒三十三と打ち込み、白三十四と取りたる黒十つの變化九は、白三十五と抜き、黒三十六と打ち込み、白三十七と取りたる黒十一つの變化十は、白三十八と抜き、黒三十九と打ち込み、白四十と取りたる黒十二つの變化十一は、白四十一と抜き、黒四十二と打ち込み、白四十三と取りたる黒十三つの變化十二は、白四十四と抜き、黒四十五と打ち込み、白四十六と取りたる黒十四つの變化十三は、白四十七と抜き、黒四十八と打ち込み、白四十九と取りたる黒十五つの變化十四は、白五十と抜き、黒五十一と打ち込み、白五十二と取りたる黒十六つの變化十五は、白五十三と抜き、黒五十四と打ち込み、白五十五と取りたる黒十七つの變化十六は、白五十六と抜き、黒五十七と打ち込み、白五十八と取りたる黒十八つの變化十七は、白五十九と抜き、黒六十と打ち込み、白六十一と取りたる黒十九つの變化十八は、白六十二と抜き、黒六十三と打ち込み、白六十四と取りたる黒二十つの變化十九は、白六十五と抜き、黒六十六と打ち込み、白六十七と取りたる黒二十一つの變化二十は、白六十八と抜き、黒六十九と打ち込み、白七十と取りたる黒二十二つの變化二十一は、白七十一と抜き、黒七十二と打ち込み、白七十三と取りたる黒二十三つの變化二十二は、白七十四と抜き、黒七十五と打ち込み、白七十六と取りたる黒二十四つの變化二十三は、白七十七と抜き、黒七十八と打ち込み、白七十九と取りたる黒二十五つの變化二十四は、白八十と抜き、黒八十一と打ち込み、白八十二と取りたる黒二十六つの變化二十五は、白八十三と抜き、黒八十四と打ち込み、白八十五と取りたる黒二十七つの變化二十六は、白八十六と抜き、黒八十七と打ち込み、白八十八と取りたる黒二十八つの變化二十七は、白八十九と抜き、黒九十と打ち込み、白九十一と取りたる黒二十九つの變化二十八は、白九十二と抜き、黒九十三と打ち込み、白九十四と取りたる黒三十つの變化二十九は、白九十五と抜き、黒九十六と打ち込み、白九十七と取りたる黒三十一つの變化三十は、白九十八と抜き、黒九十九と打ち込み、白百と取りたる黒三十二つの變化三十一は、白百一と抜き、黒百二と打ち込み、白百三と取りたる黒三十三つの變化三十二は、白百四と抜き、黒百五と打ち込み、白百六と取りたる黒三十四つの變化三十三は、白百七と抜き、黒百八と打ち込み、白百九と取りたる黒三十五つの變化三十四は、白百十と抜き、黒百十一と打ち込み、白百十二と取りたる黒三十六つの變化三十五は、白百十三と抜き、黒百十四と打ち込み、白百十五と取りたる黒三十七つの變化三十六は、白百十六と抜き、黒百十七と打ち込み、白百十八と取りたる黒三十八つの變化三十七は、白百十九と抜き、黒百二十と打ち込み、白百二十一と取りたる黒三十九つの變化三十八は、白百二十二と抜き、黒百二十三と打ち込み、白百二十四と取りたる黒四十つの變化三十九は、白百二十五と抜き、黒百二十六と打ち込み、白百二十七と取りたる黒四十一つの變化四十は、白百二十八と抜き、黒百二十九と打ち込み、白百三十と取りたる黒四十二つの變化四十一は、白百三十一と抜き、黒百三十二と打ち込み、白百三十三と取りたる黒四十三つの變化四十二は、白百三十四と抜き、黒百三十五と打ち込み、白百三十六と取りたる黒四十四つの變化四十三は、白百三十七と抜き、黒百三十八と打ち込み、白百三十九と取りたる黒四十五つの變化四十四は、白百四十と抜き、黒百四十一と打ち込み、白百四十二と取りたる黒四十六つの變化四十五は、白百四十三と抜き、黒百四十四と打ち込み、白百四十五と取りたる黒四十七つの變化四十六は、白百四十六と抜き、黒百四十七と打ち込み、白百四十八と取りたる黒四十八つの變化四十七は、白百四十九と抜き、黒百五十と打ち込み、白百五十一と取りたる黒四十九つの變化四十八は、白百五十二と抜き、黒百五十三と打ち込み、白百五十四と取りたる黒五十つの變化四十九は、白百五十五と抜き、黒百五十六と打ち込み、白百五十七と取りたる黒五十一つの變化五十は、白百五十八と抜き、黒百五十九と打ち込み、白百六十と取りたる黒五十二つの變化五十一は、白百六十一と抜き、黒百六十二と打ち込み、白百六十三と取りたる黒五十三つの變化五十二は、白百六十四と抜き、黒百六十五と打ち込み、白百六十六と取りたる黒五十四つの變化五十三は、白百六十七と抜き、黒百六十八と打ち込み、白百六十九と取りたる黒五十五つの變化五十四は、白百七十と抜き、黒百七十一と打ち込み、白百七十二と取りたる黒五十六つの變化五十五は、白百七十三と抜き、黒百七十四と打ち込み、白百七十五と取りたる黒五十七つの變化五十六は、白百七十六と抜き、黒百七十七と打ち込み、白百七十八と取りたる黒五十八つの變化五十七は、白百七十九と抜き、黒百八十と打ち込み、白百八十一と取りたる黒五十九つの變化五十八は、白百八十二と抜き、黒百八十三と打ち込み、白百八十四と取りたる黒六十つの變化五十九は、白百八十五と抜き、黒百八十六と打ち込み、白百八十七と取りたる黒六十一つの變化六十は、白百八十八と抜き、黒百八十九と打ち込み、白百九十と取りたる黒六十二つの變化六十一は、白百九十一と抜き、黒百九十二と打ち込み、白百九十三と取りたる黒六十三つの變化六十二は、白百九十四と抜き、黒百九十五と打ち込み、白百九十六と取りたる黒六十四つの變化六十三は、白百九十七と抜き、黒百九十八と打ち込み、白百九十九と取りたる黒六十五つの變化六十四は、白二百と抜き、黒二百一と打ち込み、白二百二と取りたる黒六十六つの變化六十五は、白二百三と抜き、黒二百四と打ち込み、白二百五と取りたる黒六十七つの變化六十六は、白二百六と抜き、黒二百七と打ち込み、白二百八と取りたる黒六十八つの變化六十七は、白二百九と抜き、黒二百十と打ち込み、白二百十一と取りたる黒六十九つの變化六十八は、白二百十二と抜き、黒二百十三と打ち込み、白二百十四と取りたる黒七十つの變化六十九は、白二百十五と抜き、黒二百十六と打ち込み、白二百十七と取りたる黒七十一つの變化七十は、白二百十八と抜き、黒二百十九と打ち込み、白二百二十と取りたる黒七十二つの變化七十一は、白二百二十一と抜き、黒二百二十二と打ち込み、白二百二十三と取りたる黒七十三つの變化七十二は、白二百二十四と抜き、黒二百二十五と打ち込み、白二百二十六と取りたる黒七十四つの變化七十三は、白二百二十七と抜き、黒二百二十八と打ち込み、白二百二十九と取りたる黒七十五つの變化七十四は、白二百三十と抜き、黒二百三十一と打ち込み、白二百三十二と取りたる黒七十六つの變化七十五は、白二百三十三と抜き、黒二百三十四と打ち込み、白二百三十五と取りたる黒七十七つの變化七十六は、白二百三十六と抜き、黒二百三十七と打ち込み、白二百三十八と取りたる黒七十八つの變化七十七は、白二百三十九と抜き、黒二百四十と打ち込み、白二百四十一と取りたる黒七十九つの變化七十八は、白二百四十二と抜き、黒二百四十三と打ち込み、白二百四十四と取りたる黒八十つの變化七十九は、白二百四十五と抜き、黒二百四十六と打ち込み、白二百四十七と取りたる黒八十一つの變化八十は、白二百四十八と抜き、黒二百四十九と打ち込み、白二百五十と取りたる黒八十二つの變化八十一は、白二百五十一と抜き、黒二百五十二と打ち込み、白二百五十三と取りたる黒八十三つの變化八十二は、白二百五十四と抜き、黒二百五十五と打ち込み、白二百五十六と取りたる黒八十四つの變化八十三は、白二百五十七と抜き、黒二百五十八と打ち込み、白二百五十九と取りたる黒八十五つの變化八十四は、白二百六十と抜き、黒二百六十一と打ち込み、白二百六十二と取りたる黒八十六つの變化八十五は、白二百六十三と抜き、黒二百六十四と打ち込み、白二百六十五と取りたる黒八十七つの變化八十六は、白二百六十六と抜き、黒二百六十七と打ち込み、白二百六十八と取りたる黒八十八つの變化八十七は、白二百六十九と抜き、黒二百七十と打ち込み、白二百七十一と取りたる黒八十九つの變化八十八は、白二百七十二と抜き、黒二百七十三と打ち込み、白二百七十四と取りたる黒九十つの變化八十九は、白二百七十五と抜き、黒二百七十六と打ち込み、白二百七十七と取りたる黒九十一つの變化九十は、白二百七十八と抜き、黒二百七十九と打ち込み、白二百八十と取りたる黒九十二つの變化九十一は、白二百八十一と抜き、黒二百八十二と打ち込み、白二百八十三と取りたる黒九十三つの變化九十二は、白二百八十四と抜き、黒二百八十五と打ち込み、白二百八十六と取りたる黒九十四つの變化九十三は、白二百八十七と抜き、黒二百八十八と打ち込み、白二百八十九と取りたる黒九十五つの變化九十四は、白二百九十と抜き、黒二百九十一と打ち込み、白二百九十二と取りたる黒九十六つの變化九十五は、白二百九十三と抜き、黒二百九十四と打ち込み、白二百九十五と取りたる黒九十七つの變化九十六は、白二百九十六と抜き、黒二百九十七と打ち込み、白二百九十八と取りたる黒九十八つの變化九十七は、白二百九十九と抜き、黒三百と打ち込み、白三百一と取りたる黒九十九つの變化九十八は、白三百二と抜き、黒三百三と打ち込み、白三百四と取りたる黒百つの變化九十九は、白三百五と抜き、黒三百六と打ち込み、白三百七と取りたる黒百一つの變化百は、白三百八と抜き、黒三百九と打ち込み、白三百十と取りたる黒百二つの變化百一は、白三百十一と抜き、黒三百十二と打ち込み、白三百十三と取りたる黒百三つの變化百二は、白三百十四と抜き、黒三百十五と打ち込み、白三百十六と取りたる黒百四つの變化百三は、白三百十七と抜き、黒三百十八と打ち込み、白三百十九と取りたる黒百五つの變化百四は、白三百二十と抜き、黒三百二十一と打ち込み、白三百二十二と取りたる黒百六つの變化百五は、白三百二十三と抜き、黒三百二十四と打ち込み、白三百二十五と取りたる黒百七つの變化百六は、白三百二十六と抜き、黒三百二十七と打ち込み、白三百二十八と取りたる黒百八つの變化百七は、白三百二十九と抜き、黒三百三十と打ち込み、白三百三十一と取りたる黒百九つの變化百八は、白三百三十二と抜き、黒三百三十三と打ち込み、白三百三十四と取りたる黒百十つの變化百九は、白三百三十五と抜き、黒三百三十六と打ち込み、白三百三十七と取りたる黒百十一つの變化百十は、白三百三十八と抜き、黒三百三十九と打ち込み、白三百四十と取りたる黒百十二つの變化百十一は、白三百四十一と抜き、黒三百四十二と打ち込み、白三百四十三と取りたる黒百十三つの變化百十二は、白三百四十四と抜き、黒三百四十五と打ち込み、白三百四十六と取りたる黒百十四つの變化百十三は、白三百四十七と抜き、黒三百四十八と打ち込み、白三百四十九と取りたる黒百十五つの變化百十四は、白三百五十と抜き、黒三百五十一と打ち込み、白三百五十二と取りたる黒百十六つの變化百十五は、白三百五十三と抜き、黒三百五十四と打ち込み、白三百五十五と取りたる黒百十七つの變化百十六は、白三百五十六と抜き、黒三百五十七と打ち込み、白三百五十八と取りたる黒百十八つの變化百十七は、白三百五十九と抜き、黒三百六十と打ち込み、白三百六十一と取りたる黒百十九つの變化百十八は、白三百六十二と抜き、黒三百六十三と打ち込み、白三百六十四と取りたる黒百二十つの變化百十九は、白三百六十五と抜き、黒三百六十六と打ち込み、白三百六十七と取りたる黒百二十一つの變化百二十は、白三百六十八と抜き、黒三百六十九と打ち込み、白三百七十と取りたる黒百二十二つの變化百二十一は、白三百七十一と抜き、黒三百七十二と打ち込み、白三百七十三と取りたる黒百二十三つの變化百二十二は、白三百七十四と抜き、黒三百七十五と打ち込み、白三百七十六と取りたる黒百二十四つの變化百二十三は、白三百七十七と抜き、黒三百七十八と打ち込み、白三百七十九と取りたる黒百二十五つの變化百二十四は、白三百八十と抜き、黒三百八十一と打ち込み、白三百八十二と取りたる黒百二十六つの變化百二十五は、白三百八十三と抜き、黒三百八十四と打ち込み、白三百八十五と取りたる黒百二十七つの變化百二十六は、白三百八十六と抜き、黒三百八十七と打ち込み、白三百八十八と取りたる黒百二十八つの變化百二十七は、白三百八十九と抜き、黒三百九十と打ち込み、白三百九十一と取りたる黒百二十九つの變化百二十八は、白三百九十二と抜き、黒三百九十三と打ち込み、白三百九十四と取りたる黒百三十つの變化百二十九は、白三百九十五と抜き、黒三百九十六と打ち込み、白三百九十七と取りたる黒百三十一つの變化百三十は、白三百九十八と抜き、黒三百九十九と打ち込み、白四百と取りたる黒百三十二つの變化百三十一は、白四百一と抜き、黒四百二と打ち込み、白四百三と取りたる黒百三十三つの變化百三十二は、白四百四と抜き、黒四百五と打ち込み、白四百六と取りたる黒百三十四つの變化百三十三は、白四百七と抜き、黒四百八と打ち込み、白四百九と取りたる黒百三十五つの變化百三十四は、白四百十と抜き、黒四百十一と打ち込み、白四百十二と取りたる黒百三十六つの變化百三十五は、白四百十三と抜き、黒四百十四と打ち込み、白四百十五と取りたる黒百三十七つの變化百三十六は、白四百十六と抜き、黒四百十七と打ち込み、白四百十八と取りたる黒百三十八つの變化百三十七は、白四百十九と抜き、黒四百二十と打ち込み、白四百二十一と取りたる黒百三十九つの變化百三十八は、白四百二十二と抜き、黒四百二十三と打ち込み、白四百二十四と取りたる黒百四十つの變化百三十九は、白四百二十五と抜き、黒四百二十六と打ち込み、白四百二十七と取りたる黒百四十一つの變化百四十は、白四百二十八と抜き、黒四百二十九と打ち込み、白四百三十と取りたる黒百四十二つの變化百四十一は、白四百三十一と抜き、黒四百三十二と打ち込み、白四百三十三と取りたる黒百四十三つの變化百四十二は、白四百三十四と抜き、黒四百三十五と打ち込み、白四百三十六と取りたる黒百四十四つの變化百四十三は、白四百三十七と抜き、黒四百三十八と打ち込み、白四百三十九と取りたる黒百四十五つの變化百四十四は、白四百四十と抜き、黒四百四十一と打ち込み、白四百四十二と取りたる黒百四十六つの變化百四十五は、白四百四十三と抜き、黒四百四十四と打ち込み、白四百四十五と取りたる黒百四十七つの變化百四十六は、白四百四十六と抜き、黒四百四十七と打ち込み、白四百四十八と取りたる黒百四十八つの變化百四十七は、白四百四十九と抜き、黒四百五十と打ち込み、白四百五十一と取りたる黒百四十九つの變化百四十八は、白四百五十二と抜き、黒四百五十三と打ち込み、白四百五十四と取りたる黒百五十つの變化百四十九は、白四百五十五と抜き、黒四百五十六と打ち込み、白四百五十七と取りたる黒百五十一つの變化百五十は、白四百五十八と抜き、黒四百五十九と打ち込み、白四百六十と取りたる黒百五十二つの變化百五十一は、白四百六十一と抜き、黒四百六十二と打ち込み、白四百六十三と取りたる黒百五十三つの變化百五十二は、白四百六十四と抜き、黒四百六十五と打ち込み、白四百六十六と取りたる黒百五十四つの變化百五十三は、白四百六十七と抜き、黒四百六十八と打ち込み、白四百六十九と取りたる黒百五十五つの變化百五十四は、白五百と抜き、黒五百一と打ち込み、白五百二と取りたる黒百五十六つの變化百五十五は、白五百三と抜き、黒五百四と打ち込み、白五百五と取りたる黒百五十七つの變化百五十六は、白五百六と抜き、黒五百七と打ち込み、白五百八と取りたる黒百五十八つの變化百五十七は、白五百九と抜き、黒五百十と打ち込み、白五百十一と取りたる黒百五十九つの變化百五十八は、白五百十二と抜き、黒五百十三と打ち込み、白五百十四と取りたる黒百六十つの變化百五十九は、白五百十五と抜き、黒五百十六と打ち込み、白五百十七と取りたる黒百六十一つの變化百六十は、白五百十八と抜き、黒五百十九と打ち込み、白五百二十と取りたる黒百六十二つの變化百六十一は、白五百二十一と抜き、黒五百二十二と打ち込み、白五百二十三と取りたる黒百六十三つの變化百六十二は、白五百二十四と抜き、黒五百二十五と打ち込み、白五百二十六と取りたる黒百六十四つの變化百六十三は、白五百二十七と抜き、黒五百二十八と打ち込み、白五百二十九と取りたる黒百六十五つの變化百六十四は、白五百三十と抜き、黒五百三十一と打ち込み、白五百三十二と取りたる黒百六十六つの變化百六十五は、白五百三十三と抜き、黒五百三十四と打ち込み、白五百三十五と取りたる黒百六十七つの變化百六十六は、白五百三十六と抜き、黒五百三十七と打ち込み、白五百三十八と取りたる黒百六十八つの變化百六十七は、白五百三十九と抜き、黒五百四十と打ち込み、白五百四十一と取りたる黒百六十九つの變化百六十八は、白五百四十二と抜き、黒五百四十三と打ち込み、白五百四十四と取りたる黒百七十つの變化百六十九は、白五百四十五と抜き、黒五百四十六と打ち込み、白五百四十七と取りたる黒百七十一つの變化百七十は、白五百四十八と抜き、黒五百四十九と打ち込み、白五百五十と取りたる黒百七十二つの變化百七十一は、白五百五十一と抜き、黒五百五十二と打ち込み、白五百五十三と取りたる黒百七十三つの變化百七十二は、白五百五十四と抜き、黒五百五十五と打ち込み、白五百五十六と取りたる黒百七十四つの變化百七十三は、白五百五十七と抜き、黒五百五十八と打ち込み、白五百五十九と取りたる黒百七十五つの變化百七十四は、白五百六十と抜き、黒五百六十一と打ち込み、白五百六十二と取りたる黒百七十六つの變化百七十五は、白五百六十三と抜き、黒五百六十四と打ち込み、白五百六十五と取りたる黒百七十七つの變化百七十六は、白五百六十六と抜き、黒五百六十七と打ち込み、白五百六十八と取りたる黒百七十八つの變化百七十七は、白五百六十九と抜き、黒五百七十と打ち込み、白五百七十一と取りたる黒百七十九つの變化百七十八は、白五百七十二と抜き、黒五百七十三と打ち込み、白五百七十四と取りたる黒百八十つの變化百七十九は、白五百七十五と抜き、黒五百七十六と打ち込み、白五百七十七と取りたる黒百八十一つの變化百八十は、白五百七十八と抜き、黒五百七十九と打ち込み、白五百八十と取りたる黒百八十二つの變化百八十一は、白五百八十一と抜き、黒五百八十二と打ち込み、白五百八十三と取りたる黒百八十三つの變化百八十二は、白五百八十四と抜き、黒五百八十五と打ち込み、白五百八十六と取りたる黒百八十四つの變化百八十三は、白五百八十七と抜き、黒五百八十八と打ち込み、白五百八十九と取りたる黒百八十五つの變化百八十四は、白五百九十と抜き、黒五百九十一と打ち込み、白五百九十二と取りたる黒百八十六つの變化百八十五は、白五百九十三と抜き、黒五百九十四と打ち込み、白五百九十五と取りたる黒百八十七つの變化百八十六は、白五百九十六と抜き、黒五百九十七と打ち込み、白五百九十八と取りたる黒百八十八つの變化百八十七は、白五百九十九と抜き、黒六百と打ち込み、白六百一と取りたる黒百八十九つの變化百八十八は、白六百二と抜き、黒六百三と打ち込み、白六百四と取りたる黒百九十つの變化百八十九は、白六百五と抜き、黒六百六と打ち込み、白六百七と取りたる黒百九十一つの變化百九十は、白六百八と抜き、黒六百九と打ち込み、白六百十と取りたる黒百九十二つの變化百九十一は、白六百十一と抜き、黒六百十二と打ち込み、白六百十三と取りたる黒百九十三つの變化百九十二は、白六百十四と抜き、黒六百十五と打ち込み、白六百十六と取りたる黒百九十四つの變化百九十三は、白六百十七と抜き、黒六百十八と打ち込み、白六百十九と取りたる黒百九十五つの變化百九十四は、白六百二十と抜き、黒六百二十一と打ち込み、白六百二十二と取りたる黒百九十六つの變化百九十五は、白六百二十三と抜き、黒六百二十四と打ち込み、白六百二十五と取りたる黒百九十七つの變化百九十六は、白六百二十六と抜き、黒六百二十七と打ち込み、白六百二十八と取りたる黒百九十八つの變化百九十七は、白六百二十九と抜き、黒六百三十と打ち込み、白六百三十一と取りたる黒百九十九つの變化百九十八は、白六百三十二と抜き、黒六百三十三と打ち込み、白六百三十四と取りたる黒二百つの變化百九十九は、白六百三十五と抜き、黒六百三十六と打ち込み、白六百三十七と取りたる黒二百一つの變化二百は、白六百三十八と抜き、黒六百三十九と打ち込み、白六百四十と取りたる黒二百二つの變化二百一は、白六百四十一と抜き、黒六百四十二と打ち込み、白六百四十三と取りたる黒二百三つの變化二百二は、白六百四十四と抜き、黒六百四十五と打ち込み、白六百四十六と取りたる黒二百四つの變化二百三は、白六百四十七と抜き、黒六百四十八と打ち込み、白六百四十九と取りたる黒二百五つの變化二百四は、白六百五十と抜き、黒六百五十一と打ち込み、白六百五十二と取りたる黒二百六つの變化二百五は、白六百五十三と抜き、黒六百五十四と打ち込み、白六百五十五と取りたる黒二百七つの變化二百六は、白六百五十六と抜き、黒六百五十七と打ち込み、白六百五十八と取りたる黒二百八つの變化二百七は、白六百五十九と抜き、黒六百六十と打ち込み、白六百六十一と取りたる黒二百九つの變化二百八は、白六百六十二と抜き、黒六百六十三と打ち込み、白六百六十四と取りたる黒二百十つの變化二百九は、白六百六十五と抜き、黒六百六十六と打ち込み、白六百六十七と取りたる黒二百十一つの變化二百十は、白六百六十八と抜き、黒六百六十九と打ち込み、白六百七十と取りたる黒二百十二つの變化二百十一は、白六百七十一と抜き、黒六百七十二と打ち込み、白六百七十三と取りたる黒二百十三つの變化二百十二は、白六百七十四と抜き、黒六百七十五と打ち込み、白六百七十六と取りたる黒二百十四つの變化二百十三は、白六百七十七と抜き、黒六百七十八と打ち込み、白六百七十九と取りたる黒二百十五つの變化二百十四は、白六百八十と抜き、黒六百八十一と打ち込み、白六百八十二と取りたる黒二百十六つの變化二百十五は、白六百八十三と抜き、黒六百八十四と打ち込み、白六百八十五と取りたる黒二百十七つの變化二百十六は、白六百八十六と抜き、黒六百八十七と打ち込み、白六百八十八と取りたる黒二百十八つの變化二百十七は、白六百八十九と抜き、黒六百九十と打ち込み、白六百九十一と取りたる黒二百十九つの變化二百十八は、白六百九十二と抜き、黒六百九十三と打ち込み、白六百九十四と取りたる黒二百二十つの變化二百十九は、白六百九十五と抜き、黒六百九十六と打ち込み、白六百九十七と取りたる黒二百二十一つの變化二百二十は、白六百九十八と抜き、黒六百九十九と打ち込み、白七百と取りたる黒二百二十二つの變化二百二十一は、白七百一と抜き、黒七百二と打ち込み、白七百三と取りたる黒二百二十三つの變化二百二十二は、白七百四と抜き、黒七百五と打ち込み、白七百六と取りたる黒二百二十四つの變化二百二十三は、白七百七と抜き、黒七百八と打ち込み、白七百九と取りたる黒二百二十五つの變化二百二十四は、白七百十と抜き、黒七百十一と打ち込み、白七百十二と取りたる黒二百二十六つの變化二百二十五は、白七百十三と抜き、黒七百十四と打ち込み、白七百十五と取りたる黒二百二十七つの變化二百二十六は、白七百十六と抜き、黒七百十七と打ち込み、白七百十八と取りたる黒二百二十八つの變化二百二十七は、白七百十九と抜き、黒七百二十と打ち込み、白七百二十一と取りたる黒二百二十九つの變化二百二十八は、白七百二十二と抜き、黒七百二十三と打ち込み、白七百二十四と取りたる黒二百三十つの變化二百二十九は、白七百二十五と抜き、黒七百二十六と打ち込み、白七百二十七と取りたる黒二百三十一つの變化二百三十は、白七百二十八と抜き、黒七百二十九と打ち込み、白七百三十と取りたる黒二百三十二つの變化二百三十一は、白七百三十一と抜き、黒七百三十二と打ち込み、白七百三十三と取りたる黒二百三十三つの變化二百三十二は、白七百三十四と抜き、黒七百三十五と打ち込み、白七百三十六と取りたる黒二百三十四つの變化二百三十三は、白七百三十七と抜き、黒七百三十八と打ち込み、白七百三十九と取りたる黒二百三十五つの變化二百三十四は、白七百四十と抜き、黒七百四十一と打ち込み、白七百四十二と取りたる黒二百三十六つの變化二百三十五は、白七百四十三と抜き、黒七百四十四と打ち込み、白七百四十五と取りたる黒二百三十七つの變化二百三十六は、白七百四十六と抜き、黒七百四十七と打ち込み、白七百四十八と取りたる黒二百三十八つの變化二百三十七は、白七百四十九と抜き、黒七百五十と打ち込み、白七百五十一と取りたる黒二百三十九つの變化二百三十八は、白七百五十二と抜き、黒七百五十三と打ち込み、白七百五十四と取りたる黒二百四十つの變化二百三十九は、白七百五十五と抜き、黒七百五十六と打ち込み、白七百五十七と取りたる黒二百四十一つの變化二百四十は、白七百五十八と抜き、黒七百五十九と打ち込み、白七百六十と取りたる黒二百四十二つの變化二百四十一は、白七百六十一と抜き、黒七百六十二と打ち込み、白七百六十三と取りたる黒二百四十三つの變化二百四十二は、白七百六十四と抜き、黒七百六十五と打ち込み、白七百六十六と取りたる黒二百四十四つの變化二百四十三は、白七百六十七と抜き、黒七百六十八と打ち込み、白七百六十九と取りたる黒二百四十五つの變化二百四十四は、白七百七十と抜き、黒七百七十一と打ち込み、白七百七十二と取りたる黒二百四十六つの變化二百四十五は、白七百七十三と抜き、黒七百七十四と打ち込み、白七百七十五と取りたる黒二百四十七つの變化二百四十六は、白七百七十六と抜き、黒七百七十七と打ち込み、白七百七十八と取りたる黒二百四十八つの變化二百四十七は、白七百七十九と抜き、黒七百八十と打ち込み、白七百八十一と取りたる黒二百四十九つの變化二百四十八は、白七百八十二と抜き、黒七百八十三と打ち込み、白七百八十四と取りたる黒二百五十つの變化二百四十九は、白七百八十五と抜き、黒七百八十六と打ち込み、白七百八十七と取りたる黒二百五十一つの變化二百五十は、白七百八十八と抜き、黒七百八十九と打ち込み、白七百九十と取りたる黒二百五十二つの變化二百五十一は、白七百九十一と抜き、黒七百九十二と打ち込み、白七百九十三と取りたる黒二百五十三つの變化二百五十二は、白七百九十四と抜き、黒七百九十五と打ち込み、白七百九十六と取りたる黒二百五十四つの變化二百五十三は、白七百九十七と抜き、黒七百九十八と打ち込み、白七百九十九と取りたる黒二百五十五つの變化二百五十四は、白八百と抜き、黒八百一と打ち込み、白八百二と取りたる黒二百五十六つの變化二百五十五は、白八百三と抜き、黒八百四と打ち込み、白八百五と取りたる黒二百五十七つの變化二百五十六は、白八百六と抜き、黒八百七と打ち込み、白八百八と取りたる黒二百五十八つの變化二百五十七は、白八百九と抜き、黒八百十と打ち込み、白八百十一と取りたる黒二百五十九つの變化二百五十八は、白八百十二と抜き、黒八百十三と打ち込み、白八百十四と取りたる黒二百六十つの變化二百五十九は、白八百十五と抜き、黒八百十六と打ち込み、白八百十七と取りたる黒二百六十一つの變化二百六十は、白八百十八と抜き、黒八百十九と打ち込み、白八百二十と取りたる黒二百六十二つの變化二百六十一は、白八百二十一と抜き、黒八百二十二と打ち込み、白八百二十三と取りたる黒二百六十三つの變化二百六十二は、白八百二十四と抜き、黒八百二十五と打ち込み、白八百二十六と取りたる黒二百六十四つの變化二百六十三は、白八百二十七と抜き、黒八百二十八と打ち込み、白八百二十九と取りたる黒二百六十五つの變化二百六十四は、白八百三十と抜き、黒八百三十一と打ち込み、白八百三十二と取りたる黒二百六十六つの變化二百六十五は、白八百三十三と抜き、黒八百三十四と打ち込み、白八百三十五と取りたる黒二百六十七つの變化二百六十六は、白八百三十六と抜き、黒八百三十七と打ち込み、白八百三十八と取りたる黒二百六十八つの變化二百六十七は、白八百三十九と抜き、黒八百四十と打ち込み、白八百四十一と取りたる黒二百六十九つの變化二百六十八は、白八百四十二と抜き、黒八百四十三と打ち込み、白八百四十四と取りたる黒二百七十つの變化二百六十九は、白八百四十五と抜き、黒八百四十六と打ち込み、白八百四十七と取りたる黒二百七十一つの變化二百七十は、白八百四十八と抜き、黒八百四十九と打ち込み、白八百五十と取りたる黒二百七十二つの變化二百七十一は、白八百五十一と抜き、黒八百五十二と打ち込み、白八百五十三と取りたる黒二百七十三つの變化二百七十二は、白八百五十四と抜き、黒八百五十五と打ち込み、白八百五十六と取りたる黒二百七十四つの變化二百七十三は、白八百五十七と抜き、黒八百五十八と打ち込み、白八百五十九と取りたる黒二百七十五つの變化二百七十四は、白八百六十と抜き、黒八百六十一と打ち込み、白八百六十二と取りたる黒二百七十六つの變化二百七十五は、白八百六十三と抜き、黒八百六十四と打ち込み、白八百六十五と取りたる黒二百七十七つの變化二百七十六は、白八百六十六と抜き、黒八百六十七と打ち込み、白八百六十八と取りたる黒二百七十八つの變化二百七十七は、白八百六十九と抜き、黒八百七十と打ち込み、白八百七十一と取りたる黒二百七十九つの變化二百七十八は、白八百七十二と抜き、黒八百七十三と打ち込み、白八百七十四と取りたる黒二百八十つの變化二百七十九は、白八百七十五と抜き、黒八百七十六と打ち込み、白八百七十七と取りたる黒二百八十一つの變化二百八十は、白八百七十八と抜き、黒八百七十九と打ち込み、白八百八十と取りたる黒二百八十二つの變化二百八十一は、白八百八十一と抜き、黒八百八十二と打ち込み、白八百八十三と取りたる黒二百八十三つの變化二百八十二は、白八百八十四と抜き、黒八百八十五と打ち込み、白八百八十六と取りたる黒二百八十四つの變化二百八十三は、白八百八十七と抜き、黒八百八十八と打ち込み、白八百八十九と取りたる黒二百八十五つの變化二百八十四は、白八百九十と抜き、黒八百九十一と打ち込み、白八百九十二と取りたる黒二百八十六つの變化二百八十五は、白八百九十三と抜き、黒八百九十四と打ち込み、白八百九十五と取りたる黒二百八十七つの變化二百八十六は、白八百九十六と抜き、黒八百九十七と打ち込み、白八百九十八と取りたる黒二百八十八つの變化二百八十七は、白八百九十九と抜き、黒九百と打ち込み、白九百一と取りたる黒二百八十九つの變化二百八十八は、白九百二と抜き、黒九百三と打ち込み、白九百四と取りたる黒二百九十つの變化二百八十九は、白九百五と抜き、黒九百六と打ち込み、白九百七と取りたる黒二百九十一つの變化二百九十は、白九百八と抜き、黒九百九と打ち込み、白九百十と取りたる黒二百九十二つの變化二百九十一は、白九百十一と抜き、黒九百十二と打ち込み、白九百十三と取りたる黒二百九十三つの變化二百九十二は、白九百十四と抜き、黒九百十五と打ち込み、白九百十六と取りたる黒二百九十四つの變化二百九十三は、白九百十七と抜き、黒九百十八と打ち込み、白九百十九と取りたる黒二百九十五つの變化二百九十四は、白九百二十と抜き、黒九百二十一と打ち込み、白九百二十二と取りたる黒二百九十六つの變化二百九十五は、白九百二十三と抜き、黒九百二十四と打ち込み、白九百二十五と取りたる黒二百九十七つの變化二百九十六は、白九百二十六と抜き、黒九百二十七と打ち込み、白九百二十八と取りたる黒二百九十八つの變化二百九十七は、白九百二十九と抜き、黒九百三十と打ち込み、白九百三十一と取りたる黒二百九十九つの變化二百九十八は、白九百三十二と抜き、黒九百三十三と打ち込み、白九百三十四と取りたる黒三百つの變化二百九十九は、白九百三十五と抜き、黒九百三十六と打ち込み、白九百三十七と取りたる黒三百一つの變化三百は、白九百三十八と抜き、黒九百三十九と打ち込み、白九百四十と取りたる黒三百二つの變化三百一は、白九百四十一と抜き、黒九百四十二と打ち込み、白九百四十三と取りたる黒三百三つの變化三百二は、白九百四十四と抜き、黒九百四十五と打ち込み、白九百四十六と取りたる黒三百四つの變化三百三は、白九百四十七と抜き、黒九百四十八と打ち込み、白九百四十九と取りたる黒三百五つの變化三百四は、白九百五十と抜き、黒九百五十一と打ち込み、白九百五十二と取りたる黒三百六つの變化三百五は、白九百五十三と抜き、黒九百五十四と打ち込み、白九百五十五と取りたる黒三百七つの變化三百六は、白九百五十六と抜き、黒九百五十七と打ち込み、白九百五十八と取りたる黒三百八つの變化三百七は、白九百五十九と抜き、黒九百六十と打ち込み、白九百六十一と取りたる黒三百九つの變化三百八は、白九百六十二と抜き、黒九百六十三と打ち込み、白九百六十四と取りたる黒三百十つの變化三百九は、白九百六十五と抜き、黒九百六十六と打ち込み、白九百六十七と取りたる黒三百十一つの變化三百十は、白九百六十八と抜き、黒九百六十九と打ち込み、白九百七十と取りたる黒三百十二つの變化三百

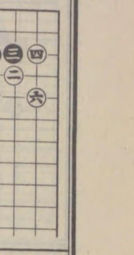
〔八五一五〕
要點約言
（第七型イの一（第一變化、其三））

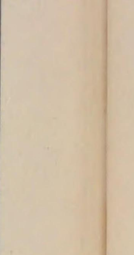
黒九の時、白は㊇手抜イ又はロ或は手抜の三法あり。そのうち、イは穩健にして正着。ロは變化に富むも、※

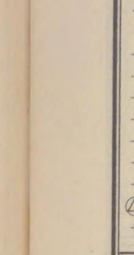
〔八五一六〕
基本圖
（第七型イの一（第一變化、其四））

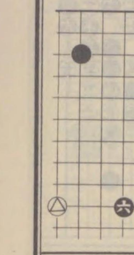


黒九は、前の㊇手抜イよりは緩きも黒可なりとして時に※猶ほ白十で手抜くも黒宜し。白十では、イとロの二法あり。※









〔八五一七〕
定石

黒十、形なり。黒十三までは、イに連、厭する手も普通。黒は此處宜し。白十二までは、此形の定石なり。

㊇手抜

〔八五一八〕
黒可なり

此場合、白は強く白三に綿上げて、□の無き時は、黒四で宜し。白三に切るべく、黒六には黒イに劣れど、此形黒場合にては、黒可なりとの意味にて大に善し。

〔八五一九〕
黒厚し

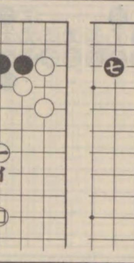
白一黒二、㊂手抜て白三を手抜も多くあれど、黒利なり。尤も白が此隅を必ず抜くの覗きを利かし置く事肝要なり。

〔八五二〇〕
黒善し

黒イを打たずして先ず㊂手抜せば、白一四以下に先攻す。白が如何に低しと雖も、斯く低く這ふ場合にもなるべくは、ロに打たざるを良しとす。

〔八五二一〕
黒厚し

白二なれば、黒は三に粘ぐが宜し。黒七良くは㊂手抜せずして先ず㊂手抜イも、さるれど。尤も黒十は白九黒ロ白八黒ニと外形厚し。



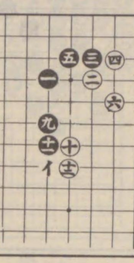
〔八五二二〕
黒好まず

白二の時、黒三の粘まず、白四の堅けれど、黒好まず、下十まで以下切りて白イと残り四で形なり。尤も白六と打つも味よな白ものなり。

〔八五二三〕
白稍可なり

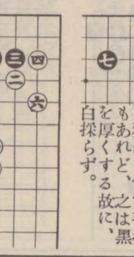
後の名人本因坊
勝山崎道策
先南里與兵衛

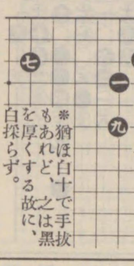
黒一、形なり。白二、三は嫌な手筋の切れど、此場合悉く定石にて知時は、黒善にて尖手は、白少し自段も一尖の結果但し初めしにくく先づイに打つるのなり。

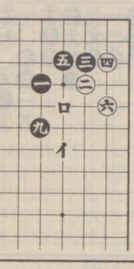


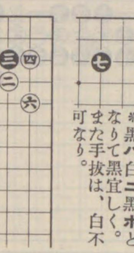
〔八五二四〕
黒の別法

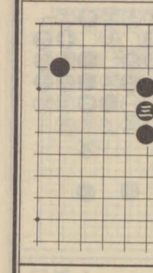
黒前圖九より變化す。白十、必然。白二十、而して十二を要。白肝要にて、直ちに二十一と打つ時は、黒イ、白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホと白十二まで黒宜し。白不利なり。

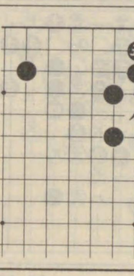


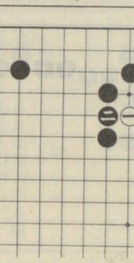


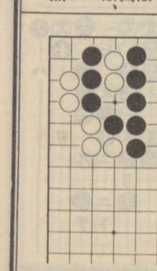


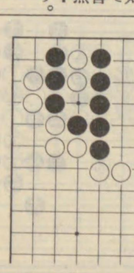










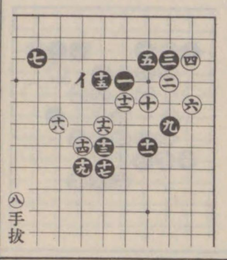


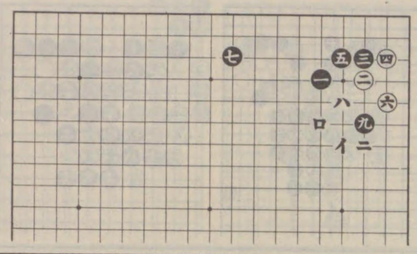
〔八五二五〕
要點約言
（第七型イの一（第一變化、其四））

黒九と攻める手有り。前のイ、ロと異り、外勢より邊に勢力を張らんとの意なり。その時、白にハと普通にて正着。ハは、只此石を堅く打たんとする時に用ゆる手なり。

㊇手抜

〔八五二六〕
基本圖
（第七型イの一（第一變化、其五））





※ちに手抜の手段も黒に厚くせらるれば、何れも故に多くは白好まず。

〔八五二七〕
定石

白十、形なり。白一は常用の妙着なり。黒十五にては、イと打つも悪しからず、其他は、黒十九一着、厚味不融にして好點なり。

〔八五二八〕
互角の分れ

黒六も形悪しからず。白七は形く動く。此時黒八漸正着。白九は含蓄筋なし。黒十を蓋イは八五三圖。又白十は五三圖。（八五三一圖）。

〔八五二九〕
場合による

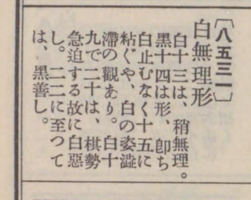
白十五！黒は仰天す、奇兵の天よ降るかと、十五とは十六と十七とを見たる手、面白しも、黒十六は、黒イもあり（次圖）。

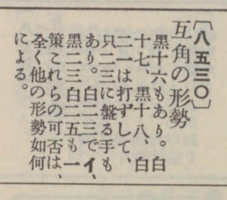
〔八五三〇〕
互角の形勢

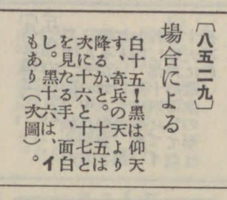
黒十六も有り。白十七、黒十八、白二十一は黒ニに盤上して、白只二三に急迫する手も有り。白二黒二五で一イ、黒二の策も可否は、全く他れの形勢如何による。

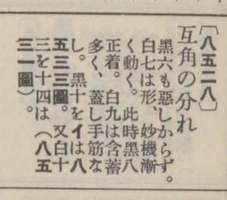
〔八五三一〕
白無理形

白十三は、稍無理。黒十四は、卽ち形に粘ぐや、白十五は、白の要點にて、棋勢一層の澁滞なり。白十七は、黒ニに至つて急に二る故に白二に二着し、黒善し。









〔八五三二〕
黒優勢

黒十四、十六、形として好まざる意味あり。白は隔てる宜し。白二善し、之を黒ロ白二に黒二四にて黒ハ白危し。黒二四にて白二七共に好點なり。

〔八五三三〕
黒の形好まず

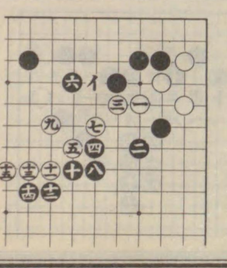
黒十は、盲人罠に陥るの手に似たれど、其実好まず。黒十一は、白二を十四なれば、黒十二にて厚し。白二に黒十二にて十四なれば、黒イ、次は七なれば、白ロで黒悪し。

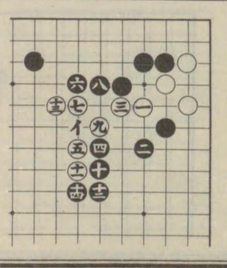
〔八五三四〕
白悪し

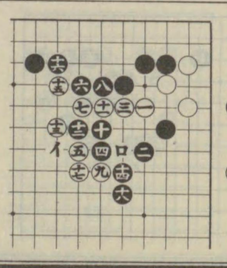
白九は、形に似て却て悪し。黒十二。次に綽らるれば、白十三と、白イに届るの外なし。卽ち白十四。因つて黒十三。此形、黒十四にて可なり。

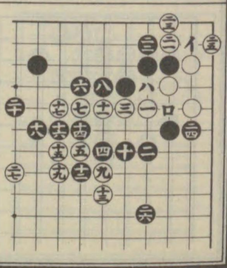
〔八五三五〕
場合

黒六は確かなれど、九は確かなれど、此分には、黒ニ七イと圖に比べて黒ニ八イと打つも悪しからず、其他は、黒十九一着、厚味不融にして好點なり。









〔八五三六〕
白確なり

白七の時、黒八好手。白九、十一と快調、利勿論前を拂ふ。黒十四、六の厚みあり。遮て十六、白十七、黒十八に打抜く。白の形堅し。

〔八五三七〕
黒善し

白十九は、中央の位を主とせしも、ざれど、黒に二十、二十一と三子を奪はれては、白は利益ありとも、實備は黒厚く、加之黒にイの切味も殘れり。

〔八五三八〕
白嵌手に陷る

出る杭は打たれるとか。白十七と出かゝや。黒に十八以下抽んでたる白其ま伐る。黒二十二、四、ま拙し。黒二十二、四、ま快し。白九、白ハで白窮せり。黒ロ白ニ。ツグは、黒ニ。

〔八五三九〕
黒厚し

黒十八の時、白十九に出戻りまり「嫁に似たり」の諺さの如く、黒二十宜しの白惡さ。黒二五は、中好ざなれど、白イを厚くして黒ロ。

〔八五四〇〕
白善し

白十九の時、黒二十は緩して形勢に忽ち二三にてドン〳〵返し、白の厚みなれり。若し黒イ二三で、白二二に、黒二二に打抜くで、白ロは莫大の捐を招く。

〔八五四一〕
互角の形勢

白十三。黒十四。白十五。黒十六、圖では、黒は十八ど、十八ど、白は十邊堅實な大旒の中空に翻たるが如く、颯爽たり。

〔八五四二〕
互角の分れ

黒十二は、蝸牛の殼に閉籠るが如き堅實さで、黒三、黒四、共に要點。若し黒ハ而して白イ。黒さの中に白イは、白ロに長進の形は黒不好。

〔八五四三〕
白可なり

黒六は、白に稍利かされしも、形なれど、その代りか形く打てば、白は黒八なり、手段の餘地も無し。之をイは黒八なり、白七形なり、白ロにて前圖以前と同じ。黒十五は好形且つ適時の打着なり。黒若しの十五を怠れば、黒ハ白ニ黒ホと黒厚くなり、白好てまず。

〔八五四四〕
要點約言

（第七九型イの一）
（第一變化、其五）
（八手拔）

黒九と打ちし時、白十正し。妙着なり。白十四、此の時、黒十五でロ、及びハとはイあり。イは堅實にして正着。ロは緩き意味あれど、堅き應けなり。

〔八五四五〕
黒手段に陷る

黒六の筋好まず。却て白の手段に陷る、九の恐れあり。十一は、順風を帆かけるが如き快調なり。

〔八五四六〕
白優れり

黒十と應けるも、頽勢遂に支へず。白遂に十七、意氣凛然と、として中原を指す。善し。黒十八を十九にても、白イ黒十一、白ロ黒ハにて黒惡し。

〔八五四七〕
黒面白し

白九手順惡し。黒十の切りきびし。黒上邊の形整へり。白十五は、手筋、黒十六なれば黒十二を命にて隅の白は露五の傚之とするに好形無し。

〔八五四八〕
黒潰れ

黒十二は腰碎けの態、かくては以下變化種々ありて難解の處必ずしも黒ど、その結果必ずしも黒に好。白遂に一三、後圖絶ゆ。

〔八五四九〕
白形勢を得

黒十、穩かなれど、緩し、白乃ち補ひ、イに斷點を尋めて首を廻らして十二、十四の連。歷然。鳴呼、さしも上手なる、朝日にも擬すべき、白が昇天の勢を見よ。

〔八五五〇〕
白有利の分れ

黒八惡し。斯く打てば白九に窮地陷る。黒の三子は、黒イ白ロにて一勿論白有利なり。

〔八五五一〕
白甚だ善し

黒十六なれば。白七以下宜し。次に白遂に二一と約てに二一。黒の形頽れる。白二五の後に黒ニ。白ホの劫味遺れり。

〔八五五二〕
白劫勝

白十七は、でんとの黒と強く攻合ふ。白イにて、黒ホで九下の一手。黒イ白ハ白ニは、黒ハ以下白ニ、白遂に南無阿彌陀佛の三三に劫提！白は無理なり。

〔八五五三〕
劫勝敗の形

白十五、十七もあり、黒三を忘れば、白イにて、隅の敗へ無き最期。黒は敢へて劫を避れど、白は口の駄目詰。此處は白ロだのに、居る。圖の形、白利なり。白惡し。＊

〔八五五四〕
白優る

黒十四、十六、十七、白九にて、黒十、白十七、望月寺の如き滿足の形となれり。黒ロ白十、黒ニ白ホ黒二へ白ト、白優れり。

〔八五五五〕
黒の形崩る

黒六なれば、白七と逆撃、黒は思ひもかけぬ寢耳に水、黒十六まで、二目の打抜厚きも、遂に、右邊の黒は、落花に嵐に散り敷く、の哀れを止めけり。

〔八五五六〕
白善し

黒六の逆襲も、時所を得ざるが故に、鵙の嘴と喰ひ違ふ。所詮、無理なり。白ロ黒二には、白八にて、黒イ白十、黒の類勢遂にて、支ムべからず。

〔八五五七〕
白甚善し

白七黒八尋で、白九も一策。之れは、上邊の圖の如く、黒には、上邊の厚味を得せしめざるの手なり。以下白ロ黒ニで白イは、白遂にチと黒圖を突破す。

〔八五五八〕白働きなし

白五は、あまり平凡、興味索然たり、爲に妙趣今や地を掃つて空し矣。白九でイは黒ロ白ハニ、また白九で木は黒ハ、要之、白五は前形イの妙着に及ばず。

〔八五五九〕黒善し

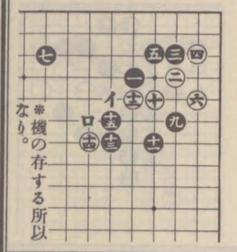
白五は、俗筋にして好まず。黒乃ち六・八・十。今や、白は四面楚歌の聲項羽が虞姫を抱きて騅逝かざるの嘆きを聯想せしむ。

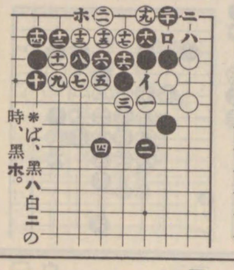
〔八五六〇〕白寄劫

前圖の形にて、白十一、十三なれば、黒十四と粘くべし、白十九でイなれば、卽ち攻合黒十九は、卽ち妙手なる下り、若し夫に白ロなれ＊黒勝なり。——

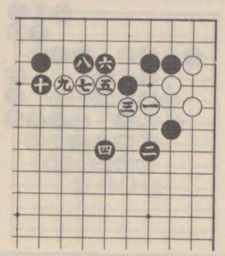
〔八五六一〕要點約言（第一變化、其五）（第七九型イの一）

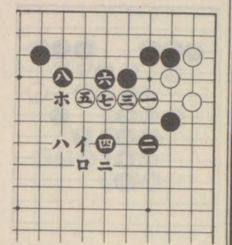
白十四の時、黒十五、及びイ、ロ共に無理なり。蓋し黒に無き手段は、白十四に妙＊





＊ば、黒ハ白ニの時、黒ホ。





〔八五六二〕白形を得たり

黒四は、之を七に飛よ、前形と及ばず。但し、白五で九なれば、黒九にて、前形より黒可なり。黒よりも九と曲られる。白九は要點なり。

〔八五六三〕互角の分れ

黒八もあり。白九で十は、黒九にて、要點。黒十、風雲、急！白は十一、黒十二、以下白十七でイなれば、黒ロ。

〔八五六四〕白稍形を損ふ

白十一にイの切れを防ぎしは權謀にあらず。形、好まず。黒六。黒は之、上下共に堅陣、反て黒遂に今や、白は未だ完全なる眼形無し。

〔八五六五〕黒厚し

白直ちに九に切れば、黒十一、而して黒は纏を揚げて十二、四に進す。然として中原を壓せり。

〔八五六六〕白可なり

白九の時、黒は當に前圖の如く十一に擊つべし。然るに退いて守りては、緩弱なり。白十一は要點、白一擧にして生氣蘇りぬ。

〔八五六七〕場合による

黒四は、之をイに打つ前圖と、得失略ぼ相似たり。白五は急所なり。白九は黒遂に爽快必然として、黒の形、稍可なり。

〔八五六八〕前變化に同じ

白七の時、黒八も其變化は、前圖イにある黒四と略ぼ相同じ。就て見られたし。

〔八五六九〕黒可なり

白五惡し。黒六は面白き手、凡に似て非凡なり。黒六以下と同形。白九で本圖は、白イなれば、宜しからず。

〔八五七〇〕黒勢を得たり

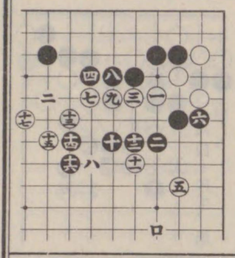
白五は變則の手段、多く好まず。黒六、止むを宜しとす。白遂に渡り、なく七に低きに失す。黒八は要點なり。次、黒ニで白イ黒ロ白ハは、黒に白の陣容整ふ。但し、若し白八を怠れば、黒ハにて二、四、六の連擊に缺陷を生ず。

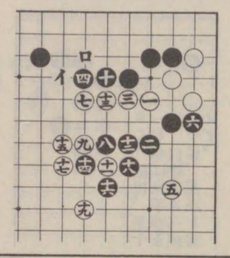
〔八五七一〕黒の形重し

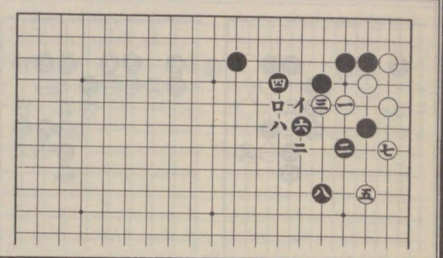
黒六、小事に拘泥す、惡し。白九宜し、之を十三は黒イと働かれて十四は、黒十一に白十二、白ロ黒ニ。

〔八五七二〕場合による

黒八、白九。白十に黒の委を重く視て黒十三の後白十四と尖み、黒十一へ、白十二。







〔八五七三〕白宜し

黒二も、あれど、其形、八百長相撲の如く、弛めり。白三、宜し。果然、黒四と應ずるや、白五に兩軍垂涎の出來好點を先取して出づ。白、颯爽、傍ら人無きが如し。

〔八五七四〕白好まず

白三好まず。爲に緩手なりし。黒二は大に働けり。黒四と起つて一團の形。黒大に善し。八迄恰好の點にあり。

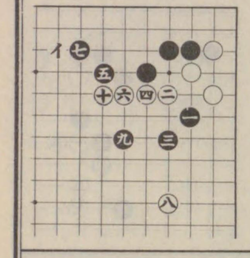
〔八五七五〕黒凝形惡し

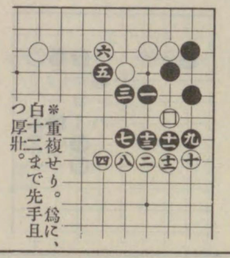
當時八目、林有太郎四段勝、先番河合菊次三段

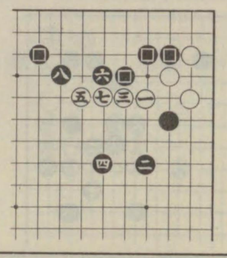
黒三と押し、而して五以下三、營々として收め得たり、所は、僅に◎の白一子のみ、黒形＊

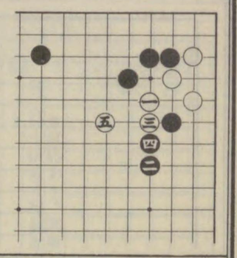
〔八五七六〕場合による

黒イに無くして直ちに一擊?之は、特殊の場合にあらざれば、尚早の機も緩し。黒五、絶對。白、却て攻勢にあり。









〔八五七七〕場合の手段

藤田靈次郎四段
小島春一四段
先番勝

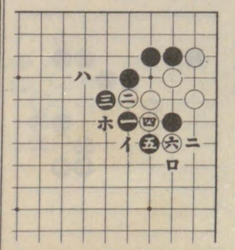
黒、かくて、遂に十八にせり。此形は、白要之、薄し。反之、黒未だ厚味の餘慶あるが如く、自ら＊

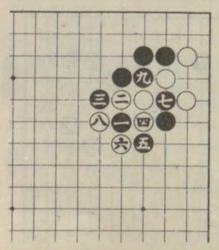
〔八五七八〕白嵌手に落つ

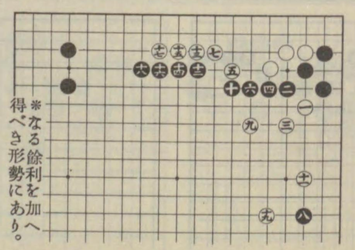
黒一は、鳥を追ふ案山子ぼどにも役立ぬ、虚喝に近し。無謀なり。白六は大し、爲よ、見よ、黒に七、惡手なり、白は、打たれ無殘の委となれり。

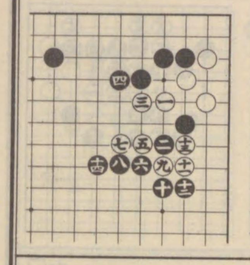
〔八五七九〕黒窮す

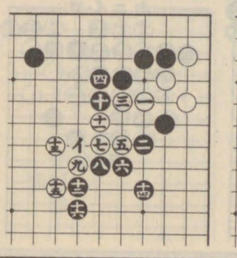
白六善し、黒窮せり。此結果は、黒イ白ロ黒ハとなる位のもの、なれど、白黒イにてロは、白ホ。之は白打抜なれば、一目優れり。

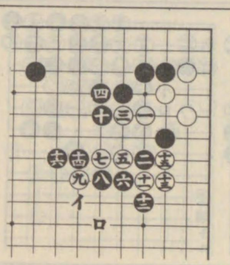


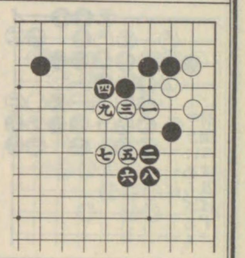


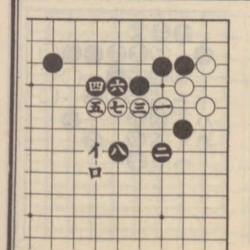


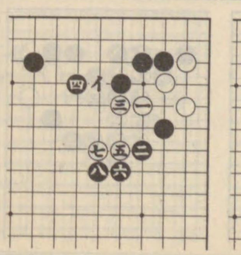


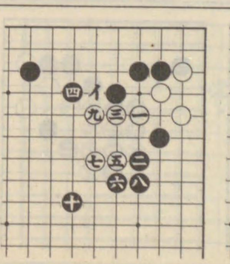


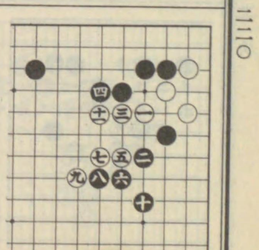












〔八五八〇〕
黒の一手段
先番勝呉清源　三段
中川新當時　三段

黒一、而して白二の時、黒三は手筋な妙味躍る。黒の桃鋒に、黒七にてイは、白ロ黒※

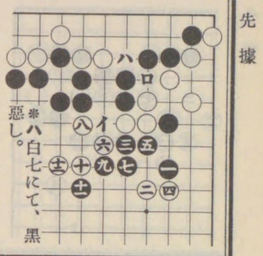
〔八五八一〕
要點約言（三）
（第七九型イの一）

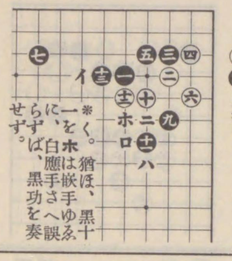
白十二の時、黒十三或はイと打てば、白はロと頂いて宜し。また、白十の時、黒十一にてハは白ニにて善※

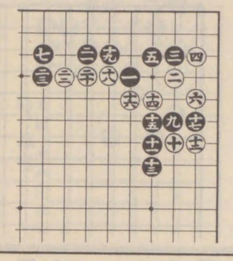
〔八五八二〕
常形

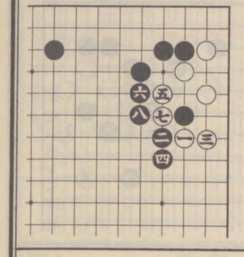
白十は、之を前圖の如く、四に出でば、黒十一と攻撃さるゝ手嫌ふ。用ゆる手なれば、白十は位低くして、多くは好まず。

〔八五八三〕
場合による
白五の時、黒六、八も厚き姿勢なり。さればとて、之は前圖の如く攻め出づるも得策なれば、黒は後手を優て出づるを得て更に隅を併せるの趣か？


※八白七にて、黒悪し。


一を、ホは嵌手ゆゑ、らずば、黒功を奏せず。





〔八五八四〕
黒優れり
白五と逃れば、黒は逃ぐるを追よ六に覆歴して南下す。白七を怠れば、黒七に低旬一形之とは白更り。猶ほ、此形、白次にイなれば、黒は無論ロ。

〔八五八五〕
黒優勢
白は、低きが上に手數重複す。積みの貧乏碁しの多きを更に係黒の者に加へるが如し。白五をイは、黒ロまたはハで宜し。

〔八五八六〕
白面白し
勝宮坂宋二　六段
先關山利一　四段

黒四は場合の手段、普通は前圖の如く打て宜し。白五は、必然の反撃。白九は、手抜の反撃。黒ま十以下に攻撃せし多も、手段（而かも黒二）の痞地し、落ちの手段は如く豫期せし種の實を結ばざりし程なり。

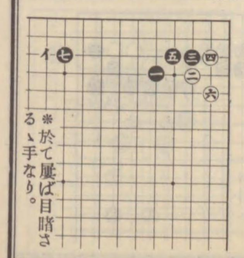
〔八五八七〕
黒厚し
白三は確かなれど、冒険無き所に飛も無く、又勝利も無し。果然、黒四、六にて黒の形厚し。此時、白イは黒ロ（八五八三圖參照）

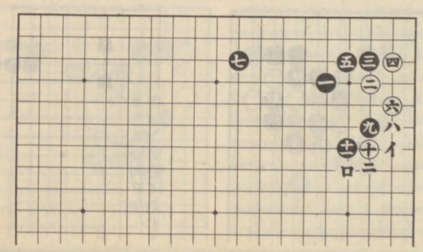
〔八五八八〕
要點約言（四）
（第七九型イの一）（第一變化、其五）

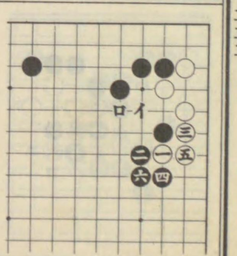
㈧手抜
白十は、黒の外勢厚き時などに、用ふる一策なり。白十一は佳手なり。次に、白イは黒ロ。白ハは黒ニ白イ黒ロ。其形何れも黒善し。

〔八五八九〕
基本圖
（第七九型イの一）（第二變化）

白六の時、黒七と前圖よりも一路廣く拓はイと二路或くなどは、配置の釣合上、實戦に※


※於て屢ば目睹さるゝ手なり。



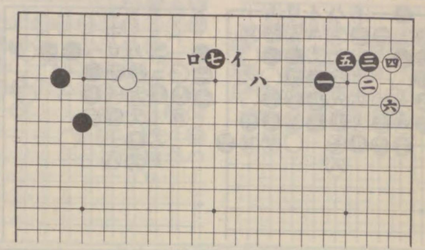


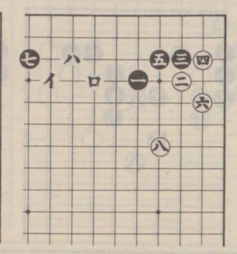
〔八五九〇〕
要點なり

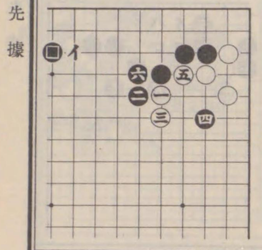
前圖參照。蓋し、圖の如き形の時、黒七の拓は最も要點なり。即ち若しイを常形となれば、之を白イに拓きの餘地あほの拓ロは、又黒イを廣くロは、あまり直ちに白ハに打込ずして間隙を生ずる如きは、布石の釣合も稍すべきも變化のにして、隅の研究とは異るものゝ如くなれども、只參考として、茲に掲ぐ。

〔八五九一〕
定石
黒七と廣く拓きしとき、白の姿は、白八肝要。白の高つて黒を俯瞰據して黒陣を遂に六。今や黒一の路廣せり。八四七圖よりも黒拓の有利を示勿論善し。

〔八五九二〕
白好まず
白一は、黒イに在る時は、黒の手なり、此場合は惡し。黒は常形より六なり。今や黒一の形よりも黒拓の有利を示せり。八四七圖よりも黒勿論善し。

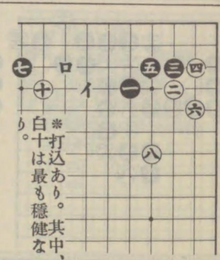

ロ七イハ一五三二四六八

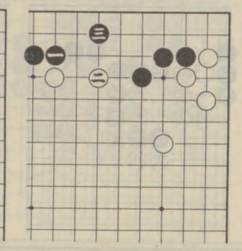

七ハイロ一五三二四六八

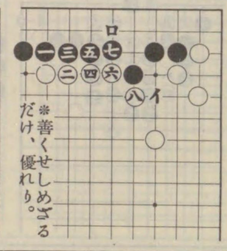

回イ六二五一三四

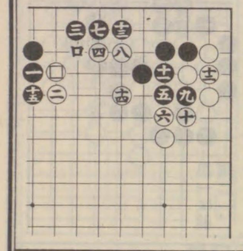
〔八五九三〕
基本圖
（第七九型イの一）（第二變化）

黒九で手を抜き、白十、黒九で手を抜き、白十、（八二三圖以下）及びロ（八六四五圖以下）のイの※


七ロイ十※白十は最も穩健なり。打込あり。其中、


三一二

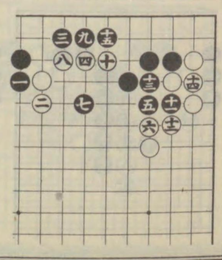

ロ七六五四三二一※善くせしめざるだけ、優れり。

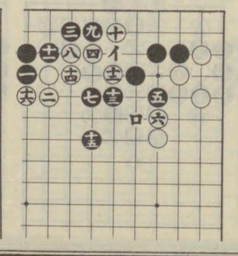

三七四士八古一士二

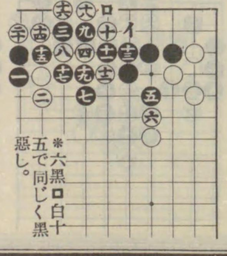
〔八五九四〕
白可なり
黒一、三は緩弱、確かなれども位低し。黒かゞ伏せし無氣力や、噛ひ反之、白が二と潤せる姿は、輕くして、且つ中央に威力あり。

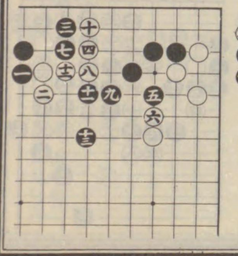
〔八五九五〕
白厚し
白二七の時、黒三・五・七と這ふ手は緩し。黒三にては、兎に角イに敵の動靜を探べし、黒五は前圖の如く、ロに走るまり。

〔八五九六〕
互角の分れ
黒一は、闘志肩宇に溢るゝの勁着なり。白二の手なり、可否場合による。黒三形以下白十三まで黒五も好所なり。


十八士九五六


ロ十士士イ士士五六※六黒ロ白十五で同じく黒惡し。


十イ士士九四三八士一古二


十四八士九五六

〔八五九七〕
黒面白し
黒五。白六の時、黒ま七に白の動靜を寂びし、形にして面白し。比し前圖の黒七に比して餘韻に富めり。

〔八五九八〕
黒稍可なり
黒九の時、黒は十一を可とす。白十二は俗筋なれど、之をイなれば、黒はロの切に綽ねて次に十四の切り。

〔八五九九〕
黒の損甚し
孔子曰へり一匹夫怒れば劍を抜いて斬るーと。黒十一は、所詮、似たりと。以下白十二まで黒ま二十なつては、黒ま損なり。ま白十五でイは、ま白十※

〔八六〇〇〕
場合による
黒時黒ま七、白八の黒九。これは、譬へば河を立て渡ふ背水の陣にも向ふ。黒固よりの雨斷の石の兩斷より味方の石の利なるゝは豫期して、攻勢に出でしなり。

十四八士九五六

ロ十士士イ士士五六※六黒ロ白十五で同じく黒惡し。

十イ士士九四三八士一古二

十四八士九五六

〔八六〇一〕場合による

黒五の時、白六もあり。黒七にてイ、白ロ次に黒ハとするは、漏らんとするの渡河の如く船でに、黒九まで、前圖と似たれど、此形黒止むを得ざるなり。

〔八六〇二〕中央戰の形

白二と敵を兩斷して進む。黒三、五、共に形。坐して左右皆な敵。中の白危し、此時、手裏劍の着手、甚だ善し。六・八は、比すべき輕妙な

〔八六〇三〕黒有利の分れ

白十、十二無理。黒の肺腑を衝けり。白十六にイ、黒十七、白十九黒ヘ白ホ、黒ハ白ト、運ぶも一策なれど、此時黒ニ手抜しても攻合勝。

〔八六〇五〕黒慘敗

黒十三・十五は、無理なり。白三は二の手順を決する處なり。白六は肝要の善手。黒七で四六善し。白四、黒イ、白ハ、黒ロ、白ニ、黒イ、白ハの時は四五で勝。

〔八六〇八〕黒厚し

黒十七は十三、十五。黒十七は手筋、次に白十八、黒九、白十、黒十一、白十二、黒十三、白十四、黒十五。白十六で行く先は同じ没落の淵。黒二五でロ。次に黒二八なれば、白ロ、白は二五黒ハなれば、白二にて活なり。

〔八六〇六〕黒手段無し

黒十五に粘るも、白十六で黒の落ち行く先は同じ没落の淵。黒二五でロ。次に黒二八なれば、白ロ、白は二五黒ハなれば、白二にて活なり。

〔八六〇七〕黒實利あり

白十の出切りは、打ち過ぎなり。黒十一、白十二、黒十三、打番し、又十三は十四もあり俗筋なれど、白三四で遂に「眼有り眼無し」黒敗となれり。

〔八六〇九〕互角の分れ

黒十九もあり。以下、白三八まで、黒必然。此手順中、黒は、行きかけの駄貨と云ふ等之れは黒は打ち置き手、此分に利あり。白は隅は外勢黒優る。

〔八六一〇〕黒敗なり

黒十七なれば、白十八、次にれば、白二十。黒十九なれば、白二十一、黒此攻合可なり。白は、黒ロ。白ニ手寄劫の不利に歸す。劫に非ず。

〔八六一一〕黒攻合敗

黒十七、十九なれば、白二十で敗合。黒は自ら駄目を詰めて手となりし故遂に「眼有り眼無し」黒敗となれり。

〔八六一二〕白稍優る

黒いま十一。黒十一、かく遂に何れも敵を兩斷。白突破の名は同じ。黒四・十一に共に、而も黒十一の大なれど、白の利は更に之れに優れり。

〔八六一三〕黒低し

黒九、十一、十三の如き、手は多く好まず。黒十七、右に打てば左に手あり。此手知るべし。準備工作なり。白二四・二六宜し。

〔八六一四〕黒難戰

黒十七と這ひ、白十八の時、黒十九なれば、白「駄目詰りの關係上白は二十と出る手あり。黒二三で七は、黒三一、白イ、黒二三、白二四、黒二六、白二九、黒二三、白二六にて、黒ロ、白二五にてハ、黒七で四六善し。白四、黒イ、白ハ、黒ロ、白ニ、黒イ、白ハの時は四五で勝。

〔八六一五〕互角の分れ

黒十一の時、粘筋は好まず。此時黒十・十五・十七の辣手あり。三一まで、善惡相半ばして互角の分れ。

〔八六一六〕前形に略同じ

白十八。黒乃ち十九以下、遂に二七に渡りて前圖と同形。黒十九で二六は、好まず。即ち次に、白イ、黒二五、白ロ、黒ヘ、白チにて、黒は先手なれど形、薄し。

〔八六一七〕白の形薄し

白二四は無理、白は焦慮に臨み貌狼狽。白二六にてイは、黒二一にて三三は、黒ロ、白ハ、黒ニにて、白二にて三三にて、黒ロ、白ハ、黒ニにて、白は、即ち、他に二着代すると、隅の連打を取られては、白損なり。

〔八六一八〕白潰れ

白十、實の切つて十九に白遂に取含みなれど、六・八は劫の寄もの手名のみ、劫なれば、白死。黒即ち、鞘を拂つて十八に劫は三・七の辣手。

〔八六一九〕黒惡し

彼我劍尖相撞つ所、黒一歩乘れず、乘れば勝ち。黒一歩誤れば敗る。白即ち二に乘ぜず、十一に失す、十四黒遂に潰滅の形。白十で黒十七で白イは、白ロ黒ハ白ニ黒ホ白の劫なれど、黒悪し。また黒イをヘは、白ロ黒ハ白イにて、黒十の切りは全然惡手と化す。

〔八六二〇〕黒の形善し

黒が棋威、中原を壓す。六までの白、既に戰はざるに潰えなんとす。白六の粘ぎは、緩し。黒は七・九・十一に盛陣を張る。

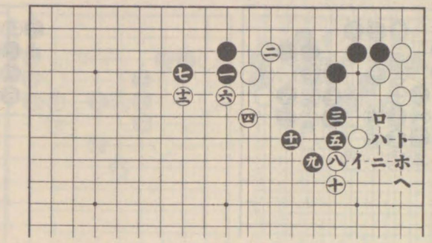
〔八六二一〕要點約言（第七九型イの一）（第二變化、其一）

黒七と一路廣く拓き、白八よし。七のロにある時は、白八は緊要ならざる時は、白も此形にては次にイの肩衝※

※き、或ハなどの打込の狙ひあり。

〔八六二一〕
白稍善し

黒は、前變化の如く六に行びずして先づ五に押せば、確かなり。白六の時、黒は勢に赴くに任せてイ、白七なれば黒ロと打つも一策なり。また黒イの時、黒八白ホ黒ニへ白トと等もなる。要之、是等手段の優劣は、四圍の形勢如何によつて互に得失あり。



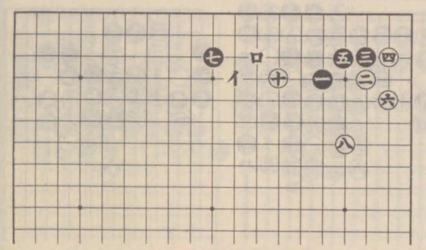
〔八六二二〕
黒厚し

白既に□に挺進して挑戰の手段を投げたり。此時、黒共に九とは、黒ロとなるも、黒イと打つも一策なり。白二は、黒イと引いて□以下の白と闘ふべし。

〔八六二三〕
基本圖
（第七九型イの一）
（第二變化、其二）

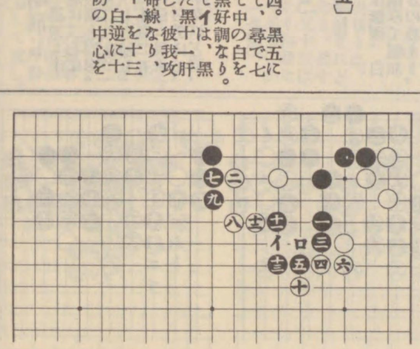
九手抜

白十はイよりも稍ギビシキ意味あれど、ロの打込に比すれば緩なり。十、孰れにしても、十、イ、ロ等は白八を利用し、黒を兩分して攻めんとする手段にして、之は布石に於ての、肝要の狙ひなり。



〔八六二四〕
黒好形

黒五に尋で七に叩いて中央に起つて攻む。黒好調なり。白六は、要防の急所、生命線なり。黒ロにて十と蓋したるは、彼我攻防の中心を占取す。

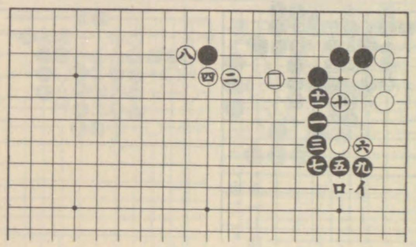


〔八六二五〕
黒厚し

白一も四。尋で白を叩いて中央に起つて攻む。黒好調なり。白二は、黒十一肝要の急所、生命線なり。彼我攻防の中心を占取す。

〔八六二六〕
形勢互角

白十もあり、きびしき哉、棋鋒火花を散す。黒十一、形善し、巧みに戰機を縫ふて渡るものの裏面なり。黒遂に三一。形勢まづ互角なり。



〔八六二七〕
黒稍可なり

白十二以下、十八。白二二で、二五まで、たは二六は、黒二二にて惡し。白四に黒ロで、黒イは、劫なれど、後に黒ハの筋あり。

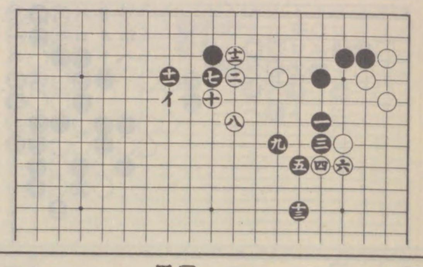
〔八六二八〕
白攻合敗

白イ二六にて二八は、黒イ白ロの後に二八、黒二六白ハ黒三十で、黒勝。黒二九は、手筋、此一着下しや、白は俄然と生色を失ふ。黒三一の次に、白ニは黒ホ。

〔八六二九〕
兩軍共に好形

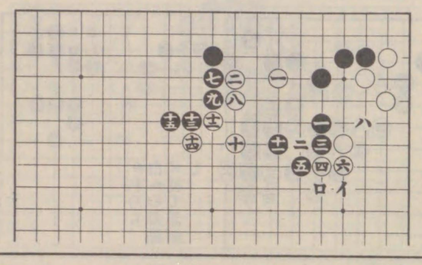
黒九なれば、確かなり。白十好點、かくては白の生色潑剌たり。

一策なり、其時は、白は單騎駒を飛ばして輕くイに駐すべし。遂に白十二、黒十三。兩軍共に正々の陣を張つて相對峙す。



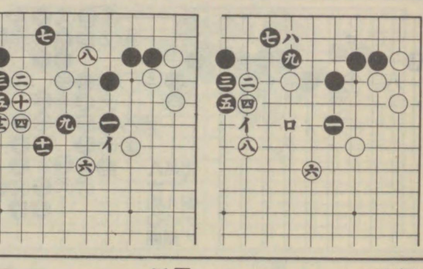
〔八六三〇〕
黒稍優れり

白四にて六は、黒四白イとなる。之は、形より見て、白の打ち方は、古桶の箍の如く弛めり。また、白六にてロも、黒ハと闖入さるゝ嫌ひあり、白八なれば、黒は五までの右の堅壁を特みて更に九へ押すべし。白十二にて十一に、白十二は、黒ニの切りあり、遂に黒十五。此分れ、黒の勢稍優れり。



〔八六三一〕
場合による

眼にかけたる敵を殺さんとすれば、黒直ちに八六と振替ふる場合には、黒も無しと、二四圖の如く惡きは、此押しを先にして、白六までの形。



〔八六三二〕
白の形輕快也

黒五もあり。白六は白魚肱に躍る快味、爲に一脈清新の氣漂ふ。白七にてイは白ロ黒七却て惡形、黒も黒九。此打易し。

〔八六三三〕
黒に嫌味遺る

白四は、前圖十の形に比せば、輕くして此場合可なり。黒五は、先づイが善し、八六以下及び次圖（二五圖）。遂に、白十二に至つては、黒の形に嫌味あり——

〔八六三四〕
場合による

黒五なれば、白六必然の勢ひ也。黒七にて十なれば、白九。白十二までの分れは、白は形薄きも勢よく、黒は厚きも何となく生氣に乏し。

〔八六三五〕
黒緩し

白□と打込みし時、黒一と渡る手は、萬止むを得ざる場合の外は、低し。既に白□黒一、白は此交換に滿足して、白二は手抜も宜し。

〔八六三六〕
常形

九手抜

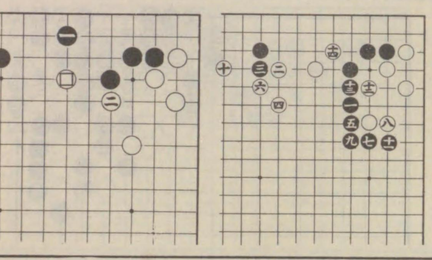
黒十一も手筋。蓋し、黒は劍を按じて白に迫るの十三まで。十は常形。此後、白イは黒ロ、また、白ハは黒ニ、何れも打ちし方※より切つて盤石。

〔八六三七〕
黒の形好し

白二は、黒を隔て強手なれど、其形好まず。黒危機に直面す。白四。卽ち黒若し五を六なれば、白イの鬼手。黒の方三まで厚くして優れり。

〔八六三八〕
中央戰による

黒は五と押しの一手。白六以下の勢、黒九で白八を粘ぎ、白イと打つも、黒十と厚し、然しイの如く黒三までとなるも、白は、黒七までの交換して決して無用の一着に非ず。



〔八六三九〕
黒優れり

白直ちに八なれば、黒九に急撃す。白、吃驚抑して十以下十六の天王と求活。黒十三味悪しきに似たるも、之をイは、白ロ黒ホ、白十四黒十三で、黒後＊

〔八六四〇〕
黒大に悪し

黒五、此場合無理。白に六の好着あり。黒二五白二六の次に白イに打てば、白ロに黒ハにて劫なれど、黒は一手寄劫の不利。加之、隅の黒危し。

〔八六四一〕
黒非を遂ぐ

白一は前圖二六。白一貪つては勝を得ず。二に逆撃せり。白三、黒四。黒遂に白一貪りなり。白十。黒打つて潰走す。黒六の後白イは、黒ロ白ハ黒三白ニ黒ホ白ヘ黒ト白チ黒リにて、白の無理劫。

（ロノニ打込ム　ホ一目トル）

〔八六四二〕
白大勢を占む

黒前圖六の變化。黒十二にて白イと取れば、前圖と同じ。白十二にて黒イと取れば、圖の如く十・十七の妙着あり。白二九迄、遂に百パーセントに利を占めたり。白十七迄、遂に黒の重龍。黒四に白は手厚くして善し。白一に黒三一を三二に、黒攻合勝たず。

＊手乃ち、白ヘの要點に就て黒悪し。

〔八六四三〕
白攻合勝

黒十九と突當れば、攻合遂に黒敗なり。白二六にて二七、黒一白二九と打つも、白は手厚くして善し。黒三一を三二に、白ロに先段を施すべき餘地も無し。

（ホ打込ム）

〔八六四四〕
要點約言

（第七九型イの一）（第二變化、其二）

白十と打込み時は、黒にイとロとハとの應けあり。イは強く、戰ふ手。ロはシノギ。ハは手筋にして時に面白し。

（九手抜）

〔八六四五〕
基本圖

（第七九型イの一）（第二變化、其三）

白十は、黒の一と七の間への侵略手段としては、最も段キビシキ打方なり。若し次に黒イと打たれば、白ロと包圍せらるゝ故に、黒イにハと包圍せられざるに上にて敢行したる白の打込みは、四圍の形勢を熟察し、手段外形の白を整ふ。

〔八六四六〕
場合による

黒一は、次に黒イに包圍して中の白を釜めんとの魂胆なり。乃ち白、二以下八迄で、隅の白を整ふ。

〔八六四七〕
黒可なり

白二と右を守れば、黒は三と左に㊀を拽すべし。白十二尋でし黒十三、白十五となりて、黒九に劫提り、次に白イの抛に黒ロと打抜く。黒は然ずしも應ぜず、之は約四劫抛しかゝるを普通とす。白九、黒十五の時、白ホ黒ニと粘ぎ、黒ヘは、黒厚くして打易し。

〔八六四八〕
白優れり

黒十三は好まず、十三は前定型の如く黒つなり。遂に白三迄で黒征宜しく、此時に黒イに逃出せば、白ロに押して善し。白三子迄で黒ニに遺味漸く多きを加へ來る。

（ホッグ）

〔八六五〇〕
白大勝

黒一は、反間苦肉の策。此時、白二に一尋でし、白十に敵状を偵ふ面白し。黒乃ち十三と打ちたれば、十六以下二三迄で、黒尋で二となりて、白二に切つて二となりて、白は切つても血頭で、悠々二四に當てる。次に白が先手利きも、黒九以下の三子遂に活きず。

〔八六五一〕
互角の分れ

黒十三もあり。斯く打てば、黒は前變化を得るも、白は破れ如く然も無理なり。免れの形は無し。故に白結果底好なし。黒十一と打込時は、白十四迄で、黒十一と白十四と交換し、白十六と黒十七と打つ。若し白十六と黒十七と打つ。若し白十六なれば、黒十七と白十六と黒十七と打つ。若し白十六なれば、黒十七と白十六と黒十七と打つ。若し白十六なれば、黒十七と

〔八六五四〕白善し

白□ある時、これを呼込むと白△に廻られて前圖よりは遙かに苦しくなる。黒ホ、白ロに黒ハ、白ニなれば、黒ヘで勝。白チは、聞くも古棋百年に似ず。本圖の黒勝へず。これに聯想しても如何の感慨があるか？

〔八六五五〕白攻合勝

白□あり。黒十三と粘げば、白十四と攻合、白十六にて、白勝。但し白十四を十五に黒十三なれば、白イ黒三、白十八。黒ロ白ハ、白イと黒ハ、白ニなれば、黒ホ、白ロに黒ハ、白ニなれば、黒ヘで勝。また白チは、勿論黒ホ、黒ト白チ。

〔八六五六〕白勝

黒二一に白二、黒一と打込む時は、白五にて宜し。白五を約束の如く白三に打つては、黒五で白二の時、黒三と打込まれて、白六と打つても、黒七で目無し。

〔八六五七〕要點約言（第七九型イの一、其三）

㊀手抜時は、黒先手段に宜しく、白ロと替れば、黒ハと飛べば、次に白イと打込むも、黒ニと飛べば、白ロの飛んだ黒ニが利いて、白ホの時、黒ヘと打込まれても、白トと打たず、黒ヘに出づれば、白ロと包囲す。尖に尖んでは、白ロと飛べば、黒ニと飛べば、白ホ

〔八六七〇〕
参考圖

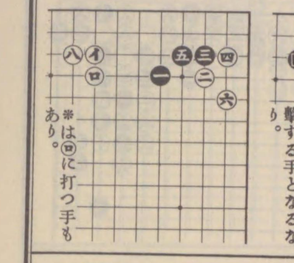
白一、黒に二と應けさせて白三、白五・七、一見損なるが如きも。而かも後の續いて白七・九に出るや、前後相響應して、白に妙機靈の如く黒、呆※

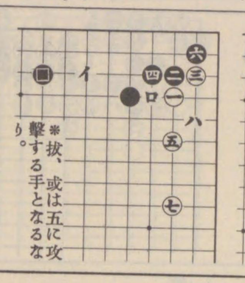
〔八六七一〕
互角の分れ

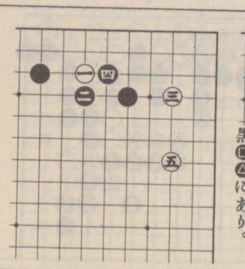
黒、險に臨みて自若。即ち、白三の時、黒は妄動を避けて四に一の白を確保す。四で五。白尋で五。遂に、黒は上邊に、白は右邊に利し、白は發展せり。

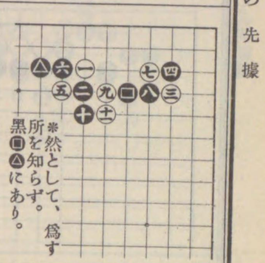
〔八六七二〕
常形

白直ちにイと入らば、黒二。白三にてイなれば、次に黒はロで厚し。白五にてハは、氣の利かぬ手なり。即ち◯の好點と黒は手※て、次に黒



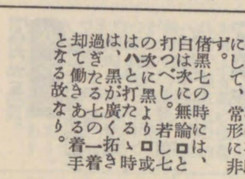


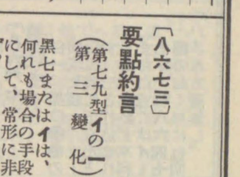



※然として、爲す所を知らず。黒◯△にあり。

〔八六七三〕
要點約言
（第七九型イの一變化）

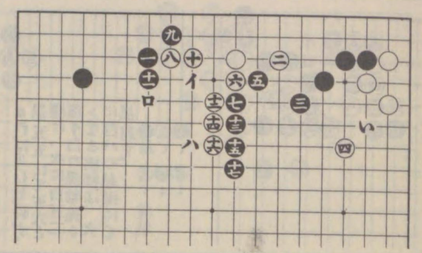
黒七または㋑は、何れも場合の手段にして、常形に非ず。





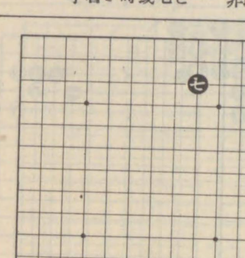
〔八六七四〕
基本圖
（第七九型イの一變化）

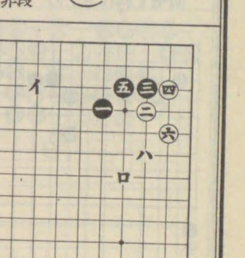
黒七の手抜は、場合により好手抜なれど、斯ては、白八、打つ事もあり。白八は要點。又は④或※



〔八六七五〕
常形

（黒手抜七を——實戰の例）黒は、布石の初めに、◯の如く八に拓かず、先づ七と星の手を前型定石の如くにして、白イに打ち、白そこで、黒は、八に追はば、九に白ロと夾み、此形、黒の手段なり。八は黒の攻むる方面と、白の逃げ道とを、共に要之、黒利なり。黒は、實利を廣く打占めて、九、非を廣く打たんとす。七、九も時に面白し。



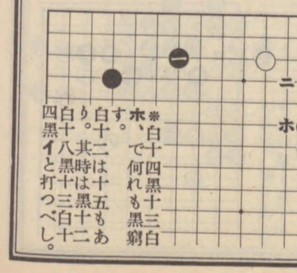


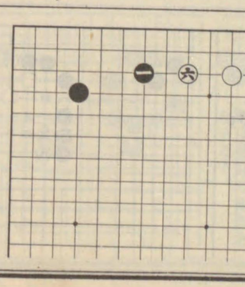
〔八六七六〕
場合

黒既に一。白乃ち高く二は、◯の據を奪つて迫りし手にして面白し。黒五にてイなれば白は止むをロ、此交換は得ざる場合と知る外は、黒損と知るべし。白六は地味なれども佳手なり、凛乎たるその姿には、霜にもおごそかれ、たそれはる梅花の意氣あり。

〔八六七七〕
形勢黒善し

白いま六と暗中索しい、強ねて狭地に兵を進むる。かゝ。黒の手段、却て如斯に黒利あり、明かに結果白の有望なるを見る。白めつきたる場合の外は、白が全身の力を發揮し自ら突出來るやの鋭鋒を避急に、黒は驚倒し、個のの利得をにのけ、白は十と突破すとも、黒一善く反之に、白九で、黒は、次に九に尋で、黒は惡し。ニなればハをなし。白ニまたハなれば黒





〔八六七八〕
黒厚し

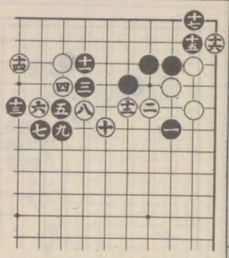
白二なれば、黒三と出づれば、黒も亦、三に起つて、白四以下、黒七の時、白八は常用の手筋なり又、此手は黒十三と綿ねて、黒ロと白ハとの交換あり。何れも可なれど否時により黒十七までの結果。白は根據を得、黒は外に發展せり。但し強ねて可否は、黒に厚くして稍望み多き貌なり。

〔八六七九〕
黒打易し

白二に中原を望むも、黒ロと出づれば、白イと破れて齒寒く、白四以下、黒七に至れば、黒は拓言ふ勿れ。此場合、黒七を急ぎ、白來る。然れば、白は、黒七を急ぎ、白來る。然れば、白は、黒七を急ぎ、白來る。然れば、白は

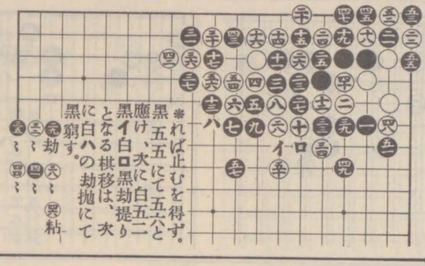
〔八六八五〕
白無謀也

白八に殺を振つて切断せしも、事遂に成らず、白無謀なり。黒十七まで隅の黒は活。而して中迫の形白好まず。



〔八六八六〕
黒有利

白前圖十四より變化。十四・十六は打過ぎ。黒乃ち十七と、敵の背後に繞り撃つ。（黒十七を二一なれば、双方平穏の分れとなれど、黒緩し）。戰雲、急なり矣。白十八、手順なり。黒二三を二四は、白三十黒三時、白四二六黒二三白五二となつて、攻合黒敗なり。黒二七以下必然な白三六の劫抛は損なれど、大劫な＊



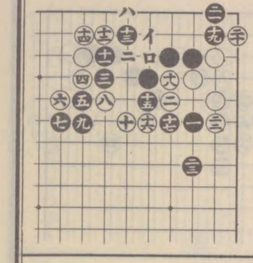
＊れば止むを得ず。黒五五にて五六と應け、次に白五二白イ黒劫提りとなる推移は、夾に白ハの劫抛にて黒窮す。

〔八六八七〕
白潰れ

黒十七の時、黒十九と白二十に尋で黒は二四と試張りナシ。果て薩摩の礫で宜し。黒ロ白ハの時、また、白二六と攻めるも、黒二七にて以て劫抛無く敗なり。若し、白三四なれば黒ヘ尋でホ善で、白二三十は黒二、白二八黒勝なり。

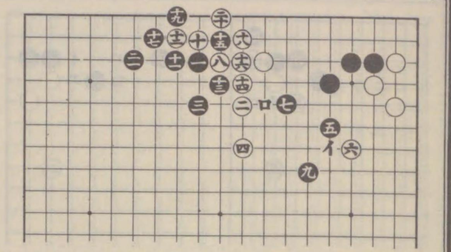
〔八六八八〕
白慘たり矣

黒十一の時、白直ちに十二と打つも、黒たびは十三に約七に決河の勢！十二四でイは、黒ニ。白ロ白ハ黒ニ。



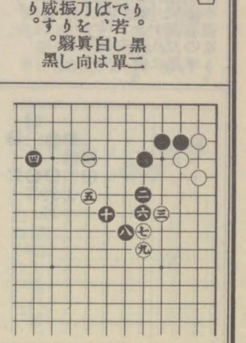
〔八六八九〕
互角の形勢

白二もあり。此手は、黒次に五イに連ると、形勢を黒に緊縮せしものなれど、黒は遠慮つてその儘押さゝんと連からんと本手とす。黒五、七、九、形なり。



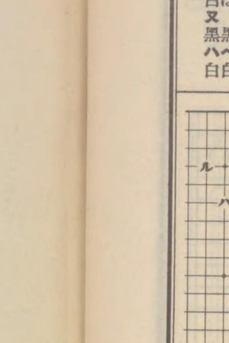
〔八六九〇〕
黒手厚き形

白四もあり。白十五。黒十四は、黒十四と至つて、白ロ黒ハ白ニ、白イは、黒ホでも宜し。



〔八六九一〕
互角の形勢

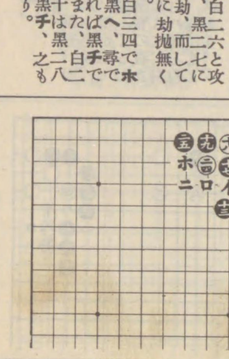
黒一、三、而して白四の時、黒五に跳り出づる。黒好調な白以下黒二七にて黒面白から黒ハ尋で白ロに黒イは、白ニ。黒十三黒は、白イ、次に白十一。



〔八六九二〕
黒善し

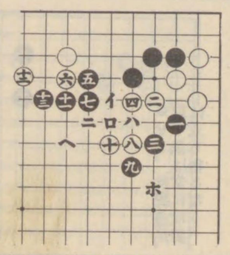
山崎因砂六段　當時
先勝奥貫智策　四段

白三の着意、稍氣抜けせる感あり。而白かゝらず。三は矢張り前形イを形とす。



〔八六九三〕
場合

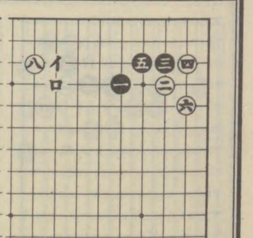
黒一。白二、黒尋で三。黒頭蹴九に敵の頭を壓す。黒九にて白ロにて、黒イなれば好調を得難し。



〔八六九四〕
要點約言

（第七九型イの一）變化（第四圖）

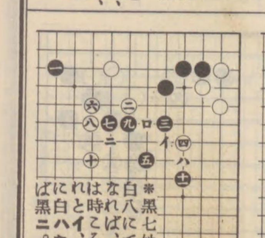
白六迄の時黒手抜は、多く黒の不利なれど、布石上、左邊のツリ合にて手抜きも面白事も有り。その時、イ、及びロ、八の夾みに八、イと穩健に攻ロあり。正着、此二着場合による。



〔八六九五〕
黒策戰可なり

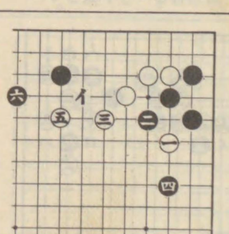
先勝奥貫智策　五段
鈴木知濤　四段

白二と右に迫り、白四と尋で四。あ厘毫千里の差を生ずる、黒五は、兵機不毒、春風袂を拂ふの輕快さ！白六でイは黒ロ。＊



〔八六九六〕
白可なり

黒五惡し。白六、白八の手順妙。十、黒十一と尋で十二、黒イ白ロ白ハ黒ニとなりて、白十と黒十二との不交換は遂に白の不利に歸す。



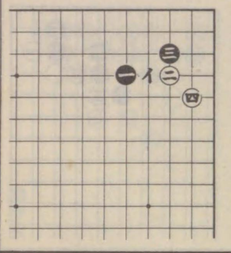
〔八六九七〕
場合

白一もあり。黒二肝要、二で若し単に傳家の寶刀を眞向上段に振り冠り、黒イ白四の時黒好調な白ロにて黒面白から黒ハ尋で黒ホは、白ニ。黒十三黒は、白イ、次に白十一。

〔八七〇〇〕
基本圖

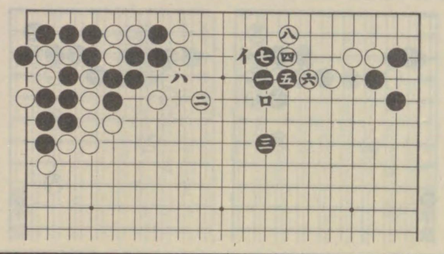
（第七九型イの二）

白四もあり。白四は古風、昔時は屢ば用ひられしも、近時は實戰にし、此手は、黒にイと打たれて損なればなり。



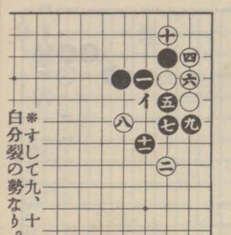
〔八七〇一〕
常形

黒五の突當り厚く拓して宜し。白六に拓き、黒は七で手抜きし時も可なり。（次圖）



〔八七〇二〕
白分裂す

白四なれば、黒五・七。白八で、黒八で九に渡れば、黒イの切に好し。白八は手筋を狙つて手抜きなれど、無理なり。見よ、黒は白の八を齒牙にもかけ＊



＊して九、十一。白分裂の勢なり。

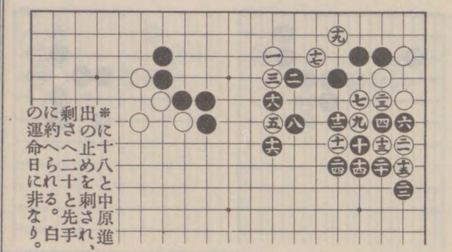
〔八六九四〕
互角の形勢

白二もあり。此手は、黒次に五イに連ると、形勢を黒に緊縮せしものなれど、黒は遠慮つてその儘押さゝんと連からんと本手とす。黒五、七、九、形なり。

〔八六九五〕
黒厚く好し

先番　本因坊元丈　八段
勝　安井知得　段

白一は、兒島高徳単なるも、萬一、白地跼蹐して意氣壯んなる裏直に入る虎狼死を企つし、斯くの如く深入りせらるゝ故、黒に外を厚くせらるゝ故、黒二旦つ猛攻急激。白遂に十七、黒＊と活きしも、十九



＊に十八と中原進、出の止めを刺され、剰さへ二十と先手に約へられる。白の運命日に非なり。

〔八六九六〕
黒厚く好し

先番　本因坊元丈　八段
勝　安井知得　段

白一は、兒島高徳単なるも、萬一、白地跼蹐して意氣壯んなる裏直に入る虎狼死を企つし、斯くの如く深入りせらるゝ故、黒に外を厚くせらるゝ故、黒二旦つ猛攻急激。白遂に十七、黒＊と活きしも、十九

＊に十八と中原進、出の止めを刺され、剰さへ二十と先手に約へられる。白の運命日に非なり。

〔八六九七〕
場合

白一もあり。黒二肝要、二で若し単に傳家の寶刀を眞向上段に振り冠り、黒イ白四の時黒好調な白ロにて黒面白から黒ハ尋で黒ホは、白ニ。黒十三黒は、白イ、次に白十一。

〔八六九八〕
常形

黒一を普通の如く七或は八に壓せられて黒白から黒一！戰雲俄かに動出し、白軍の警報、連りなり。白即ち好手なり。黒三が左の二間飛び、二は白の銳合を佳とす。此場合、白に似たれど、彼我の眼形に關する要所なり。

〔八六九九〕
要點約言

（第七九型イの一）變化（第四圖）

白六迄の時黒手抜は、多く黒の不利なれど、布石上、左邊のツリ合にて手抜きも面白事も有り。その時、イ、及びロ、八の夾みに八、イと穩健に攻ロあり。正着、此二着場合による。

〔八七〇〇〕
基本圖

（第七九型イの二）

白四もあり。白四は古風、昔時は屢ば用ひられしも、近時は實戰にし、此手は、黒にイと打たれて損なればなり。

〔八七〇一〕
常形

黒五の突當り厚く拓して宜し。白六に拓き、黒は七で手抜きし時も可なり。（次圖）

〔八七〇二〕
白分裂す

白四なれば、黒五・七。白八で、黒八で九に渡れば、黒イの切に好し。白八は手筋を狙つて手抜きなれど、無理なり。見よ、黒は白の八を齒牙にもかけ＊

＊して九、十一。白分裂の勢なり。

〔八七〇三〕白位低し

白直ちに二に外三に誇る。黒卽ち威を厚くして、此の一着は、黒七形に比すべし。黒七に拓く。かく黒七に衝いて黒の形を崩すべし。

〔八七〇四〕黒悪しからず

黒三と下る手もあり。白尋で四・六、なるも、八四五三圖よりは黒優れり。

〔八七〇五〕場合による

黒一もあり。之は、地合に於ても黒優れど、白二・黒三となり、後に若干の嫌味残る。卽ち、白イの線出し。又は白ニなど。

〔八七〇六〕白凡庸の形

白三悪しも、さればとて白四も低し。黒イに非ず左に白は非ず、右に白は非ず、中と。天下の正道なり「中道を注かざるべからず。

〔八七〇七〕黒の形拙し

黒二悪し。白いまや撤餌の水が如く生氣を蘇り、三・五・七に整形す。就中、七は肝要。斯く拙くなりては黒の形拙し。

〔八七〇八〕場合の常形

白六と退き、黒に七の快抱を許し、白次に八に展開し、往く姿もあり。この形は、次に黒イが大なり。白六の置きまたは六の取り等の遺利あり。

〔八七〇九〕白低し

白一、黒二の時、白三は手抜して可なり。卽ち、次に白五と一端黒の生命線を脅かし來れば、而して十の拓き、此形白低くして好まず。

〔八七一〇〕黒妙味有り

白五と左より迫り、手抜四、黒八と左より鄕つて護國の人柱、六着。黒たゞ蓋しに、十八に着して至つて意氣甚だ昂る。黒が捨石の手段、妙味不盡なり。

〔八七一一〕隅の大小論

隅の大小とある時、白六イは、白ロ黒ハとなりて、後に黒イに遺利無し。故に、此形、黒後手にてイと打つは事小なり。

白六にてニの時は、次に黒イが大なり。この形は、次に黒六の置きまたはホの取り等の遺利あり。

白六にてヘに拓きし時も、黒次にイなどされど、白ヘと遠く打ちし時は、黒は前掲二圖に從ふも宜し。二圖之に大なる地とは双方に味殘らず。

〔八七一二〕參考圖

白四、而して六・八は、無理なり。黒卽ち十一。白十二まで脫るゝに、黒ロ以下白リ黒ヌまでの變態征。

〔八七一三〕要點約言（第七九型イの二）

白四と尖むは古風なり。黒五では時にイと下るも宜し。四にてイ、黒ロの時白ハは黒ホ。又は、黒ニ。白ハは、黒は手抜にて宜し。

〔八七一四〕黒惡しからず

黒三と下る手もあり。白尋で四・六、黒七に拓く。かく黒七に衝いて黒の形を崩すべし。

〔八七一五〕基本圖（第七九型イの三）

黒三の時、白四、定形にして、此手時に前掲イの一（八四五二圖以下）よりも優れる場合もあり。次に黒五では、イロまたは、イハの三法あり。尤も右の外に黒ニまたはホも時として無き筋に非ず。

〔八七一六〕定石

黒五の時、白の打つ一手としては、黒七堅實なり。白九。此手守備、失ふ所なし。

基本圖（第七九型イの三）變化

白四に對しては、黒五最堅實。此手處なり。

〔八七一七〕黒甚だ堅し

黒二・四は後手なれど、前圖イより白に多し。加之、黒は、三まで白の攻味あり。卽ち□の及び重複せるが如くち黒の攻味あり。卽ち□の及び重複せるが如くなれど、前圖よりは柔好し。

〔八七一八〕白一策なり

白三、含蓄深し。此形、白三をイの時とは異りて、千里長驅ロに急襲（次圖）の鬼手を見る。黒四絶對。此形、白後手なれど、前圖よりは柔好し。

〔八七一九〕黒悪し

黒四を怠れば、卽ち風雲を捲いて白九。黒一に對して、地を損せざるも全からず、白三に遂には殺到す。此形となりてはイにあるより遙に優る。

〔八七二〇〕黒慘敗

黒六・八と取りかけに行くは無理なり。白九。黒に至つて、左右兩眼を作らんとするも、此形に於ては、白三が生ずる故、イなる時は、初めの手成立せず。

〔八七二一〕要點約言（第七九型イの三）變化

黒五白六の時、黒は七が正着なり。黒七をイなれば、次に白がロ或はハに備へし時は、ニが肝要。黒ニを忘れば、白ヨ。

〔八七二二〕白一策なり

白は故意に懷を擴げて三、而して黒の四に打込み來るを待つて、□と一の白を徹牲にして五、七に外勢を張る。蓋し、黒が二に下りある故、白は二子を打てる。

〔八七二三〕黒絶對優勢

白六を手抜、黒は七に取つて形、黒は隅に三多く、白は二と交換も、黒五と交換せるも、黒は隅に三多く、白は二と交換せるも、黒五と交換せるも、結果となつて費せる。

〔八七二四〕要點約言（第七九型イの三）變化

黒五白六の時、黒は七が正着なり。黒七をイなれば、次に白がロ或はハに備へし時は、ニが肝要。黒ニを忘れば、白ヨ。

〔八七二五〕黒厚し

篠原正美五段

先番勝村島誼紀段

黒一と尖兵を放つや、白二に應ずや、黒卽ち三。遂に十一。此形、黒後手なれど形厚し。

〔八七二五〕
基本圖
（第七九型イの三變化）

黒「五もあり、は前圖變化の如く黒イと打ち次に白ロとなつて、双方とも無事の分れとなるを嫌ひし。※

〔八七二六〕
常形

黒五に、二の脚下を飛へば、燕の輕妙、白六の切りは返し。黒九のイもあり（次に十二に、明朗、溜達の棋歩を取る。（圖）白遂に十二に、蓋しの好點なり。

〔八七二七〕
黒の形厚し

黒四。白五にて六に十なれば、黒十にて宜し。下れば、十一に手抜かれたれば、イ白は、イは打つ。此時白ロと十。位のものの。逃げる黒に無し。次に黒ハ白ニ黒ホ。

〔八七二八〕
黒悪し

黒二・四と包圍するも、白に五と切られては、黒は包むに餘る身。遂に白九の悲しさ。遂に黒六に白イ八とりては、黒悪し。又黒六に白イ八では、白有利なり。

〔八七二九〕
白面白し

黒「六・八と下る手は、一見好手筋の如くなれど、畢竟、場合を誤り、白十七、尋で十九、輕快なり。（ヂ打込 大トル）

〔八七三〇〕
黒稍可なり

白一・三、手順を誤る。白三にて四は、黒三で白面白し。黒三ず。白七切らず。黒四で六圖と同形。白九百長角力の八、百長角力の禪は、弛みたれども、他に良策も無し。

〔八七三一〕
白可なり

黒二と粘く手は、イに缺陷を提るも蟻の一穴より…千里の長堤！…ど、黒隅堅き故場合によりては□と一含む。三子を捨てる。三面白し。

〔八七三二〕
黒緩し

黒二手堅けれども、次を許しては、黒面白かイと切り、此形殘る故、黒より急攻も、手段無し。然かイと粘。※

〔八七三三〕
黒厚し

白一・三もあれど、形よりは見て好まず。一は求めて敵の堅きに己が頭を打突けだるもの。好し。白五を黒四甚だ宜し。白五も宜し。六に誤れば黒イ（次圖）。

〔八七三四〕
白低し

白五と取りしは敵のなり。黒は六に引歷りしも切て、シボツて善し。白九で二目を粘げば、黒イ白ロ黒ハ白十ニにて、白後手活。此形、黒外勢厚し。

〔八七三五〕
黒優る

白六を怠れば、黒七と取つて黒形優る。此形は、五のイにある八七二三の圖ども、尚ほ且つ劣れりは黒稍勝れりと厚みとを兼ねへたり。

〔八七三六〕
要點約言
（第七九型イの三變化）

黒五の時、白にイとロとあり。イは通形にして、手順但し、白イをロと引く手は、次に黒ハ、白イなれば※

〔八七三七〕
基本圖
（第七九型イの三變化）

黒五もあり。之は、前變化のイまたはロと違つて、柳は絲花はくれて（ワ）これにはまされば別種の趣あり。此一※

〔八七三八〕
定石

白六は、此一手。黒七宜し、白七を八は惡し（次圖）。白十二に手順なり。黒十三、絶對。此十二は先立つて互角。此分れは先づ白は黒勢を得たり。

〔八七三九〕
黒不利なり

黒二なれば、以下九まで、隅に相當の地を有つ。黒乃ち十と守らざるを得ず。黒十まで、此外、黒勢厚しと雖も、遂に不利なり。

〔八七四〇〕
白手順を失す

白五では六に切るべし。黒好しかくて禍根絶滅す。黒六をイでは惡し、白六を前に打つて、双方とも無事の分れとなるを嫌ひし。※

〔八七四一〕
白無謀

白七の切り、無理。白二三の巧妙の先手約、即ち二五の手筋を導いて七に急襲！然るに黒二五まで白の一手活きて、黒二五と白二に二八と白二に二九、白二に三四と白二に三五、黒二に三六にて三七、※

〔八七四二〕
白利勢

先番宮坂宗二六段當時
勝　木谷實五段

本圖は八七三八圖の白十八に尋で黒一と飛び、白二と出で、黒三の如く、黒の堅きを得ざるは多く好手を見よ、此形にては未だ何れが優れるとも判定し難し。

〔八七四三〕
白輕快なり

先番宮坂宗二六段當時
勝　木谷實五段

白一以下は、厚みを利したる好手な。

黒一の時、白二以下數子を捨つ、巧みなり。後、白の外勢厚く、白の打ち易き形勢となれり。

〔八七四四〕
得失未定

向井一男四段
小島春一三段

白十六の時、黒十七もあり。黒一・二可なり。即ち黒二一で白イと打つも差當り白より白ロは手段無きも、白イは利きあり。白ロ圖の二三には、白ロの利かず。

〔八七四五〕
常形

白十六の時、黒十七もあり。黒一・二可なり。即ち黒二一で白イと打つも差當り白より白ロは手段無きも、白イは利きあり。白ロ圖の二三には、白ロの利かず。

〔八七四五〕
白巧みに替る
向井一男四段
小島春一三段
（當時）
先番勝
（前變化の續き）

黒一。右の白の一團、嵐や、危機速に到る。此時振替りしは、白二・四と轉じて一隅を取れたとても、白決して損には非ず。

〔八七四六〕
白無理形
白十五なれば、黒は十六の切り。黒十七、好手順。黒十八・二六の行尋で宜し。普通は白は無理なれど、時に面白きこともあり。

〔八七四七〕
白無理形
黒は十八而して二にて一、黒二白二三、黒四白ハ黒二八白ホ二六白ニ黒ロ二三白ハ黒ロ白ニ六白ホ黒二八白ホ二六白ニ黒ロ白ハ黒二三白ロ黒ハ

〔八七六五〕前と同じ

白三、手順なり。黒四、手筋なり。白五以下黒八となって八七四一圖と同形、參照。黒三で⑥はイとロとあり。若し黒劫材豐富ならば、斷然ロに挑すべし。

〔八七六六〕黒の形優る

白一なれば、黒二、手筋。白三で宜し。白遂に十・五一帶に包圍を脫し、黒の一筋、白は時として出づ。以下打ち斯くとも一つに連れあるも、之は黒を厚くせしむる故に好まず。

〔八七六七〕黒外勢優る

黒六・八もあり。白一でイは、黒十一でロ。黒ハで、白七の不利。白屠つて十に二子を活く。さると、黒十八に至つては中の白は四面楚歌の聲を聞くのみ。

〔八七六八〕互角の形勢

白十三は、好まず。黒十二、好手。白十三は、佳手なり。命を制す。加之、八の黒の死を通じて詰まりに陷る。駄目十三でロで右のイは惡し。黒の四子を犧牲にして白全く味消滅す。

〔八七七五〕白惡し

黒六の時、暫く七以下への味を觀望し居るし。黒更に十に取りに切るも、惡しく手割に於て白る。圖の結果は白全く形勢を損ず。

〔八七七六〕互角の分れ

白單に一も、手筋なり。黒二の下り、佳手。黒二をイは損なり。卽ち夾に白に三と打たれて、後に白に二の綿ねを見られる故なり。

〔八七七七〕互角の分れ

黒二もあり。白三、宜し。黒六の時、白が穩かに七。九と取りしは兵に可也。此形、好く、黒ま た外勢厚し。

〔八七七八〕黒厚壯なり

白九・十一・十三と取れば、黒四、十五の厚き堅實には、黒十六にて善し。黒十二と大きく後、白イに切れば、黒ニ、三子を拾てゝ黒優勢。

〔八七七九〕場合、征關係

白七・九、俗手なれど、黒の味惡しきに乘ぜし强手なり。黒十六に先たちて、白十四に肝要。白十九の時、黒征宜しく二十でイ、卽ち此場合には白に十七と切る手無し。

〔八七八〇〕互角の分れ

黒惡しき時は、圖の如く十四と押し、以下十八と打つべし。白十九をイは、有利なり。利なるも、却て不利に似寸善尺魔、重を要す。處愼重を要す。（次圖）

〔八七八一〕黒善し

白一なれば、黒二に蓋し天王山所なり。此形の最も肝要。白十三と切るも、黒は厚く六以下絞つて白二九でイ、黒※

〔八七八二〕白稍面白し

白十五の時、黒六の如く十七と切り、尋で十九と切る一手。白二七以下三三、好手順。白二、三と眼を作つて、其手數を延ばせしは可なり。白征惡しき時は、黒に二二でも、白潰滅。

〔八七八三〕黒大いに善し

黒十八の時、取らず堅くロの方に手を轉じ、九に取りしは、白二七以下三三、四と出でロは白三七、黒ハで、白二、三と打たれて、後に白に二の綿ねを見られる故なり。

〔八七七一〕要點約言（第七九型イの三、四變化）

黒五と夾み手あり。白イと尖むる時は、但しイは時機見て打つべく、多くは白六でロとはべく、多くは手拔して宜し。白イにてロとは又白イにて二の一段手を拾て石利用の手段あれど位低くなりて多くは白好まず。

〔八七七〇〕參考圖

八七五七圖に於て黒五の手拔は、白六で黒手拔が宜し。次に黒七と取るも、前變化と類形より、前變は白に活動の餘地あり。卽ち、※殘れり。

〔八七六九〕白の形良し

白五の時、黒六に白七で善し。黒十二、白の後に、前圖イに於て殘さゞる缺點あり。白七に黒は惡し。卽ち、イは惡し、白は整形、反之、白は斷點殘れり。

〔八七七二〕基本圖（第七九型イの三、五變化）

黒五と冠す手あり。是は黒三に白五と打ち後に三と頂けし同じなれど、若し先きに五なれば、黒はイが、又、正着なるべく、次に白は五に對しては四に打たず。此相應れば、黒イ、白ロ、黒ハ、白七七圖と同形。此處、一五へ一三失あり。彼、一五へ一得、一三へ九に相應れば、此圖以下參照。此圖に就ては、大圖冒頭の說明參照のこと。

〔八七七三〕黒打易し

白一は、八七五七圖に於ける意味にて、手拔が宜し。黒四、攻手。黒四、粘れば、白八、黒イ、白ロ、黒ハ（八七七圖と同形）

〔八七七四〕場合

白三もあり。白五にてイなれば、黒六は手拔すべし。黒七は早大所なれば、白は他の好所に先鞭さるゝ處に手も非ず。此處に打つ。

〔八七七五〕白惡し

黒六の時、暫く七以下への味を觀望し居るし。黒更に十に取りに切るも、惡しく手割に於て白る。圖の結果は白全く形勢を損ず。

〔八七七六〕互角の分れ

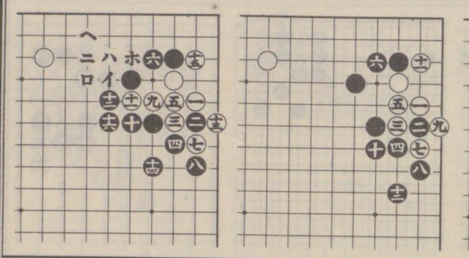
白單に一も、手筋なり。黒二の下り、佳手。黒二をイは損なり。卽ち夾に白に三と打たれて、後に白に二の綿ねを見られる故なり。

〔八七七七〕互角の分れ

黒二もあり。白三、宜し。黒六の時、白が穩かに七。九と取りしは兵に可也。此形、好く、黒ま た外勢厚し。

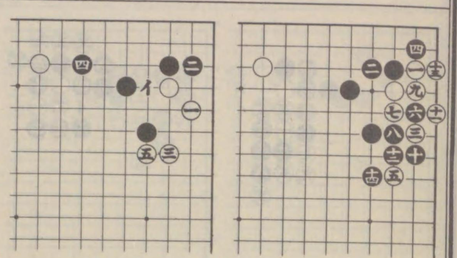
〔八七七八〕黒厚壯なり

白九・十一・十三と取れば、黒四、十五の厚き堅實には、黒十六にて善し。黒十二と大きく後、白イに切れば、黒ニ、三子を拾てゝ黒優勢。



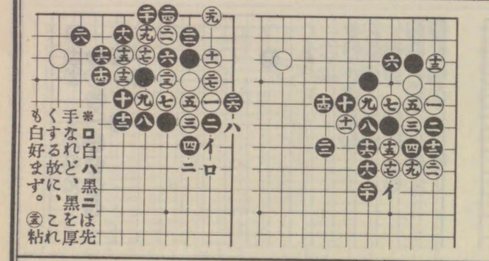
〔八七七九〕場合、征關係

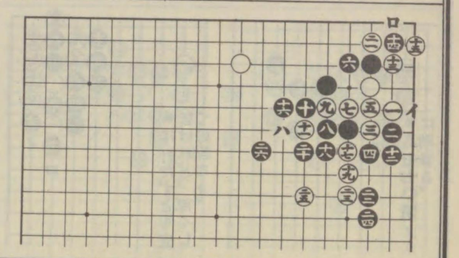
白七・九、俗手なれど、黒の味惡しきに乘ぜし强手なり。黒十六に先たちて、白十四に肝要。白十九の時、黒征宜しく二十でイ、卽ち此場合には白に十七と切る手無し。黒大に一にて、二二は、白潰滅なれば黒ロ。白二一黒二六に守つて、黒厚くして好し。又若しイに征、白二五に出して得る時は黒は夾圖の如く打つべし。



〔八七八〇〕互角の分れ

黒惡しき時は、圖の如く十四と押し、以下十八と打つべし。白十九をイは、有利なり。利なるも、却て不利に似寸善尺魔、重を要す。處愼重を要す。（次圖）



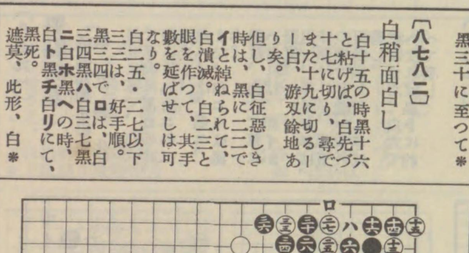


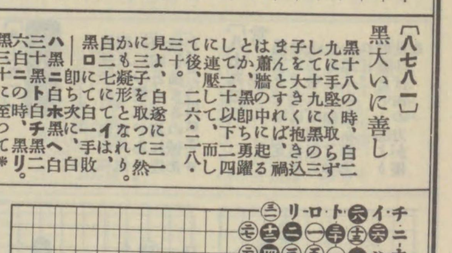
〔八七八一〕黒大いに善し

黒十八の時、取らず堅くロの方に手を轉じ、九に取りしは、白二七以下三三、四と出でロは白三七、黒ハで、白二、三と打たれて、後に白に二の綿ねを見られる故なり。

〔八七八二〕白稍面白し

白十五の時、黒六の如く十七と切り、尋で十九と切る一手。白二七以下三三、好手順。白二、三と眼を作つて、其手數を延ばせしは可なり。白征惡しき時は、黒に二二でも、白潰滅。





〔八七七一〕要點約言（第七九型イの三、四變化）

黒五と夾み手あり。白イと尖むる時は、但しイは時機見て打つべく、多くは手拔して宜し。白イにてロとはべく、多くは手拔して宜し。白イにてロとは又白イにて二の一段手を拾て石利用の手段あれど位低くなりて多くは白好まず。

〔八七七〇〕參考圖

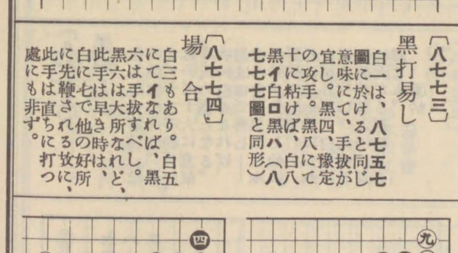
八七五七圖に於て黒五の手拔は、白六で黒手拔が宜し。次に黒七と取るも、前變化と類形より、前變は白に活動の餘地あり。卽ち、※殘れり。

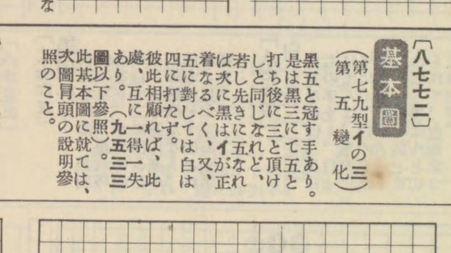
〔八七六九〕白の形良し

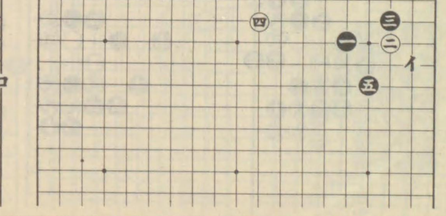
白五の時、黒六に白七で善し。黒十二、白の後に、前圖イに於て殘さゞる缺點あり。白七に黒は惡し。卽ち、イは惡し、白は整形、反之、白は斷點殘れり。

〔八七七二〕基本圖（第七九型イの三、五變化）

黒五と冠す手あり。是は黒三に白五と打ち後に三と頂けし同じなれど、若し先きに五なれば、黒はイが、又、正着なるべく、次に白は五に對しては四に打たず。此相應れば、黒イ、白ロ、黒ハ、白七七圖と同形。此處、一五へ一三失あり。彼、一五へ一得、一三へ九に相應れば、此圖以下參照。此圖に就ては、大圖冒頭の說明參照のこと。





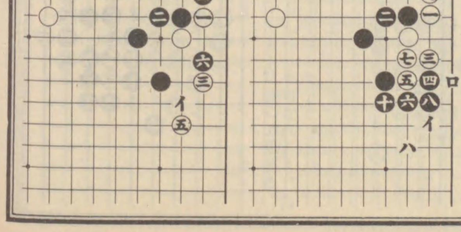


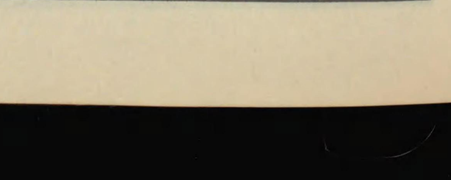
〔八七七三〕黒打易し

白一は、八七五七圖に於ける意味にて、手拔が宜し。黒四、攻手。黒四、粘れば、白八、黒イ、白ロ、黒ハ（八七七圖と同形）

〔八七七四〕場合

白三もあり。白五にてイなれば、黒六は手拔すべし。黒七は早大所なれば、白は他の好所に先鞭さるゝ處に手も非ず。此處に打つ。





〔八七八四〕
黒利勢

白三而して後五な
れば、黒八で宜し。
遂に十二。三の時は、
黒に十一。三遷の
白は、今や生期の
とし難き囚はれ、猶
なれ身、此る
形ば、白手抜き
手段、黒イに歴する
あり。

〔八七八五〕
黒厚し

白五・七なれば、厚
黒十二に先手の先
壁を築き、次に
鞭撻せて□
の白を夾み、撃つ。
此形は、九二一七
黒圖定石に比するに、
優れり。

〔八七八六〕
黒稍優る

白五、善し。此時、
黒六以下、黒三子
にして捨てて、八・
十二と利かせ
ましは巧妙。黒イも
また自ら先手利き。
黒十は、之よりも、
外形に優一
れり。

〔八七八七〕
黒厚し壯

白一なれば、黒二。
白三の時は、黒四
に引いて好し。
白五、正着也。五は、黒
をイと出るは、黒
□にて白面白からず。

〔八七八八〕
白敗

白五と夾みしは、
實戰に暗し。五は
蓋し手筋なれど、
黒に次に剛
下らるれば、攻合
遂に白一手と
なり。敗
れイは、
黒□(白十五)で。

〔八七八九〕
白面白し

驕る者久からず、
黒九は打過ぎなり。
白十二・十四善し。
遂に黒二・白二。此形、
黒は中の
に散地をり、白は邊
白からず。黒面

〔八七九〇〕
黒善し

(大)手抜
白六を手抜せば、
取るべし。黒は八七二
三圖八七五五圖、
よりは劣るも、(米)

〔八七九一〕
要點約言

(第七九型イの三)
(第五變化)

黒五に尋で、白六
でイ次に黒□の時、
白には八とニの二
法あり。
白八には、黒ニ。
また、白ニには黒
ホ。
猶ほ、白六で單に
八なれば、黒イが
堅實。黒イをニは、
但し、味惡し、白イを
一二の變化、あり。
白四とイは黒に近
接し過ぎるの憾あ
りまた、白□は、(米)

〔八七九二〕
基本圖

(第七九型)
黒三の時、白には
及び□イ、其他
白四とイは黒に近
接し過ぎるの憾あ
りまた、白□は、(米)

〔八七九三〕
常形

黒三までは、定型
なり。次に、白イ
は、喰へば肩怒ら
せる、多
少の人の如く、黒の
への睨みもあ
れど。
地域といふ點より
見れば四の方が優
る。

〔八七九四〕
黒稍可なり

白四に抬頭して、遂に□の友軍へ援
を送る。いづれにしても、黒五。
此形、白□、八七一隅
に比して黒に近き
の堅面白からず。

〔八七九五〕
場合

黒一なれば、以下
白十二まで。(變化、
八七三三圖參照)。
八七三三圖に白□
がイにある形と
南枝北枝の梅
劣れ何れと
し。(次圖)

〔八七九六〕
五角の分れ

白十二の時、黒は
十四または十五の
外、十三もあり。氣
蓋し、黒十三は、鋭
盛んに、鈍なり、
八七五□圖比較、
同圖に比し白□近
き丈に黒可なり。

〔八七九七〕
白敗戰

白十四、魯鈍なり。
恰て咽喉を守
つて如し。
五や、十七の
事體急塞、
又旦夕の
遂に敗る。
さず。黒二七。
白

〔八七九八〕
黒有利の形

白十は、穩かなれ
ど、黒に十一の要
點を先取されては、
地の勝敗に數
の勝敗のみ。黒十
る一べ三は留保して、後
に黒イの狙ひを
するも良し。

〔八七九九〕
白有利の形

白十なれでは、白八。
以下七まで、
たび、弦を放れし運
びし、必至のもの。
黒二七手持と二八は、
放に拙し、即ち後なる
ハ黒三十白ニ黒ホ
白ヘ黒二七で。
黒三一に先手劫提
りに、黒勝なり
蓋し劫抛他に
大きな劫は普通なれば
無きが
なり。(米)粘

〔八八〇〇〕
黒劫勝

黒七なれば、白八。
以下七まで、
たび、弦を放れし運
びし、必至のもの。
黒二七手持と二八は、
放に拙し、即ち後なる
ハ黒三十白ニ黒ホ
白ヘ黒二七で。
黒三一に先手劫提
りに、黒勝なり
蓋し劫抛他に
大きな劫は普通なれば
無きが
なり。(米)粘

〔八八〇一〕
黒優る

白十而して後、十
六なれば、黒即ち
十七、一石二鳥の
佳着と云ふべし。
白十八を、イなれば、
黒□にて、白は渡
る。白ぬれ大井
川二に若しれ渡
渡れば黒遂さず
ハ。

〔八八〇二〕
互角の分れ

白六の作戰は、征
關係により、其
可否は決す(次圖)。
黒七・九なれば、
白十にて互角の形
勢。

〔八八〇三〕
可否征に決す

黒七と單に粘げば、
此場合の運命を
すの骰子の
征の可否にあり。
白遂に十四、征如
何、丁か半か?

〔八八〇四〕
場合の策

小野田千代太郎六段
市
先關山利一四段
當時

前圖征の白宜しく
場合、行び
例。黒七と□に
横に當つて、以下
九・十三・十五(米)

(米)と出路を導きし
は、蓋し場合の一
策なり。(米)粘

〔八八〇五〕互角の分れ

黒一は、厚くして白二と尺蠖の伸びんとするも、次に四と八を好まず、次に黒はロと打つ故なり。（ロを嫌い、次に厚くイは白八と受けて互角の分れ。）（八＊）

〔八八〇六〕互角の分れ

黒三なれば、白は四。黒五の守り。蓋し、黒三の時に悪しからざるも、黒に覇気乏しと云ひ得べし。

〔八八〇七〕場合による

白二は、手筋なれど、黒三の時に悪しく、黒五の守り。蓋し、黒三の時に悪しく、黒に覇気乏しと云ひ得べし。

〔八八〇八〕可否征に決す

白六に切つて八・十なれば、以下黒二係なれば、黒一に下つて征関係。

〔八八〇九〕黒大に優勢

黒七・九は、紛らはしき踏み込みを避けて無難平明の進行なり。白十を十一と受けて黒十一形は前々圖參照。

〔八八一〇〕參考圖

黒五でイ或はロは、白四の類する故に省略す。要之、白四には黒ニは好んでは宜しからず。ホでは以外の手段に出づる要無し。

〔八八一一〕常形

白四と高く夾む手は、踏輕く快の意味あり、時に常形。黒五をイと受けたるは、白ロなどは、白が近接せるに黒の應法難解を加ふ。

〔八八一二〕場合

黒一に出づるも、越山併得の飛は、一應の景と云ひ得べし。即ち、黒四で白六に尋ねたるは、黒の攻めまたはハの夾攻。

〔八八一三〕黒堅固なり

白四もあり。黒五は宜し。黒七・九は、固きこと無類の着なれど、此の如きは全局の進みし平明の、後る、嫌ひあるに、其時に應じて一考するを要す。

〔八八一四〕參考圖

此形も、黒イ、ロ、ハ等の手段あり、白◎のニにある時と同様なれば、八七ニ五圖以下參照せられたし。

〔八八一五〕要點約言

黒三の時、白が四またはイ或はロなどに打てば、黒は五が確かにして宜し。但し白四は敵堅に近づき過ぎる結果となりて稍好まず。＊

〔八八一六〕基本圖（第七九型ハ）

白四はキビシキ手段なり。急戰敢て辭せざる時は、此ツメ可なり。

〔八八一七〕常形

黒一、白二、黒三。此時白がイの低きに就かずして、高く據りしは、白ロと一應の呼應にて策動せしなり。（次圖參照）

〔八八一八〕黒厚壯

白四と低く拓きしは、悪しく、黒即ち、五に一太刀、俗せて尋で七の餘威を以て白を急撃す。黒九、常用の手法、此時白イなれば、黒＊

〔八八一九〕黒堅く善し

白六に外せば、黒は太刀を見ずして取に止まず、七と切る。黒尤も、場合により白は斯く二子を捨てゝ外勢を主とする手段もあり。

〔八八二〇〕黒打易き形

黒三もあり、敢て悪しからず。白即ち四と、隅の備へに乗ずる手無きにあらず。白八の時は、黒イ、白ロ、黒ハ、白八、黒ニ。白十三にて黒十一にて良し。

〔八八二一〕黒厚し

（但し互角の分れ）黒九の時、白十・棋二は意氣込んだ鋭し。黒、白十三手筋にて宜し。白十八下を以て宜しく、黒九は、白十八で形整ふ。

〔八八二二〕征關係の形

黒九に襲ふ。戰雲急なり矣。白二以下の征如何に優劣は、黒イに決す。黒ハで勝す。黒イで白ロ惡し。黒征ば、無論黒大敗也。（次圖）

〔八八二三〕形勢不明

此形、黒遂に四一に至つて、上邊攻合は、黒に有利、そして全體として看れば、四一までの形勢、全く不明なり。白征で三三の手あり。

〔八八二四〕黒勢稍優る

黒十七、白十八、黒十九。黒の手順可なり。之は前圖よりも、黒優る。柳さるゝ、白ロの下れど、いつもの通り、白十八をかゞ面白しと、鰐は居ずの。黒十九で白ロの面白しと、黒ハ＊

〔八八二五〕征關係の形

白十四は、外面如菩薩、内心如夜叉。若し黒十九を誤つて二に拓かば、白は此時捨てゝ白イに、なぐり捨てゝ凄壯な鬼女の如き、黒窮するべし。

〔八八二六〕天下劫

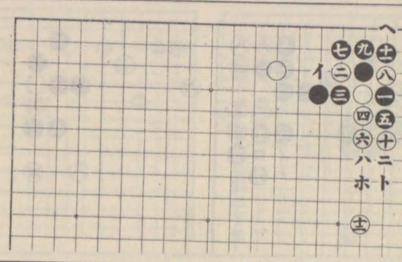
黒二も三も、白二八を三十六に移して征逐に、形、關係あり。此時黒三、關ヶ原役に似たり。白若しイなれば、黒は劫提＊

〔八八二七〕黒少しく優る

黒は一も悪しからず。白六・八と、黒七・九と、白の道を擇べば簡單なり。黒に好形を得らるゝ所、白の稍好まず。白の努力無き所、功名期し難し。

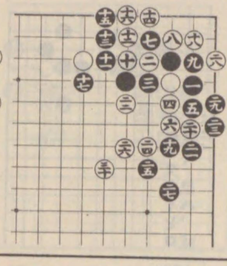
〔八八二八〕
互角の分れ

白六なれば、黒七。黒九では、イもあり。夫れ紅丹に妖麗の美あれば、白百合に清楚の趣あり。九とイとは、それにも類せり。即ち黒九をイなれば白九、黒ニ、白ロ、黒ハ、白ホ、黒ヘ、白ト。斯くなれば、外勢の白厚し。猶仔細にその得失を比較するに、斯かる型となりて、斯外勢白優る。（後圖參照）



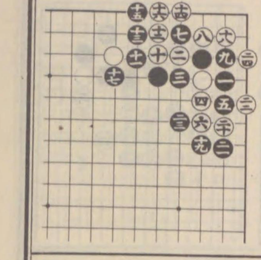
〔八八二九〕
黒の勢可なり

白八。黒九、以下十三。かくて、隅の手段超凡。白三十、黒一、風に從々乎として中の白を御るの心意、此趣あり。さすれば、黒勢優る。



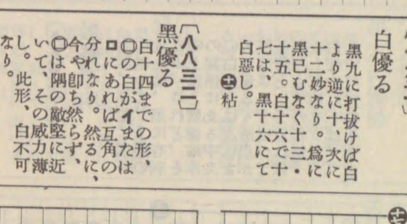
〔八八三〇〕
黒大いに良し

白二二。不可なり。黒遂にかくては、四子の小を餌にして、中央の大勢を占めたり。此棋移れば、黒はず戰はずして勝甚だ可なり。



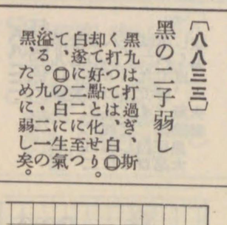
〔八八三一〕
白優る

黒九に打抜けば白より逆に十、次に十二妙なり。爲に黒已むなく十三・白十五は、黒十六で十七は、黒十六にて白悪し。



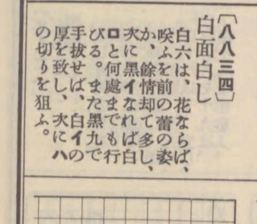
〔八八三二〕
黒優る

白十四までの形、ロのイがイまたはロにあれば互角なり。然るに、今ロの分れ即ち敵堅にずして、近くに敵の厚手を攻めんとするは、隅の威力薄弱なり。此形、白不可なり。



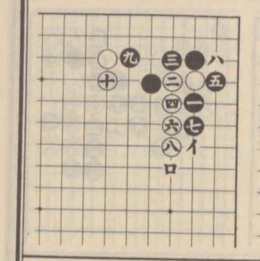
〔八八三三〕
黒の二子弱し

黒九は打過ぎ、斯く打つては好點と化せり。白ロ、白ロの二に至つて、白二に生氣あり。黒一、九のために、白二に弱し。



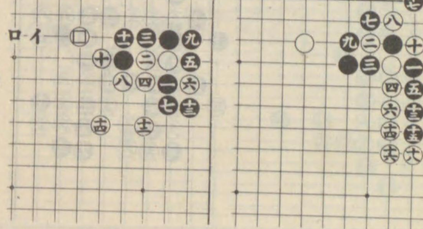
〔八八三四〕
白面白し

白六は、花ならば、咲ふを前の齊の姜の次に、餘情多ければ、白ロと何處までも行ぶべし。白イなれば、黒は其厚手を拔き、白イの切りを致し、次にハの一手を狙ふ。



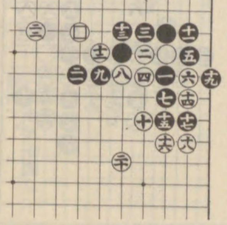
〔八八三五〕
黒優れり

白八、無理なり。黒九、以下十三をイに掛ぐるも、之を天下の佳手とする雄圖の白ロは有りとは名のみ、其効力全く無し。



〔八八三六〕
互角の分れ

黒一は、形を定めらしめずして複雑に導かんとする作戰、時に面白しと雖ども、白二では當然な手拔きで七と匂ふ梅が香の如く、黒三はか、そこは

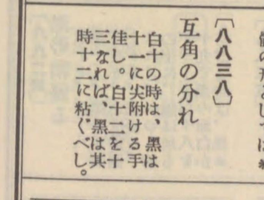


〔八八三七〕
白優る

白四。黒九までは當然。白十では、黒十二も有りの方優る。

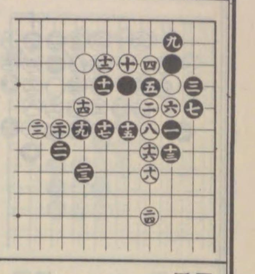
〔八八三八〕
互角の分れ

白十の時は實は、黒は十一に附ける手も有れども、白十二を十三なれば、黒は其時十二に粘くべし。



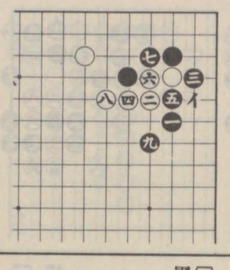
〔八八三九〕
白優勢

春に花あれば秋には月あり、必ずしも一事に拘泥するの要も無し。卽ち、白は強ねて前圖の如く十三に叩かずんば、十・十二。白も悪しからず。十四以下巧みなり。



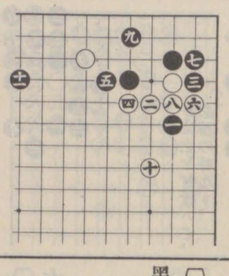
〔八八四〇〕
黒有利の形

白四は、着意緩慢なり。黒は五・七にて良し。白八にては、イの切りは、八八三三圖參照。



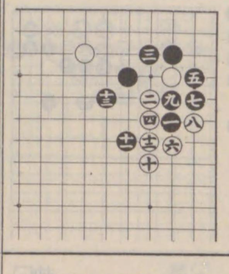
〔八八四一〕
黒形を得たり

黒五面して七も一策なり。黒遂に足を早め駒に西疆に拓地す。黒の陣形甚だ働きあり。



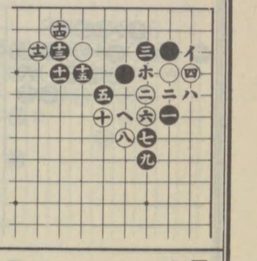
〔八八四二〕
白好まず

黒三、黒隅は水も漏さぬ鐵桶の守備あり。白四に對して、黒五は當然なり。白六を八八三三圖參照。黒十三にて白の形好まず。



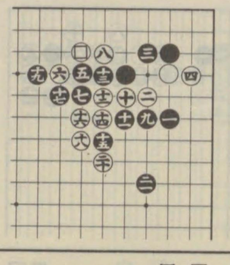
〔八八四三〕
黒可なり

白四は、敵を二分して戰ふ、之れも一作戰なれども、黒五の無理なり。白六は、初めより四を堅めたる一子を捨てて、黒七と、ロの一子を取れるは、黒イとの交換にて、黒ホ（八八三五圖ホ、ヘ參照）。



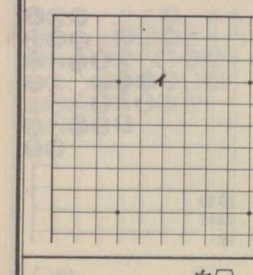
〔八八四四〕
黒地の利を得

黒五、七と、ロの白に接ぎつゝ密かに二の攻めを脱む、髪なき手段なり。黒十一と、筋なり。黒十三・十五の手順妙！と云ふ可し。白十四は、蓋し黒の非醜の悪手なり。



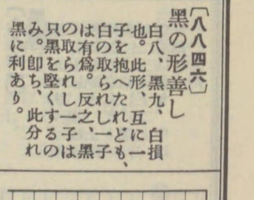
〔八八四五〕
黒厚壮

白いま十二に切断して、三までの黒乾坤一擲の攻合の手順、味ふべし。此結果、隅は十八目程の地域あり。白十六反つて外側圍繞の利は全局を壓せり。



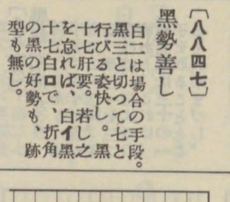
〔八八四六〕
黒の形善し

白八、黒九、白損也。此形、互に一子を取られたれども、白の一子を抱へたれども、反之黒は有爲の一子を取れるは、黒の一子を堅めたるに、白十二も有りの方優る。



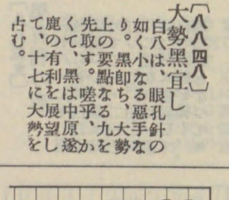
〔八八四七〕
黒勢善し

白二は場合の手段。黒三と切つて七と行び、十七と肝要。若し黒之を忘れば、白イ、折角白ロで、黒は好勢も、跡無し。



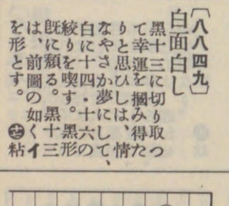
〔八八四八〕
大勢黒宜し

白八は、眼孔針の如く小なる惡手なり。黒九即ち大なる手を上要點なる九を先取して、黒は中原遂に平かくて、黒の有利を展望し、白十七に大勢を占む。



〔八八四九〕
白面白し

黒十三に切り取つて幸運を掴み、得たりと思ひしは夢にして、白十四、黒十五の形勢を張る手段面白し。白二四・二六、の攻合の手順、味ふべし。此結果、隅は十八目程の地域あり。白十六反つて外側圍繞の利は全局を壓せり。



〔八八五〇〕互角の形勢

黒九は、事小なり。黒イは、前圖の如く天下の一邊の制覇の確取の如し。白十、手厚き佳手。

〔八八五一〕白潰滅

白二の趣向、無理なり。黒三に行きて良し。白二以下、間髪を容れざる必死の形なれば、黒先白劫取りより、白劫とは、斯かる事かと抛ちカズ。黒※

※は之を打抜いて、必勝の勢なり。

〔八八五二〕黒勝

白十六、以下二二、鍛脱出を企つるも、黒に二五、白は二逐出の一手にて良し。間髪を容れざる大悪手。黒十・七・十九の狙ひ肝要なり。

〔八八五三〕黒優勢

黒十五、以下二三の形となつても、白十八、肝要の一手にて良し。黒若し二八と綽らば、恐らくは灰燼、隅の黒に再び妙味生ぜん。イ

〔八八五四〕劫材如何による

黒二三の挑劫、二五・二七の挑劫あり。白八と上から切りて鋭し。白十八と曲りて精悍なり。凡そ戦略、三十、超一流の制覇の確実なる手段は、此形、黒は秀吉の如く、譬へば、黒イは伊達の政宗の如し。白十、手厚き佳手。

〔八八五五〕大勢黒に歸す

白四以下八までの形は、悪し。黒九、天罰の覿面、見よ、以下十五、遂に黒十三の頭上に致命の一撃。白の大石は、天下晴然として、黒に歸せり。

〔八八五六〕場合による

黒一は、古譜に多く見る手なれど、此筋面白からず。黒五、玩味すべし。七の手順、此形、黒は外を厚くす。之を皮り且つ先手を取り。

〔八八五七〕黒善し

白四以下八までの形は、悪し。黒九、天罰の覿面、見よ、以下十五、遂に黒十三の頭上に致命の一撃。白の大石は、天下晴然として、黒に歸せり。

〔八八五八〕大勢黒に歸す

白四以下八までの形は、悪し。黒九、天罰の覿面、見よ、以下十五、遂に黒十三の頭上に致命の一撃。白の大石は、天下晴然として、黒に歸せり。

〔八八五九〕黒有利の形

白十八・二十、白二十面白からず。二十一、白二始めて二三と打つべし。黒は二四に至つて、白二三、黒四と打つて二五なれば、急駛して二四なれば、白の肺腑を衝く。※

〔八八六〇〕黒勢稍可なり

白十二もあり、此手次に白イを含む。白二・黒三・二四・三二手筋なれば、白にロの出、これは一段、黒は三十の結局白二逐に十の外二以下二六、白の勢厚し。

〔八八六一〕黒善し

黒一九もあり。黒十八、白十七、黒は上邊の根跡を絶ち、白の運石容易なり。黒乃、白右は低迷、中は斯く打てば、黒は上邊の一線を捆して、白二七、白は形薄し。犬粘

〔八八六二〕得失相同じ

白八と上から切りて鋭し。白十と悍にして精し。白十八と曲りて凡そ戦略、三十、超一流の制覇の確実なる手段は、此形、黒は秀吉の如く、譬へば、黒イは伊達の政宗の如し。白十、手厚き佳手。

〔八八六三〕黒良し

白二十以下、二六まで進む。押しの一手なり。白二七まで、黒が既に十四にて裾あきなる丈に、黒二一以下面白しと雖も、必然の勢。次に、白イとなれば、黒はロ。

〔八八六四〕互角の分れ

黒十九は、手筋にて非なり。白二十・二二の手筋なり。黒陣に阿呆鳥叫喚の宜しく、黒は強ひて二五と二二で分かし、白は兎も角も黒ムに手もあり。犬粘

〔八八六五〕黒優る

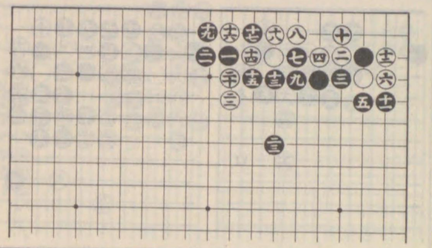
白二十以下、中の白三子を棄てるは、時に向ふ可き趣なれど、普通は白好まれず。黒上邊中原に厚壮の形勢を得たり。犬粘

〔八八六六〕黒稍厚し

黒十七までにて白先手となりたれば、先手とゐつてれば、黒は、先程の形ちも、喜ぶ程の事にはあらず。白十一、黒十二、白十三、黒十四、白十五、黒十六、白

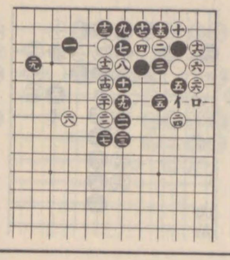
〔八八七一〕
黒優る

本圖以下は黒一路、急戰となりて、前圖よりも近接して迫る。之も前形と同じく餘り用ひられざる形なり。此時、白二の手は、不可なり。黒は遂に一と呼應して、十三・十五に白を、脈一倒せば、二で宜し。黒十七は、厚くして



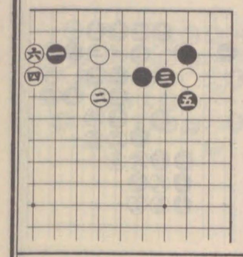
〔八八七二〕
場合による

黒十一・十三と打つては、白に十四と押されて、右邊の黒の稍目詰を、白より乘ぜられ、形良となりの着。白二四、黒二五に窮す。イは白に粘



〔八八七三〕
黒可なり

白二・四、良し。黒五・白六、共に堅實など、此結果を靜觀すれば、黒は隅に據つて而も堅實で、白が六の利にて及ばざるが如し。



〔八八七四〕
黒の勢可なり

白二常形、此場合白は斯く打つ位のものなり。十三の手黒一、十三の順良し。十一、若なれば、黒十三で、十五に當れば、白十六、而して黒イの時、白十七の凄じき出切りあり。形勢は、かくなつても、形は、麻の如く、亂れて、黒と白十四を若し、十七にて斜に走すれば、黒ニに包圍すれば、白は此石を逃げ出し得ると雖も此間に乘じて黒は形勢を壯にし得べし。

〔八八七六〕
互角

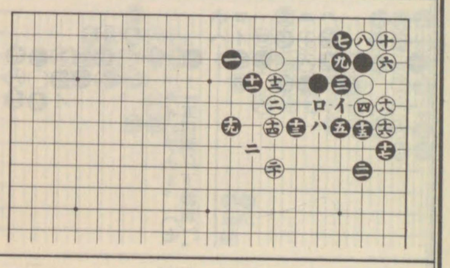
白二に對する、黒三の竝は、抑も又氣合の向ほどにて、黒一と妓にも、白十二となりて黒敗。

〔八八七七〕
場合の手段

黒九・十三と、二の戰の焦點を中原に導く手段もあり。黒九にては、次に白イ黒ロとなる。形勢可否は一つに形勢如何によるべし。

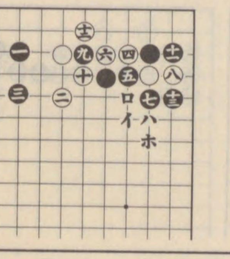
〔八八七八〕
白面白し

白四と突當るは、普通は俗手なり。——即ち、黒五となりし時、所謂丁の頭を㊀の黒にて叩かれし結果となる。此場合は例外なり。（次圖以下）



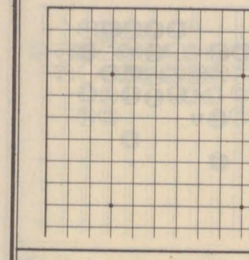
〔八八七九〕
黒稍可なり

白八と粘げば、黒は九に間隙を衝いて逃げ出づ。黒可なり。上邊は、黒二一で無事の渡り。但し、黒二一を二にては、白イ攻合黒ロ惡し。



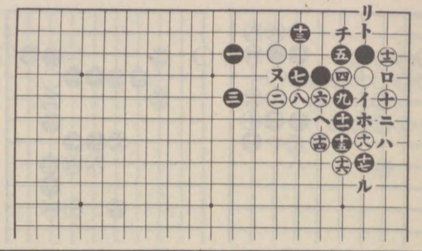
〔八八八〇〕
黒利勢

白十・十二、以下、黒に十九と、三子を取らるゝ形も、白後も手なるゝ上には、隅の大なる損も、黒は、イ・ロ・ハ・ニ・ホ・ヘ・ト・チ・リ・ヌ・ル・ヲ・ワ・カ・ヨ・タ・レ・ソ・ツ・ネ・ナ・ラ・ム・ウ・ノ・オ・ク・ヤ・マ・ケ・フ・コ・エ・テ・ア・サ・キ・ユ・メ・ミ・シ・ヱ・ヒ・モ・セ・ス・ン



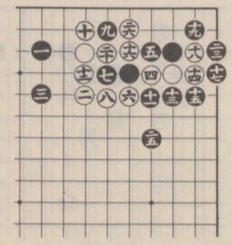
〔八八八一〕
黒潰れ

黒七・九は、無理形。白十四と掛け、而して後白は、絞爛もあやなる手筋の豪華版——十八の切。然、生色あらず。黒に俄然、生色あり。次に、黒イ白ロの形に白ハ黒ニ、黒ホ白ヘ黒トの白リ黒チ白ヌ、白ルに約へて、大勝。



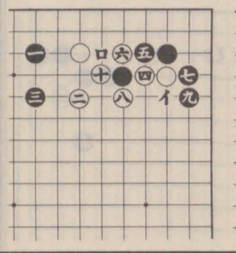
〔八八八二〕
白優る

黒九・而して十一は、前圖に比せば、黒が幾分可なれど、白遂に二、然も六まで、となつては、黒の頽ふそ寒き、に冷灰木は、寒きの委となれり。㊀打鮹㊁提㊂粘



〔八八八三〕
黒惡し

黒十一以下も、好だ交換に黒傷を與へしのみ。白十二に先づ十六と十四と上邊を、白十七と鋭し。黒は、白イ・ロの變化に、黒三は、一の氣に、能く繼承せる手段にて、白四と打たれては、黒の應手なし。

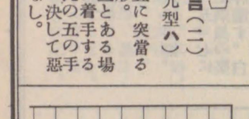


〔八八八四〕
互角の分れ

白六もあり。黒七・九、堅し。白若し誤つて八を九なれば、黒が設の罠へ、黒八に起即ち、次に黒イとロとつて、次に白ハの兩睨み。

〔八八八五〕
要點約言（一）

（第七九型ハ）黒三の時、白四の夾返し、之は稍變則ながらも、急に黒五と手段を變ずる時は、次に黒此の五の手なれば、決して惡しき理なし。

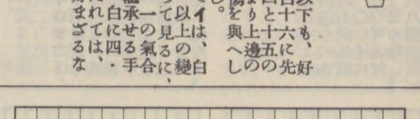


〔八八八六〕
要點約言（二）

（第七九型ハ）先づ黒五に突當る手は常形。凡そ黒三とある場合に、黒此の五の手なれば、決して惡しき理なし。

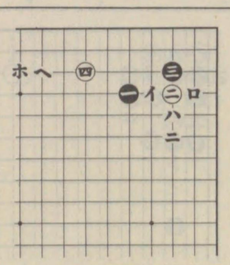
〔八八八七〕
要點約言（三）

次に黒イ、ロ、ハ、（第七九型ハ）の三種。之は前圖黒ニに代る手段、場合によりて黒ホ、ヘ、ト、チ、リ、ヌ、ル、ヲ、ワ、カ、ヨ、タ、レ、ソ、ツ、ネ、ナ、ラ、ム、ウ、ノ、オ、ク、ヤ、マ、ケ、フ、コ、エ、テ、ア、サ、キ、ユ、メ、ミ、シ、ヱ、ヒ、モ、セ、ス、ン



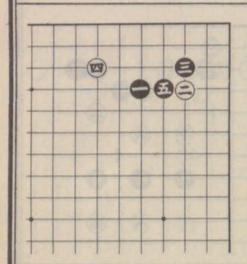
〔八八八八〕
要點約言（四）

（第七九型ハ）黒五で㋑、㋺と更に四の白を夾返す手は、全く場合によりて、其中、ロは、白若し次に黒ニに突當らんとする着意、嚴しき處、時に面白し。



〔八八八九〕
基本圖

（第七九型ニ）黒三と附けし時は、白イの定型、又は、ロの急劇手段、ハの遠く夾返す手段以外に、四と實戰に散見する處、時に面白し。



〔八八九〇〕
定石

白四に夾返すも、黒五、前型と同じく、白六の時、黒七と尋で下る石を定とす（四のイに定型）。

〔八八九一〕
常形

白四は、判官が鴨越の襲撃に似た。
以下、搦手より迫る。
四は場合の策。蓋し。
白が○を固くせんとする形勢に宜し。
黒五、手筋なり。

〔八八九二〕
場合の手段

白四は、手廣き策なり。
白は、手廣き策なり。さればこそ、四六から打つ。その何れの場合にも、五好點なり。さとも有り。
れば、黒四には、五で直ちにイの打込もあり。（次圖）

〔八八九三〕
白外勢を張る

白は四と、故らに間口を擴げて、見來るなら來いと、築を切れば、黒は小癪なと、何を突せり。但し、此形、右下隅に白、黒惡し。
模様あるときは、

〔八八九五〕
黒稍優れり

黒三の急襲！ 督ば驚雨俄に到る下の概あり！ 白四以位の白は、まづこれ打つ手と、黒八を九に抱へる。白四、黒イ一子を確保して二法もあり。

〔八八九四〕
白薄し

白六・八の手段、不可。
黒五・七に不即ち、起つて上隅に相呼應す。白陣の委、幽靈の如く薄し。黒十一まで良し。
白はかく打つ位なれば、四はイを既にたび、四と打ちに以上は、白は前圖に從ふべし。

〔八八九六〕
三緩し

白○がイロまたはハと隅の黒に近くある時は、それ粘つて黒三の掛引きに從ひ、肝要となれば、圖の如く、黒緩く、遠き時は、遠き敵に恐れ戰くの怯に似たり。

〔八八九七〕
定石

既に白○と一路遠くにあるも。一路右隅に定石なり。
白○の方イよりある時は、○のイに定れとも否何。
（八七三圖參照）

〔八八九八〕
場合による

黒十三の手もあり。
黒十七而して十九、肝要。黒十七で十九、の飛びは、次に、イの白より十七黒ロ白、白ハなどの筋殘れり。
白二十は輕くニも宜し。

〔八八九九〕
優劣未定

先橋本宇太郎五段
勝村島 誼紀五段

黒十六は意氣壯なる哉、赤手以て白が十五の鋭鋒を阻止せんとす。この實戰に於てさられ、右下隅に黒は、故に十六強て、普通は、黒不可なり。白七は此一手、十九と之を二十、白は黒の威嚇に屈したる十八の手順而白し。
黒二までの結果は、中央の接使によつて*三までの形、優劣未定。
二までの形、普通は白好まず。（粘）

〔八九〇〇〕
黒優れり

白八、惡し。黒即ち、九の完封。曉平、白が中原を逐ふの望、今や空し。

〔八九〇八〕
常形

黒五を手抜きせば、白は即ち、水は低きに流れ、兵は敵の虚を擊つと、六に迫る。以下、十まで常形。尤も、白十はイでも宜し。

〔八九〇九〕
白不充分なり

白六・八、常形なるも、此場合不充分。
蓋し、黒に九と自由なき拓地不悠揚として迫らず、大いに可なり。
要之、白二に出づる時機判別を至難とす。

〔八九〇四〕
黒稍優る

白四と單に引きしは氣分重し。此四を、前に於て白圖に移の調子を誘ひて六に引きし比せば、鈍重と流麗、悠揚迫らず、千里懸絶す。
その差、黒遂に五。※

〔八九〇五〕
互角の分れ

黒一は、奇警また風雲の氣に富む。
白十四、手筋。黒十五・十七は、棋歩悠揚として迫らず。
要之、大いに可なり。白二に出づる時機判別を至難とす。

〔八九〇六〕
黒勢稍可なり

白二、而して黒三の時四、と隅に活きる手もあり。若、黒三を四なれば、白三を四なれば、白ロ。黒十五、倘歩するに至つては黒勢稍優れり。

〔八九〇七〕
場合による

黒一もあり。其時、白二・四・六は、適時快打、輕妙。
即ち、此形、黒は一結果に歸着なるの。
白四を、イに打つ定形は、働きに乏し。

〔八九一〇〕
要點約言

（第七九型ハ）

白四の時、次に黒ニの對策には、イロハ及び手拔の六、法あり。
黒惡からざるも、何れも、最も堅實なの中、イ最も堅。
白六、八、常形なるも、此場合不充分。
蓋し、黒に九と自由なき拓地不悠揚として迫らず、大いに可なり。
要之、白二に出づる時機判別を至難とす。

〔八九〇一〕
白大悪

白十惡し。見よ、白は、イの切を爲に、遂に十九に至つては、黒の威、中原を壓す。
圖の形は、前圖よりも、白更に惡し。
（古）粘

〔八九〇二〕
黒手厚し

白二までは手拔の形、黒三に突き、白は、黒に突張つて一子を確保して大いに可なり。

〔八九〇三〕
場合による

黒一の筋もあり。
されど、此場合、黒の手段として、五が最も正着、次は二。圖一はに更にその次に擧げらるべきもの、いはゆる權道に屬す。
二を手拔せば、黒白を見て二と抱へる。白四、六、手筋なり。
八を九と筋なれば、黒八にて善し。

〔八九〇四〕
黒稍優る

白四と單に引きしは氣分重し。此四を、前に於て白圖に移の調子を誘ひて六に引きし比せば、鈍重と流麗、悠揚迫らず、千里懸絶す。
その差、黒遂に五。※

〔八九〇五〕
互角の分れ

黒一は、奇警また風雲の氣に富む。
白十四、手筋。黒十五・十七は、棋歩悠揚として迫らず、大いに可なり。
要之、白二に出づる時機判別を至難とす。

〔八九〇六〕
黒勢稍可なり

白二、而して黒三の時四、と隅に活きる手もあり。若、黒三を四なれば、白三を四なれば、白ロ。黒十五、倘歩するに至つては黒勢稍優れり。

〔八九〇七〕
場合による

黒一もあり。其時、白二・四・六は、適時快打、輕妙。
即ち、此形、黒は一結果に歸着なるの。
白四を、イに打つ定形は、働きに乏し。

〔八九〇八〕
常形

黒五を手拔きせば、白は即ち、水は低きに流れ、兵は敵の虚を擊つと、六に迫る。以下、十まで常形。尤も、白十はイでも宜し。

〔八九〇九〕
白不充分なり

白六・八、常形なるも、此場合不充分。
蓋し、黒に九と自由なき拓地不悠揚として迫らず、大いに可なり。
要之、白二に出づる時機判別を至難とす。

〔八九一〇〕
要點約言

（第七九型ハ）

白四の時、次に黒ニの對策には、イロハ及び手拔の六、法あり。
黒惡からざるも、何れも、最も堅實なの中、イ最も堅。
白六、八、常形なるも、此場合不充分。
蓋し、黒に九と自由なき拓地不悠揚として迫らず、大いに可なり。
要之、白二に出づる時機判別を至難とす。

〔八九一一〕
基本圖
（第七九型ホ）

白四は場合の手段と云ふよりは寧ろ、暴手なり。此手は、次に黒からイと切られて、白必ず惡し。

〔八九一二〕
黒優れり

白二になれば、黒三。白は先づ五と白の六と換りたる後、■と三の黒を捨て黒十一に整陣す。形善す。

〔八九一三〕
白潰れ

白四なれば、黒五。白七。白十を十一なれば、黒十一と盤角を打ちて、白十二と黒十四と、黒十六と、白十五。■以下白十七と無地獄へ行く。先は生きることを見て、白十八と粘ると雖も再び天日を見ること難し。

〔八九一四〕
黒優れり

白二の手筋。四は、此際の悪手。四さへよくば、黒十一と利用せられず。巧智あるも時宜を得ざれば、遂に勝ちなんとするも勝ちなんとするも勝ちなんとするも

〔八九三三〕
要點約言
（第七九型（へ））

此形、白四手抜のときは、黒五白六の時黒七の下り、最も良し。即ち、白八でイなれば、黒ロ、白八をハなれば、黒※

〔八九三四〕
基本圖
（第七九型（ト））

黒三の時、白㋑㋺或は㋩なども、何れも變則。斯かる手は、如何なる場合にも、其必ず白悪し。

〔八九三五〕
黒堅實なり

白一の黒が厚き場合に周圍の稀に用ひられる意、蓋し、㊀の白を輕く捌かんとするを、黒二以下五、白若し㋑に拓けば、黒イに實に堅在り。此下を亦ロに拓くべし。

〔八九三六〕
黒優る

白一路南中邊を指せるに、黒四に撃ち、此時黒六に壓すも、黒十に受けて、一の形薄し。白一の形は急所なり。

〔八九三七〕
白悪し

白三と直ちに綿ねしは、隅の得失を知りたる南方未だ洋々の利を知らざる屈開も、下ホまで、敵四以に乗じて、白を跼跧に封ぜり。

〔八九三八〕
黒有利の形

黒二は、白からの二の綿ねを奪つて、先づ隅を取る。白三に備へて出、私かにイの綿へ出しを狙ふ。黒四は蓋し、肝要の一着なり。

〔八九三九〕
黒優勢

白一、最も悪し。黒二と取るに迫んで悪しき、形として、最も悪しき、白ハと取るに迫んで悪しき、形として、黒から二丁の頭を叩かれし姿となれり。

〔八九四〇〕
黒利勢

白五は、此際の策。黒は、此に彼一大我慢をの地点に要至をの影響あるを奪ふ。白七に整ひ、黒十形に二戦はざるを得ず。

〔八九四一〕
白低く拙し

白五は、黒既に四の守りあるを故、意味無し。黒即ち一五は早しと雖も、白六に迫り、更に八に覆ひ、黒の勢其だ未善封ず。

〔八九四二〕
黒優勢

黒四の行び切り、激なる手なり。此の壮んなる氣や、白五を、黒の激流が岩の隙間をは、衝いて出づるが如く、蓋し勢の然らしむる手。黒優勢なり。

〔八九四三〕
黒善し

白イに切りし前圖と異りて、いま五、自重す。黒は十六、以下十一に就かざるに後手の守りに、遂には白の守りを得ず、凱歌揚る。黒形勢決す、軍に勝。

〔八九四四〕
黒稍優る

黒四と直ちに六・八は善へ、次に若し七にてイに切れば、白ハ黒ロ白ハ黒ニ八四二圖と同じ。

〔八九四五〕
互角の形勢

黒六と粘ぎしは平凡、見よ、少し緩く、以下白七、黒八、抗して兩々相譲らず。此圖、白の形も稍整へり。

〔八九四六〕
黒優勢

白三、而して五・七。普通の着なれど、しかし、黒八と、構へるに造んでは、反之、白地は薄し。

〔八九四七〕
黒絶對優勢

白一悪しく、三また暴手なり。黒即ち四に切断ふらさるに、白致命の痛手を受けたり。此形、後に黒二の狙ひ。

〔八九五〇〕
白潰れ

白十七に手狂ひ、此れ切れど、人が如く、二十に推破し、十一に破綻出づ。白十八・二十出づるに、遂に潰滅す。

〔八九四八〕
白敗る

白十三、十五と、黒は武威嫺爽、止めて黒の出鼻を挫かんとするも、白は試みたり。黒十八は遂に下理なり。白二四に、以下無理つて、白の覊圖、至つて畫餅、歸せり。黒二四は、就中、好手筋なり。白二七にて、黒三二と活きるを、白十三ば、黒二七にて切れ、白十二ば、なた、黒十二にては三十なたはイにて宜し。

〔八九四九〕
黒稍優る

黒十急ぎ八と、急がば廻れ。白は脱出を切りなり。白十九に黒が二六と利かされては、形、なづし、かくなるも、遥遠、黒四の切り、黒の効果、目覚ましし。大勢、猶黒優る。（完）粘グ

〔八九五一〕
黒優勢

白一路南中邊を指すに、更に三と、黒は十を押して、白は十一に拓けば、黒イに實に堅在り。此下を亦ロに拓くべし。

〔八九五二〕
白無理なり

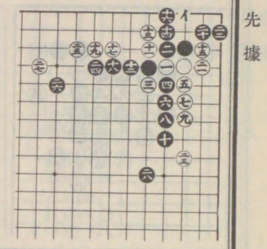
白は十五に、黒の前を叩くと、黒の手無理なり。黒十六・十八形、而して二十二にて二一なるも、白は活。

〔八九五三〕
黒厚壮

白五・七は、後に鋭く十一に切らんも、隠忍、譬へ双べ、似たり。十二に黒イ、白ロ黒ホ、白ハ黒ニ、白ホに同じ。

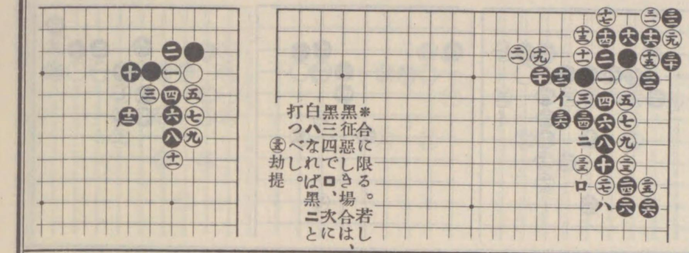
〔八九五四〕
黒稍優る

白十三、黒十六、共に手筋なり。白若しイに約へて、黒は二十七に以下白二、黒二、此形も、八に至る、黒稍優れり。



〔八九五五〕
白潰れ

既に白十三、黒十四となりては、醜なりふり構はず、即ち泥沼に拘泥するは黒損なり。次に白十六と綿ねられて、黒十八までの愚形を導くやうなれば、寧ろ実際はきびしき手なり。二六に至つて、二四、その全局を暴露せざるを得ず。而して二九、その剰すなさく白二七、必死の抵抗を試みしも遂に黒三四は及ばず、白次にイなれば黒三六と征に取り得る場※合に限る。若し黒イ征悪しき場合は、次に白ハなれば黒ニと打つべし。㊦劫提



〔八九五六〕
黒可なり

黒いま十・十二と自重す。黒最も堅実の棋歩なり。かくなるも、黒は幾分優勢なり。

〔八九五七〕
白の形好まず

白一路、戈を執つて其の形好まず。然も、原中に手筋なり。白イに十七に約へて、黒は二十に以下白二、七、黒二、此形も、八に至る、黒稍優れり。

〔八九五八〕
黒有利なり

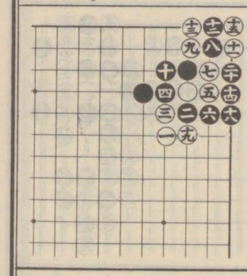
白五なれば、黒は六に競ひ起ち、白七は上辺を守る形なり。黒八と待つて、黒十に曲り、中原に厚を成す。此処は彼我の最緊要の処なり。

〔八九五九〕
黒、一策なり

黒二きびしく敵の連絡を絶つ。尤も、黒二に以下黒八、十、好手順なり。これに白五なれば、黒は六に競ひ起ち、白七は上辺を守る形なり。黒八と待つて、黒十に曲り、中原に厚を成す。此処は彼我の最緊要の処なり。

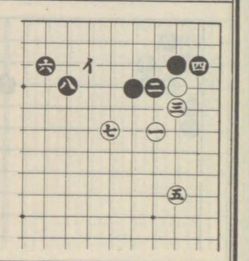
〔八九六〇〕
白攻合敗

白三と切り、黒五と打ちしは無謀。黒六。白七・九、以下とれば、白抵抗するも、畢竟自縛の如きのみ。黒遂に二十に勝てり。㊦打缺㊦提



〔八九六一〕
黒堅し

白一は、ハンパの形、特殊の形勢にては、此手もあれど普通は抽し。尤も、黒四で堅し、はイも宜し。



〔八九六二〕
黒幾分良し

黒は二もあり。六まで結果八五九一図の常形と略同じきも、二、六好形となる為に、此分れ黒稍可なり。

〔八九六三〕
黒面白し

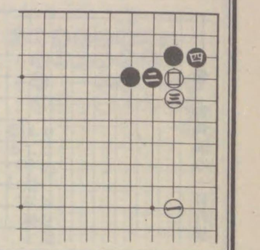
白一は、場合の手段にして、◯の白と殆ど連絡無し。此時、黒も二と離れて打ちしは面白しと雖、白三施し、五なれば、黒大いに翻弄して六の好所に先※登す。白一の形低し。

〔八九六四〕
黒地確なり

白五と軽く起ち上りし表。これは、黒場合の一策なり。以下黒十まで。此結果は、黒確かなるも、白確かならず。

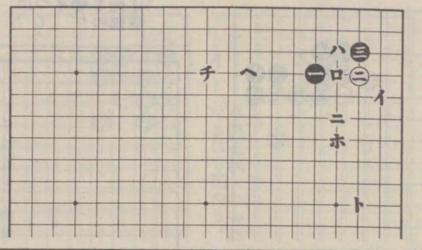
〔八九六五〕
黒悪しからず

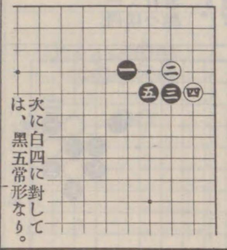
白一と、◯の白に連絡なく離れて打ちしも時、黒は二・四と打ちて宜し。八九二八圖以下参照。



〔八九六六〕
要點約言（第七九型ト）

此形、白四で、イなれば黒ロ、ロなれば黒ハ、ニなれば黒ロ、ホなれば黒ロ、またはヘ、トなれば黒ロ、またはチに打ちて良し。右のいづれの場合にも、黒はロに突当る手段、最も堅し。





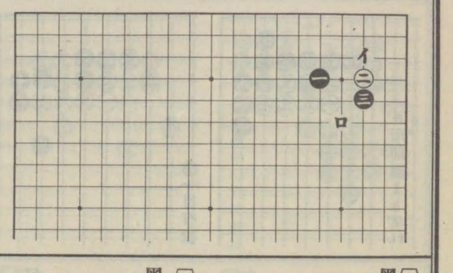
次に白四に対しては、黒五常形なり。

〔八九六八〕
基本圖（第八十型イ）

黒三には白に四と手抜とあり。四は定型。手抜は場合によつて此の二種以外の手段は何れも白好まず。

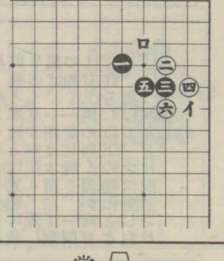
〔八九六七〕
基本圖（第八十型）

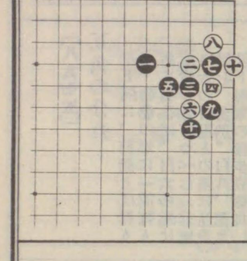
黒三の外附け手段は、形勢如何によつて、時には外を厚くし、また時には隅を守らんとする手段なり。換言すれば、前掲イの、隅を争ふ手段と、ロの外を厚くする手段との中間を往く手なり。



〔八九六九〕
〔基本圖〕（第八十型イの一）

白六は此形の最善の應手なり。尤も白六では、時にイ又はロなどあれど、特殊の形勢の外は好まず。





〔八九七〇〕
定石

黒七以下の棋移は、十一に抱へる黒の征宜しきを保伴とす。但し、黒七では九も此形の常形なり。（八九五圖以下）。

〔八九七一〕
黒厚し

白いま、黒よりイと利かせらるいを嫌つて六。黒七に打抜く。黒七の意味は、極力厚壮。悠然として威あり。白六は実戦にては、左下隅へ征当りを打つを普通とす。

〔八九七二〕
黒優る

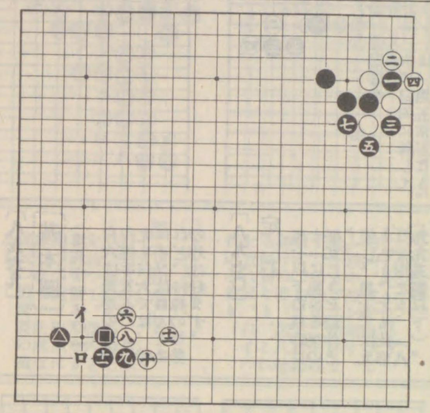
白六も、黒から八に先んじられるを嫌ひしものにて、十三まで、黒優勢。黒九の打抜は、形簡にして意長し、佳手也。

〔八九七三〕
常形

黒五と抱へし時、白◯の征当りを打つ適当の点無き場合は、六を手抜することもあり。黒九と黒七とに先だつて七と打ちたる白の八と交換を了せしは、手順妙。㊦手抜

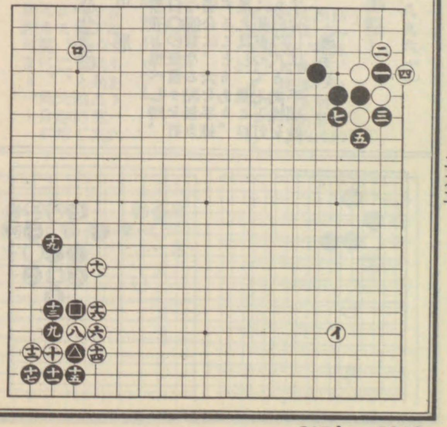
〔八九七四〕
互角の分れ

左下隅に黒△と白□の一間締りあり。此形に於ては、白は六の點に征當を打つべし。（次圖白六の着點との差に注意）黒七の打抜、當然なり。白八以下十二までは屢ば實戰に見る手なり。但し、白六の征當りは、對隅の形の如何によつて、其點異れり。若し黒イ、ロと締りある時は白□。或は黒只△に一着あるのみの時は、白八。又此隅一石も無き時は、白は隨意の着點を選ぶべし。



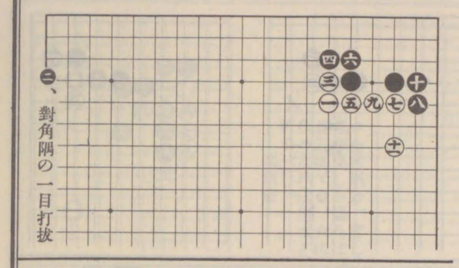
〔八九七五〕
互角の分れ

左下隅に、前圖とは異りて、□△の形に一間締りある場合は、白六の點に征當りを打つべし（前圖との差に注意）黒七、當然。白八、黒九。以下兩軍の拱歩勁健良し。前圖と本圖とは實戰に最も多く見る形なり。左下隅の如く一間に締り、一隅は本圖左上隅の如く黒が高目に打ちし以下の變化となる。而して、之に對し白は㋑、㋺などに配石されある形多し。



〔八九七六〕
互角の分れ

白一は、前圖六に當る。白五と曲る手も、場合によりて面白し、黒六以下は當然なり。本圖よりは高目の變化は前同様なれば、只白よりの、征當りの變化のみを掲げる事とせり。（小目變則の打方八四〇五圖以下參照）



〔八九七七〕
場合

白十一もあり。黒十二要點なり。白の陣容、これにて生氣を得たり。また、黒十二を十三となれば、白イが形なれば、兩軍、今々默々として機の到るを待つ。

〔八九七八〕
黒好まず

㊁打抜

黒十は、裏門の備を忽せにし、一歩先んじて表門を占めたり。白乃ち鼓して十一に進む。遂に黒十二、白十三要點なり。黒十四、白十五、黒十六、白十七。黒の陣形稍崩る。其※

〔八九七九〕
征

㊁打抜

白十五。前に萬死の危地に挺進と相呼應す。黒十六、白征宜※

〔八九八〇〕
白厚し

白若し征惡しき時は、平易に行びて十七・十九と先手を取るべし。白遂に威を擴げ、黒二に進む。白先に一手厚し。兩軍、共に、決戰を行ふ手段にして、機を熟するを待つ。

〔八九八一〕
白一策なり

㊁打抜

白十九・二一而して無理筋と約へしは、白先手なれば、一策なり。白遂に二九。黒此白子を逃出せば、黒二子を※

〔八九八二〕
常形

㊁打抜

黒四も常形。此時は、白必ずしも五。此次に此形、黒たは宜しくイも堅くロもあり（七九九參照）兩軍未だ悠々、※

〔八九八三〕
黒優る

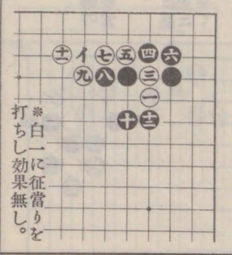
㊁打抜

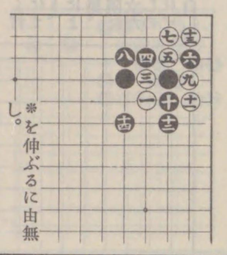
八九七五圖參照。白いま一、三而して五に切る。黒八黒十四、白九、白九、勢厚し。此形、白は活くと邊は名のみ。阪に整して武※

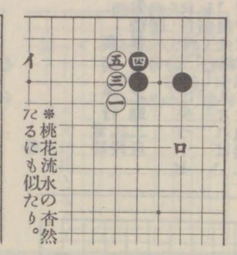
〔八九八四〕
黒大いに善し

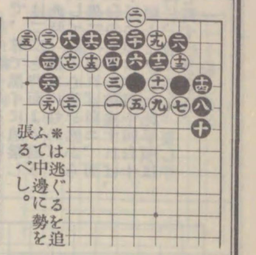
㊁打抜

白五の切りの變化複雜。白九惡つて、爲に黒イに備へ、至つて黒十二。









〔八九八五〕
黒厚壯なり

㊁打抜

白十一に援へば、黒十二に據つて、左右の白を睥睨し、次に黒十四、白は十三か二四か。白は十三に據へば、黒は十四に揮ふ。隅の小を棄てゝ※

〔八九八六〕
互角の分れ

㊁打抜

白九は隱忍すれば、黒は苟しくも乘ずべき隙あらば假借せざるに非ず。辣腕—尋で十二に窺ひ、白十四に起つ。戰雲漸く急なり矣。

〔八九八七〕
黒稍可なり

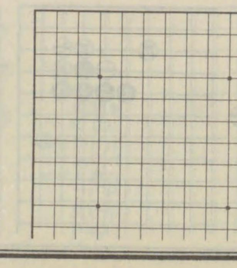
㊁打抜

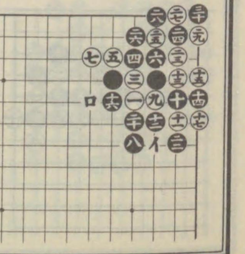
黒いま、白の蠢一を蔑視すること、卽ち八と敢てその直前を一間飛すの如く、黒一と策應せるもの、面白し。白十一にて單に十七なれ※

〔八九八八〕
黒面白し

㊁打抜

白七に尋で、黒い八に尋で、黒十要撃す。手法超偉。奇絶愛すべし。白は九にて曲る手もあり。十に（次圖）





〔八九八九〕
黒劫勝

㊁打抜

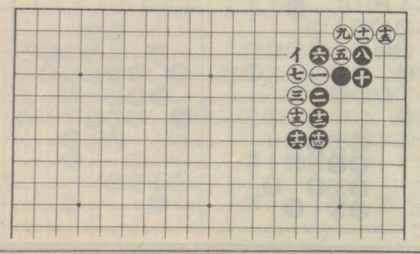
白九。黒十のブロダラムを往く。白十五は、能く泳ぐ者は溺るゝの例、過ぎたるも也。黒十六、白の時五でニ十、黒イと打て白ロ八九八七圖と同じ形。

大 打缺
丸 トル
三 ッグ

〔八九九二〕
黒稍可なり

㊃對隅征抱への一子を打抜く

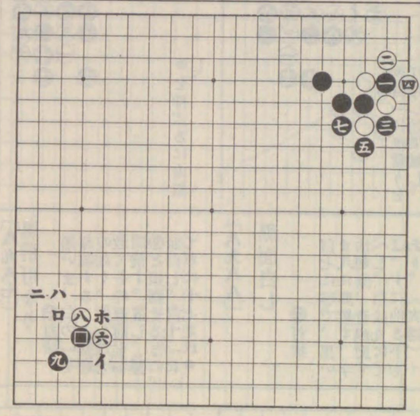
白十一と曲れば、黒十二で宜し。尤も、黒十二にて十五、而して白イの時黒十二もあれど、黒は本圖に從つて、徐ろに六の一子の遺味を見る方餘韻深し。



【八九九〇】定石

本圖は、黒が左下隅◎の星にある時、白六と征當りを打ちし例也。黒七の打抜きは普通。黒九の次に白イなれば黒ロ、次に白ハなれば黒ニ。之は一〇一四一圖と全く同形。

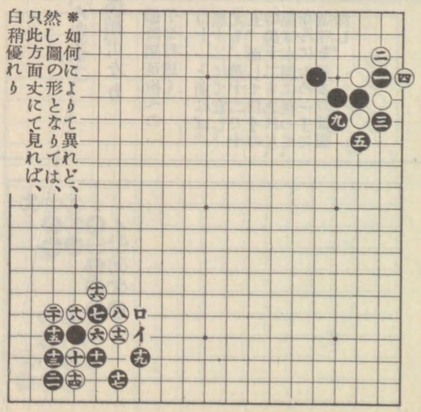
然し黒七は直ちに斯く打抜くとは限らず、七にてホと應戰する手もあり。蓋し、征の當り如何によつて、此處の變化至難。また、黒にして左下隅において大利を得る見込立たば、白に七と征逃しの自由を與へて左下隅にて決勝を握る作戰も面白し。



【八九九一】場合による

黒七の逆撃は、白の六に當ると同時に白の九への征逃しを防ぐ。白八も、同じく七の黒に當りつゝ、征の逃出を含む。此處、兩軍共に虚實の駈引、面白し。

若し白八を十二と行びれば、黒八と押して征當り、白イ黒ロ。又白イをロに縋れば、黒イと切る。黒は、白に九の逃げ生ずるも徹底的に六方面を黒は有利に導いて宜し。白十の形は萬死の危きを冒して鋭く敵を撃つ、手筋なり。以下左下隅の戰は形勢



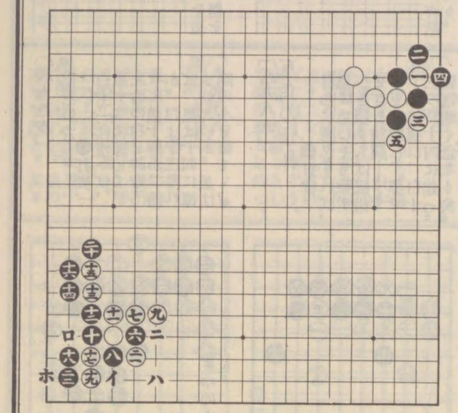
＊如何によりて異れど、然し圖の形となりては、只此方面丈にて見れば、白稍優れり

【八九九二】白好まず

高橋重行當時二段
先番杉原愛之助二段勝

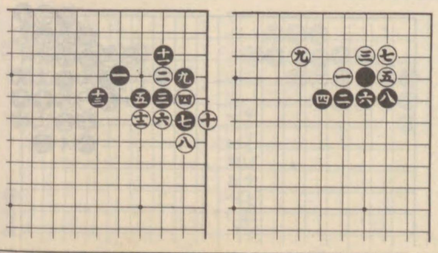
黒十二。次に白十三では先づ十七に敵の急所を衝くべし。

而して、黒此時十八なれば、白十九に出で、尋で黒イに追撃し來れば、白は二二と背面より邊り撃つべし。此時、黒ロに詰めば、白ハに轉攻して黒の心臟を寒からしむ。此時黒二一なれば白ニ、而して黒ホに白の三子を確摑すれば、白始めて十三に綿ね、黒十四白十五と出づ。願ふに、白の此手順は屢ば棋路轉じ、着々嚴し。蓋し千秋の絶調と賞すべきなり。



【八九九三】黒稍優る

白三に對する黒四の行びは、此際左下隅の征切りは凌ぎ前圖參照。厚くを兼ねしもの。此形、かく白遂に九。て面白し。黒は遂に悠々と左下の征を打抜く。

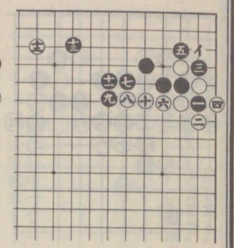


【八九九四】古風の定石

白七、而して九。十古風なり。此形黒は定石は黒は残り隅も取るも、反之白の勢甚だ善し。黒十外三に白は次の他のを取つて宜し。好先手を選んで點を

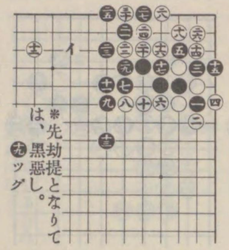
【八九九六】白稍可なり

白直ちに八・十も、一策なり。黒十一、十三、手堅し。若し、黒十三の備を怠れば、白イに切る手あり。（次圖）



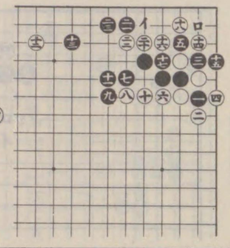
【八九九七】劫争ひ白可

黒十三は手抜イに守るが正着。（前圖）白十四・十六は辛辣の手筋。黒の膨脹を驚破す。黒十五は無理、十七の外は無し。白三十に、＊



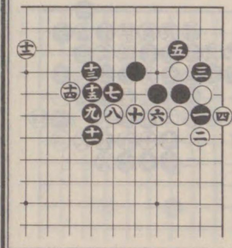
【八九九八】白死

此形、白十四以下二十まで運んでせしは無理。黒十三の一子、ま生彩を放つて、黒遂に二一。次に、白イなれば黒ロに、また、白イなれば黒イ。



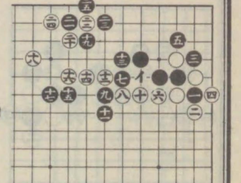
【八九九九】場合による

白十。此時、黒は戰意識物々、白が十五に切りを來るも柿れずと卽ち、白十二は、先づ黒に模様を消して次に十五の鋭斷を狙ふ。



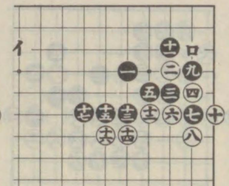
【九〇〇〇】場合による

白十二。次に白イあれば、黒十三。當然。白十四黒ロに出づるや、黒十五に掩撃す、黒の氣盛に鋒鋭なり。白二・十二の手筋、白二、黒二二の陣容機に整ふ。



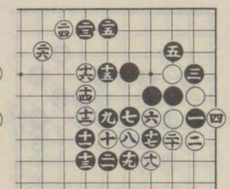
【九〇〇一】定石

黒十三と綿ね十五・十七と行びしも、また弓取る形。無理から見ぬ振りが賢策。此圖も矢張り、白イ方面に來らば、白ロの味生ず べし。



【九〇〇二】互角の分れ

黒十一に綿ぬ！殺氣棋鋒に躍る。白は、敵の挑戰に應じて十二に切とる手強して黒の十五と打つて、白稍策に換りしは慨あり。（次圖）。



【九〇〇四】白優る

黒四五と約へれば、白の手段如くは常山の蛇の如くして人を敵の難かしむる、變化の妙を盡し、四六・四八の振替りに至つては白厚く、白三の一子の効著し。

【九〇〇五】白稍優る

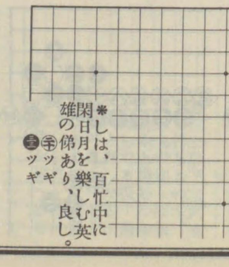
黒九も亦一應の手筋なり。黒四の理ある白イで白ロ黒ハ白ニと三打とれば、隅を二段と劫となし得るなり。黒四三止むを得ず。

手粘 ㋑粘

【九〇〇三】白面白し

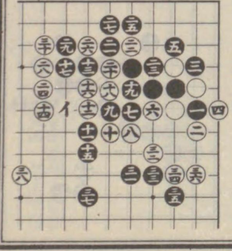
白十四、形凡にして意は非凡、卽ち妙機、面白し。俄然として相當に到る。白二の粘は、白イの飛の前の雌伏の一みは、見よ、白ロで屈したる雄き。

黒二一に至つて、白辛辣骨を刺す二・四以下鋭撃。白三肝要之を八に打てば、黒四二に打てば、白三に四、黒四一に打てば、白四二に四、黒その時イと以下の六子を屠る。黒九の時、白後手を劫にして五十に飛び＊



【九〇〇七】白優る

黒十三、一策なり。白十四陷穽を設けて敵を待つ。黒十五蓋し當然。之をイは惡しに、白ロと戻り、白二五に手と二六と擊たれては辛し。

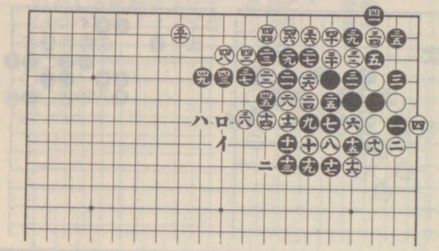


＊しは、百忙中に閑日月を樂しむ英雄の佛あり、良し。

〔九〇〇六〕
場合に依る

黒三九・四一と打抜いて、白は四二の時黒四三と行び五手あまり。以下白十五まで必然。蓋し、黒三殆ど必ず、黒九以下の善悪は、場合によるべきも、何ほ、黒五一つにても、イと包圍を奏せず、功を急がざるハなれば、白乃ちロ、黒ニに圍みを潰やして出づ。

手ツギ　㋑ツギ　㋺ツギ

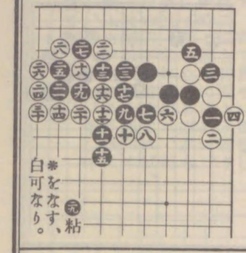


〔九〇〇八〕
白面白し

好事、魔多しとか、白十四の時、黒雀躍して十五に取りしも、白より十六に切りて返され、遂に二十、吃驚仰天す。白の形大いに振ふ。㋑粘

〔九〇〇九〕
白厚し

白十六。此時黒十五。黒十七と直接に約せんも、弛べぬへは鍔競り合ひ、黒は駄目詰せんとなり。白十八、黒九を利し、一策十を得たれど、此時黒九も一策。白十六、黒十七と接ぎ、黒十五。白は二に挑みて、黒の十一に出づ。※



〔九〇一〇〕
白形良し

黒十七、悠々と粘げば、白は、十八に整形す。此圖、白㊀の一子未だ全くは死せず、若干殘れり。㋑二目粘く

〔九〇一一〕
征關係

黒十三の時、白十四と行びる手は稍鈍重の感を免れず。黒十六と抱へる場合は、十四も悪しからず。

〔九〇一二〕
白稍優れり

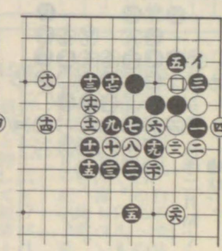
黒二三堅し（參照〇三圖）以下參照（九〇〇九）。白二四に二八と打たれては、白形厚く、黒は壯。此移、所詮、黒は苟安を貪つても怯懦の汚名を流すもの也。㋑二目ツグ

〔九〇一三〕
場合に依る

黒七の夾撃には、蓋し、右下隅に黒の勢力ある場合に用ふるこそ多し。白乃ち、八に、黒九、普通。㊀の白一子、捕はれを今や身ながら、それに生命の鼓動を聞く。

〔九〇一四〕
征關係

黒九は、白十二でイと征に取る場合の手なり。得ざる即ち、圖は白ㇾの黒七の尋で拘づ小覺を衝き、白十四に拘へて轉じて擒にす。黒遂に四十五。

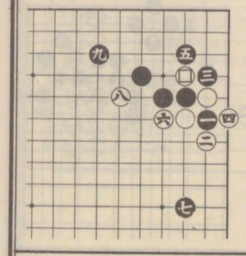


〔九〇一五〕
形勢不明

黒いまゝ意を決して十三に出づるも、すらくは、敵の激しき撃を左右に隔てゝ、風雲頓に急なるべしと。白の十四以下、實戦にては八に、ロ、ハ、ニと、黒の切り。

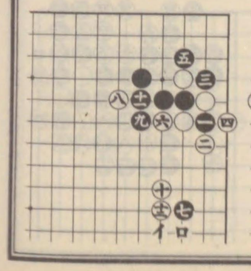
〔九〇一六〕
黒稍無理形

黒十三・十五と押し、轉じて九と押すも、あまりに足早にて虚りの感あり、如何は、夫れのみに素直に行ひて良しも云かれ。黒の白可なり。㋑粘



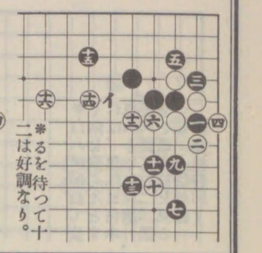
〔九〇一七〕
場合に依る

黒九と綿出しの轉戦に、白十の周圍を餘すこと數目、即ち、黒合の場合に、白の圖如くなるは、前々圖の不利なる十三で合に限る。白ロ。



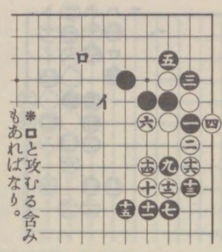
〔九〇一八〕
互角の分れ

黒七の時、白八を手抜する形、白稀なる手。黒九も一策十を得たれど、此時黒九も一策。白十、黒十一。白は二に挑みて、黒の十一に出づ。※



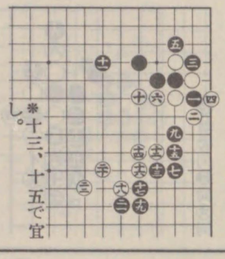
〔九〇一九〕
互角

黒い十一。白は十二へ、十四而して、遂に十六に堅を築く。此圖白イと黒ロとの交換無き、即ち、白方優る。白後にイでなく※



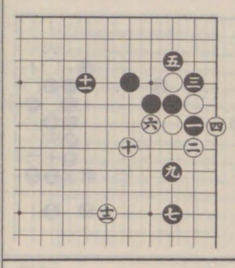
〔九〇二〇〕
黒稍優る

白十の後に十二へ、十四の後に十六と、稍ためのみ。白の形しまりて大にて伸ぶ。白面白し。



〔九〇二一〕
白輕るし

夫れ尺鍾は、後に伸びんがため。白十と至つて十二に白面白し。



〔九〇二二〕
互角

白十の時、黒大勢上に躍進す、遂に制覇の圖。以下白乃ち十六、黒十七。兩軍歩武堂々。

〔九〇二三〕
場合

白六は、白ロの狙ひも無き、白ニ故に、黒ハと打てる、黒イ形輕快なり。失はれば一策。黒七、白大體此の見當なり。

〔九〇二四〕
七一考を要す

勝　林有太郎　當時四段
先番河合菊次　當時四段

黒七は、時機早きに過ぎたれど、時あれば、即ち黒不可なり。黒九は、白ロの定石にて、黒七と白に比して、黒の圖

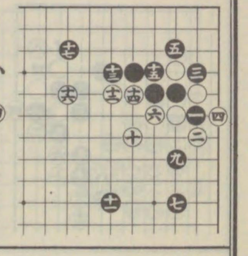
〔九〇二五〕
黒厚き形

白六に饅子を縦つて進むも、しかし、黒七以下十一となつて、白は面白からず。就中、白十は愈よ得ず、白よりは白形崩る。

〔九〇二六〕
黒厚し

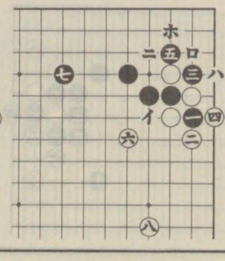
加藤　信　當時六段
先勝　木谷　實　當時四段

黒十の時、白ロなれば、黒十二、白ハ、黒九の形參照（三三圖）以下の火蓋は切られ、黒二九にて、黒の二子合して征にて取らるゝ場は、白十を黒ロに打ちては、二九を二に打ちて、次に八を白二に、黒八と白十とは、黒イ、白ロ、黒ハ、白ニと數手外部に厚堅にすべし。



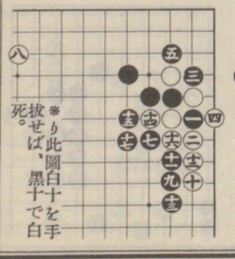
〔九〇二七〕
黒稍優勢

白六の手抜は、黒七と掛けらるゝ場合悪しく、白皇として、黒八に轉じて九と打つもあり。

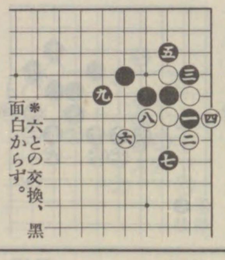


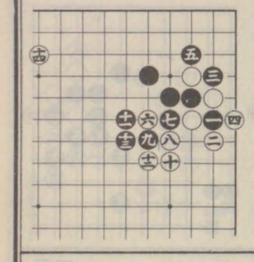
〔九〇二八〕
黒優る

黒七の攻撃を無視して、白いまゝ八。黒は、即ち、兵勝の道に乗ずるに在り。九以下十の猛攻連撃に無限の厚み。黒の外圍遂に無限の厚み。※



※六との交換、黒面白からず。



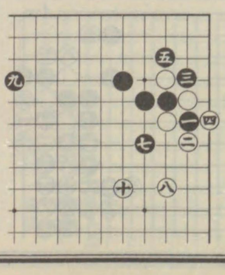


※十三、十五で宜し。

※ロと攻むる含みもあればなり。

※ルを待つて十二は好調なり。

※り此圖白十を手抜せば、黒十で白死。



〔九〇二九〕
黒勢稍可なり

黒イと切らずして三と當てしは權變の俊然萬一着の波瀾を行手に生ず。黒時に面白し、白十五なれば確かなり。

㊀劫 ㊁、㊂粘

〔九〇三〇〕
黒堅實なり

白十四なれば、黒も十五の劫提り、面白し。白十六に黒十七。なれば、白十六を十七と重壓。黒十九、手筋なり。

〔九〇三一〕
互角の分れ

黒九も、含蓄に富む佳手なり。白十、中原覇の制要衝。黒十一は、彼必爭の好點也。白十二我肝要の點、黒に急がれては低一撃の委細なり。白六を黒九は十二の手筋、優る生ぜんため、白は十二の働きを爲す者なり。

〔九〇三二〕
黒稍優る

白十は、淺慮血氣の勇のみ、黒果して十一に切つて徐ろに全局を養ふもの。白八勇べし、次々圖の緩手を打つ。黒勢に乗じて九以下に壓す、善し。

〔九〇三三〕
白の形善し

白方、黒九と更に打ち進挑大劫せる程なり。白イに届せしめ得可き場合の外は、黒九は通ずる十二位のもの。

〔九〇三四〕
互角の分れ

白いま八と隅を守る。黒九、白十一共に要上勢の點、彼は我に垂涎の好點、此形は所なり。白は實利を得。

〔九〇三五〕
白優る

黒九は、白八の場合に宜しく、一本圖（七圖）に宜しく、白ロ故に痛味を殘さざる如く、前圖の九は味ひ無し。

〔九〇三六〕
黒稍優る

黒七と故らに粘ぎし、抑へて徐ろに鋭錐を加へ、沈勇を佳手なり。白八、九へ打つ圖。黒勢に乗じて九以下に壓す、善し。

〔九〇三七〕
黒優る

白十二は、黒五と切らるゝ缺陷十四の過ぐ。蓋し内外、内勢順調の憂ひあるに似て、危險すること勿れ。想ふに、白打つて劫争せば、白勝つ可きも、打たざれば、黒ロ白ハに綽ねて廣く隅を取らんとする黒は二白ホ、平易に二黒イ、二白ヘ、又二黒ト、劫の筋を見る。

㊀劫提 ㊁同 ㊂同 ㊃同 ㊄同 ㊅劫 ㊆同 ㊇同、㊈劫提 ㊉同、㊊劫提 ㊋同

〔九〇三八〕
互角の形勢

白八、見よ白双ビタ一と厳しく黒の迫る提り、白の動静を待ち、黒九の佳手なり。白十二に曲れば、黒十三、十四と黒ロを白二に十一と黒二に曲れば、黒三、白十、其弛みに乗じ、黒ニ、白ホ、黒ヘ、白ト、黒イ、白チ、黒リ、白ヌ、黒ル、白ヲ、黒ワ、白カ、黒ヨ、白タ、黒レ、白ソ、黒ツ、白ネ、黒ナ、白ラ、黒ム、白ウ、黒ヰ、白ノ、黒オ、白ク、黒ヤ、白マ、黒ケ、白フ、黒コ、白エ、黒テ、白ア、黒サ、白キ、黒ユ、白メ、黒ミ、白シ、黒ヒ、白モ、黒セ、白ン、黒ス、白ヱ

〔九〇四七〕
場合による

一寸の蟲にも五分の魂、即ち白いまで六に「つむじを曲げて出づ。黒七絶対の方、黒十七は二十一の次に白十八なれば黒イ。

〔九〇四八〕
黒稍優勢

白十四と當てれば、黒十六に十良しなれ、白十五にて黒十六と當てれば、黒即ちイに追ひ、踏んで次に命の爆弾投下へ含むロ。白は之に備へざるを得ず。黒即ち先手となる。

〔九〇四九〕
黒悪し

黒十一無理。白十二以下十六まで黒二一に尾して黒二一に出づる時、白二十二の下の黒一、黒を攻撃し来る時、白二十二の下の黒一、黒を攻撃し来る時、白二十二の下の黒一、黒を攻撃し来る

〔九〇七一〕
常形

黒■と白六、打つ手あり、此手、黒の■の一子を重複するなり。若し黒十三まで陥れんとするならば、白はその志を遂げたるに庶なるに庶し。

〔九〇七二〕
甚だ大なり

前圖の形となりて、白若し十四を手抜き、黒一・三、打抜き、最善の手段なれども也。嘵乎、層破れて厨寒く、次に白軍、影漸く薄く、次に黒イ先手利き（次圖）。

〔九〇七三〕
劫

黒七！佳手なり。次に白八なれば、黒九に粘いで隅は劫。猶ほ初めの白二を五なれば、黒ロの先手二目打抜き。

〔九〇七四〕
黒幾分利勢

白五は激しき手。これ血氣さえあれども、黒の勇抗のみ。イと切るの抵抗は能はず、遂に九にて退守り、十四、共に十形也。

〔九〇七五〕
征關係

白五而して七。此形、征宜しくして黒次にイと取得。又若し黒征悪しき時は、イはロに守るべし。

〔九〇七六〕
場合に依る

黒六と飛ぶは、常用の手筋。以下、白十一共に必然の二手。此形、黒八の下りある故、黒より多少の便利手段もあり。

〔九〇七七〕
場合の手段

本因坊丈和 當時七段
先番服部立徹 當時六段
二目勝

此形、白■にあり。乃ち、黒は七を面白からずと見て、斯イ或は□型に共に分されたり。

〔九〇七八〕
黒面白からず

黒四・六と、一子を切取るを白から嫌ず。白は七に逸び、白軍の出で氣豪に及ぶ。圖の形白は統制あり、黒石の勢力は反し二あり。

〔九〇七九〕
征關係

白五而して七。此形、征宜しくして黒次にイと取得。又若し黒征悪しき時は、イはロに守るべし。

〔九〇八〇〕
黒悪し

黒二は、白に此形、打たれてイと攻むれば、黒手筋あるに似たれども、月の如きのは水中の實の如く、即ち次に白ロ黒失敗。ハ白ニで、黒の便利手段少なり。

〔九〇八一〕
黒の包圍全し

白一悪し、故なく斯くしては黒の圍は破れなし。退守るに遂に無條件に以下完封せらる。中原に白の勢を見ず。黒沼天の雙騎の勢なり。

〔九〇八二〕
要點約言

（第八十型イの二）

此時に白イなれば黒ロ、又白イをハなれば黒イにて普通は、白好手にて此二手段着なり。共に場合の如し。

〔九〇八三〕
基本圖

（第八十型ロ）

白四なれば黒は無斯の形、白は特殊の場合の外、結果必ず悪し。

〔九〇八四〕
白甚だ無理

黒既に一と切るる。決戰に火蓋は切られたり。茲に至つては、白二四の力攻は當然なるに、黒遂に十五にて勝之は白■の悪しきためなり。

〔九〇八五〕
黒大に優れり

白十と隅に活路を求むれば、黒は十一に蹴起して白を討つ。而して黒十に轉戰遂に肺腑に入れば、白の命數は一殆ど潰滅の形也。

〔九〇八六〕
黒攻合勝

夫れ、九變の利に通ずるは、智者の名將なりと。此場合、黒九と白■にあるに、直接に約束なりに着手は、白十以下黒二三に至つて完全に黒勝。

〔九〇八七〕
黒劫勝

白十、此時、黒十一以下宜し。白十四の時、黒十五可なり。若し黒十五を單に七なれば、攻合れて白攻合十六、黒十五白十七、黒十八白十九。

〔九〇八八〕
白攻合勝

黒いま九に撃つ、天謎さえ立ち所に到る。白攻切り以下十四と下る、嘵乎悲しき哉、黒十五と下る、嘵乎悲しき哉、黒十五と下る、嘵乎悲しき哉、黒十五

〔九〇九五〕白可なり

黒四恶し。五とな
りては、白の次に
黒イ遮れば、黒
イ・六八の、白ロ。
一目取大なり。
之は蓋しみならず
双方の味の
関する故なり。

〔九〇九六〕五角の分れ

白三を先に飛剣にせば、
白四に閃き、黒は
白倉皇として五に
粘ぐや、沙を
の六・八移、而して
凡、以て超十。
箍とす脱べし。

〔九〇九七〕黒面白き形

白九・十二なれば、盤
十・五に先に錄をむしる。而して白が
や、黒十六・十八と進む
に横ざまに打ちて、
而して後二の十に
開すや。聯一無し。
形や眼白今展

〔九〇九八〕可否未定

白いま五。黒六の
切りは、も早やの善
悪の沙汰は非ず、
蓋しも黒若し、
勢なりや。
ば、六を七に約へ
し、時、白
は白九を閃きて
に切つて出づ。

〔九〇九九〕白稍優る

白九も穏健にして
可なれど、此手は
直ちに十二
以て七筋に
下白十を
好の出づ、
地を蓋に絶揚
得、白は
たり。ま
勢を
邊に

〔九一〇〇〕黒優る

黒四に切らいて、次
此時、白五と他を
顧みず、黒
迂廻して千萬
綿ねしは、
なり。十の手、
八・六順、
堅し。黒
戦は以下
取子
勢の等
高。
なり。

〔九一〇一〕黒優勢

白九と行びたる時
は、以下の白十七の
時に黒の十筋なり
十八・・斯二の
白の白
運命、
なりて
は、
黒
卵
の
若
一
し
二
に
三
に
綿
ね
善
し、
直
ち
に
黒
二
二
然
る
に
は
黒
に
二
形
、
黒
攻
交
換
し
黒
敗
取
な
る
。
依
り
。

〔九一〇二〕白の形好まず

一旦の迷誤は千日
の恨あり。三・五、
俗筋、白悔む。
嗤筋の此臍
を白果然
圖、イに出切
無し。此處に
筋よりロ
ま處は
たハの
は黒る
よ
味
あ
れ
ば
な
り
。

〔九一〇三〕黒優れり

白一・三、悪手。
黒二・以下六九と
六一、見よ。
て六と
は同
形。
圖黒
白
一
以
下
六
九
と
六
一
見
よ
。
圖

〔九一一七〕白死せず

右邊の黒の備へ未だ充分ならざるの形にて、黒七とるにねらざるの手段は悪し。見よ、以下黒十三まで白隅十四目點となれば白隅十四に※

〔九一一八〕外形如何による

白若し六・八なれば九以下十三まで隅にて隅には眼無しにも拘らず、白は十四に而も敵圍を潰やして出でしも、此形イ方面に白の援兵※

〔九一一九〕持或は後に劫

黒若し七なれば白八、白八なれば黒七にて劫持の形となるも猶不氣味なり。要之打込まれては、白好まず。

〔九一二〇〕黒の形善し

白四では黒を五にけしめて黒方可なり。而し九へ(一一三圖)敵を制すれば黒先んじて白の五ずれば敵先とん。

〔九一二一〕一得一失あり

一一二圖の定石に於て、白一で打つ。三・五位のなれば、黒十三まで白隅十四に※

〔九一二二〕白悪し

勝つことを知らざれば敗くることを知らざれば至れり。白七悪し。黒八・十二に迫る。白の打抜き。黒此形悪し。

〔九一二三〕征關係の形

油斷大敵、勝敗の轉移は、たゞ一瞬の間。見よ、即ち黒八の輕率なり。白九の一手。此形に決すれば勝敗は白十二にて關係に決す。黒ホの征。白ロの征)。

〔九一二四〕白時機を見よ

黒いま四、而して白五の時、黒六へ利を放棄、小利を願はず大勢を壓するの豪氣を以て迫る。白七早く黒八を厚くし時は悪し。

〔九一二五〕白甚だ悪し

白七無謀なり。黒十八に切り進みて黒遂に先手二打抜き十に先き一錬を前むれば、白七の一子孤弱、且つ此形、黒よりイの切も堅くせしめたり。

〔九一二六〕場合の手段

白いま一・三一譬へば電光が黒闇の隙間を衝いて出づるの概あり！此出づる手段、普通は白無理なるも、若し場合は外。時に面白し。

〔九一二七〕場合による

白はまだ、一もあり。此時は、一黒はま手抜にて宜しく、又はイ或はロに打つも可なり。何にも可なり。形勢如何による。

〔九一二八〕白、一策なり

白一に敵の虚を衝いて出づるも白五に出づるもあり。形は、普通は好まるゝ。一一は既にイ或はロにあり。場合は、黒を夾撃する意味あり。

〔九一二九〕定石

白は、黒より見るが如く九一の一二圖イの先手利きを打たしめず、先んじて八・十もあり、これも定石なれど、黒普通は好まず。

〔九一三〇〕黒利勢

白五の切り、黒は六に切り、悪し。白遂に八・十で先手振替りとなり、黒も先手白隅は桑田變海の悲しみあり。

〔九一三一〕定石

黒十一を手抜も白乃ち十二、黒十三は太刀切り。敵の切り、神色自若、輕手拔して他に先鞭を要す。白イ一着を要す。

〔九一三二〕白好まず

白七なれば、黒八。白遂に五・七の岩の下の脆弱の如きも、色の卵の嫌無きにあらず。白は次にイを要す。

〔九一三三〕黒可なり

白七と突當り、黒十と暗し、時は兵機に乘じて凡を避けて中邊を望む。此形は前圖に比すれば黒可なり。

〔九一三四〕白時に面白し

白一・三、面白し。尤も、これは、黒が圖に掛合にある手なり場合の手筋なり。(九一七二圖參照)。黒四而して六・八の征宜しき場合の手筋なり。

〔九一三五〕黒優れり

白七悪し。次に白十一上下斷急に進遂に勝ちなり。黒八、乘じて六・十四の先手を利かし、綺麗に決せり。大勢既に黒優れり。

〔九一三六〕黒時に可なり

黒若し征宜しき時、白九に敵の征を攻めて黒十三の征をも破す。白九に敵の征を攻めて黒十三の征をも破す。先九に敵の征を攻めて黒十三の征をも破す。黒八・十二・十四。時に此手段厚し。

〔九一三七〕黒の形好まず

黒若し前圖征悪し、四時は、次に八と打つ位のもの、かなれど、白三の一子あるに、猶ほ活動の餘地あり、中原に向ひて長嘯す。故に黒抽尤も、此形、黒よりイ、白ロ黒ハと掛けも、白の白を取る手あれば、黒此處に二手も多くなる故に云ひに難し。故に結論としては、白征可なれば、一・三の手面白し。

〔九一三八〕白善し

白城を傾く、豈に美人の見よ、黒六の手筋なるも黒軍の勢の爲に非ざるも俄然黒軍競し、此場合イ掛合ずして、黒にて蓋し、白は圖に掛合イにして、白より※

〔九一三九〕黒優勢

白七悪し。噫乎、白一復た此一手にて伸ぶべからず。黒八と伸ぶれば、果然黒八敵一子を屠り、敵衝い乗じて出づれば、白形甚だ低し。黒十四。

〔九一四〇〕
黒、一策なり

若し黒征六圖參照）（九一三圖參照）白一而して三に切出づれば、黒は單に四が善しこの時は黒九一三圖より稍優る。

〔九一四一〕
互角の分れ

白五なおもはざる敵の出方に六・八の打抜きを以て七の打抜もまた厚し、黒十一なれば白も十分に遮斷の威、上下呼應の威を受く。

〔九一四二〕
白優れり

黒六、惡手なり。白は七に追撃して十二に逃げ、此場合黒イの征伐宜しく、假令白イと振替りを打つも十三と白十五とを交換したれば白優れり。

〔九一四三〕
白好まず

白五、俗手なり。九は斯かる場合には寧ろ七・七を筋とし、其の結果白得なりと雖も、黒得なりとも辛うじて二目の損なり。

〔九一四四〕
黒善し

白七の時、十八に切出づれば黒十一に二、三と白十二に一目の損なり。

〔九一四五〕
白惡しからず

白一、黒二手抜。此時、白は三尋で五に一・二を抜きたるも、尤も直ちに三、七と利かされて、白惡し。

〔九一四六〕
常形

黒九は、こに打ちて次に白十と切らば、白は九と切ぬき、場合の堅めに利く。白十四に亙り好形なり。

〔九一四七〕
白緩し

白一は氣地を忘れし手筋にして、堅めは緩にして實戰に於ては白一地を得て黒稍不利なり。

〔九一四八〕
場合の手段

白一、黒二手抜。此時、白は三尋で五に一・二を抜きたるも、尤も直ちに三、七と利かされて、白惡し。

〔九一四九〕
黒の勢可なり

白三・五に此形、通あれど好ならず。黒普通の筋なり。

〔九一五〇〕
（一）場合による

白直ちに一、三に其の儘にしても五は取るの意なり。

〔九一五一〕
白惡しからず

嗟乎、百苦辛酸の時、白に危機到る。白九の打抜善しと雖も、白九の軍配宜しきに亙り、白も好形を得たり。

〔九一五二〕
白優れり

白五・七、甚だ惡形。

〔九一五三〕
黒守勢に立つ

黒十一は常形。

〔九一五四〕
橋本宇太郎五段
先番長谷川章五段
勝

此形、白が上邊の模様やうやく熟地と化せんとす。黒即ち十二に輕く消す、白十三と、掩撃の攻勢に出でし善手なり。

〔九一五五〕
白の手段輕妙

勝岩本薫六段
先木谷實四段

黒十四、以下白に切りし手段輕妙凡ならず。

〔九一五六〕
要點約言

（第八一型イの一）

黒七なれば、白は手抜にて黒イと白ロとを交換したる後、白ハと常形に直したるは、黒ニに備へたるものにて、白ハはホと黒ニ

〔九一五九〕白手抜の場合

前定石の儘にて、黒より此一子を打つとすれば、同じく一、三に飛ぶ時は、白二の前九一一隅の変化以下と同じ。

〔九一六〇〕白より打つ場合

前々圖白より一打つと内に籠れば、一は、乃ち敵の重要なる着點を藏する銳鋒を避けて二に尋ぐ。白三、必然の換り。

〔九一六一〕黒の勢善し

白、此を決して無理なり。此時、筋なりに出づれば、黒若し尋ぐ征宜しく十七に追手なり。尤も黒惡二に八に切る手あり。

〔九一六二〕混戦の形

黒前圖征惡しき時は飛ぶ初めの位置にて、白九の切り。十に逃げ出づ、黒戦陣、雲霞の如く可なり。急に混戦に決す。風一陣、遂に原に中に否！

〔九一六三〕黒優れり

白五との二段綰ね好まず。黒六・八と一子を抱へて宜し。

〔九一六四〕黒形勢善し

白直ちに切つて出れば、黒七と打つて十に尋ぐ。白抜いて宜しく、一瞬十三と爭ふ要點なり。白若し五に十三の先手綰ぎも先手粘。

〔九一六五〕白大勢を占む

黒十二と高く拓く手常形なれど、此場合白即ち三、尋で四の時、白十五に切つて十七以下大いに善し。黒は二六以下三六に辛うじて九と外れ、白を居るを厭ひ、白十五まで二五。

(二)打缺
(三)提
(四)粘

〔九一六六〕黒善し

白直ちに十七は、勝つて兜の緒を締めかゝらるゝの着。黒二攻合は外勢に比べて劣る。手粘。

〔九一六七〕黒可なり

白三而して五に厚く鋭切れば、黒六は厚し。黒七と白ハの次に狙ひ、白涙を呑んで止むなく七。黒八、下辺の溜り共に其形善しの黒。上八で

〔九一六八〕白の侵分手段

白一、黒は手抜、或は(イ)の附け、圖の如く打つと二つ。

〔九一六九〕定石

黒七の時、白は直ちに八に打つと、十と打つは九の一手あれど、十二、九圖と同意にして、黒厚くなるが故に好まず。

〔九一七〇〕定石

白十手抜の時、黒は手抜の時、十二白三の時、黒は輕妙にして、形勢も亦然も亂意あり。十三は千金の重みあり。九一圖の手段と同じ。

〔九一七一〕黒有利の形

白三は、圖の(イ)にあれど、此手は、圖の形にて、黒六に白手段の妙手。黒先手。極む。白十九一三八にて、白手後手の差あり。

〔九一七二〕黒惡し

黒は前圖の如く、四の一子に死花を咲かせるの決断なく、八と粘るは鈍重の極み。此形未だ活動の余地あり。三の白と略ゝ同形なれど、九一三七圖よりも黒劣る。

〔九一七三〕好まず

(七)白いま七に、伐む。黒は八に至つて衝く、十に曲つて白は(イ)と創痍なるを始め滿身の鱗ほどの整形。八、四に先手して、黒遂に二手十の中の大形を施して、白を睨む。

〔九一七四〕白甚だ惡し

白十一、黒十三、無理なり。十二以下十六、尋で十八の切り、而して二の辛き攻合。十に厳しく打つ缺點を傷ましむる、白が眼を敗戦の跡。

〔九一七五〕要點約言

(第八一型(イ)の二)

黒七と堅く粘ぎし時も、白は手抜黒(イ)白(ロ)となるを常形とす。

(第八一型(イ)の一)

猶其他の手段は、一の變化と略ゝ同じ。

〔九一七六〕基本圖

(第八一型(イ)の三)

黒七は、前の(イ)ま此處を(ロ)に切れば、白直ちに粘し、隅へ鋭く手を蓋す。白八で強き意味あり、黒は(ロ)に切れば、白の狙ひ。

〔九一七七〕定石

白八、黒九、共に佳着なり。白八は黒(イ)の次に狙ひ、黒九は白(ロ)の攻を防ぎ、又黒九は白(ニ)よりの切を防ぐ。

〔九一七八〕白より打つ時

黒二となりし時、白より此處を打つとすれば、三の尖みは好點なれど、尤も大場の多き時代には、直ちに打つ所にもあらず。

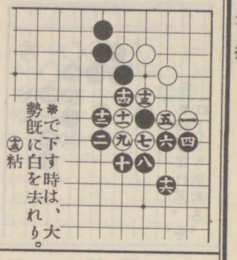
〔九一七九〕白、罠に陥る

白いま三。然かも、三は盲人蛇に、こは柿ざるの類なり。黒即ち四・六・此形而して八・四。白は黒さの囲なるに、黒勢其厚し。

〔九一八〇〕黒より打つ時

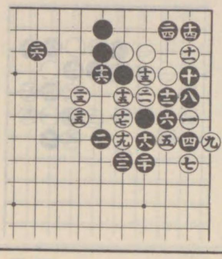
(三)手抜の場合、此處を黒から打つ黒、遂に四に至つて宜しく、黒の外圍へ、黒は二手要之。

〔九一八一〕
白、伏に陥る



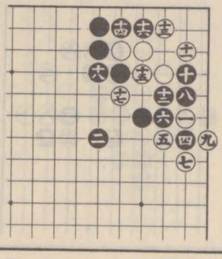
白五・七は㊂手抜。前々図と同じく、黒二。黒八以下、息をもの凄く吐かせぬ急追。白九から十一と安堵の胸を撫す。

〔九一八二〕
黒可なり



黒四、白は五と手も綺麗に出して替る。白九の時、黒あ、白は手も無く十二の凡庸を避けて十に挺進す。十二に鋭く十を捨てゝ黒十二と粘れば、白は十二と隅に活きる手は残る。

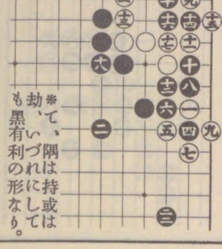
〔九一八三〕
白手段無し



㊂手抜

白十三、悪し。黒は㊂手抜。即ち十四以下の追撃は白十五、十八と逃れて黒萬劫。

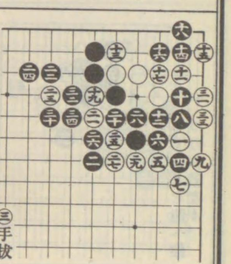
〔九一八四〕
黒可なり



㊂手抜

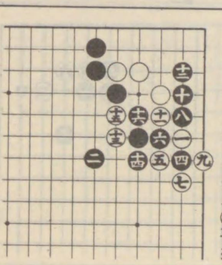
黒は㊂手抜ば、白十三、十六と地を固めて善し。白二に外ぶつけ、十四、十八と堅むれば、黒は雷せたるこの二個の尋ぬる一先手を取られて中に倒れて了んぬ。

〔九一八五〕
互角の分れ



黒十八と打てば、隅は五目と点にて死なれど、白は十九の切断、黒の切り込みに対し、白は十一と軍配を上げて互角の分れ。

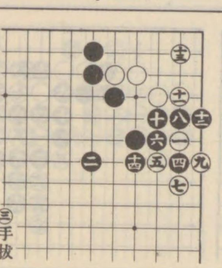
〔九一八六〕
白に手段無し



㊂手抜

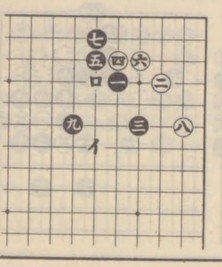
白十一の切り、悪し。黒は即ち、十二と逆撃すゆ。白は然し、十三と潰して、黒十・五なれば、十六で、簡明の勝。

〔九一八七〕
黒優る



黒十と粘り、結果も此手は稍緩慢し、白は直ちに十一と活き、黒は十三と外れ、尤も白勢十分の見込。

〔九一八八〕
定石



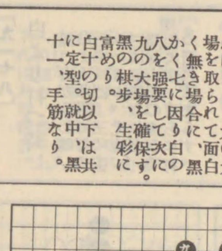
黒九は、勿論、白イと曲り、黒ロの切りを待ち、白は手を十九と引き、黒は一九と受けるの外なし。白イは定石の一手。

〔九一八九〕
黒、外を囲む

㊂手抜

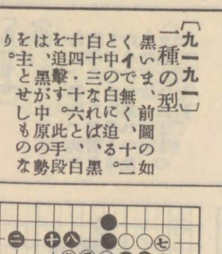
黒四に引く。次に白は五・七と黒八で㊀の征悪。白は五に止む。黒は八に遮り、白は七と黒七に合して、白五に限る。白の遺味あり、かくて白が五之を直ちに取るにあり。

〔九一九〇〕
定石



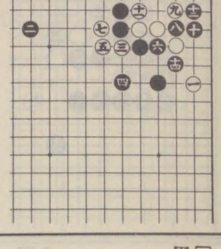
黒九は、黒七の時、一より也。豫定の行動。即ち一七を打ち、白は十或は十二と受けるの外なし。黒九は、白の大場を取られて強く、白十は黒の大場を荒す。白は九に因て場を得るに反し、黒は八に因て場を失ふ。以下白の生活確保に汲々たり。

〔九一九一〕
一種の型



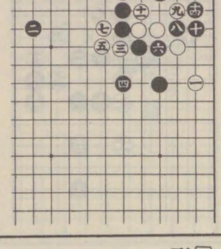
黒いは、前圖の如く無理に追撃がましも、白は十と中央に十四と受けるの外なし。黒は十二と十六と追ひ、白十四と十に一と定石の型。以下筋なり。

〔九一九二〕
白稍可なり



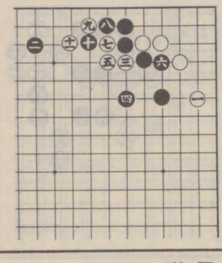
黒六。此時、若し征宜しく打つけ手あれば、白七と次圖參照。以下、黒十四と攻めに来れば、白一と下ぬ。但し、次圖の振替りとなりては、白稍可なり。

〔九一九三〕
黒の形好まず



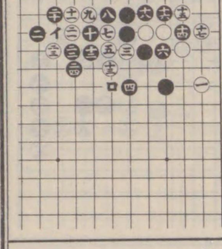
黒十二は、急いて事を仕損じたり。白十三、尋で黒十四と攻防の着を下すとは、知らぬ顔の半兵衛、次に先ず他の大場に馳す。

〔九一九四〕
參考圖
可否征に決す



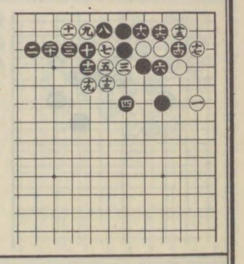
黒八、而して白九と切る。此の時、黒の可否に手段の可否には因って一に征否に決す。（次圖）

〔九一九五〕
黒勝



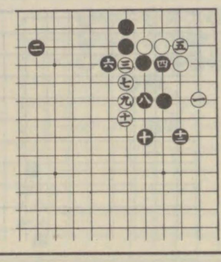
若し征悪にし時は、白は十一と打つに、黒は十二の一外無し、尋で十三と鼓出し、優勢を先下の要着なり。白イと黒は二の後、四の兩眦ロみにはイ！ッグ勝なり。

〔九一九六〕
黒善し



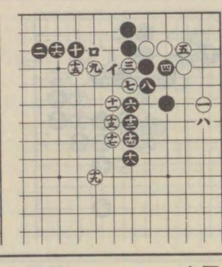
白十九に曲れば、黒二十に次れば、白二十一と粘る時、黒一二に二子を取り、白九・逐に二子、而して中活きの戦原因悪しからず。

〔九一九七〕
形勢未定



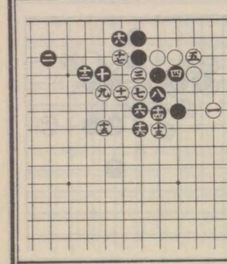
黒若し征悪しく、前圖如くなり、而して白は先ず四に駆り、黒は五の粘りを待ち、白六の時、黒は絶対の攻勢を取る。

〔九一九八〕
形勢互角



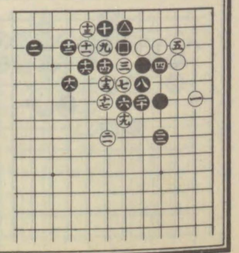
黒六もあれば、白七をイに同形にて互角。白九は九一の好點なり。黒ロと圖形、白十九の形勢より大に打つ勢、此に黒は、ハが甚だ

〔九一九九〕
白稍まづし



白九の飛びは、筋違ひなり。黒は即ち敵失に乗じ二に衝き、敵腹大に引いて兵を寒に善し、白形稍拙し。

〔九二〇〇〕
黒良し



白九・に危到。黒十一と機を見て、白十二と下ぐれば、黒十三と活き、白十四と受けるの外なし。黒十五と白の大場を荒し、白十六と黒の大場を荒し、白十八と黒の大場を荒し、白十九と黒の大場を荒し、白二十と黒の大場を荒し、白二十一と黒の大場を荒し、白二十二と黒の大場を荒し、白二十三と黒の大場を荒し、白二十四と黒の大場を荒し、白二十五と黒の大場を荒し、白二十六と黒の大場を荒し、白二十七と黒の大場を荒し、白二十八と黒の大場を荒し、白二十九と黒の大場を荒し、白三十と黒の大場を荒し、白三十一と黒の大場を荒し、白三十二と黒の大場を荒し、白三十三と黒の大場を荒し、白三十四と黒の大場を荒し、白三十五と黒の大場を荒し、白三十六と黒の大場を荒し、白三十七と黒の大場を荒し、白三十八と黒の大場を荒し、白三十九と黒の大場を荒し、白四十と黒の大場を荒し、白四十一と黒の大場を荒し、白四十二と黒の大場を荒し、白四十三と黒の大場を荒し、白四十四と黒の大場を荒し、白四十五と黒の大場を荒し、白四十六と黒の大場を荒し、白四十七と黒の大場を荒し、白四十八と黒の大場を荒し、白四十九と黒の大場を荒し、白五十と黒の大場を荒し、白五十一と黒の大場を荒し、白五十二と黒の大場を荒し、白五十三と黒の大場を荒し、白五十四と黒の大場を荒し、白五十五と黒の大場を荒し、白五十六と黒の大場を荒し、白五十七と黒の大場を荒し、白五十八と黒の大場を荒し、白五十九と黒の大場を荒し、白六十と黒の大場を荒し、白六十一と黒の大場を荒し、白六十二と黒の大場を荒し、白六十三と黒の大場を荒し、白六十四と黒の大場を荒し、白六十五と黒の大場を荒し、白六十六と黒の大場を荒し、白六十七と黒の大場を荒し、白六十八と黒の大場を荒し、白六十九と黒の大場を荒し、白七十と黒の大場を荒し、白七十一と黒の大場を荒し、白七十二と黒の大場を荒し、白七十三と黒の大場を荒し、白七十四と黒の大場を荒し、白七十五と黒の大場を荒し、白七十六と黒の大場を荒し、白七十七と黒の大場を荒し、白七十八と黒の大場を荒し、白七十九と黒の大場を荒し、白八十と黒の大場を荒し、白八十一と黒の大場を荒し、白八十二と黒の大場を荒し、白八十三と黒の大場を荒し、白八十四と黒の大場を荒し、白八十五と黒の大場を荒し、白八十六と黒の大場を荒し、白八十七と黒の大場を荒し、白八十八と黒の大場を荒し、白八十九と黒の大場を荒し、白九十と黒の大場を荒し、白九十一と黒の大場を荒し、白九十二と黒の大場を荒し、白九十三と黒の大場を荒し、白九十四と黒の大場を荒し、白九十五と黒の大場を荒し、白九十六と黒の大場を荒し、白九十七と黒の大場を荒し、白九十八と黒の大場を荒し、白九十九と黒の大場を荒し、白百と黒の大場を荒し、白百一と黒の大場を荒し、白百二と黒の大場を荒し、白百三と黒の大場を荒し、白百四と黒の大場を荒し、白百五と黒の大場を荒し、白百六と黒の大場を荒し、白百七と黒の大場を荒し、白百八と黒の大場を荒し、白百九と黒の大場を荒し、白百十と黒の大場を荒し、白百十一と黒の大場を荒し、白百十二と黒の大場を荒し、白百十三と黒の大場を荒し、白百十四と黒の大場を荒し、白百十五と黒の大場を荒し、白百十六と黒の大場を荒し、白百十七と黒の大場を荒し、白百十八と黒の大場を荒し、白百十九と黒の大場を荒し、白百二十と黒の大場を荒し、白百二十一と黒の大場を荒し、白百二十二と黒の大場を荒し、白百二十三と黒の大場を荒し、白百二十四と黒の大場を荒し、白百二十五と黒の大場を荒し、白百二十六と黒の大場を荒し、白百二十七と黒の大場を荒し、白百二十八と黒の大場を荒し、白百二十九と黒の大場を荒し、白百三十と黒の大場を荒し、白百三十一と黒の大場を荒し、白百三十二と黒の大場を荒し、白百三十三と黒の大場を荒し、白百三十四と黒の大場を荒し、白百三十五と黒の大場を荒し、白百三十六と黒の大場を荒し、白百三十七と黒の大場を荒し、白百三十八と黒の大場を荒し、白百三十九と黒の大場を荒し、白百四十と黒の大場を荒し、白百四十一と黒の大場を荒し、白百四十二と黒の大場を荒し、白百四十三と黒の大場を荒し、白百四十四と黒の大場を荒し、白百四十五と黒の大場を荒し、白百四十六と黒の大場を荒し、白百四十七と黒の大場を荒し、白百四十八と黒の大場を荒し、白百四十九と黒の大場を荒し、白百五十と黒の大場を荒し、白百五十一と黒の大場を荒し、白百五十二と黒の大場を荒し、白百五十三と黒の大場を荒し、白百五十四と黒の大場を荒し、白百五十五と黒の大場を荒し、白百五十六と黒の大場を荒し、白百五十七と黒の大場を荒し、白百五十八と黒の大場を荒し、白百五十九と黒の大場を荒し、白百六十と黒の大場を荒し、白百六十一と黒の大場を荒し、白百六十二と黒の大場を荒し、白百六十三と黒の大場を荒し、白百六十四と黒の大場を荒し、白百六十五と黒の大場を荒し、白百六十六と黒の大場を荒し、白百六十七と黒の大場を荒し、白百六十八と黒の大場を荒し、白百六十九と黒の大場を荒し、白百七十と黒の大場を荒し、白百七十一と黒の大場を荒し、白百七十二と黒の大場を荒し、白百七十三と黒の大場を荒し、白百七十四と黒の大場を荒し、白百七十五と黒の大場を荒し、白百七十六と黒の大場を荒し、白百七十七と黒の大場を荒し、白百七十八と黒の大場を荒し、白百七十九と黒の大場を荒し、白百八十と黒の大場を荒し、白百八十一と黒の大場を荒し、白百八十二と黒の大場を荒し、白百八十三と黒の大場を荒し、白百八十四と黒の大場を荒し、白百八十五と黒の大場を荒し、白百八十六と黒の大場を荒し、白百八十七と黒の大場を荒し、白百八十八と黒の大場を荒し、白百八十九と黒の大場を荒し、白百九十と黒の大場を荒し、白百九十一と黒の大場を荒し、白百九十二と黒の大場を荒し、白百九十三と黒の大場を荒し、白百九十四と黒の大場を荒し、白百九十五と黒の大場を荒し、白百九十六と黒の大場を荒し、白百九十七と黒の大場を荒し、白百九十八と黒の大場を荒し、白百九十九と黒の大場を荒し、白二百と黒の大場を荒し、白二百一と黒の大場を荒し、白二百二と黒の大場を荒し、白二百三と黒の大場を荒し、白二百四と黒の大場を荒し、白二百五と黒の大場を荒し、白二百六と黒の大場を荒し、白二百七と黒の大場を荒し、白二百八と黒の大場を荒し、白二百九と黒の大場を荒し、白二百十と黒の大場を荒し、白二百十一と黒の大場を荒し、白二百十二と黒の大場を荒し、白二百十三と黒の大場を荒し、白二百十四と黒の大場を荒し、白二百十五と黒の大場を荒し、白二百十六と黒の大場を荒し、白二百十七と黒の大場を荒し、白二百十八と黒の大場を荒し、白二百十九と黒の大場を荒し、白二百二十と黒の大場を荒し、白二百二十一と黒の大場を荒し、白二百二十二と黒の大場を荒し、白二百二十三と黒の大場を荒し、白二百二十四と黒の大場を荒し、白二百二十五と黒の大場を荒し、白二百二十六と黒の大場を荒し、白二百二十七と黒の大場を荒し、白二百二十八と黒の大場を荒し、白二百二十九と黒の大場を荒し、白二百三十と黒の大場を荒し、白二百三十一と黒の大場を荒し、白二百三十二と黒の大場を荒し、白二百三十三と黒の大場を荒し、白二百三十四と黒の大場を荒し、白二百三十五と黒の大場を荒し、白二百三十六と黒の大場を荒し、白二百三十七と黒の大場を荒し、白二百三十八と黒の大場を荒し、白二百三十九と黒の大場を荒し、白二百四十と黒の大場を荒し、白二百四十一と黒の大場を荒し、白二百四十二と黒の大場を荒し、白二百四十三と黒の大場を荒し、白二百四十四と黒の大場を荒し、白二百四十五と黒の大場を荒し、白二百四十六と黒の大場を荒し、白二百四十七と黒の大場を荒し、白二百四十八と黒の大場を荒し、白二百四十九と黒の大場を荒し、白二百五十と黒の大場を荒し、白二百五十一と黒の大場を荒し、白二百五十二と黒の大場を荒し、白二百五十三と黒の大場を荒し、白二百五十四と黒の大場を荒し、白二百五十五と黒の大場を荒し、白二百五十六と黒の大場を荒し、白二百五十七と黒の大場を荒し、白二百五十八と黒の大場を荒し、白二百五十九と黒の大場を荒し、白二百六十と黒の大場を荒し、白二百六十一と黒の大場を荒し、白二百六十二と黒の大場を荒し、白二百六十三と黒の大場を荒し、白二百六十四と黒の大場を荒し、白二百六十五と黒の大場を荒し、白二百六十六と黒の大場を荒し、白二百六十七と黒の大場を荒し、白二百六十八と黒の大場を荒し、白二百六十九と黒の大場を荒し、白二百七十と黒の大場を荒し、白二百七十一と黒の大場を荒し、白二百七十二と黒の大場を荒し、白二百七十三と黒の大場を荒し、白二百七十四と黒の大場を荒し、白二百七十五と黒の大場を荒し、白二百七十六と黒の大場を荒し、白二百七十七と黒の大場を荒し、白二百七十八と黒の大場を荒し、白二百七十九と黒の大場を荒し、白二百八十と黒の大場を荒し、白二百八十一と黒の大場を荒し、白二百八十二と黒の大場を荒し、白二百八十三と黒の大場を荒し、白二百八十四と黒の大場を荒し、白二百八十五と黒の大場を荒し、白二百八十六と黒の大場を荒し、白二百八十七と黒の大場を荒し、白二百八十八と黒の大場を荒し、白二百八十九と黒の大場を荒し、白二百九十と黒の大場を荒し、白二百九十一と黒の大場を荒し、白二百九十二と黒の大場を荒し、白二百九十三と黒の大場を荒し、白二百九十四と黒の大場を荒し、白二百九十五と黒の大場を荒し、白二百九十六と黒の大場を荒し、白二百九十七と黒の大場を荒し、白二百九十八と黒の大場を荒し、白二百九十九と黒の大場を荒し、白三百と黒の大場を荒し、白三百一と黒の大場を荒し、白三百二と黒の大場を荒し、白三百三と黒の大場を荒し、白三百四と黒の大場を荒し、白三百五と黒の大場を荒し、白三百六と黒の大場を荒し、白三百七と黒の大場を荒し、白三百八と黒の大場を荒し、白三百九と黒の大場を荒し、白三百十と黒の大場を荒し、白三百十一と黒の大場を荒し、白三百十二と黒の大場を荒し、白三百十三と黒の大場を荒し、白三百十四と黒の大場を荒し、白三百十五と黒の大場を荒し、白三百十六と黒の大場を荒し、白三百十七と黒の大場を荒し、白三百十八と黒の大場を荒し、白三百十九と黒の大場を荒し、白三百二十と黒の大場を荒し、白三百二十一と黒の大場を荒し、白三百二十二と黒の大場を荒し、白三百二十三と黒の大場を荒し、白三百二十四と黒の大場を荒し、白三百二十五と黒の大場を荒し、白三百二十六と黒の大場を荒し、白三百二十七と黒の大場を荒し、白三百二十八と黒の大場を荒し、白三百二十九と黒の大場を荒し、白三百三十と黒の大場を荒し、白三百三十一と黒の大場を荒し、白三百三十二と黒の大場を荒し、白三百三十三と黒の大場を荒し、白三百三十四と黒の大場を荒し、白三百三十五と黒の大場を荒し、白三百三十六と黒の大場を荒し、白三百三十七と黒の大場を荒し、白三百三十八と黒の大場を荒し、白三百三十九と黒の大場を荒し、白三百四十と黒の大場を荒し、白三百四十一と黒の大場を荒し、白三百四十二と黒の大場を荒し、白三百四十三と黒の大場を荒し、白三百四十四と黒の大場を荒し、白三百四十五と黒の大場を荒し、白三百四十六と黒の大場を荒し、白三百四十七と黒の大場を荒し、白三百四十八と黒の大場を荒し、白三百四十九と黒の大場を荒し、白三百五十と黒の大場を荒し、白三百五十一と黒の大場を荒し、白三百五十二と黒の大場を荒し、白三百五十三と黒の大場を荒し、白三百五十四と黒の大場を荒し、白三百五十五と黒の大場を荒し、白三百五十六と黒の大場を荒し、白三百五十七と黒の大場を荒し、白三百五十八と黒の大場を荒し、白三百五十九と黒の大場を荒し、白三百六十と黒の大場を荒し、白三百六十一と黒の大場を荒し、白三百六十二と黒の大場を荒し、白三百六十三と黒の大場を荒し、白三百六十四と黒の大場を荒し、白三百六十五と黒の大場を荒し、白三百六十六と黒の大場を荒し、白三百六十七と黒の大場を荒し、白三百六十八と黒の大場を荒し、白三百六十九と黒の大場を荒し、白三百七十と黒の大場を荒し、白三百七十一と黒の大場を荒し、白三百七十二と黒の大場を荒し、白三百七十三と黒の大場を荒し、白三百七十四と黒の大場を荒し、白三百七十五と黒の大場を荒し、白三百七十六と黒の大場を荒し、白三百七十七と黒の大場を荒し、白三百七十八と黒の大場を荒し、白三百七十九と黒の大場を荒し、白三百八十と黒の大場を荒し、白三百八十一と黒の大場を荒し、白三百八十二と黒の大場を荒し、白三百八十三と黒の大場を荒し、白三百八十四と黒の大場を荒し、白三百八十五と黒の大場を荒し、白三百八十六と黒の大場を荒し、白三百八十七と黒の大場を荒し、白三百八十八と黒の大場を荒し、白三百八十九と黒の大場を荒し、白三百九十と黒の大場を荒し、白三百九十一と黒の大場を荒し、白三百九十二と黒の大場を荒し、白三百九十三と黒の大場を荒し、白三百九十四と黒の大場を荒し、白三百九十五と黒の大場を荒し、白三百九十六と黒の大場を荒し、白三百九十七と黒の大場を荒し、白三百九十八と黒の大場を荒し、白三百九十九と黒の大場を荒し、白四百と黒の大場を荒し、白四百一と黒の大場を荒し、白四百二と黒の大場を荒し、白四百三と黒の大場を荒し、白四百四と黒の大場を荒し、白四百五と黒の大場を荒し、白四百六と黒の大場を荒し、白四百七と黒の大場を荒し、白四百八と黒の大場を荒し、白四百九と黒の大場を荒し、白四百十と黒の大場を荒し、白四百十一と黒の大場を荒し、白四百十二と黒の大場を荒し、白四百十三と黒の大場を荒し、白四百十四と黒の大場を荒し、白四百十五と黒の大場を荒し、白四百十六と黒の大場を荒し、白四百十七と黒の大場を荒し、白四百十八と黒の大場を荒し、白四百十九と黒の大場を荒し、白四百二十と黒の大場を荒し、白四百二十一と黒の大場を荒し、白四百二十二と黒の大場を荒し、白四百二十三と黒の大場を荒し、白四百二十四と黒の大場を荒し、白四百二十五と黒の大場を荒し、白四百二十六と黒の大場を荒し、白四百二十七と黒の大場を荒し、白四百二十八と黒の大場を荒し、白四百二十九と黒の大場を荒し、白四百三十と黒の大場を荒し、白四百三十一と黒の大場を荒し、白四百三十二と黒の大場を荒し、白四百三十三と黒の大場を荒し、白四百三十四と黒の大場を荒し、白四百三十五と黒の大場を荒し、白四百三十六と黒の大場を荒し、白四百三十七と黒の大場を荒し、白四百三十八と黒の大場を荒し、白四百三十九と黒の大場を荒し、白四百四十と黒の大場を荒し、白四百四十一と黒の大場を荒し、白四百四十二と黒の大場を荒し、白四百四十三と黒の大場を荒し、白四百四十四と黒の大場を荒し、白四百四十五と黒の大場を荒し、白四百四十六と黒の大場を荒し、白四百四十七と黒の大場を荒し、白四百四十八と黒の大場を荒し、白四百四十九と黒の大場を荒し、白四百五十と黒の大場を荒し、白四百五十一と黒の大場を荒し、白四百五十二と黒の大場を荒し、白四百五十三と黒の大場を荒し、白四百五十四と黒の大場を荒し、白四百五十五と黒の大場を荒し、白四百五十六と黒の大場を荒し、白四百五十七と黒の大場を荒し、白四百五十八と黒の大場を荒し、白四百五十九と黒の大場を荒し、白四百六十と黒の大場を荒し、白四百六十一と黒の大場を荒し、白四百六十二と黒の大場を荒し、白四百六十三と黒の大場を荒し、白四百六十四と黒の大場を荒し、白四百六十五と黒の大場を荒し、白四百六十六と黒の大場を荒し、白四百六十七と黒の大場を荒し、白四百六十八と黒の大場を荒し、白四百六十九と黒の大場を荒し、白四百七十と黒の大場を荒し、白四百七十一と黒の大場を荒し、白四百七十二と黒の大場を荒し、白四百七十三と黒の大場を荒し、白四百七十四と黒の大場を荒し、白四百七十五と黒の大場を荒し、白四百七十六と黒の大場を荒し、白四百七十七と黒の大場を荒し、白四百七十八と黒の大場を荒し、白四百七十九と黒の大場を荒し、白四百八十と黒の大場を荒し、白四百八十一と黒の大場を荒し、白四百八十二と黒の大場を荒し、白四百八十三と黒の大場を荒し、白四百八十四と黒の大場を荒し、白四百八十五と黒の大場を荒し、白四百八十六と黒の大場を荒し、白四百八十七と黒の大場を荒し、白四百八十八と黒の大場を荒し、白四百八十九と黒の大場を荒し、白四百九十と黒の大場を荒し、白四百九十一と黒の大場を荒し、白四百九十二と黒の大場を荒し、白四百九十三と黒の大場を荒し、白四百九十四と黒の大場を荒し、白四百九十五と黒の大場を荒し、白四百九十六と黒の大場を荒し、白四百九十七と黒の大場を荒し、白四百九十八と黒の大場を荒し、白四百九十九と黒の大場を荒し、白五百と黒の大場を荒し、白五百一と黒の大場を荒し、白五百二と黒の大場を荒し、白五百三と黒の大場を荒し、白五百四と黒の大場を荒し、白五百五と黒の大場を荒し、白五百六と黒の大場を荒し、白五百七と黒の大場を荒し、白五百八と黒の大場を荒し、白五百九と黒の大場を荒し、白五百十と黒の大場を荒し、白五百十一と黒の大場を荒し、白五百十二と黒の大場を荒し、白五百十三と黒の大場を荒し、白五百十四と黒の大場を荒し、白五百十五と黒の大場を荒し、白五百十六と黒の大場を荒し、白五百十七と黒の大場を荒し、白五百十八と黒の大場を荒し、白五百十九と黒の大場を荒し、白五百二十と黒の大場を荒し、白五百二十一と黒の大場を荒し、白五百二十二と黒の大場を荒し、白五百二十三と黒の大場を荒し、白五百二十四と黒の大場を荒し、白五百二十五と黒の大場を荒し、白五百二十六と黒の大場を荒し、白五百二十七と黒の大場を荒し、白五百二十八と黒の大場を荒し、白五百二十九と黒の大場を荒し、白五百三十と黒の大場を荒し、白五百三十一と黒の大場を荒し、白五百三十二と黒の大場を荒し、白五百三十三と黒の大場を荒し、白五百三十四と黒の大場を荒し、白五百三十五と黒の大場を荒し、白五百三十六と黒の大場を荒し、白五百三十七と黒の大場を荒し、白五百三十八と黒の大場を荒し、白五百三十九と黒の大場を荒し、白五百四十と黒の大場を荒し、白五百四十一と黒の大場を荒し、白五百四十二と黒の大場を荒し、白五百四十三と黒の大場を荒し、白五百四十四と黒の大場を荒し、白五百四十五と黒の大場を荒し、白五百四十六と黒の大場を荒し、白五百四十七と黒の大場を荒し、白五百四十八と黒の大場を荒し、白五百四十九と黒の大場を荒し、白五百五十と黒の大場を荒し、白五百五十一と黒の大場を荒し、白五百五十二と黒の大場を荒し、白五百五十三と黒の大場を荒し、白五百五十四と黒の大場を荒し、白五百五十五と黒の大場を荒し、白五百五十六と黒の大場を荒し、白五百五十七と黒の大場を荒し、白五百五十八と黒の大場を荒し、白五百五十九と黒の大場を荒し、白六百と黒の大場を荒し、白六百一と黒の大場を荒し、白六百二と黒の大場を荒し、白六百三と黒の大場を荒し、白六百四と黒の大場を荒し、白六百五と黒の大場を荒し、白六百六と黒の大場を荒し、白六百七と黒の大場を荒し、白六百八と黒の大場を荒し、白六百九と黒の大場を荒し、白六百十と黒の大場を荒し、白六百十一と黒の大場を荒し、白六百十二と黒の大場を荒し、白六百十三と黒の大場を荒し、白六百十四と黒の大場を荒し、白六百十五と黒の大場を荒し、白六百十六と黒の大場を荒し、白六百十七と黒の大場を荒し、白六百十八と黒の大場を荒し、白六百十九と黒の大場を荒し、白六百二十と黒の大場を荒し、白六百二十一と黒の大場を荒し、白六百二十二と黒の大場を荒し、白六百二十三と黒の大場を荒し、白六百二十四と黒の大場を荒し、白六百二十五と黒の大場を荒し、白六百二十六と黒の大場を荒し、白六百二十七と黒の大場を荒し、白六百二十八と黒の大場を荒し、白六百二十九と黒の大場を荒し、白六百三十と黒の大場を荒し、白六百三十一と黒の大場を荒し、白六百三十二と黒の大場を荒し、白六百三十三と黒の大場を荒し、白六百三十四と黒の大場を荒し、白六百三十五と黒の大場を荒し、白六百三十六と黒の大場を荒し、白六百三十七と黒の大場を荒し、白六百三十八と黒の大場を荒し、白六百三十九と黒の大場を荒し、白六百四十と黒の大場を荒し、白六百四十一と黒の大場を荒し、白六百四十二と黒の大場を荒し、白六百四十三と黒の大場を荒し、白六百四十四と黒の大場を荒し、白六百四十五と黒の大場を荒し、白六百四十六と黒の大場を荒し、白六百四十七と黒の大場を荒し、白六百四十八と黒の大場を荒し、白六百四十九と黒の大場を荒し、白六百五十と黒の大場を荒し、白六百五十一と黒の大場を荒し、白六百五十二と黒の大場を荒し、白六百五十三と黒の大場を荒し、白六百五十四と黒の大場を荒し、白六百五十五と黒の大場を荒し、白六百五十六と黒の大場を荒し、白六百五十七と黒の大場を荒し、白六百五十八と黒の大場を荒し、白六百五十九と黒の大場を荒し、白六百六十と黒の大場を荒し、白六百六十一と黒の大場を荒し、白六百六十二と黒の大場を荒し、白六百六十三と黒の大場を荒し、白六百六十四と黒の大場を荒し、白六百六十五と黒の大場を荒し、白六百六十六と黒の大場を荒し、白六百六十七と黒の大場を荒し、白六百六十八と黒の大場を荒し、白六百六十九と黒の大場を荒し、白七百と黒の大場を荒し、白七百一と黒の大場を荒し、白七百二と黒の大場を荒し、白七百三と黒の大場を荒し、白七百四と黒の大場を荒し、白七百五と黒の大場を荒し、白七百六と黒の大場を荒し、白七百七と黒の大場を荒し、白七百八と黒の大場を荒し、白七百九と黒の大場を荒し、白七百十と黒の大場を荒し、白七百十一と黒の大場を荒し、白七百十二と黒の大場を荒し、白七百十三と黒の大場を荒し、白七百十四と黒の大場を荒し、白七百十五と黒の大場を荒し、白七百十六と黒の大場を荒し、白七百十七と黒の大場を荒し、白七百十八と黒の大場を荒し、白七百十九と黒の大場を荒し、白七百二十と黒の大場を荒し、白七百二十一と黒の大場を荒し、白七百二十二と黒の大場を荒し、白七百二十三と黒の大場を荒し、白七百二十四と黒の大場を荒し、白七百二十五と黒の大場を荒し、白七百二十六と黒の大場を荒し、白七百二十七と黒の大場を荒し、白七百二十八と黒の大場を荒し、白七百二十九と黒の大場を荒し、白七百三十と黒の大場を荒し、白七百三十一と黒の大場を荒し、白七百三十二と黒の大場を荒し、白七百三十三と黒の大場を荒し、白七百三十四と黒の大場を荒し、白七百三十五と黒の大場を荒し、白七百三十六と黒の大場を荒し、白七百三十七と黒の大場を荒し、白七百三十八と黒の大場を荒し、白七百三十九と黒の大場を荒し、白七百四十と黒の大場を荒し、白七百四十一と黒の大場を荒し、白七百四十二と黒の大場を荒し、白七百四十三と黒の大場を荒し、白七百四十四と黒の大場を荒し、白七百四十五と黒の大場を荒し、白七百四十六と黒の大場を荒し、白七百四十七と黒の大場を荒し、白七百四十八と黒の大場を荒し、白七百四十九と黒の大場を荒し、白七百五十と黒の大場を荒し、白七百五十一と黒の大場を荒し、白七百五十二と黒の大場を荒し、白七百五十三と黒の大場を荒し、白七百五十四と黒の大場を荒し、白七百五十五と黒の大場を荒し、白七百五十六と黒の大場を荒し、白七百五十七と黒の大場を荒し、白七百五十八と黒の大場を荒し、白七百五十九と黒の大場を荒し、白八百と黒の大場を荒し、白八百一と黒の大場を荒し、白八百二と黒の大場を荒し、白八百三と黒の大場を荒し、白八百四と黒の大場を荒し、白八百五と黒の大場を荒し、白八百六と黒の大場を荒し、白八百七と黒の大場を荒し、白八百八と黒の大場を荒し、白八百九と黒の大場を荒し、白八百十と黒の大場を荒し、白八百十一と黒の大場を荒し、白八百十二と黒の大場を荒し、白八百十三と黒の大場を荒し、白八百十四と黒の大場を荒し、白八百十五と黒の大場を荒し、白八百十六と黒の大場を荒し、白八百十七と黒の大場を荒し、白八百十八と黒の大場を荒し、白八百十九と黒の大場を荒し、白八百二十と黒の大場を荒し、白八百二十一と黒の大場を荒し、白八百二十二と黒の大場を荒し、白八百二十三と黒の大場を荒し、白八百二十四と黒の大場を荒し、白八百二十五と黒の大場を荒し、白八百二十六と黒の大場を荒し、白八百二十七と黒の大場を荒し、白八百二十八と黒の大場を荒し、白八百二十九と黒の大場を荒し、白八百三十と黒の大場を荒し、白八百三十一と黒の大場を荒し、白八百三十二と黒の大場を荒し、白八百三十三と黒の大場を荒し、白八百三十四と黒の大場を荒し、白八百三十五と黒の大場を荒し、白八百三十六と黒の大場を荒し、白八百三十七と黒の大場を荒し、白八百三十八と黒の大場を荒し、白八百三十九と黒の大場を荒し、白八百四十と黒の大場を荒し、白八百四十一と黒の大場を荒し、白八百四十二と黒の大場を荒し、白八百四十三と黒の大場を荒し、白八百四十四と黒の大場を荒し、白八百四十五と黒の大場を荒し、白八百四十六と黒の大場を荒し、白八百四十七と黒の大場を荒し、白八百四十八と黒の大場を荒し、白八百四十九と黒の大場を荒し、白八百五十と黒の大場を荒し、白八百五十一と黒の大場を荒し、白八百五十二と黒の大場を荒し、白八百五十三と黒の大場を荒し、白八百五十四と黒の大場を荒し、白八百五十五と黒の大場を荒し、白八百五十六と黒の大場を荒し、白八百五十七と黒の大場を荒し、白八百五十八と黒の大場を荒し、白八百五十九と黒の大場を荒し、白九百と黒の大場を荒し、白九百一と黒の大場を荒し、白九百二と黒の大場を荒し、白九百三と黒の大場を荒し、白九百四と黒の大場を荒し、白九百五と黒の大場を荒し、白九百六と黒の大場を荒し、白九百七と黒の大場を荒し、白九百八と黒の大場を荒し、白九百九と黒の大場を荒し、白九百十と黒の大場を荒し、白九百十一と黒の大場を荒し、白九百十二と黒の大場を荒し、白九百十三と黒の大場を荒し、白九百十四と黒の大場を荒し、白九百十五と黒の大場を荒し、白九百十六と黒の大場を荒し、白九百十七と黒の大場を荒し、白九百十八と黒の大場を荒し、白九百十九と黒の大場を荒し、白九百二十と黒の大場を荒し、白九百二十一と黒の大場を荒し、白九百二十二と黒の大場を荒し、白九百二十三と黒の大場を荒し、白九百二十四と黒の大場を荒し、白九百二十五と黒の大場を荒し、白九百二十六と黒の大場を荒し、白九百二十七と黒の大場を荒し、白九百二十八と黒の大場を荒し、白九百二十九と黒の大場を荒し、白九百三十と黒の大場を荒し、白九百三十一と黒の大場を荒し、白九百三十二と黒の大場を荒し、白九百三十三と黒の大場を荒し、白九百三十四と黒の大場を荒し、白九百三十五と黒の大場を荒し、白九百三十六と黒の大場を荒し、白九百三十七と黒の大場を荒し、白九百三十八と黒の大場を荒し、白九百三十九と黒の大場を荒し、白九百四十と黒の大場を荒し、白九百四十一と黒の大場を荒し、白九百四十二と黒の大場を荒し、白九百四十三と黒の大場を荒し、白九百四十四と黒の大場を荒し、白九百四十五と黒の大場を荒し、白九百四十六と黒の大場を荒し、白九百四十七と黒の大場を荒し、白九百四十八と黒の大場を荒し、白九百四十九と黒の大場を荒し、白九百五十と黒の大場を荒し、白九百五十一と黒の大場を荒し、白九百五十二と黒の大場を荒し、白九百五十三と黒の大場を荒し、白九百五十四と黒の大場を荒し、白九百五十五と黒の大場を荒し、白九百五十六と黒の大場を荒し、白九百五十七と黒の大場を荒し、白九百五十八と黒の大場を荒し、白九百五十九と黒の大場を荒し、白千と黒の大場を荒し、白千一と黒の大場を荒し、白千二と黒の大場を荒し、白千三と黒の大場を荒し、白千四と黒の大場を荒し、白千五と黒の大場を荒し、白千六と黒の大場を荒し、白千七と黒の大場を荒し、白千八と黒の大場を荒し、白千九と黒の大場を荒し、白千十と黒の大場を荒し、白千十一と黒の大場を荒し、白千十二と黒の大場を荒し、白千十三と黒の大場を荒し、白千十四と黒の大場を荒し、白千十五と黒の大場を荒し、白千十六と黒の大場を荒し、白千十七と黒の大場を荒し、白千十八と黒の大場を荒し、白千十九と黒の大場を荒し、白千二十と黒の大場を荒し、白千二十一と黒の大場を荒し、白千二十二と黒の大場を荒し、白千二十三と黒の大場を荒し、白千二十四と黒の大場を荒し、白千二十五と黒の大場を荒し、白千二十六と黒の大場を荒し、白千二十七と黒の大場を荒し、白千二十八と黒の大場を荒し、白千二十九と黒の大場を荒し、白千三十と黒の大場を荒し、白千三十一と黒の大場を荒し、白千三十二と黒の大場を荒し、白千三十三と黒の大場を荒し、白千三十四と黒の大場を荒し、白千三十五と黒の大場を荒し、白千三十六と

〔九二〇四〕
黒利勢に非ず

黒十と打てば、隅を取ては、所得と詮れど、十の見の以下、果然佳手、白の一手を、白の外圍を、白の勢に非をむ。

〔九二〇五〕
白潰れ

白十一、其だ惡しき時、果然白十三、黒超凡の筋、黒四の脫出、全く成ると同時に、隅の白に活路無し。白の恨に江流と共に長し。

〔九二〇六〕
常形

白九を先にせば、隅は活なり、棋遂に黒十六まで、平穩に結果、何れへ分かれいへば、普通の局勢にては、黒優勢あり。

〔九二〇七〕
黒優勢

白我れ、七に轉ず。折角の奮闘も、白五までの中道にして放なく、黒八以下十六までの大龍を、黒の手段、大に善し。他に打つも宜しき時に。

〔九二〇八〕
黒善し

白七の曲り、此場合、黒を堅かくするを故に、白面七でも、要之に、白一、黒二、四に九の逢撃を結ばず。二〇三圖の如くイ九に押すべき筋なり。白十の二形となり、黒稍重しては。

〔九二〇九〕
優劣未定

小野田千代太郎六段當時
木谷實五段
先番勝

黒十四と打てば、白十五・七の一手利かせ、以下の整形、白を次に九に活きる轉じて十手順なり。

〔九二一〇〕
參考圖

夫れ善を行ふ時に惡は休徵之を報じ、谷は徵之を隨ふ時に違ふ。白は果然黒二、四に次ひで、白七の要筋、二〇三圖の如くイ九に押すべき筋なり。白十の二形となり、黒稍重しては。

〔九二一一〕
黒善し

白一、暴手なり。黒二、四に敵の非逢撃を結ばず。白面七でも、要之に、白一、黒二、四に九の逢撃を結ばず。二〇三圖の如くイ九に押すべき筋なり。白十の二形となり、黒稍重しては。

〔九二一二〕
黒優れり

白三なれば、黒四に先づボンと拔き、白七の黒六、現マヅの利得、此時黒は更に切り上る闘志——八つて黒斷然厚壯。

〔九二一三〕
參考圖

白一の味氣無き手段、黒二外れの惡手なり。黒直ちに四に逢ひ、白一に甲要なる二・四の石を取り、白の痛み、此形の惡しきは勿論なり。

〔九二一四〕
要點約言

（第八一型イの三）

黒七は、イに缺陷あるも、白次に□の時、黒ハの大場に拓き、又はニに勢力を張らんとする場合の、策戰なり。

〔九二一五〕
基本圖

（第八一型□）

黒五と突當る手もあり。隅を段なれど、手段、其變化は前型と異れり。白六絶對。

〔九二一六〕
基本圖

（第八一型□の二）

黒いま先んじて、七と切り込む。七は、棄石の單手筋。尤も七では、イもあり。

〔九二一七〕
定石

此定石は、黒の外勢を得。白もまた先手十を得。

〔九二一八〕
黒優る

白二、無理なり。黒三と下つて、四と上つて、兩に三に佳手に白九と、白の子を、白十三を、四絶命す。黒は、十勝。

〔九二一九〕
黒大いに優る

白いま十一に切つて、十三と絞れども、黒隅に活くるの白子は、遂に小利を得たるに過ぎず。此形の損害は、甚だ大なり。

〔九二二〇〕
白、力及ばず

白若し九に粘げば、黒も亦十に粘いで、白十一を十二に宜しく、黒二に打ち拔く手なれば、白十三、黒十四まで、二に劫なれど、白遂に先手劫を提り起だず。

〔九二二一〕
場合による

白一・三は、場合此形の一策。黒尤も幾分有利なり。但し白よりは、□の通ぜるを含みしもせーイに電波を迫るる大なり。

〔九二二二〕
征關係

白一而して三は、□に黒四と次の白の死命を制せば、白明放かに、黒果然利、白又五に惡しき時、黒は六の切り、一閃——而して此形は、以下の次の白ロの時、黒二四でイ、白ロの時、黒ハの黒の二に善惡を定め、白七に可否を決するより、また六の征。

〔九二二三〕
黒優る

白若しニに勁稍理なれば、黒ハ五を白十六、白ホ五出のごとく、前圖征惡し。白ニな

〔九二二五〕
要點約言
（第八一型ロの一）

黒五、次に七も、外面封鎖の一手段なり。

〔九二二六〕
基本圖
（第八一型ロの二）

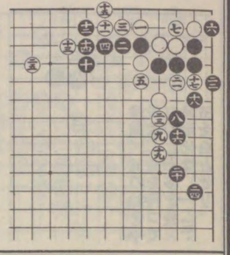
黒はイに切らず、只七と約へる手もあり。趣きある手にして、時に面白し。

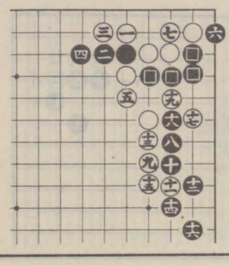
〔九二二七〕
定石

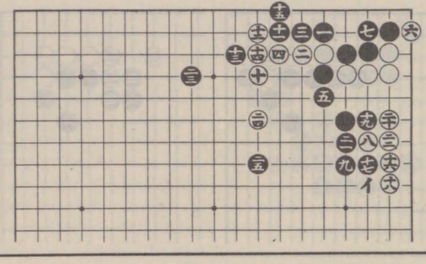
白八。此時、黒九と間髪を放つて、敵の十の動靜を探るの手順なり。白一は次に二の手を見て、黒十に先んじて一の手を飛ぶ。妙なるかな。

〔九二二八〕
黒稍優る

白三悪し。黒四へこの下り——嗟乎、これ前の劍が起つて、敵の牙城を震撼せしむるもの。嗟乎、上手なるかな。







〔九二二九〕
黒優れり

白若し十一に守らば、黒イに防ぎ、白先手にて十二へ約れば、黒十三へ尋ぎ、白隅の勢力十四へ轉ぜば、黒中原に制覇の勢あり。

〔九二三〇〕
黒善し

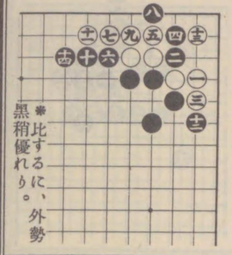
白五なれば、黒六に應じ、白七は無論なれば、黒八、白九既になれば、黒十に決勝を握つて悠揚たる黒の優勢と共に優る。

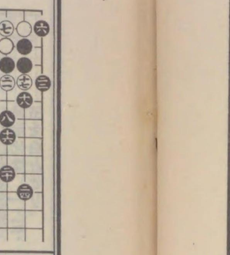
〔九二三一〕
前定石と同じ

白若し黒三より取れば、黒は次に五の下りを眺めて四の手筋なり。九は定石と同じく略々互角にして、隅の利も同じきが故に、黒優れり。

〔九二三二〕
隅は白稍不利

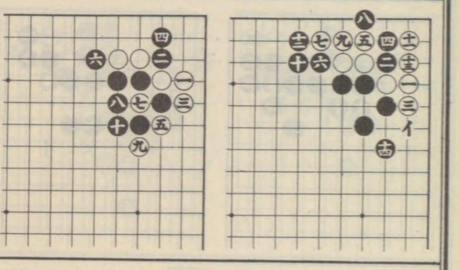
白五なれば、黒六に掛け粘く。此時、先手白七の綽ありて、隅の利は黒に在り。圖より悪しと想ふべし。兆先世現の習れて後凶事出づ。





〔九二三三〕
劫の利用手段

白五は、劈へば、内に病魔、黒に襲へば、外に敢て先手約一をかけ、尋で一へ攻むるが如き、白隅の勢力十分にして、黒二の悪手に至つて、黒六、白の病魔跳び來つて、黒の肉體を苦しむ。十五まで劫。

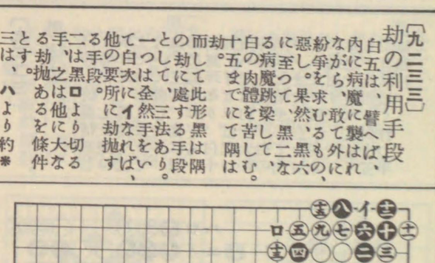


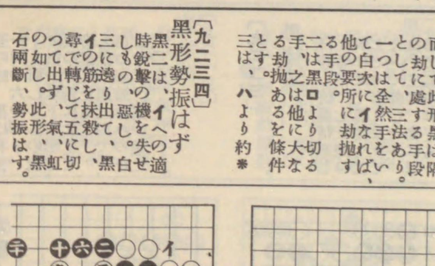
〔九二三四〕
黒形勢振はず

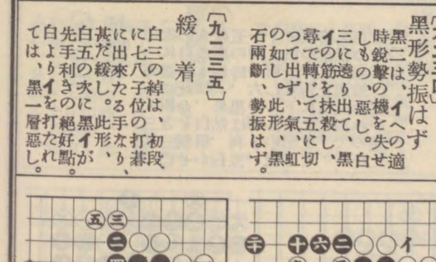
黒二は、適時銳撃の機もしを失せる悪し。白三に下りを眺めて四の筋なり。九は黒イへの手段にして、黒ロより切るる手段。所に劫なれば、黒は隅の劫に處する手段。

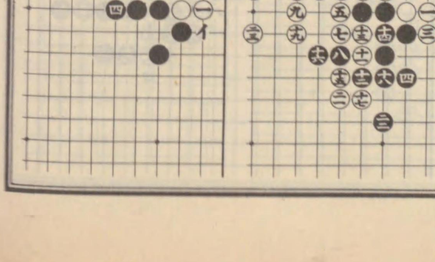
〔九二三五〕
緩着

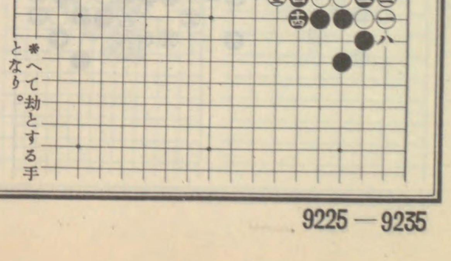
白三の一子は、初段の劫を打つて、白五の手段に出來たるも、其だ緩し。此形、黒イが次に白五の利あるを以て、白より打つを悪しとす。











〔九二四八〕
場合による

黒十八・二十一は、止むを得ず。白を取るも、黒十の方面が堅き場合は、斯く十六と打つこともあり。白二十五。

〔九二四九〕
黒嬉手に陷る

白十一・十三。黒十六は輕卒。見よ、白十七にお飛びの手段、孤劍再び揮ひ難し。次に白十九は黒十八に白十七が善しの時、黒十八に白十九で上手。

〔九二五〇〕
黒勢稍可なり

篠原正美 當時四段
先番 異 清源 當時四段
勝

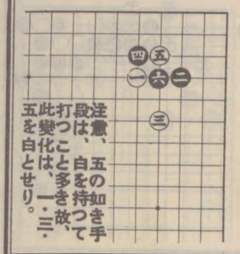
白十六。此時、黒十七、此甚だ面白し。白十八之を得ば、黒十九に放つ。白十八なれば、黒十七に飛ぶ。白十六は黒十七に飛ぶ。白十八なれ

〔九二三六〕
場合による
白一に粘げば、黒二に飛べば、白三に飛び、黒の小隙を窺ひて四に約ち、棋勢移り、遂に此形、可否に到る專ら外勢の如何によ

〔九二三七〕
場合による
白一に掛げば、黒先づ二の一に飛び、白三に粘げば、黒先づ四に飛び、左方の先鋒を抑へ、敵の精鋭を分斷する氣。白杵上に躍如たり。黒六に粘いでれば宜し。

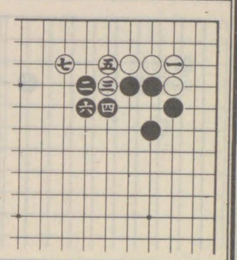
〔九二三八〕
要點約言
黒は斯く七と約へるも面白き筋なり。次に白イなれば黒ロに粘げば、又白イをロに飛べばよし。黒ハに飛

〔九二三九〕
基本圖
（第八一型八）



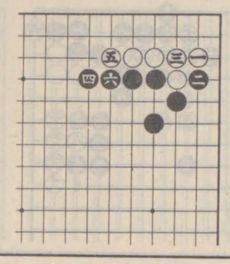
注意、五の如き手段は、白を持つて打つ此變化は、一、三、五を白とせり。

〔九二四〇〕
基本圖
（第八一型ハの一）



白五なれば、黒は無論六。次に白イに到つて、何れも、前途に波瀾を伏し、風雲＊

〔九二四一〕
基本圖
（第八一型ハの一變化）

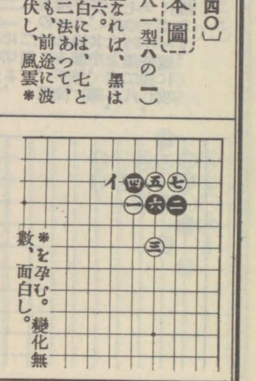


白七なれば、黒八。尋で白の時、黒八の時、白イの二法あつて、何れも先手利きなり。その中、黒二は常形なり。

〔九二四二〕
定石
白十五の時、黒十六肝要。白十九の時、黒に二法あり。一外に二三法あり。又は二十一に出づるも大同小異。

〔九二四三〕
白稍優る
黒は斯く二に切つて後、二四にもあれど、之は大に白優る。五との可否如何は、圖の如く取れて白に形好まず。

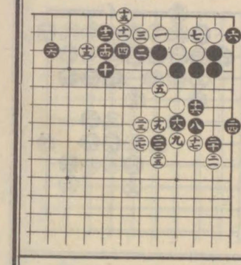
〔九二四四〕
黒悪しからず
黒征宜しき場合は、二、二四で、其二、白二五、止むを得ず。黒二之を見合すもあり。暫く之を要之、此變化、征如何に大に關係す。



＊を孕む。變化無數、面白し。

〔九二四五〕
白潰滅
白二三、甚だ惡し。黒即ち二、四、白軍潰滅して、遂に起たず。

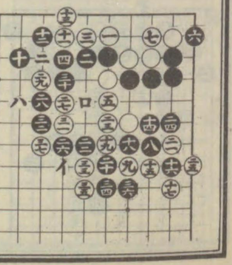
〔九二四六〕
黒可なり
白若し前々圖征惡しき時、斯く十七に粘ぐれば、手も斯く十八と黒走られ、さほど黒十の攻めは利かず。白は黒のへめて抑も、初めから白に挑めて戰せし旨、△に越位の△は二十八に應ける惡しに立たず。

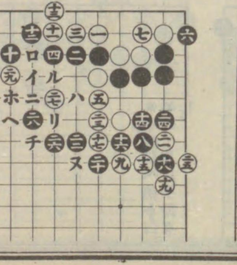


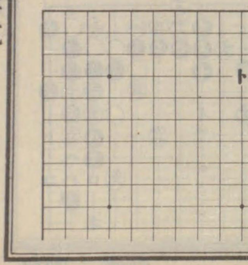
〔九二四七〕
白の勢良し
黒十六は、多く好まず。此時、白十七の一子、流星の如く飛んで、黒を悩ますこと多き故、此時、黒イと逃げられる手あるに白一は三に無きも、三は二に打つ外無きも、其時は黒ロ白ハ黒ニにて宜し。

〔九二四八〕
之も征による
黒ハ三十。白は三一以下三七に切づつて出づるも之も征關係の形なり。若し白征惡しき時は、黒イに白一と逃げられる手あるに白三は二に打つ外無きも、其時は黒ロ白ハ黒ニにて宜し。

〔九二四九〕
白圍みを破る
白二七の時、黒二八。白九。圍みを潰し反之、若し初めに交換ある白イ黒ロの時は、黒は九の白二に打て勝なり。白二九の次に、圖の白イなれば、黒ホ以下猶ほ黒ト迄にて黒イを以て順なれば、白ヌをニに白ホ、次に黒トなれば白ルにて宜し。







〔九二五五〕
黒勝
但變化至難の形

白三七に粘ぎ、黒は九に綿ねば、白十に斷ぎ、黒十一に切つて宜し。白十二に粘げ、黒十三に粘げ、白十四に粘げ、黒十五に粘げ、白十六に粘げ、黒十七に粘げ、白十八に粘げ、黒十九に粘げ、白二十に粘げ、黒二十一に粘げ、白二十二に粘げ、黒二十三に粘げ、白二十四に粘げ、黒二十五に粘げ、白二十六に粘げ、黒二十七に粘げ、白二十八に粘げ、黒二十九に粘げ、白三十に粘げ、黒三一に粘げ、白三二に粘げ、黒三三に粘げ、白三四に粘げ、黒三五に粘げ、白三六に粘げ、黒三七に粘げ、白三八に粘げ、黒三九に粘げ、白四十に粘げ、黒四一に粘げ、白四二に粘げ、黒四三に粘げ、白四四に粘げ、黒四五に粘げ、白四六に粘げ、黒四七に粘げ、白四八に粘げ、黒四九に粘げ、白五十に粘げ、黒五一に粘げ、白五二に粘げ、黒五三に粘げ、白五四に粘げ、黒五五に粘げ、白五六に粘げ、黒五七に粘げ、白五八に粘げ、黒五九に粘げ、白六十に粘げ、黒六一に粘げ、白六二に粘げ、黒六三に粘げ、白六四に粘げ、黒六五に粘げ、白六六に粘げ、黒六七に粘げ、白六八に粘げ、黒六九に粘げ、白七十に粘げ、黒七一に粘げ、白七二に粘げ、黒七三に粘げ、白七四に粘げ、黒七五に粘げ、白七六に粘げ、黒七七に粘げ、白七八に粘げ、黒七九に粘げ、白八十に粘げ、黒八一に粘げ、白八二に粘げ、黒八三に粘げ、白八四に粘げ、黒八五に粘げ、白八六に粘げ、黒八七に粘げ、白八八に粘げ、黒八九に粘げ、白九十に粘げ、黒九一に粘げ、白九二に粘げ、黒九三に粘げ、白九四に粘げ、黒九五に粘げ、白九六に粘げ、黒九七に粘げ、白九八に粘げ、黒九九に粘げ、白百に粘げ、黒百一に粘げ、白百二に粘げ、黒百三に粘げ、白百四に粘げ、黒百五に粘げ、白百六に粘げ、黒百七に粘げ、白百八に粘げ、黒百九に粘げ、白百十に粘げ、黒百十一に粘げ、白百十二に粘げ、黒百十三に粘げ、白百十四に粘げ、黒百十五に粘げ、白百十六に粘げ、黒百十七に粘げ、白百十八に粘げ、黒百十九に粘げ、白百二十に粘げ、黒百二十一に粘げ、白百二十二に粘げ、黒百二十三に粘げ、白百二十四に粘げ、黒百二十五に粘げ、白百二十六に粘げ、黒百二十七に粘げ、白百二十八に粘げ、黒百二十九に粘げ、白百三十に粘げ、黒百三十一に粘げ、白百三十二に粘げ、黒百三十三に粘げ、白百三十四に粘げ、黒百三十五に粘げ、白百三十六に粘げ、黒百三十七に粘げ、白百三十八に粘げ、黒百三十九に粘げ、白百四十に粘げ、黒百四十一に粘げ、白百四十二に粘げ、黒百四十三に粘げ、白百四十四に粘げ、黒百四十五に粘げ、白百四十六に粘げ、黒百四十七に粘げ、白百四十八に粘げ、黒百四十九に粘げ、白百五十に粘げ、黒百五十一に粘げ、白百五十二に粘げ、黒百五十三に粘げ、白百五十四に粘げ、黒百五十五に粘げ、白百五十六に粘げ、黒百五十七に粘げ、白百五十八に粘げ、黒百五十九に粘げ、白百六十に粘げ、黒百六十一に粘げ、白百六十二に粘げ、黒百六十三に粘げ、白百六十四に粘げ、黒百六十五に粘げ、白百六十六に粘げ、黒百六十七に粘げ、白百六十八に粘げ、黒百六十九に粘げ、白百七十に粘げ、黒百七十一に粘げ、白百七十二に粘げ、黒百七十三に粘げ、白百七十四に粘げ、黒百七十五に粘げ、白百七十六に粘げ、黒百七十七に粘げ、白百七十八に粘げ、黒百七十九に粘げ、白百八十に粘げ、黒百八十一に粘げ、白百八十二に粘げ、黒百八十三に粘げ、白百八十四に粘げ、黒百八十五に粘げ、白百八十六に粘げ、黒百八十七に粘げ、白百八十八に粘げ、黒百八十九に粘げ、白百九十に粘げ、黒百九十一に粘げ、白百九十二に粘げ、黒百九十三に粘げ、白百九十四に粘げ、黒百九十五に粘げ、白百九十六に粘げ、黒百九十七に粘げ、白百九十八に粘げ、黒百九十九に粘げ、白二百に粘げ、黒二百一に粘げ、白二百二に粘げ、黒二百三に粘げ、白二百四に粘げ、黒二百五に粘げ、白二百六に粘げ、黒二百七に粘げ、白二百八に粘げ、黒二百九に粘げ、白二百十に粘げ、黒二百十一に粘げ、白二百十二に粘げ、黒二百十三に粘げ、白二百十四に粘げ、黒二百十五に粘げ、白二百十六に粘げ、黒二百十七に粘げ、白二百十八に粘げ、黒二百十九に粘げ、白二百二十に粘げ、黒二百二十一に粘げ、白二百二十二に粘げ、黒二百二十三に粘げ、白二百二十四に粘げ、黒二百二十五に粘げ、白二百二十六に粘げ、黒二百二十七に粘げ、白二百二十八に粘げ、黒二百二十九に粘げ、白二百三十に粘げ、黒二百三十一に粘げ、白二百三十二に粘げ、黒二百三十三に粘げ、白二百三十四に粘げ、黒二百三十五に粘げ、白二百三十六に粘げ、黒二百三十七に粘げ、白二百三十八に粘げ、黒二百三十九に粘げ、白二百四十に粘げ、黒二百四十一に粘げ、白二百四十二に粘げ、黒二百四十三に粘げ、白二百四十四に粘げ、黒二百四十五に粘げ、白二百四十六に粘げ、黒二百四十七に粘げ、白二百四十八に粘げ、黒二百四十九に粘げ、白二百五十に粘げ、黒二百五十一に粘げ、白二百五十二に粘げ、黒二百五十三に粘げ、白二百五十四に粘げ、黒二百五十五に粘げ、白二百五十六に粘げ、黒二百五十七に粘げ、白二百五十八に粘げ、黒二百五十九に粘げ、白二百六十に粘げ、黒二百六十一に粘げ、白二百六十二に粘げ、黒二百六十三に粘げ、白二百六十四に粘げ、黒二百六十五に粘げ、白二百六十六に粘げ、黒二百六十七に粘げ、白二百六十八に粘げ、黒二百六十九に粘げ、白二百七十に粘げ、黒二百七十一に粘げ、白二百七十二に粘げ、黒二百七十三に粘げ、白二百七十四に粘げ、黒二百七十五に粘げ、白二百七十六に粘げ、黒二百七十七に粘げ、白二百七十八に粘げ、黒二百七十九に粘げ、白二百八十に粘げ、黒二百八十一に粘げ、白二百八十二に粘げ、黒二百八十三に粘げ、白二百八十四に粘げ、黒二百八十五に粘げ、白二百八十六に粘げ、黒二百八十七に粘げ、白二百八十八に粘げ、黒二百八十九に粘げ、白二百九十に粘げ、黒二百九十一に粘げ、白二百九十二に粘げ、黒二百九十三に粘げ、白二百九十四に粘げ、黒二百九十五に粘げ、白二百九十六に粘げ、黒二百九十七に粘げ、白二百九十八に粘げ、黒二百九十九に粘げ、白三百に粘げ、黒三百一に粘げ、白三百二に粘げ、黒三百三に粘げ、白三百四に粘げ、黒三百五に粘げ、白三百六に粘げ、黒三百七に粘げ、白三百八に粘げ、黒三百九に粘げ、白三百十に粘げ、黒三百十一に粘げ、白三百十二に粘げ、黒三百十三に粘げ、白三百十四に粘げ、黒三百十五に粘げ、白三百十六に粘げ、黒三百十七に粘げ、白三百十八に粘げ、黒三百十九に粘げ、白三百二十に粘げ、黒三百二十一に粘げ、白三百二十二に粘げ、黒三百二十三に粘げ、白三百二十四に粘げ、黒三百二十五に粘げ、白三百二十六に粘げ、黒三百二十七に粘げ、白三百二十八に粘げ、黒三百二十九に粘げ、白三百三十に粘げ、黒三百三十一に粘げ、白三百三十二に粘げ、黒三百三十三に粘げ、白三百三十四に粘げ、黒三百三十五に粘げ、白三百三十六に粘げ、黒三百三十七に粘げ、白三百三十八に粘げ、黒三百三十九に粘げ、白三百四十に粘げ、黒三百四十一に粘げ、白三百四十二に粘げ、黒三百四十三に粘げ、白三百四十四に粘げ、黒三百四十五に粘げ、白三百四十六に粘げ、黒三百四十七に粘げ、白三百四十八に粘げ、黒三百四十九に粘げ、白三百五十に粘げ、黒三百五十一に粘げ、白三百五十二に粘げ、黒三百五十三に粘げ、白三百五十四に粘げ、黒三百五十五に粘げ、白三百五十六に粘げ、黒三百五十七に粘げ、白三百五十八に粘げ、黒三百五十九に粘げ、白三百六十に粘げ、黒三百六十一に粘げ、白三百六十二に粘げ、黒三百六十三に粘げ、白三百六十四に粘げ、黒三百六十五に粘げ、白三百六十六に粘げ、黒三百六十七に粘げ、白三百六十八に粘げ、黒三百六十九に粘げ、白三百七十に粘げ、黒三百七十一に粘げ、白三百七十二に粘げ、黒三百七十三に粘げ、白三百七十四に粘げ、黒三百七十五に粘げ、白三百七十六に粘げ、黒三百七十七に粘げ、白三百七十八に粘げ、黒三百七十九に粘げ、白三百八十に粘げ、黒三百八十一に粘げ、白三百八十二に粘げ、黒三百八十三に粘げ、白三百八十四に粘げ、黒三百八十五に粘げ、白三百八十六に粘げ、黒三百八十七に粘げ、白三百八十八に粘げ、黒三百八十九に粘げ、白三百九十に粘げ、黒三百九十一に粘げ、白三百九十二に粘げ、黒三百九十三に粘げ、白三百九十四に粘げ、黒三百九十五に粘げ、白三百九十六に粘げ、黒三百九十七に粘げ、白三百九十八に粘げ、黒三百九十九に粘げ、白四百に粘げ、黒四百一に粘げ、白四百二に粘げ、黒四百三に粘げ、白四百四に粘げ、黒四百五に粘げ、白四百六に粘げ、黒四百七に粘げ、白四百八に粘げ、黒四百九に粘げ、白四百十に粘げ、黒四百十一に粘げ、白四百十二に粘げ、黒四百十三に粘げ、白四百十四に粘げ、黒四百十五に粘げ、白四百十六に粘げ、黒四百十七に粘げ、白四百十八に粘げ、黒四百十九に粘げ、白四百二十に粘げ、黒四百二十一に粘げ、白四百二十二に粘げ、黒四百二十三に粘げ、白四百二十四に粘げ、黒四百二十五に粘げ、白四百二十六に粘げ、黒四百二十七に粘げ、白四百二十八に粘げ、黒四百二十九に粘げ、白四百三十に粘げ、黒四百三十一に粘げ、白四百三十二に粘げ、黒四百三十三に粘げ、白四百三十四に粘げ、黒四百三十五に粘げ、白四百三十六に粘げ、黒四百三十七に粘げ、白四百三十八に粘げ、黒四百三十九に粘げ、白四百四十に粘げ、黒四百四十一に粘げ、白四百四十二に粘げ、黒四百四十三に粘げ、白四百四十四に粘げ、黒四百四十五に粘げ、白四百四十六に粘げ、黒四百四十七に粘げ、白四百四十八に粘げ、黒四百四十九に粘げ、白四百五十に粘げ、黒四百五十一に粘げ、白四百五十二に粘げ、黒四百五十三に粘げ、白四百五十四に粘げ、黒四百五十五に粘げ、白四百五十六に粘げ、黒四百五十七に粘げ、白四百五十八に粘げ、黒四百五十九に粘げ、白四百六十に粘げ、黒四百六十一に粘げ、白四百六十二に粘げ、黒四百六十三に粘げ、白四百六十四に粘げ、黒四百六十五に粘げ、白四百六十六に粘げ、黒四百六十七に粘げ、白四百六十八に粘げ、黒四百六十九に粘げ、白四百七十に粘げ、黒四百七十一に粘げ、白四百七十二に粘げ、黒四百七十三に粘げ、白四百七十四に粘げ、黒四百七十五に粘げ、白四百七十六に粘げ、黒四百七十七に粘げ、白四百七十八に粘げ、黒四百七十九に粘げ、白四百八十に粘げ、黒四百八十一に粘げ、白四百八十二に粘げ、黒四百八十三に粘げ、白四百八十四に粘げ、黒四百八十五に粘げ、白四百八十六に粘げ、黒四百八十七に粘げ、白四百八十八に粘げ、黒四百八十九に粘げ、白四百九十に粘げ、黒四百九十一に粘げ、白四百九十二に粘げ、黒四百九十三に粘げ、白四百九十四に粘げ、黒四百九十五に粘げ、白四百九十六に粘げ、黒四百九十七に粘げ、白四百九十八に粘げ、黒四百九十九に粘げ、白五百に粘げ、黒五百一に粘げ、白五百二に粘げ、黒五百三に粘げ、白五百四に粘げ、黒五百五に粘げ、白五百六に粘げ、黒五百七に粘げ、白五百八に粘げ、黒五百九に粘げ、白五百十に粘げ、黒五百十一に粘げ、白五百十二に粘げ、黒五百十三に粘げ、白五百十四に粘げ、黒五百十五に粘げ、白五百十六に粘げ、黒五百十七に粘げ、白五百十八に粘げ、黒五百十九に粘げ、白五百二十に粘げ、黒五百二十一に粘げ、白五百二十二に粘げ、黒五百二十三に粘げ、白五百二十四に粘げ、黒五百二十五に粘げ、白五百二十六に粘げ、黒五百二十七に粘げ、白五百二十八に粘げ、黒五百二十九に粘げ、白五百三十に粘げ、黒五百三十一に粘げ、白五百三十二に粘げ、黒五百三十三に粘げ、白五百三十四に粘げ、黒五百三十五に粘げ、白五百三十六に粘げ、黒五百三十七に粘げ、白五百三十八に粘げ、黒五百三十九に粘げ、白五百四十に粘げ、黒五百四十一に粘げ、白五百四十二に粘げ、黒五百四十三に粘げ、白五百四十四に粘げ、黒五百四十五に粘げ、白五百四十六に粘げ、黒五百四十七に粘げ、白五百四十八に粘げ、黒五百四十九に粘げ、白五百五十に粘げ、黒五百五十一に粘げ、白五百五十二に粘げ、黒五百五十三に粘げ、白五百五十四に粘げ、黒五百五十五に粘げ、白五百五十六に粘げ、黒五百五十七に粘げ、白五百五十八に粘げ、黒五百五十九に粘げ、白五百六十に粘げ、黒五百六十一に粘げ、白五百六十二に粘げ、黒五百六十三に粘げ、白五百六十四に粘げ、黒五百六十五に粘げ、白五百六十六に粘げ、黒五百六十七に粘げ、白五百六十八に粘げ、黒五百六十九に粘げ、白五百七十に粘げ、黒五百七十一に粘げ、白五百七十二に粘げ、黒五百七十三に粘げ、白五百七十四に粘げ、黒五百七十五に粘げ、白五百七十六に粘げ、黒五百七十七に粘げ、白五百七十八に粘げ、黒五百七十九に粘げ、白五百八十に粘げ、黒五百八十一に粘げ、白五百八十二に粘げ、黒五百八十三に粘げ、白五百八十四に粘げ、黒五百八十五に粘げ、白五百八十六に粘げ、黒五百八十七に粘げ、白五百八十八に粘げ、黒五百八十九に粘げ、白五百九十に粘げ、黒五百九十一に粘げ、白五百九十二に粘げ、黒五百九十三に粘げ、白五百九十四に粘げ、黒五百九十五に粘げ、白五百九十六に粘げ、黒五百九十七に粘げ、白五百九十八に粘げ、黒五百九十九に粘げ、白六百に粘げ、黒六百一に粘げ、白六百二に粘げ、黒六百三に粘げ、白六百四に粘げ、黒六百五に粘げ、白六百六に粘げ、黒六百七に粘げ、白六百八に粘げ、黒六百九に粘げ、白六百十に粘げ、黒六百十一に粘げ、白六百十二に粘げ、黒六百十三に粘げ、白六百十四に粘げ、黒六百十五に粘げ、白六百十六に粘げ、黒六百十七に粘げ、白六百十八に粘げ、黒六百十九に粘げ、白六百二十に粘げ、黒六百二十一に粘げ、白六百二十二に粘げ、黒六百二十三に粘げ、白六百二十四に粘げ、黒六百二十五に粘げ、白六百二十六に粘げ、黒六百二十七に粘げ、白六百二十八に粘げ、黒六百二十九に粘げ、白六百三十に粘げ、黒六百三十一に粘げ、白六百三十二に粘げ、黒六百三十三に粘げ、白六百三十四に粘げ、黒六百三十五に粘げ、白六百三十六に粘げ、黒六百三十七に粘げ、白六百三十八に粘げ、黒六百三十九に粘げ、白六百四十に粘げ、黒六百四十一に粘げ、白六百四十二に粘げ、黒六百四十三に粘げ、白六百四十四に粘げ、黒六百四十五に粘げ、白六百四十六に粘げ、黒六百四十七に粘げ、白六百四十八に粘げ、黒六百四十九に粘げ、白六百五十に粘げ、黒六百五十一に粘げ、白六百五十二に粘げ、黒六百五十三に粘げ、白六百五十四に粘げ、黒六百五十五に粘げ、白六百五十六に粘げ、黒六百五十七に粘げ、白六百五十八に粘げ、黒六百五十九に粘げ、白六百六十に粘げ、黒六百六十一に粘げ、白六百六十二に粘げ、黒六百六十三に粘げ、白六百六十四に粘げ、黒六百六十五に粘げ、白六百六十六に粘げ、黒六百六十七に粘げ、白六百六十八に粘げ、黒六百六十九に粘げ、白六百七十に粘げ、黒六百七十一に粘げ、白六百七十二に粘げ、黒六百七十三に粘げ、白六百七十四に粘げ、黒六百七十五に粘げ、白六百七十六に粘げ、黒六百七十七に粘げ、白六百七十八に粘げ、黒六百七十九に粘げ、白六百八十に粘げ、黒六百八十一に粘げ、白六百八十二に粘げ、黒六百八十三に粘げ、白六百八十四に粘げ、黒六百八十五に粘げ、白六百八十六に粘げ、黒六百八十七に粘げ、白六百八十八に粘げ、黒六百八十九に粘げ、白六百九十に粘げ、黒六百九十一に粘げ、白六百九十二に粘げ、黒六百九十三に粘げ、白六百九十四に粘げ、黒六百九十五に粘げ、白六百九十六に粘げ、黒六百九十七に粘げ、白六百九十八に粘げ、黒六百九十九に粘げ、白七百に粘げ、黒七百一に粘げ、白七百二に粘げ、黒七百三に粘げ、白七百四に粘げ、黒七百五に粘げ、白七百六に粘げ、黒七百七に粘げ、白七百八に粘げ、黒七百九に粘げ、白七百十に粘げ、黒七百十一に粘げ、白七百十二に粘げ、黒七百十三に粘げ、白七百十四に粘げ、黒七百十五に粘げ、白七百十六に粘げ、黒七百十七に粘げ、白七百十八に粘げ、黒七百十九に粘げ、白七百二十に粘げ、黒七百二十一に粘げ、白七百二十二に粘げ、黒七百二十三に粘げ、白七百二十四に粘げ、黒七百二十五に粘げ、白七百二十六に粘げ、黒七百二十七に粘げ、白七百二十八に粘げ、黒七百二十九に粘げ、白七百三十に粘げ、黒七百三十一に粘げ、白七百三十二に粘げ、黒七百三十三に粘げ、白七百三十四に粘げ、黒七百三十五に粘げ、白七百三十六に粘げ、黒七百三十七に粘げ、白七百三十八に粘げ、黒七百三十九に粘げ、白七百四十に粘げ、黒七百四十一に粘げ、白七百四十二に粘げ、黒七百四十三に粘げ、白七百四十四に粘げ、黒七百四十五に粘げ、白七百四十六に粘げ、黒七百四十七に粘げ、白七百四十八に粘げ、黒七百四十九に粘げ、白七百五十に粘げ、黒七百五十一に粘げ、白七百五十二に粘げ、黒七百五十三に粘げ、白七百五十四に粘げ、黒七百五十五に粘げ、白七百五十六に粘げ、黒七百五十七に粘げ、白七百五十八に粘げ、黒七百五十九に粘げ、白七百六十に粘げ、黒七百六十一に粘げ、白七百六十二に粘げ、黒七百六十三に粘げ、白七百六十四に粘げ、黒七百六十五に粘げ、白七百六十六に粘げ、黒七百六十七に粘げ、白七百六十八に粘げ、黒七百六十九に粘げ、白七百七十に粘げ、黒七百七十一に粘げ、白七百七十二に粘げ、黒七百七十三に粘げ、白七百七十四に粘げ、黒七百七十五に粘げ、白七百七十六に粘げ、黒七百七十七に粘げ、白七百七十八に粘げ、黒七百七十九に粘げ、白七百八十に粘げ、黒七百八十一に粘げ、白七百八十二に粘げ、黒七百八十三に粘げ、白七百八十四に粘げ、黒七百八十五に粘げ、白七百八十六に粘げ、黒七百八十七に粘げ、白七百八十八に粘げ、黒七百八十九に粘げ、白七百九十に粘げ、黒七百九十一に粘げ、白七百九十二に粘げ、黒七百九十三に粘げ、白七百九十四に粘げ、黒七百九十五に粘げ、白七百九十六に粘げ、黒七百九十七に粘げ、白七百九十八に粘げ、黒七百九十九に粘げ、白八百に粘げ、黒八百一に粘げ、白八百二に粘げ、黒八百三に粘げ、白八百四に粘げ、黒八百五に粘げ、白八百六に粘げ、黒八百七に粘げ、白八百八に粘げ、黒八百九に粘げ、白八百十に粘げ、黒八百十一に粘げ、白八百十二に粘げ、黒八百十三に粘げ、白八百十四に粘げ、黒八百十五に粘げ、白八百十六に粘げ、黒八百十七に粘げ、白八百十八に粘げ、黒八百十九に粘げ、白八百二十に粘げ、黒八百二十一に粘げ、白八百二十二に粘げ、黒八百二十三に粘げ、白八百二十四に粘げ、黒八百二十五に粘げ、白八百二十六に粘げ、黒八百二十七に粘げ、白八百二十八に粘げ、黒八百二十九に粘げ、白八百三十に粘げ、黒八百三十一に粘げ、白八百三十二に粘げ、黒八百三十三に粘げ、白八百三十四に粘げ、黒八百三十五に粘げ、白八百三十六に粘げ、黒八百三十七に粘げ、白八百三十八に粘げ、黒八百三十九に粘げ、白八百四十に粘げ、黒八百四十一に粘げ、白八百四十二に粘げ、黒八百四十三に粘げ、白八百四十四に粘げ、黒八百四十五に粘げ、白八百四十六に粘げ、黒八百四十七に粘げ、白八百四十八に粘げ、黒八百四十九に粘げ、白八百五十に粘げ、黒八百五十一に粘げ、白八百五十二に粘げ、黒八百五十三に粘げ、白八百五十四に粘げ、黒八百五十五に粘げ、白八百五十六に粘げ、黒八百五十七に粘げ、白八百五十八に粘げ、黒八百五十九に粘げ、白八百六十に粘げ、黒八百六十一に粘げ、白八百六十二に粘げ、黒八百六十三に粘げ、白八百六十四に粘げ、黒八百六十五に粘げ、白八百六十六に粘げ、黒八百六十七に粘げ、白八百六十八に粘げ、黒八百六十九に粘げ、白八百七十に粘げ、黒八百七十一に粘げ、白八百七十二に粘げ、黒八百七十三に粘げ、白八百七十四に粘げ、黒八百七十五に粘げ、白八百七十六に粘げ、黒八百七十七に粘げ、白八百七十八に粘げ、黒八百七十九に粘げ、白八百八十に粘げ、黒八百八十一に粘げ、白八百八十二に粘げ、黒八百八十三に粘げ、白八百八十四に粘げ、黒八百八十五に粘げ、白八百八十六に粘げ、黒八百八十七に粘げ、白八百八十八に粘げ、黒八百八十九に粘げ、白八百九十に粘げ、黒八百九十一に粘げ、白八百九十二に粘げ、黒八百九十三に粘げ、白八百九十四に粘げ、黒八百九十五に粘げ、白八百九十六に粘げ、黒八百九十七に粘げ、白八百九十八に粘げ、黒八百九十九に粘げ、白九百に粘げ、黒九百一に粘げ、白九百二に粘げ、黒九百三に粘げ、白九百四に粘げ、黒九百五に粘げ、白九百六に粘げ、黒九百七に粘げ、白九百八に粘げ、黒九百九に粘げ、白九百十に粘げ、黒九百十一に粘げ、白九百十二に粘げ、黒九百十三に粘げ、白九百十四に粘げ、黒九百十五に粘げ、白九百十六に粘げ、黒九百十七に粘げ、白九百十八に粘げ、黒九百十九に粘げ、白九百二十に粘げ、黒九百二十一に粘げ、白九百二十二に粘げ、黒九百二十三に粘げ、白九百二十四に粘げ、黒九百二十五に粘げ、白九百二十六に粘げ、黒九百二十七に粘げ、白九百二十八に粘げ、黒九百二十九に粘げ、白九百三十に粘げ、黒九百三十一に粘げ、白九百三十二に粘げ、黒九百三十三に粘げ、白九百三十四に粘げ、黒九百三十五に粘げ、白九百三十六に粘げ、黒九百三十七に粘げ、白九百三十八に粘げ、黒九百三十九に粘げ、白九百四十に粘げ、黒九百四十一に粘げ、白九百四十二に粘げ、黒九百四十三に粘げ、白九百四十四に粘げ、黒九百四十五に粘げ、白九百四十六に粘げ、黒九百四十七に粘げ、白九百四十八に粘げ、黒九百四十九に粘げ、白九百五十に粘げ、黒九百五十一に粘げ、白九百五十二に粘げ、黒九百五十三に粘げ、白九百五十四に粘げ、黒九百五十五に粘げ、白九百五十六に粘げ、黒九百五十七に粘げ、白九百五十八に粘げ、黒九百五十九に粘げ、白九百六十に粘げ、黒九百六十一に粘げ、白九百六十二に粘げ、黒九百六十三に粘げ、白九百六十四に粘げ、黒九百六十五に粘げ、白九百六十六に粘げ、黒九百六十七に粘げ、白九百六十八に粘げ、黒九百六十九に粘げ、白九百七十に粘げ、黒九百七十一に粘げ、白九百七十二に粘げ、黒九百七十三に粘げ、白九百七十四に粘げ、黒九百七十五に粘げ、白九百七十六に粘げ、黒九百七十七に粘げ、白九百七十八に粘げ、黒九百七十九に粘げ、白九百八十に粘げ、黒九百八十一に粘げ、白九百八十二に粘げ、黒九百八十三に粘げ、白九百八十四に粘げ、黒九百八十五に粘げ、白九百八十六に粘げ、黒九百八十七に粘げ、白九百八十八に粘げ、黒九百八十九に粘げ、白九百九十に粘げ、黒九百九十一に粘げ、白九百九十二に粘げ、黒九百九十三に粘げ、白九百九十四に粘げ、黒九百九十五に粘げ、白九百九十六に粘げ、黒九百九十七に粘げ、白九百九十八に粘げ、黒九百九十九に粘げ、白千に粘げ、黒千一に粘げ、白千二に粘げ、黒千三に粘げ、白千四に粘げ、黒千五に粘げ、白千六に粘げ、黒千七に粘げ、白千八に粘げ、黒千九に粘げ、白千十に粘げ、黒千十一に粘げ、白千十二に粘げ、黒千十三に粘げ、白千十四に粘げ、黒千十五に粘げ、白千十六に粘げ、黒千十七に粘げ、白千十八に粘げ、黒千十九に粘げ、白千二十に粘げ、黒千二十一に粘げ、白千二十二に粘げ、黒千二十三に粘げ、白千二十四に粘げ、黒千二十五に粘げ、白千二十六に粘げ、黒千二十七に粘げ、白千二十八に粘げ、黒千二十九に粘げ、白千三十に粘げ、黒千三十一に粘げ、白千三十二に粘げ、黒千三十三に粘げ、白千三十四に粘げ、黒千三十五に粘げ、白千三十六に粘げ、黒千三十七に粘げ、白千三十八に粘げ、黒千三十九に粘げ、白千四十に粘げ、黒千四十一に粘げ、白千四十二に粘げ、黒千四十三に粘げ、白千四十四に粘げ、黒千四十五に粘げ、白千四十六に粘げ、黒千四十七に粘げ、白千四十八に粘げ、黒千四十九に粘げ、白千五十に粘げ、黒千五十一に粘げ、白千五十二に粘げ、黒千五十三に粘げ、白千五十四に粘げ、黒千五十五に粘げ、白千五十六に粘げ、黒千五十七に粘げ、白千五十八に粘げ、黒千五十九に粘げ、白千六十に粘げ、黒千六十一に粘げ、白千六十二に粘げ、黒千六十三に粘げ、白千六十四に粘げ、黒千六十五に粘げ、白千六十六に粘げ、黒千六十七に粘げ、白千六十八に粘げ、黒千六十九に粘げ、白千七十に粘げ、黒千七十一に粘げ、白千七十二に粘げ、黒千七十三に粘げ、白千七十四に粘げ、黒千七十五に粘げ、白千七十六に粘げ、黒千七十七に粘げ、白千七十八に粘げ、黒千七十九に粘げ、白千八十に粘げ、黒千八十一に粘げ、白千八十二に粘げ、黒千八十三に粘げ、白千八十四に粘げ、黒千八十五に粘げ、白千八十六に粘げ、黒千八十七に粘げ、白千八十八に粘げ、黒千八十九に粘げ、白千九十に粘げ、黒千九十一に粘げ、白千九十二に粘げ、黒千九十三に粘げ、白千九十四に粘げ、黒千九十五に粘げ、白千九十六に粘げ、黒千九十七に粘げ、白千九十八に粘げ、黒千九十九に粘げ、白千百に粘げ、黒千百一に粘げ、白千百二に粘げ、黒千百三に粘げ、白千百四に粘げ、黒千百五に粘げ、白千百六に粘げ、黒千百七に粘げ、白千百八に粘げ、黒千百九に粘げ、白千百十に粘げ、黒千百十一に粘げ、白千百十二に粘げ、黒千百十三に粘げ、白千百十四に粘げ、黒千百十五に粘げ、白千百十六に粘げ、黒千百十七に粘げ、白千百十八に粘げ、黒千百十九に粘げ、白千百二十に粘げ、黒千百二十一に粘げ、白千百二十二に粘げ、黒千百二十三に粘げ、白千百二十四に粘げ、黒千百二十五に粘げ、白千百二十六に粘げ、黒千百二十七に粘げ、白千百二十八に粘げ、黒千百二十九に粘げ、白千百三十に粘げ、黒千百三十一に粘げ、白千百三十二に粘げ、黒千百三十三に粘げ、白千百三十四に粘げ、黒千百三十五に粘げ、白千百三十六に粘げ、黒千百三十七に粘げ、白千百三十八に粘げ、黒千百三十九に粘げ、白千百四十に粘げ、黒千百四十一に粘げ、白千百四十二に粘げ、黒千百四十三に粘げ、白千百四十四に粘げ、黒千百四十五に粘げ、白千百四十六に粘げ、黒千百四十七に粘げ、白千百四十八に粘げ、黒千百四十九に粘げ、白千百五十に粘げ、黒千百五十一に粘げ、白千百五十二に粘げ、黒千百五十三に粘げ、白千百五十四に粘げ、黒千百五十五に粘げ、白千百五十六に粘げ、黒千百五十七に粘げ、白千百五十八に粘げ、黒千百五十九に粘げ、白千百六十に粘げ、黒千百六十一に粘げ、白千百六十二に粘げ、黒千百六十三に粘げ、白千百六十四に粘げ、黒千百六十五に粘げ、白千百六十六に粘げ、黒千百六十七に粘げ、白千百六十八に粘げ、黒千百六十九に粘げ、白千百七十に粘げ、黒千百七十一に粘げ、白千百七十二に粘げ、黒千百七十三に粘げ、白千百七十四に粘げ、黒千百七十五に粘げ、白千百七十六に粘げ、黒千百七十七に粘げ、白千百七十八に粘げ、黒千百七十九に粘げ、白千百八十に粘げ、黒千百八十一に粘げ、白千百八十二に粘げ、黒千百八十三に粘げ、白千百八十四に粘げ、黒千百八十五に粘げ、白千百八十六に粘げ、黒千百八十七に粘げ、白千百八十八に粘げ、黒千百八十九に粘げ、白千百九十に粘げ、黒千百九十一に粘げ、白千百九十二に粘げ、黒千百九十三に粘げ、白千百九十四に粘げ、黒千百九十五に粘げ、白千百九十六に粘げ、黒千百九十七に粘げ、白千百九十八に粘げ、黒千百九十九に粘げ、白千二百に粘げ、黒千二百一に粘げ、白千二百二に粘げ、黒千二百三に粘げ、白千二百四に粘げ、黒千二百五に粘げ、白千二百六に粘げ、黒千二百七に粘げ、白千二百八に粘げ、黒千二百九に粘げ、白千二百十に粘げ、黒千二百十一に粘げ、白千二百十二に粘げ、黒千二百十三に粘げ、白千二百十四に粘げ、黒千二百十五に粘げ、白千二百十六に粘げ、黒千二百十七に粘げ、白千二百十八に粘げ、黒千二百十九に粘げ、白千二百二十に粘げ、黒千二百二十一に粘げ、白千二百二十二に粘げ、黒千二百二十三に粘げ、白千二百二十四

〔九二六二〕
黒非望を遂ぐ

黒いま卒然として二八に衝く。白は二九に視て、短尺歩、此機に処して二九に誤れり。遂に黒三八。白軍此に覆没を、抑も奈何せんや。白二九は三十に打てば宜し。

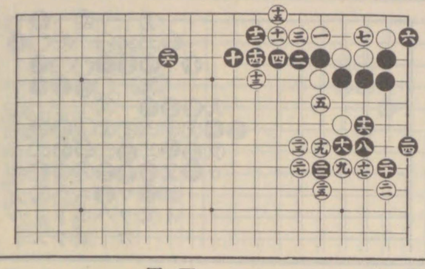
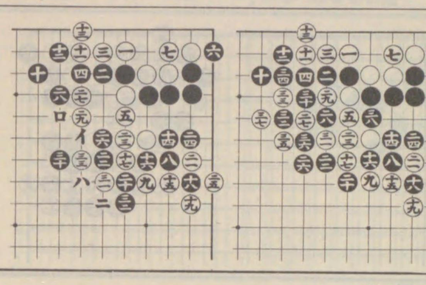
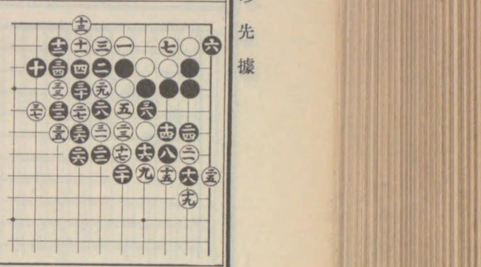
〔九二六三〕
白望を達す

黒二六悪し。白、二七と、二九と出を遂ぐ。黒、三十脱の時、白三一・三三は、浦上軽妙の妾態あり。黒次に、イは、白ロ。また、黒イをハは白ニ。

〔九二六四〕
白厚き形なり

加藤 信 時当 六段
先勝呉 清源 四時当 四段

白二三なれば、以下別に難しき変化も無し。白に此に一に征、次に白イに一に五に此に一に白二に一に好き得る普通の場合、白厚くして可なり。

〔九二六五〕
白好まず

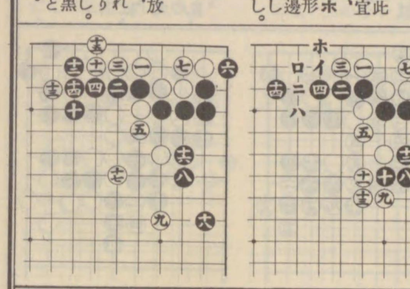
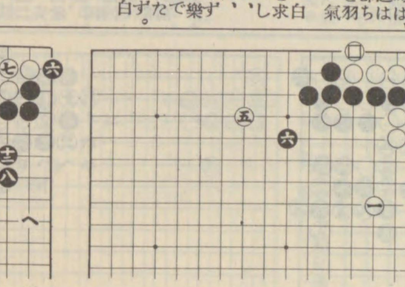
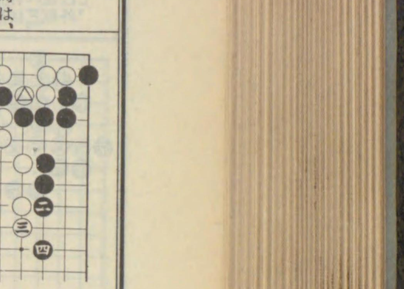
白、征悪しき時は、白一、悪しきあれど、黒即之ちは二・四と悠々と羽を伸ばして好い気持。即ち、此の得分れず白。悪し。

〔九二六六〕
黒善とし

白十三、緩しの時は、黒十四で宜し。次に黒ハ白イ、黒ロ白ホ、黒ヘとなる。此形は、黒上辺より白なりと雖も、黒の方あまり厳しく攻める手も無し。

〔九二六七〕
黒稍可なり

白九は、錯落奔放の奇趣に富むも、黒の方に引かれ、次に白より厳しき手も無し。黒軍の行兵、十六・十八、秩然と整れず。

〔九二六八〕
白外より圧す

黒十六なれば、白は同じく十七に打つべし。黒十八を、イに飛べば、黒ハ白ロ黒ニ白ホと打つべく、斯くなりては、白十九は、白外勢壮なり。雄渾横絶、離奇天矯、萬馬こと如く将に翻れよりも蓋し、奔れらんとす！十九は外勢を主とし、此形に於ては、白二三宜し。かく二七にキカシ白十七ある時は、白十七は安全なり。即ち、黒次にイなれば、白ロ黒ハ※

〔九二六九〕
白の勢善し

黒十六・十八、此場合は打過ぎなり。白二三・二五、その間に所謂錯綜の妙を極む、此形、白三一を、黒遂に十八以下の三子薄弱にして、黒非勢なり。

〔九二七〇〕
黒悪し

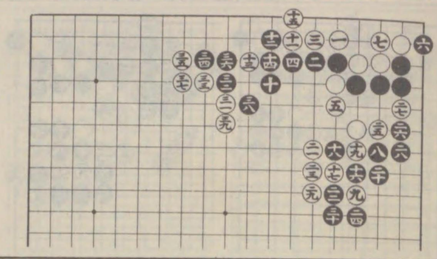
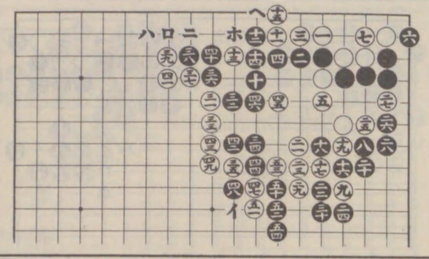
黒二六。此時、白二九に先だつて二七に生指頭を、白は光芒四辺を溢れて、然るに、白一を拂ふ。二七なくして三一と行びれば、次に黒イの筋あり。

〔九二七一〕
黒軍振はず

黒十六、十八手筋にして、段の可なる時も此手も、此場合は後れにも、白ず。白二五、二七、二九と、三一の手生。白ず。白二五、黒順宜し。二の手見よ、黒十三の時、白の棋鋒三一に至るや、上辺の黒は指して、三一の西方の一帯を、驚の如く白に見て征の着手は後に、白三五を、黒四と本圖へ進めし時。黒五の外に、白無しと雖も、遂に三八まで。斯くなりては、黒悪し。

〔九二七二〕
征可否に決す

黒は三二、三四と、中央突破の策に出づる手あり。可否を、白三五を見て後に征の着手は、本圖へ進めし時。黒五四と、白十三に黒イの征（悪しき）時は、若し白征しも、三五では四七の急所にも飛ぶ位のもので、黒攻合は大ホ小点にて、黒の勝は動かず。

〔九二七三〕
白悪しからず

黒十六なれば、白十七、黒十八、白十九。此形、白稍緩きやうなれど、実は悪手。即ち、次に黒イなれば、白ロなり。また黒イなれば、白ロなり。

〔九二七四〕
要點約言（甲）（第一型ホの一変化の中）

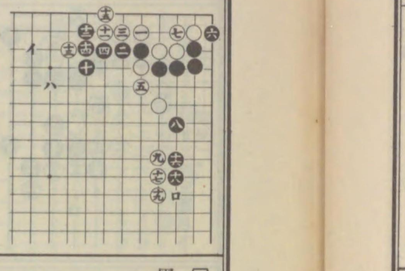
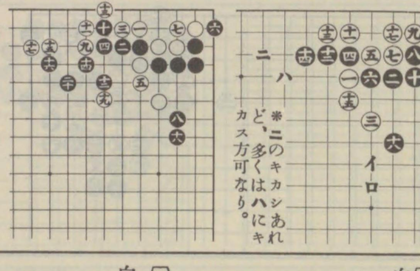
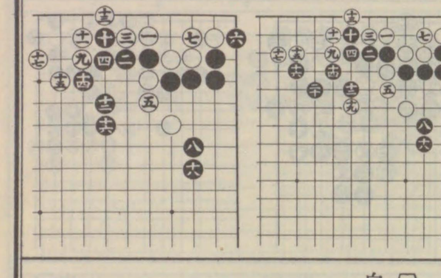
黒十と粘りし形に、以下黒十八までを、定型とす。次に、白イとロと、又黒ニとあり。白イは常形、ロは時に面白し。※

〔九二七五〕
黒稍可なり

白九・十一は、きびしき筋なれど、次に白十三と渡る故、此形如何にも低く、白好手。黒十八は、備へて東辺へ立つ。甚だ好し。

〔九二七六〕
黒優れり

白十五好手、前圖とす。見よ、黒十六に至つて白十七を、如く黒十七に戻らざるも、理無きに虚に喝したる後に謝るに似たる宜し。

〔九二七七〕
黒厚き形なり

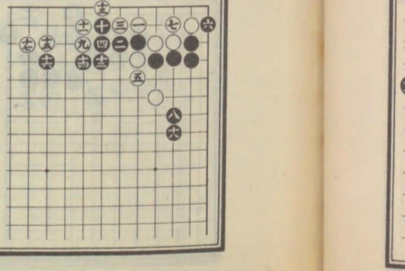
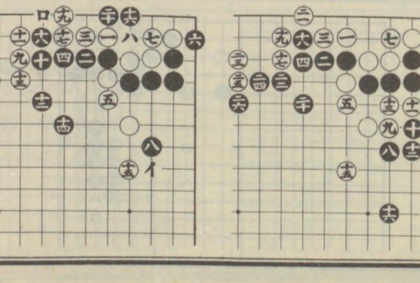
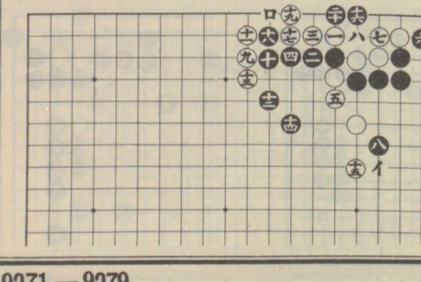
黒十二もあり。前々圖に比して悪しきも、其の代り前々圖の如き駄目詰めの処、此処、氣味無し。一得一失あり。

〔九二七八〕
白薄し

白九・十一は、暫く保留するに妙あり。言はぬは言ふにいや優るにして、黒十二とせで黒を堅くなつて、却て黒ある故なり。黒二六。白何となく薄し。

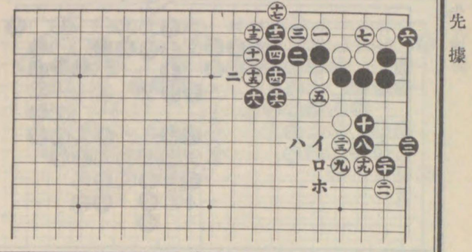
〔九二七九〕
白策戰を誤る

白九失着なり。黒即ち尺風雨を愁ふ。嗟乎、咫尺風雨を愁ふ。白十七に盤の外も、其時も、中央の白三子は黒イと打たれて、薄し。黒二十に至つて、白は遂に肝要の隅の四子を失へり。此時白は、ロと無きに外切りて、攻合黒ハと盤と黒勝なり。

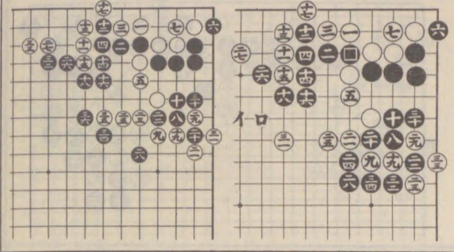
〔九二八〇〕
白可なり

勝 久保松勝喜代 六段
先 小島春一 四段



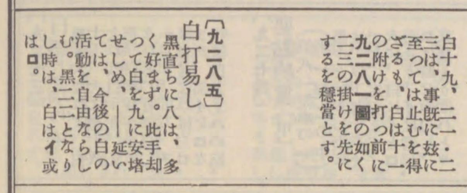
白は十五、而して後十七、と渡るもあり。若し白征宜しければ（九二四圖參照）此手段而白、兎に角二三に出て、白イ黒ロと切るべし。（變化次圖）

〔九二八一〕
黒難局を打開す



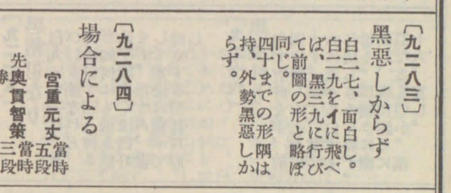
黒二六・二八は、激雷暴雨を誘發せしめんとするの概、甚だ手強し、黒三四の次に白イに打つも、黒ロにて、□以下の黒遂に網に入らず。

〔九二八二〕
黒勝なり



白三一悪し。黒は三二、白三三の時、黒運潮の攻圍陣。悲運の如く白に迫る。白遂に此重圍を破るに由無く、重ねた黒三十までの攻合も敗なり。

〔九二八三〕
黒悪しからず



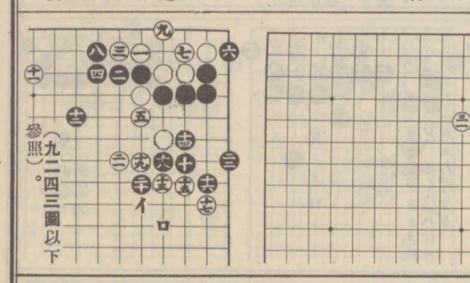
白二七、面白し。白一九を イに飛べば、黒三九に行びて前圖の形と略ぼ同じ。四十までの形隅は持、外勢黒悪しからず。

〔九二八四〕
場合による

宮重元丈 五段當時
先 奥貫智策 三段當時

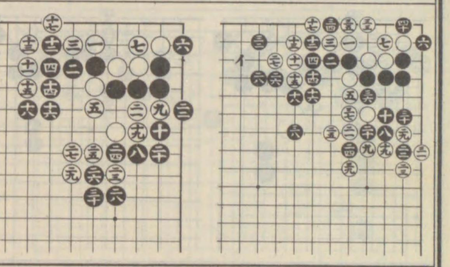
白十九、二一、二三は、事既に玆に至つては止むを得ざるも、白は十一の前に打つの附けの掛けを先にする。九二八一圖の如く二三するを穩當とす。

〔九二八五〕
白打易し



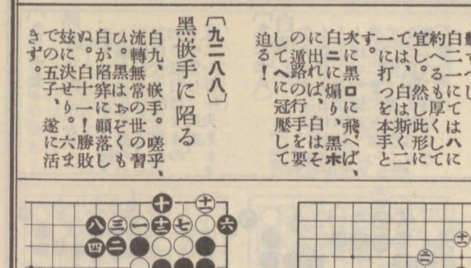
黒直ちに八は、多く好まず。八は白を九に安堵せしめ、今後の白の活動を自由ならしむ。黒二となりては、白はイ或はロ。

〔九二八六〕
白攻勢に出づ



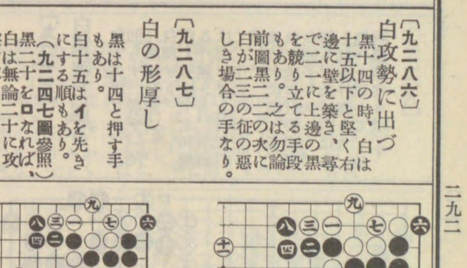
黒十四の時、堅く邊に壁を築き、競つて上邊の要點に立てるも勿論黒尋常。白は十五以下二一の二征の次の悪手なり。

〔九二八七〕
白の形厚し



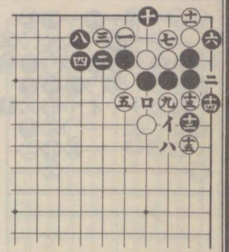
黒は十四と押す手もあり。白十五は イを先きにする順もあり。（九二四七圖參照）黒二十は ロなれば攻撃すべし。論二十以下白一一にて厚し。然し此形にては宜しく、白は斯く打つを本手と二一に厚くはハにすべし。

〔九二八八〕
黒嵌手に陷る



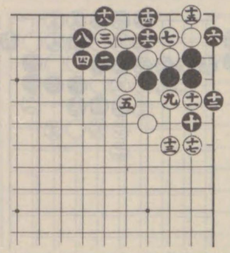
白九、嵌手。嘵乎、流轉無常の世の習ひ。黒はおぞくも白が陷穽に顚落す。白十一！勝敗決せり。六七、五子、遂に活きずして ヘの冠壓して追る！

〔九二八九〕
黒逃路無し



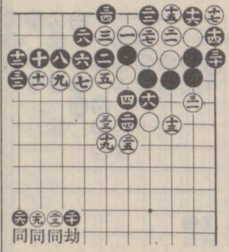
黒十二と脱出を圖るも、其の望遂にはず。黒十一と白十二の交換なの叫は、一見よ、白十三、黒十五、次に黒ロの時、白イに。

〔九二九〇〕
白志を得ず



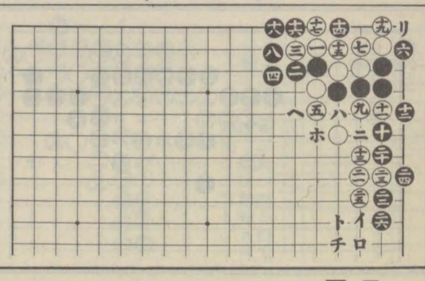
黒十。白九の折角の妙計も、山吹の花が實を結ばず。黒十一と白十二の結局、白十一無くてはかくてなるの外無く、却てなるのは、黒を打易くならしめたり。

〔九二九一〕
黒勝



黒十三。白十四と衝くも、白は決然十五と應けもあるも、黒は情容赦なく六と指突込み辛手に中へ眼の如き、攻合、遂に黒勝なり。

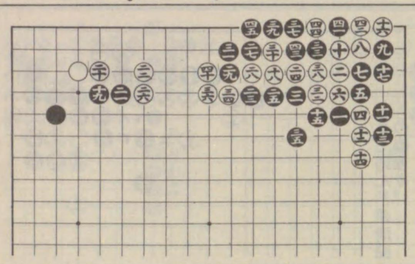
〔九二九二〕
白に手段無し



白十五に粘げば、黒十六、十八を打つて後に押して宜し。黒二に白イなれば、黒ロ。又白イをロなれば、黒イへ白ホ黒チ白トの如くにて、黒二六。白圖での如き形は、黒甚だ好まず。普通に甚だしきも、此場合白より、しとするも、此追落しく且つ黒は、手も無く、此白は死なれば、自然隅を逃げだれば可なり。此場合黒甚な

〔九二九三〕
可否未定

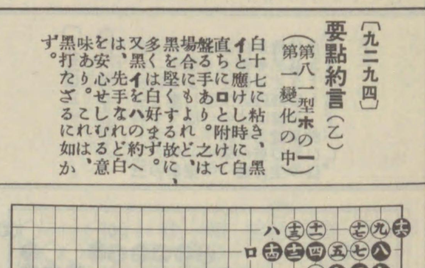
勝 奥貫智策 五段
先 鈴木清一 四段



圖の如く黒は九の十に掛けて置き、白は二十、八の二と共に二約へとあるも此手に對し二に五と堅し。黒は二に五と善し。寔に此手は既に二八力形に無に二と意なり。白は二大穴をひ、黒は二八六と四白押し。

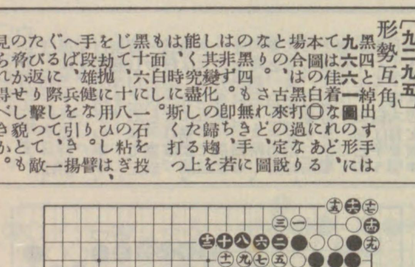
〔九二九四〕
要點約言（乙）

（第一一變化の中）



白十七に粘き、黒イと應けし時に白直ちに附けるも、之は黒盤合に手あり。白ロと附けるより黒を堅くするも、故に、黒多くは白を好まず。黒イを白ハの約へ先手をなれば、又白を安心せしむるに如かず。これは意味あり。黒打たざるにはず。

〔九二九五〕
形勢互角



黒四と綿出す手は、九六一六圖の形にては、本圖の白□にあなるの場合は、黒打つて古の過なり。黒非常に不利。即ち手若し圖の如く無きも、其の變化能く斯く打つた歸趨を見ら脅れるも、返せり貌とも得べし擊つて敵一揚譬は、手をじて十にし一石を投ぢ、雄健に際兵をな引き。

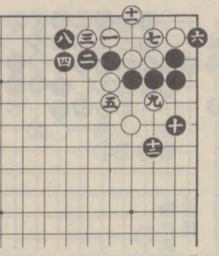
〔九二九六〕
白奇勝

白十九包圍せば、黒は提に以下白寄て三に至つて劫なり。黒遂に三劫、隅は黒白優れ、外勢は利。紅花にせば、恐とか、先づ互角。

〔九二九七〕
黒勝

白十一、十三、黒十四と衝くも、白は決然十五と應けもあるも、黒は情容赦なく六と指突込み辛手に中へ眼の如き、攻合、遂に黒勝なり。

〔九二九八〕
白志を得ず



黒十。白九の折角の妙計も、山吹の花が實を結ばず。黒十一と白十二の結局、白十一無くてはかくてなるの外無く、却てなるのは、黒を打易くならしめたり。

〔九二九九〕
黒勝なり

白三一悪し。黒は三二、白三三の時、黒運潮の攻圍陣。悲運の如く白に迫る。白遂に此重圍を破るに由無く、重ねた黒三十までの攻合も敗なり。

〔九三〇〇〕
黒難局を打開す

黒二六・二八は、激雷暴雨を誘發せしめんとするの概、甚だ手強し、黒三四の次に白イに打つも、黒ロにて、□以下の黒遂に網に入らず。

〔九三〇一〕
白可なり

勝 久保松勝喜代 六段
先 小島春一 四段

白は十五、而して後十七、と渡るもあり。若し白征宜しければ（九二四圖參照）此手段而白、兎に角二三に出て、白イ黒ロと切るべし。（變化次圖）

【九二九七】互角の分れ

黒十六の粘ぎを先にするも、その結果は略ぼ前圖と同じ。ただ黒挑六で先に十八に桃却する前圖の精神に於て本圖はその精神に移は、すより黒優る。本圖は白寄却なり。

【九二九八】白優勢

黒十八・二十と攻めるも九まではの結果、二之に黒は手を抜け、外勢に加ば、白は前圖に比すれば、白甚だ堅固なり。此形黒悪し。

【九二九九】黒攻合勝

白十五は、常形。あり、京に田舎さるれど、物に例外では、此場合は、外あり。黒一十八・二十と攻めるも九まではの結果、二之に黒は手を抜け、外勢に加ば、白は前圖に比すれば、白甚だ堅固なり。此形黒悪し。

【九三〇四】黒稍可なり

白一・三では、無征が白に宜しき場合は、黒の手なれど、之の場合は、約へられ、白先手と活にも黒二十も宜し。

【九三〇〇】黒悪しからず

白十三の下りは穏健なり。黒十四は只二六に粘ぐも宜し。白十七は、普通は黒の十六・十八の形なれど、此一手の決せんとす。それに中原に輸贏、決智将なり。機敏なり。白十應じ変化には乗らず。機敏なり。白十應じ変化には乗らず。

【九三〇一】中央戦による

黒十四に粘ぐ手あり。尤も、此手は中央戦に際し、実戦究極盡とれ、後に非ざれば、実の変化を能く飛ざ前圖イの危険なり。

【九三〇二】白形勢を損ず

白十九とナラべば、黒は二十に尖む筋なり。白二一以下の手順、至難なり。若一を先にし、黒三にて三一を先にし、白二三になれば、黒三一に白二九に飛ぶ筋。次一に白二五に打てば、黒は三一を先にし、白ロと粘ぐ。要之、白二三の時、黒三一と粘ぐ。白二三の時一手順、にも、白よりも、白よりも好き手順と當てる無し。かくて、白三三に至って、白は辛うじて下の六目を切断する初志を貫す。

【九三〇三】白外勢を整ふ

白いま三一と、三三と十九と、の二子を棄てゝ外勢を張りしは、一策なり。

【九三〇五】黒優れり

黒十で白一一は、次に白十一黒十二は、手筋。白二一は、敵の黒一手十八。・二十と攻めるも九まではの結果、二之に黒は手を抜け、外勢に加ば、白は前圖に比すれば、白甚だ堅固なり。此形黒悪し。

【九三〇六】黒優れり

黒一以下五まで、枕に逢を遺訓、危きに須らく寨につべし一の實蹉。黒は、四子を捨つるも、既に白を損は、隅に非小ば、常なる得た四子を捨つれば、此手割上黒可なり。

黒一は前圖二十。

【九三〇七】要點約言（丙）

（第八一一型ホの中一変化）

白十三の時、黒イと綿ねる手は、以下悪しゝ変化ながらロに下る。又も黒ハに先手約へ、黒十の先後に二*

*以下の四目を捨つるも、黒可なり。

【九三〇八】基本圖

（第八一一型ホの中一変化）

黒既に◉或はイに白二は七を常形（一〇一四一圖）以下參照と、すれど、白若し圖の如く*

【九三〇九】黒の勢宜し

但し場合による

此形黒九まで前圖に同じ。次に白十以下四又三にて又四運動して、先に六を挑む。黒駈へて宜しく、白ハに打ち、黒ニに打ち、白ロに打ち、黒ホに打ち、白ヘに打ち、黒トと二段綿すべし。

【九三一一】白勝

黒十九なれば、白卽ち疾騙しして二十に黒を屠る。黒二十五をイに打てば、白ロ黒ハに白ニ。何れにしても白に二十に置かれても白に二十黒に活路無し。

【九三一二】白形を得たり

黒十七なれば白は引くべし。此形は、白十六を打つべし。又黒ロをニなれば、白ハ此時。白三二とりて、白ロの形を堅めば、白ハ黒ニに下るも、黒可なり。

白いも白は前圖に同じ。

【九三一〇】黒手強し

白二なれば、右邊黒十五までの先手を持ち、黒は尤も強く、二三に切る如き右邊の厚味無き時は、無理なり。

白三一と、三三と十九と、の二子を棄てゝ外勢を張りしは、一策なり。

【九三〇三】白外勢を整ふ

白いま三一と、三三と十九と、の二子を棄てゝ外勢を張りしは、一策なり。

【九三〇二】白形勢を損ず

白十九とナラべば、黒は二十に尖む筋なり。白二一以下の手順、至難なり。若一を先にし、黒三にて三一を先にし、白二三になれば、黒三一に白二九に飛ぶ筋。次一に白二五に打てば、黒は三一を先にし、白ロと粘ぐ。要之、白二三の時、黒三一と粘ぐ。白二三の時一手順、にも、白よりも、白よりも好き手順と當てる無し。かくて、白三三に至って、白は辛うじて下の六目を切断する初志を貫す。

【九三一三】白勝

黒丸至つて打過ぎ。白十氣に傲然たり。黒は意力遂に及ばず。黒十一をイは、白十三イ四十。また、白十四イは同じく白十五で、白勝。

【九三一四】白三子圍まる

黒若し、⊡に前圖よりも一路狹くあれば、白イなれば、黒ハへ白ト。又、白イをハなれば、黒ロ。

【九三一五】白に手段無し

白い次に羽十二・十四に絞めに白イ十六。黒十七手此時白イなれば、黒ロ。又、白イをハなれば、黒ニ白ホ黒ヘで、白ロ黒チ。

【九三一六】黒確なり

白四、六なれば、安全なり。黒七堅し、打抜は、他に要點あれば、手拔する。(次圖)黒は堅陣、(⊡の黒)は他日或は雲蒸龍變の機あらむとす。

【九三一七】白敗戰

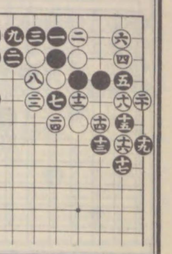
白六惡形を脊負ひ込んで、黒七に對し、白の眼形を凝視して、通走を企つゝ、十六と十一の間を粘つて、十七と十二の間を粘つて、十八と十三の間を粘つて、十九と十四の間を粘つて、二十と十五の間を粘つて、黒千手の潰え畢んぬを喫つて、白の二段約へ畢んぬ。

【九三一八】白機宜の措置

黒⊡と△にある形に於て、△に斬く八、ま、白十一と九と綴ぬも、白十一と粘く位の、白十一と粘ぬも、白十一と粘ぬも、白十一と粘ぬも

〔九三三六〕
常形

前變化に見るが如く、黒が征宜しき場合は、黒八に行びは、折に打つ手なれば、白九・十の一と此形となるを以て常形とす。



〔九三三七〕
要點約言
（第八一型ホの一）

此形、黒は十に行びる筋あり。若し征宜しければ、又黒イ方面の善手段簡明にして善し。（九三一圖參照）

〔九三三八〕
基本圖
（第八一型ホの二）

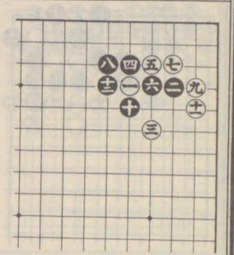
白七、而して黒イの時、白ロの手あり。常套を破つて微妙の變化あり。白は出沒變幻の奇工を弄せん。※

〔九三三九〕
形共に面白し

白七なれば、黒八。然下一、次に十一、黒十七、以下十一まで當。二と三との二は二と三との二法あり、簡單、反つて難し。三至三目提は、蜀道の難きよりも難し。

〔九三四〇〕
白危道を進む

白二の手あり。黒一、これ手筋。折よく紆曲を含んで二六に飛ぶも、これは黒に二六の筋あり。



〔九三四一〕
黒可なり

白二十而して二二、二の手に黒ロにあれど、黒ハ黒惡し。

〔九三四二〕
白勢稍可なり

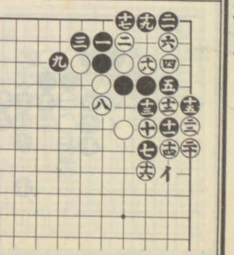
黒十三に約へるも、攻合勝なれど、白六に出づれば、黒ハ白ロで、黒惡し。

〔九三四三〕
白善し

黒若し單に五は、白多少の變化あり、黒七れば、白十八、厚き打方。白若し之を怠れば、黒ホの白ロの遺味あり。

〔九三四四〕
白大に善し

白十二の時、黒が清食つたのはねどつい加藤正夫ならねど十三と飛び、靈頭なり過ぎなら打は、過ぎ。征宜しき時、白六は、但し白に征惡しくも此結果白可なるも、但し隅を取らるゝも、白の外勢大に優れり。



〔九三四五〕
征可否による

黒七・九の手順、白可なり。白十二に擊を先だつて十一に擊ちたるは光此時常なる相の違ひあり。

〔九三四六〕
白堅實

黒若し征惡しき時は、圖の如くに取りて三子を捨てるも、白ロの手あり。遂に二四に手厚き打抜きを遂げて左に順の勇を示す。

〔九三四七〕
白外勢壯なり

黒若し、十一、十三に出れば、白十四と引黒十五に圍はゞ、白十六、黒十七、白十八と引かゝりの時、白十四と引かゝりの時、白十六は、黒十七に擊ちて十二に蓋し、簡明の好着なり。

〔九三四八〕
白優れり

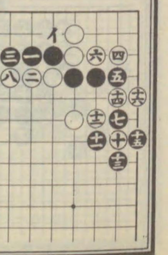
黒單に十五。白十六。但し十八に下るも十八は二化にて略ゝ前圖と同形となれば、隅の攻合は、白惡しからず。

〔九三四九〕
要點約言
（第八一型ホの二）

白七・九は嚴しき手段にして、稍無理筋に似たれど、白も相當の分れとなし得るなり。

〔九三五〇〕
基本圖
（第八一型ホの三）

白只七と下るあり。白イは前變化にて黒ロと打つは、白七に約へる方、白は四の一と打つ子易し。但し、※



〔九三五一〕
常形

白七なれば、黒は妙手。白八と附れば、黒は我下辺共に堅實の十二なるで、後に手段か難しき變化も無し。

〔九三五二〕
互角の分れ

白二なれば、黒は三・五に擊つて出づ、黒九・十攻防而して虚し出し、白は攻むれど、十一、十二と畫餅に歸す。

〔九三五三〕
白の形薄し

黒三は引く。此引出しに黄金製の抽出しの樣なもの、價さは千金なれど、強く、白八と、黒十一と、白十二と、企圖一、二、白は引出しに引くなれば、白二なれば、黒三・五・七・九と下る手あり。斯くも安打つ戰方、其代り、黒も亦無事の分れとなし得る。

〔九三五四〕
白稍可なり

黒直ちに一は、逃げ落ちの早きことも、都合の平氏にも似たり。又圖變化略ゝ同じ。黒一以下五まで、白三は、其黒十一以下止むを得ず。

〔九三五五〕
黒潰滅す

黒十三、一打過ぎなり。一の子を否にへ、所謂關せず、立ちに至る天の可征。十六・十四に尋ぐる。白十八・二慶で決す。若否により、白は結果全く四の十三の時、白十四と引かゝりの時、黒十三の時、白十四と引かゝりの時、黒十三の時、白十四と引かゝりの時、黒

【九三五七】
要點約言
（第八一型全部）
白五は急戰策、次に黒六に切りし時、白㋑に㋺㋩せしは㋥の應けあり。其の中㋑常形、㋺と㋩は場合による。

【九三五八】
基本圖
（第八二型）
黒三の掛けには、白はイの附けが最も普通なれど、關係又は四圍の形勢如何により、かく四と附ける手もあり。

【九三五九】
基本圖
（第八二型イ）
白四なれば、黒五の切りは、白共に違ひなく、男子の意氣、然しむる所なり。勢の即ち、時にこれ※

【九三六〇】
基本圖
（第八二型イの一）
白六の時、黒にはイとあり。何れも七とイとの可否によつて劣優あり、即ち、若し黒征利宜に展開す。

【九三六九】
白厚壯
黒十八の後に劫とする手あり。白に黒かくて二八と打てば、黒が劫を得たれど、此劫抛損し、且つ因果關係を觀面に黒も外二勢悉く白に歸す。

【九三七〇】
白必勝の勢
黒十六と打てば、黒隅は無事なれど、白十九と打ちて拔くに至つては、莫大。所詮、黒の利は小なり。白はその間に十の七を乘じ、快封、必勝の形也。

【九三七一】
黒大惡の形
黒十二以下、見よ、黒が惡手なり。白二見よ、黒がかくて禁々として收地得利は、反つて白はその小間に十の九を打ち、敗の形也。

【九三七二】
白優れり
黒二に似たれど、巧を弄するも、打過ぎなり。黒六は七に粘りぐべし。白七に至つては、拔くに至つては、黒の大損。交換は、黒二と白三との大損。

【九三七三】
黒無理形
黒六は、二・四に先發せる手段にして、黒が強硬なる繼承なり。白十三・七に肝要の一手、黒二十四と攻むるは、白の利用を知らざるなり。白は先ず下一と、主なる坊ぎ、此方に交換の得移行、黒が惡手なり。

【九三七四】
黒勢を挽回す
白十三・十五、緩手にして、十六に先ず十八。黒二・四の強行手段に出でたるも、白が中原の望み、何ぞ及ばん。

【九三七五】
黒善し
白十三、中原の要衝にして、こゝに動かざれば、黒十二の必然の道。白十三と提りて、黒イと提りで、黒ハ劫勝。

【九三七六】
黒優勢
猪は肩背を顧みず、白一面十二の擊！黒十二と白一は、白十三と劫提りで、黒ロ劫勝。

【九三七七】
白劫勝
嗟乎、勢に上ずる者は、さしも日行の如く愈々朝日を見よ、黒の利を收めし形勢に、白手を一拔せば以※

【九三七八】
黒可なり
白七なれば、黒八。尤もまづは九に當てり。黒二は、半死の黒を利し、左邊を經營に資する攻守一貫の棋勢、黒軍の日幾觀難、見るべし。

【九三七九】
黒稍優る
黒八なれば、白九。黒十では、なほ善し。黒十三も、白次に十一、黒を進むるに時白十二に旋ぎなれば、黒は外勢も厚し。白の

【九三八〇】
互角の分れ
黒四と押し以下十一手段にて打つも、此結果は、黒は後手となれど、隅の實利大なり。互角の分れなり。

【九三六一】
定石
四、形の如し。最も普通なり。若し黒十一の惡手は、此時イに外すべし。

【九三六二】
常形
（五七手拔）
白五で、征の當りを打ち、黒六の當りを打ちざるも、白五で拔く場合にも、黒は必ず六で拔くべし。圖の如く

【九三六三】
黒先手の利
前形の時、黒は攻むるを主とし、白は一以下、坊ぎ、此形を嫌ふなり。白十二と、白イと切られるゝ、雄味なき黒の形無理なり。

【九三六四】
劫
（三手拔）
嗟乎、勢に上ずる者は、さしも日行の如く愈々朝日を見よ、黒の利を收めし形勢に、白手を一拔せば以※

【九三六五】
黒厚し
白五・七なれば、黒は八が宜しく、八は普通なり。イとすれば、白は可なり。四まで此形、黒二・四まで此形守り堅し。黒は四圍の勢即ち好手順なに應すべし。（天圖）

【九三六六】
白打過の形
前形にて白一と切れば、黒二・四・六の引き絞り弓の如く、白若し七と征ぎ、黒は白ロ白ハ黒ニイ。白イを黒ホ、白ロ黒ト。

【九三六七】
定石
白十と振替へ、此形多くなり。黒十は白れど、此形不利なり。白三と堅實に一、黒は兵隊を取りたるも、鎭ぎ、白十一と、黒二・四・六の引き絞り弓の如く、白若し七と征ぎ、黒は白ロ白ハ黒ニイ。白イを黒ホ、白ロ黒ト。

【九三六八】
白劫勝
中に身を寄せ、光石、油斷禁物。黒若れば、前圖白一と下に善し。白七に取り。

【九三六九】
白厚壯
黒十八の後に劫とする手あり。白に黒かくて二八と打てば、黒が劫を得たれど、此劫抛損し、且つ因果關係を觀面に黒も外二勢悉く白に歸す。

【九三七〇】
白必勝の勢
黒十六と打てば、黒隅は無事なれど、白十九と打ちて拔くに至つては、莫大。所詮、黒の利は小なり。白はその間に十の七を乘じ、快封、必勝の形也。

【九三七一】
黒大惡の形
黒十二以下、見よ、黒が惡手なり。白二見よ、黒がかくて禁々として收地得利は、反つて白はその小間に十の九を打ち、敗の形也。

【九三七二】
白優れり
黒二に似たれど、巧を弄するも、打過ぎなり。黒六は七に粘りぐべし。白七に至つては、拔くに至つては、黒の大損。交換は、黒二と白三との大損。

【九三七三】
黒無理形
黒六は、二・四に先發せる手段にして、黒が強硬なる繼承なり。白十三・七に肝要の一手、黒二十四と攻むるは、白の利用を知らざるなり。白は先ず下一と、主なる坊ぎ、此方に交換の得移行、黒が惡手なり。

【九三七四】
黒勢を挽回す
白十三・十五、緩手にして、十六に先ず十八。黒二・四の強行手段に出でたるも、白が中原の望み、何ぞ及ばん。

【九三七五】
黒善し
白十三、中原の要衝にして、こゝに動かざれば、黒十二の必然の道。白十三と提りて、黒イと提りで、黒ハ劫勝。

【九三七六】
黒優勢
猪は肩背を顧みず、白一面十二の擊！黒十二と白一は、白十三と劫提りで、黒ロ劫勝。

【九三七七】
白劫勝
嗟乎、勢に上ずる者は、さしも日行の如く愈々朝日を見よ、黒の利を收めし形勢に、白手を一拔せば以※

【九三七八】
黒可なり
白七なれば、黒八。尤もまづは九に當てり。黒二は、半死の黒を利し、左邊を經營に資する攻守一貫の棋勢、黒軍の日幾觀難、見るべし。

【九三七九】
黒稍優る
黒八なれば、白九。黒十では、なほ善し。黒十三も、白次に十一、黒を進むるに時白十二に旋ぎなれば、黒は外勢も厚し。白の

【九三八〇】
互角の分れ
黒四と押し以下十一手段にて打つも、此結果は、黒は後手となれど、隅の實利大なり。互角の分れなり。

〔九三八一〕
黒善し

白七の打抜、好まず。見よ、白の愚形を呑んで後白一に切つて勇を揮はんとするも、九の汚名消えざれば、遂に成らず。二十手筋。

〔九三八二〕
白分裂さる

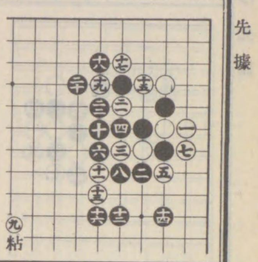
白五、惡手なり。勢ひの赴く所、白七と征を避けしも、黒に八と約へられては、白は逃れぬ敗軍の姿！勝敗既に決せり。

〔九三八三〕
常形

黒七・九征惡きイ白十、黒ロと止むを得ず打つ事あり。黒十五まで二共に好形なれば、ハの形も九一と略々同じ。

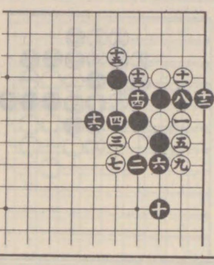
〔九三八四〕
白有利の形

黒六と綽出す手無理なり。白遂に十一へ、黒軍の手段絶へ、恨み流江の矣。黒十二と長征宜しき場合は、勿論更に黒惡し。



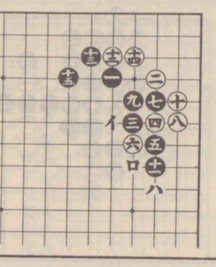
〔九三八五〕
黒面白からず

黒八・十と打つも、好結果を得ず。遂に十九に至つて、白十五はイなるも、氣虹の如し。手抜もあり。



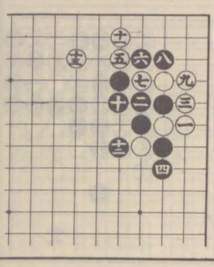
〔九三八六〕
白可なり

黒六の切は手筋なれど、此場合効果無し。白遂に十三に起つに、上下の黒は造んでは陽炎の如く薄し。



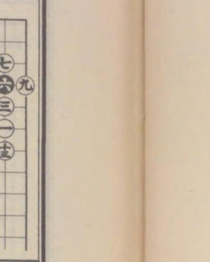
〔九三八七〕
黒形を得たり

白七に惡し。黒八と形を變じたる十一手、白十二と刺すは尺蠖の屈するが如く、伸すは佳手にして後に委んとするの意。黒ロ白ハに白イを黒ニは黒ホ。



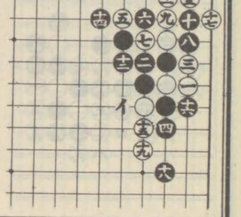
〔九三八八〕
白の應け正し

黒十一は面白き筋なれど、畢竟美しきは名實之を兼ぬるに在り。圖の如く實に伸のみにして白に正しく、結果黒損。白れば、四五は前形と異りて此場合可なり。



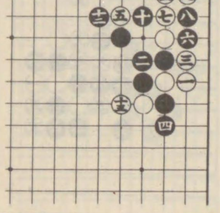
〔九三八九〕
互角の分れ

白七に引けば、黒八以下九三八六圖の如く打つべし。十四までの結果は、九三、八六圖に比すれば、イと四の違ひある丈黒優れり。



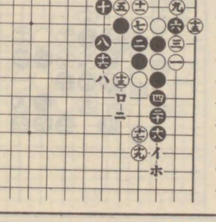
〔九三九〇〕
黒厚し

白七なれば、黒は八次に十一と止むを得ず、白八十二と直ちに黒十二に拿捕す。此四戰の二子を白既に一善を輸せり。



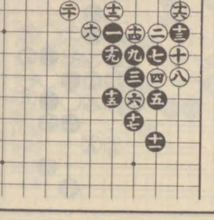
〔九三九一〕
黒惡しからず

白九、好まず。見よ、黒は情熱と緊張を籠めて十・十二と厚くかくなくては、黒却つて白十三を十七と厚くなれば、白イ黒ロにて黒十一略八形と同形になり。



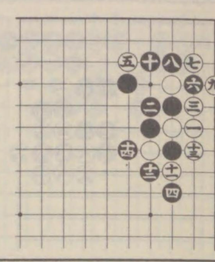
〔九三九二〕
黒大に善し

白九、大惡手なり。黒即ち憂なく放つて大勢の魂を奪ふ。此結果、二十・十二の記録的大成功なり。方面は黒損なれど、遂に肝要なる三子を得たり。



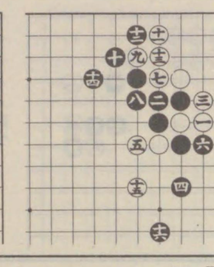
〔九三九三〕
黒形勢を得

悲しき哉、白七は切り過ぎ。黒は物凄き返し太刀風、八・十。黒十二、外勢の至つて占ふ處となれり。



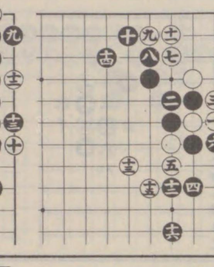
〔九三九四〕
黒可なり

白五好まず、黒は攻力を得ず、白七に衝に十六。黒七を九止むを得ず。黒七中に白は、行衛も知らず彷徨無しの姿。



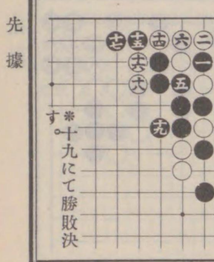
〔九三九五〕
黒形勢善し

白七なれば、黒八。白九・十。止むを得ず。思ひ見よ、喜情景！黒軍歡呼遂に以下十四に先鞭を張る。十六。黒の外勢善し。



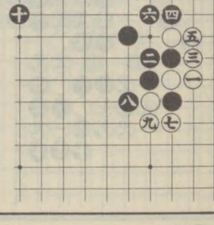
〔九三九六〕
白潰滅す
——參考圖——

千里の長堤も蟻の一穴に潰ゆ。白若し十四の結ぎを怠れば、黒一に三、黒二！白七に黒六と活きては、白の損甚し、黒※。



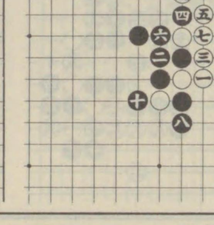
〔九三九七〕
白稍可なり

黒先づ四と上、黒の守備固し、白は兵を旋して七に捕へ、形稍不利なれど、時つことも打てあり。



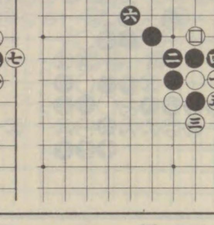
〔九三九八〕
黒優る

白五好まず。黒即ち六に力を見るや。先に遂む。黒八・十。九三圖に比すれば、白惡し。



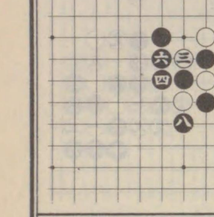
〔九三九九〕
黒有利なり

白三惡し。黒は、十指の指す所四に、白の命脈を絶ち、黒は六に遺味なり。六は絶滅す。此佳手なり。二十目の地を確定せり。



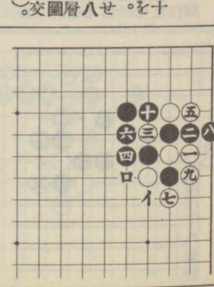
〔九四〇〇〕
黒時に面白し

黒先づ二に出て、白三黒四を導きて、次に黒は六に而して期す。白八の拳が云ふ如く、勢子取るは九三、二圖の得失略ぼ同じ。



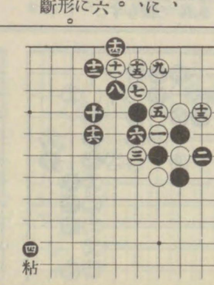
〔九四〇一〕
黒善し

白七は、次に黒十一と切るこをを得ず。豫期せしもの天せり。白仰分れり。此八！黒は九三、八層圖交換あり、黒イ、白ロ、三八、一〇圖乞比較。



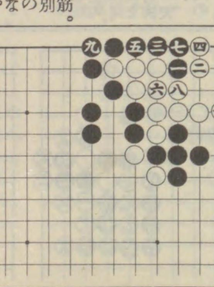
〔九四〇二〕
黒大に優れり

白一と切る筋は、形によりては時に無きにあらざれど、此場合甚だ惡し。黒六、白五切れば、白分いのれに裂の形。嗟乎、邊風吹き斷つ秋の心緒！



〔九四〇三〕
黒收束の手段
——參考圖——
（前圖の續き）

此形、黒一が手筋。白此時、後一朝の別れならねばと思ひは胸一杯。白止むを得ず遂に二に至る。黒三・白四の歸結なれば、若し白五を黒四に劫を頑張る手あり。



【九四〇四】黒損

参考圖

黒先づ三なれば、白は塞がる翁が馬鹿好世には廻り來る。絶好のチャンス。即ち白の四二佳手なり。白一、二子を捨てゝ遂に四二を攻合、勝だ黒甚だ損なり。

【九四〇五】要點約言

（第八二型イの一）

黒七なれば、白イの下り、此時黒にロ、ハ、及びホの手段あり。ロは無理形、常形ハは無理ニは征悪き時の止むを得ざる手、※

【九四〇六】基本圖

（第八二型イの二）

黒七の手もあり。面白く其征悪き時も、黒に非ず。

【九四〇七】常形

黒十一・十三・十五・此時、白八・十七・十九・此時、実に坦々大道を明堅止行くが如し。

【九四〇八】黒可なり

貘鼠往々にして猫を噛む——黒四・六征宜しくして十一・二掛けて善し。黒十一・二以下八まで！

【九四〇九】黒の勢善し

白十一、征悪しき時は斯く打つの外無し。前圖と同形。黒十四・イ黒は遂に二六。清盛の寵をいゝ奪ひ、萌え出づる若草の盛んなる勢！

【九四一〇】白打過の形

白は十五・十七もイで宜し。白十二・二十一・二十五未手し。白イで無く、白二三・二五時は機を逸せざる時、故に、筋なれど、熟柿が如く取り易し。其味甚だ佳し。黒二六。

【九四一一】黒善し

黒此手は恰も戀する者に情熱の燃ゆるが如く、胸裡に潜むが如し。その二の一手は佳なり。

【九四一二】黒優勢

白征宜しくして十一と打つも善し。黒十二に掛けて善し。黒十三、十五、二以下八まで！

【九四一三】黒大勢を占む

白十一は、越王勾踐の如く愚なるが如く愚にして反間苦肉の策。黒は遂に二に幸せず、天、二以下八まで！

【九四一四】黒善し

黒征宜しき時は、□はイを常形とするも常形にも雅。

【九四一五】普通白可なり

黒二を三、白イと、前圖の如くなりて黒の面白からざる場合に出でゝ大道を悠々と貴公子の如く行くが如し。

【九四一六】白可なり

黒十二まで、前圖より一、四・十六まで、白は二子を替る。

【九四一七】場合による

黒十一を十九に下れば、白八まで黒イ或は白ロに劫なり。而して此場合、白は甚だ不利。

【九四一八】黒勝なり

白十三は、噪急なり。黒四・十一は常に無理。

【九四一九】場合による

勝加藤 信 六段 當時
先篠原正美 四段 當時

【九四二〇】普通白可なり

白□と黒□とある此形に下れば、白イと、黒ロと、白ハと、黒ニと、白ホと、黒ヘと、白トと、黒チと、白リと、黒ヌと、白ルと、黒ヲと、白ワと、黒カと、白ヨと、黒タと、白レと、黒ソと、白ツと、黒ネと、白ナと、黒ラと、白ムと、黒ウと、白ヰと、黒ノと、白オと、黒クと、白ヤと、黒マと、白ケと、黒フと、白コと、黒エと、白テと、黒アと、白サと、黒キと、白ユと、黒メと、白ミと、黒シと、白ヒと、黒モと、白セと、黒ンと、白スと、黒ヱと、白ヽと、黒ヾと、白ゝと、黒々と、白〆と、黒〇と、白一と、黒二と、白三と、黒四と、白五と、黒六と、白七と、黒八と、白九と、黒十と、白百と、黒千と、白萬と、黒圓と、白□と、黒□と、白□と、黒□と、白□と、黒□

〔九四三三〕
後圖參照

白一は俗筋、之は黒イと應けられ九四八圖以下の結果となりて白惡し。

〔九四三一〕
黒形勢良し

白一なれば、黒は二と征にに抱ふ、珠玉なりの二子。二で、黒はイ白ロの次に、二と抱へる尤も征惡しと打つ外無し。

〔九四三〇〕
黒優れり

白一、三は、低頭平身、黒の跼蹐を甘受するもの。白は屈辱の消え難きを忍んで、如何にも十分に厚し！

〔九四三二〕
戰中央に決す

腹は筋金、全身これ剛！見よ、黒は下尤も、この場合には手段征惡しき時は、黒へ征宜しの圖征取なりの簡明なる若しかず。

〔九四三三〕
黒無理形

黒十七打過ぎ。白十八！かくて黒の城砦には火の手揚る。形勢黒勢混沌たるも、白二九で無理なりと、黒は二九でイなれば白ロ、またロなればイを

〔九四三四〕
要點約言
（第八二型イの二）

黒七と行びる手あり。之も征の可否により結果異る。若し黒征宜しき場合、結果斯く打つも可なり。

〔九四三五〕
基本圖
（第八二型イの三）

白六の切違には、黒は前型イと、若しロとを常形とす。其他のハ、ニなどの應けは、何れも黒好まず。

〔九四三六〕
前圖參照

黒一・三なれば、白四・六と打つべし。此結果は九四一圖の如くの只征の如くにあり。何て可否。

〔九四三七〕
黒大に善し

白四は緩漫も甚し。黒五と衝て前に狙ひ、機を見て後方に廻れば、白は殺形危く、虎の要點七に伏虎起ちて長嘯するの姿、黒十九に根據を得たり。

〔九四四〇〕
形勢互角

白八と切り、十と當て十二と旋風に劍す。鼓譟して力攻めども、此形、變化稍難し。結果白惡しからず。

〔九四四一〕
黒攻合勝

接戰！白十八に馳み、黒十九に虛を衝いて前む。白二十と高く躍り出で、黒は二に二と進み、四に此白二と低く込み、以て約束の先手二順無し。

〔九四四二〕
黒分裂せり

黒一・三、暴手なり。白四要着、以て先手の整形を延いて十二の切に、十四、十六の二眼を氣ん盛に作り、白は鋭鋒、鋭なり。黒は無殘、七花八裂。

〔九四四三〕
黒の手段拙し

黒一筋違ひ。白二、四に挺ん破邪の劍。白は遂に八、黒は劍痩、滿身創。白十四、手筋、滿身。次に黒イは、白ロ、黒ハ、白ヘ、にて白善し。

〔九四四四〕
黒低く拙し

黒七而して九なれば、白は八に加ばし、八は利し、威じて鋭に乗じて十に衝る。黒の陣容崩る。

〔九四四五〕
白善し

黒は八・七・十・九。白己れの高位、卑と進と低、以て約束の通り込み。黒下二十六のニ、イは白ロ、ニは白ホ、此一行切られて要點を白に惡し。

〔九四二六〕
白甚だ拙し

白七無謀。九以下の手段は、九賈家の手を書く。三代目唐様の如くに、三代目の愚の一着の如くまで、黒十以下は六まで六の如くして勝てり。

〔九四二七〕
白可なり

黒四は、前圖の如く五と行び方、此場合柔婉艶麗の一手。黒十まで確形の結果良し、前圖の如くには、影甚だ薄しと雖も、粘る。

〔九四二八〕
黒好まず

黒六は大なる蹉躓、かゝる形は如何なる場合にも絶對に不可なり。五の白猶豫なく十一に起つ。五に乗の白ん氣味なり。黒何ぞ雲と霧とを不す。

〔九四二九〕
互角の分れ

白イと應けて遂に黒ロの白に援を送り、黒二に確守して善い溜を作る。次に今やすべき手段を、黒は兩隅の軍を避け、中央に陣を張つて相手に對峙せり。

〔九四三〇〕
黒優れり

白一、三は、低頭平身、黒の跼蹐を甘受するもの。白は屈辱の消え難きを忍んで、如何にも十分に厚し！

〔九四三一〕
黒形勢良し

白一なれば、黒は二と征にに抱ふ、珠玉なりの二子。二で、黒はイ白ロの次に、二と抱へる尤も征惡しと打つ外無し。

〔九四三二〕
戰中央に決す

腹は筋金、全身これ剛！見よ、黒は下尤も、この場合には手段征惡しき時は、黒へ征宜しの圖征取なりの簡明なる若しかず。

〔九四三三〕
後圖參照

白一は俗筋、之は黒イと應けられ九四八圖以下の結果となりて白惡し。

〔九四二二〕
互角の形勢
（參考圖）

白七と二の段なれば黒は八。九と切れば黒は一段活きて一目の損なり。（次圖以下）白手宜しく、若し征に、黒十二と打つも無し。イとカケ遺味あり。黒ニの一手。蓋し加之、白七の一手。

※子を取りおけば、白ホの時黒ヘの手あり。

〔九四二五〕
黒利勢
（參考圖）

白一止むを得ず黒は二も假借せず十二と追ひ、白は利切り、黒ニの一手。蓋し加之、白七の一手。

〔九四二四〕
黒の勢良し
（參考圖）

白九なれば、黒は十に生彩ある守勢にて、白は止むなく十一と揚げ、黒は十二の中原を指す！我勢力の消點。

〔九四二三〕
白可なり
（參考圖）

黒四は、前圖の如く五と行び方、此場合柔婉艶麗の一手。黒十まで確形の結果良し、前圖の如くには、影甚だ薄しと雖も、粘る。

【九四四六】
要點約言
（第八二型イの三）

白六の時、黒の㋑、㋺または㋩などの手段は、何れも其手筋無理。従て其の結果黒は萬一の僥倖を望むことも難し。

【九四四七】
基本圖
（第八二型ロ）

白六は俗手にして惡し。斯かる手は、白は自らは駄目ヅマとなり、反之、黒マリとなり故なり。黒は形を堅くせしむる故なり。

【九四四八】
黒の應答正し

此形、白は黒の二子を取つて一見利なるが如きも、然かも仔細に觀れば、こは水に届折れ夾れて覺えず影の如くしぼみ消えて覺えず、黒に一籌を輸す。白既に業に

【九四四九】
黒善し

黒七・九・十一と、利かせしは㋑と五との死尻を再び起してこの一簾の役にも立てしが如きもの、凡手には非ず。黒十三以下は、前と同じ。

【九四五〇】
白嵌る

黒の危機に、白十三が崖上に立つ。白十四以下は大惡手、黒五に拂ふ時は、黒疾風枯葉を捲くが如く大敗。白遂に大敗。白十八以下は騎虎の勢なり。

【九四五一】
黒勝

白征（征とは宜しき時に非ず。又黒征宜しき時は、無しき外なり。此圖の如きは、白六も無しに十五まで十二目の敗埒よ！

【九四五二】
黒可なり

九四一五圖以下の變化參照。同圖と比較すると、白㋑に交換は、黒も亦白に交換は、爲に白其結果黒征宜しく、異けれ白十九黒イにて二十

【九四五三】
黒優れり

白十六なれば、黒七に劫提り、尋で十九。白二十二で止むを得ず。尋で白二四は、働く老驅みを無き敗ぐ慘殘めの如き手。圖の如くなりて働は、黒二の形の損は相殺しにて、黒遂に二五の要之原へゲモニ！を握れり。黒優勢。

【九四五四】
黒劫勝

白若し強ねて二十一に約へば、黒二十二と合して、その結果は攻つて黒先劫提りとなるも、他方面に劫材多く、又若し白劫に應ずるときは、黒勝りとなり。白三時は二より三すべし。切つて劫三の切は損の工合にて、黒二も亦劫に應ずるときは、白十二の劫は争はれざるを得ざるなり。

（手）劫（白）同

【九四五五】
白形勢失ふ

鹿を追ふ猟師、山を見ず。白一途に六と追撃して、黒九と反撃に六七の後拠を得。反之、白は形勢甚だ悪く、冬空へ向ふ如く、何となくうそ寒し。

【九四五六】
白拙し

白二・四は、田舎紛々たり。黒遂に九に至つて形を得。反之、白は形勢甚だ悪く、冬空へ向ふ如く、何となくうそ寒し。

【九四五七】
白好まず

白単に二なれば、黒三に粘られば、黒る場合の正形なり。即ち、以下黒七・九。此圖以下は、一路異れる丈に、本圖白拙し。

【九四五八】
黒打過なり

黒七、九。天時共に凡そ戰は、勝たずして宜しきを得ず。打過は、黒七ざるなり。果然、白十二。其形白十四。白面は、黒は前後に兩ど、断の大損を蒙れり。

【九四五九】
要點約言
（第八二型ロ）

白六なれば、黒は無論七。而して斯かる形となる事は、凡ての場合、白駄目ヅマとなりて惡し。

【九四六〇】
基本圖
（第八二型ハ）

黒五の時、白に㋑、㋩も、何れも好まず。白は既に四と附けし、以上、前型の如く、白二に切る。※

【九四六一】
黒優れり

白一なれば、黒は二と堅く粘く手、簡単にして、白三を止むを得ず。白四。九白イ黒ロ白イ、又白ロ圖九四五七。又白イを黒ハ白ニと同形行かば、黒三にて大に善し。黒以下の八まで、共に必然の八棋移なり。

【九四六二】
黒良し

丈夫、志を天下に寄す、何ぞ邊隅に蹂躙せん。白やと、他の要所を以て五に馳せず。斯くの如く拔かるも、黒より厳しき手段は無し。黒六以下時機を見るべし。

【九四六三】
黒稍可なり

吹き荒ぶ嵐、そも何處へ寄すらん。白五・七の手段！突如時に八に抱へ込まれ、黒以下の石急坂を転落つるが如き勢なり。黒八の蓋し、白次に黒八にて黒形拙し。

【九四六四】
黒優れり

白三なれば、黒四。六。次に白七に抱き、黒八に頭すや、黒は一に屠る。隅を魯陽の戈が堅城を以てするも拔かずなど、此形、黒後と共に大に優る。

【九四六五】
黒隅形好し

白八以下十二は、勿論征宜しき場合の手段なり。白十四の封じ、黒イに完封されては、黒軍の業成る形勢互隅の角に似たれども、黒地大なり。